14. 2□-149
1200501167500
1 4.2□
149

始

昭和三年

大阪貿易彙纂

大阪府立商品陳列所

昭和三年

大阪貿易彙纂

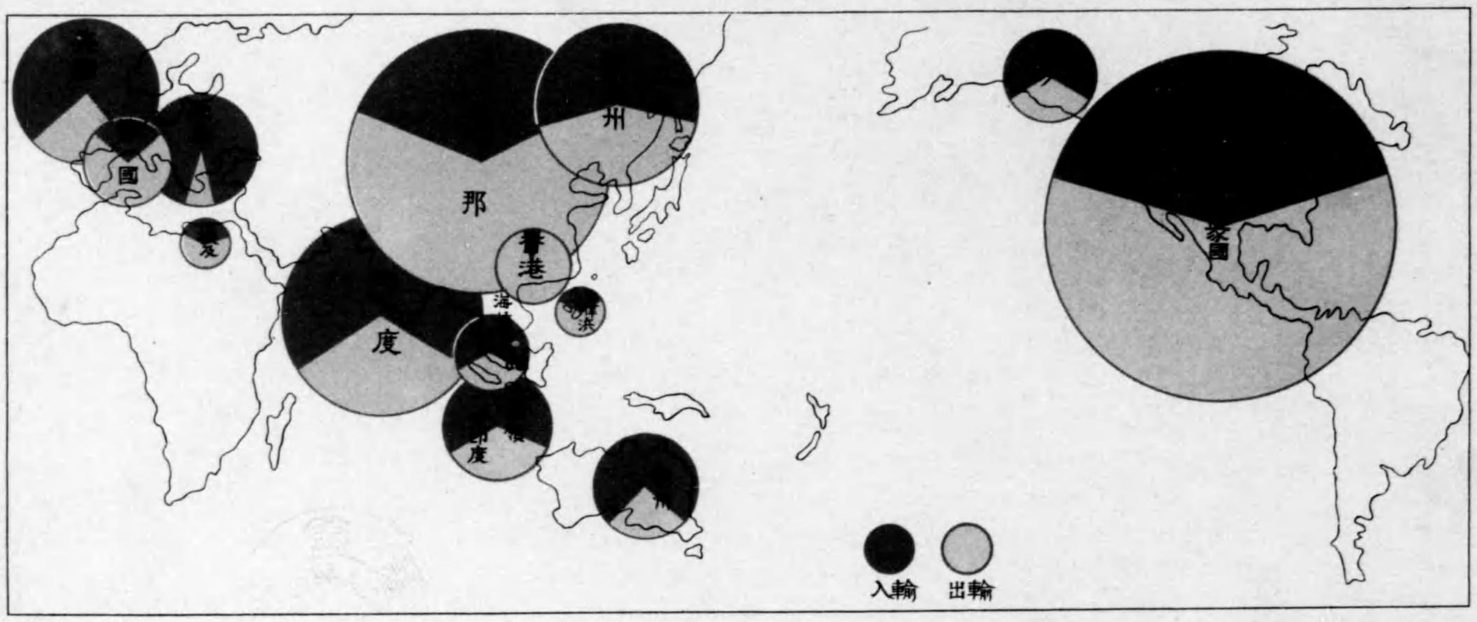
發行所寄贈本

昭和四年一月寄贈

露光量違いの為重複撮影

本邦對主要對手國輸出入對照表

昭和三年（朝鮮及台湾ヲ含マズ）

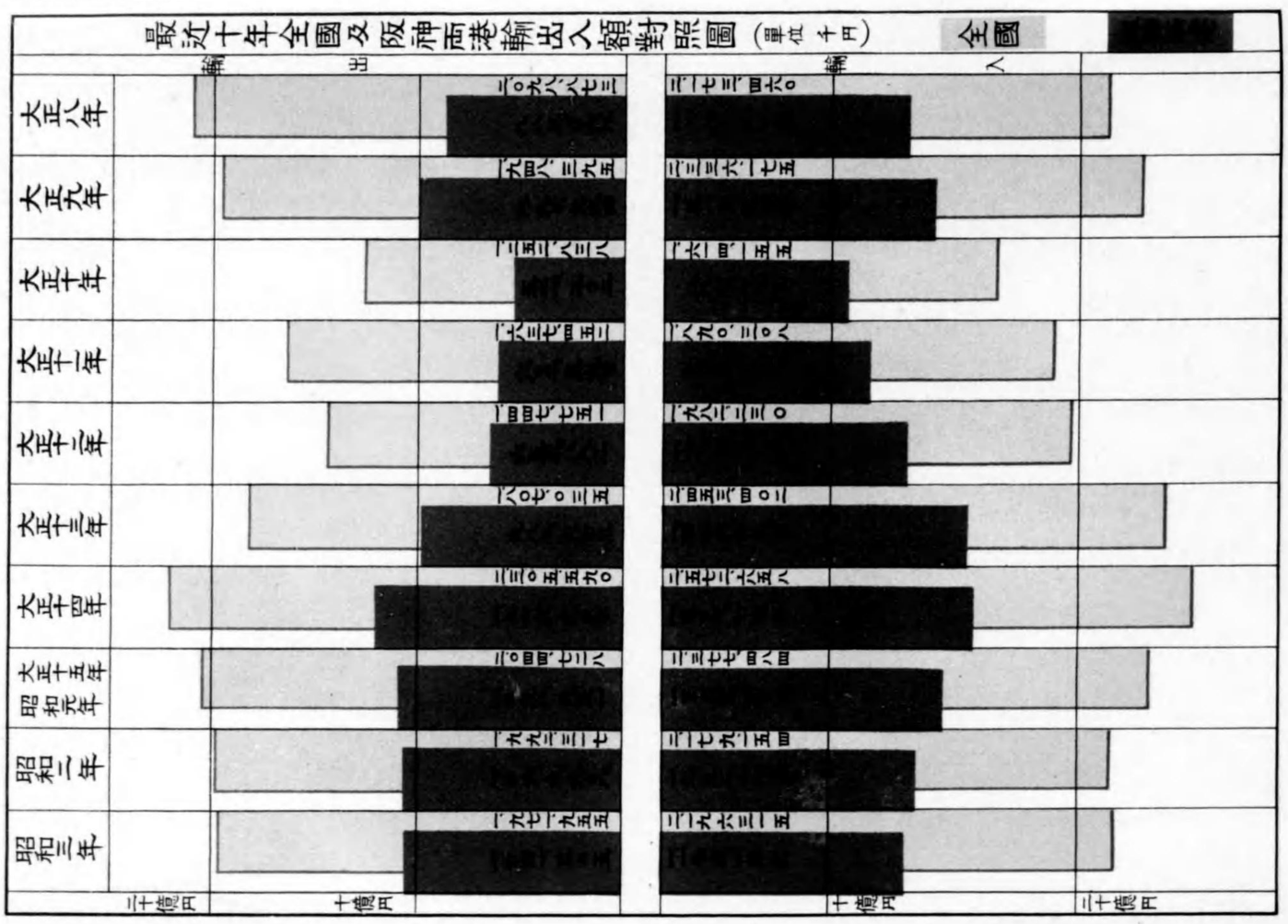


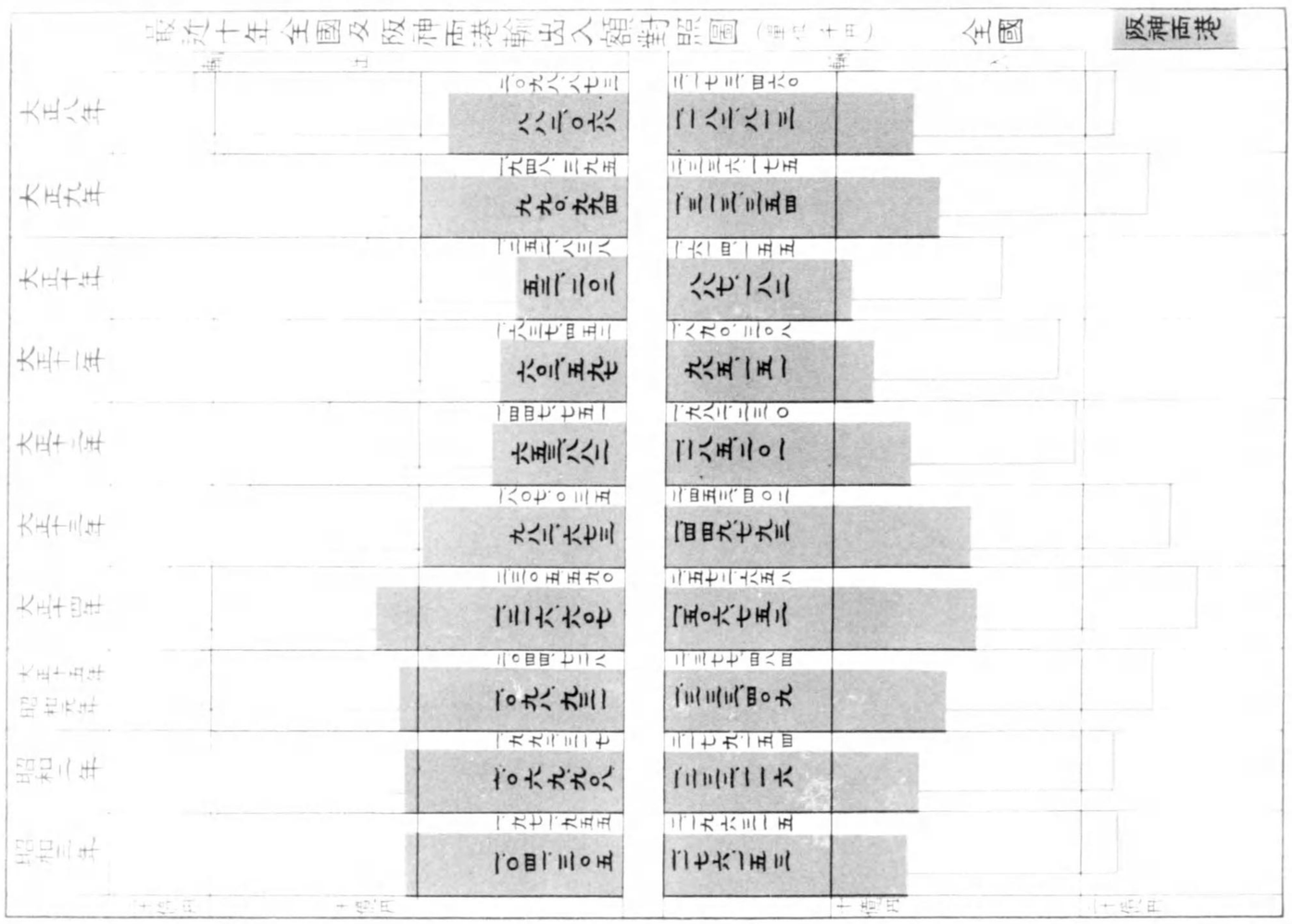
露光量違いの為重複撮影

本邦對主要手對國輸出入對照表

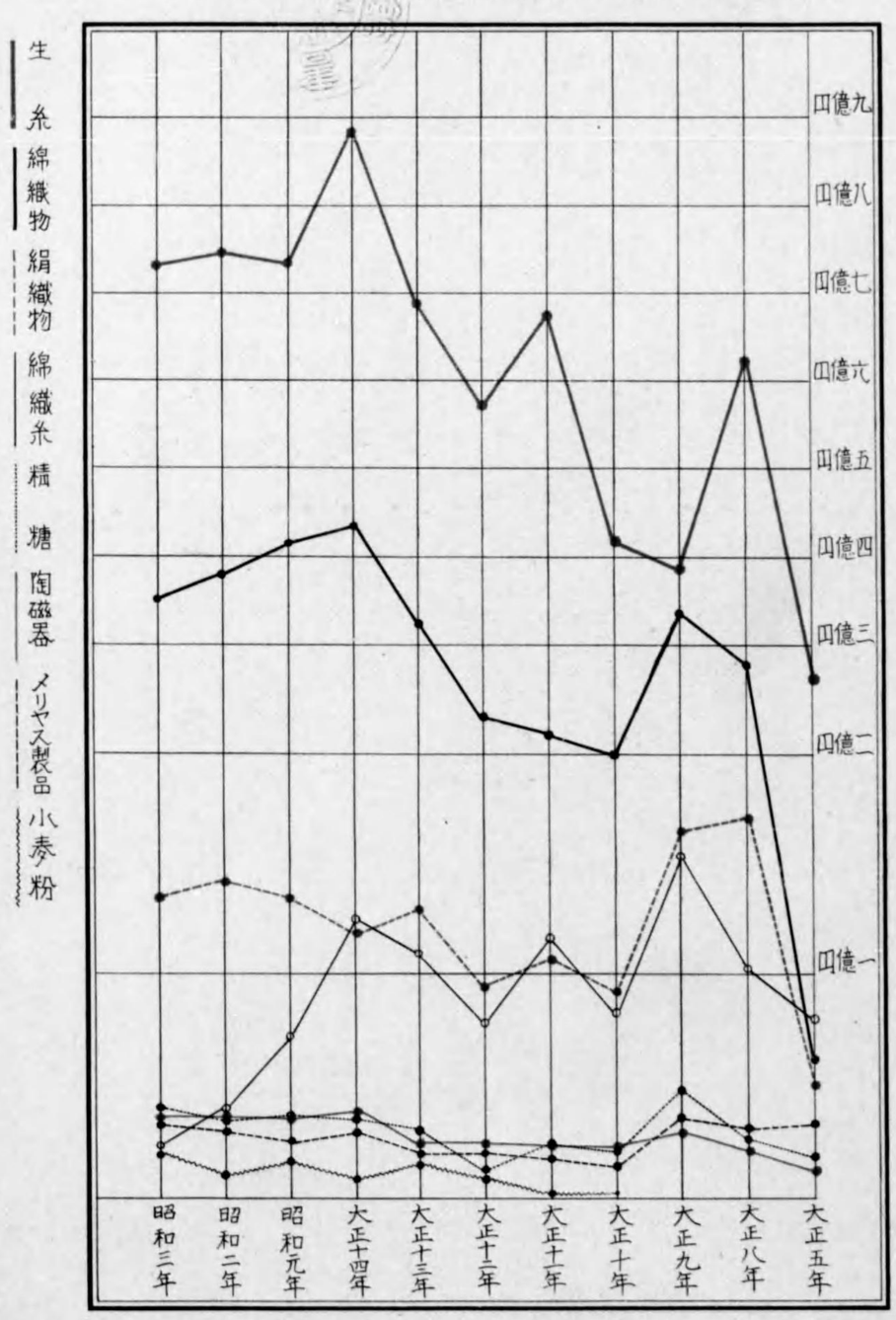
（スマ含ム臺台及鮮朝）年三和昭

露光量違いの為重複撮影

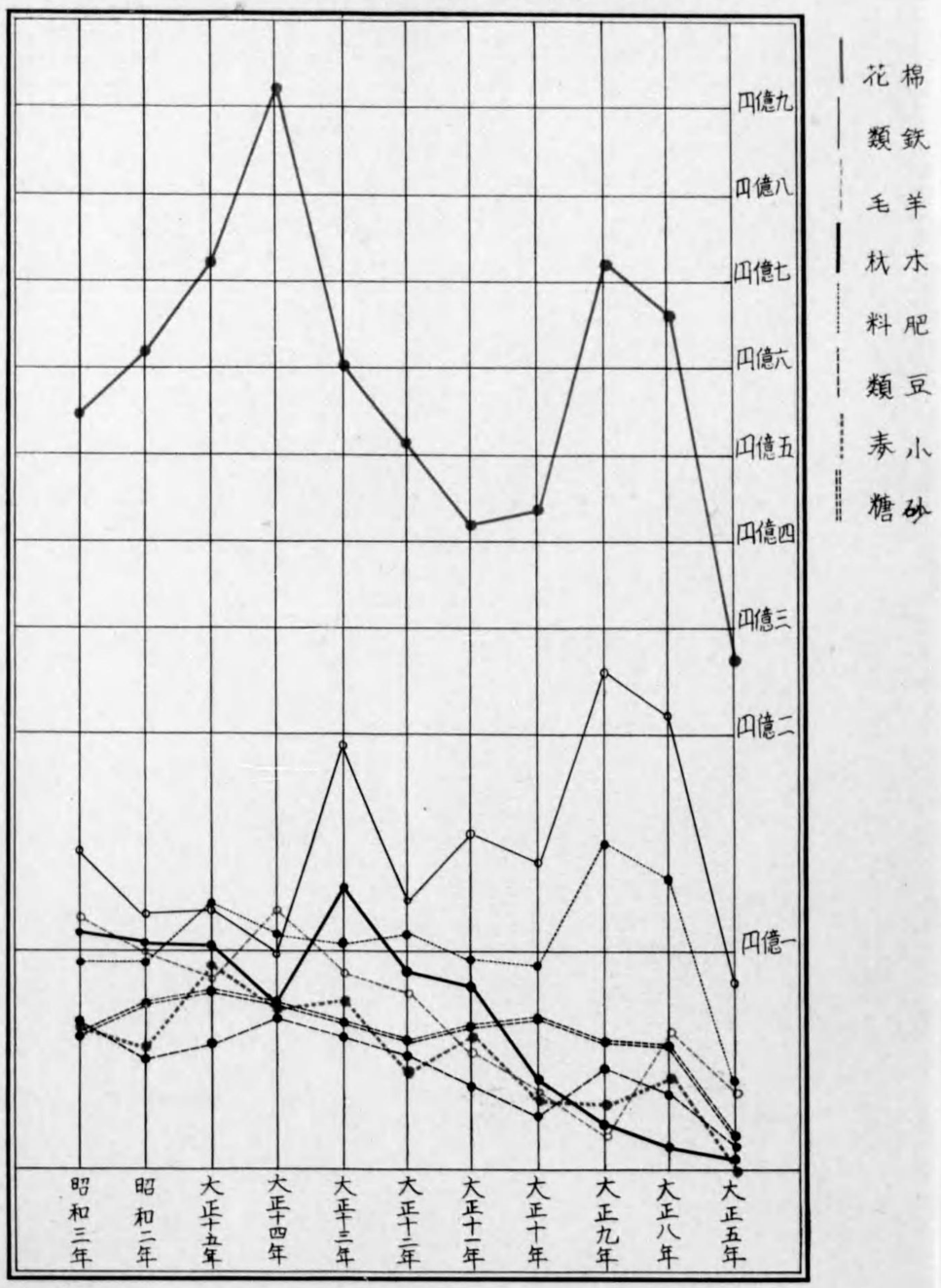



最近十年全國及阪神両港輸出入額對照圖（單位十億円）
全國
阪神両港
大正八年
大正九年
大正十年
大正十一年
大正十二年
大正十三年
大正十四年
大正十五年
昭和元年
昭和二年
昭和三年
二〇九八八七三
八八二〇六六
二九四八三九五
九九〇九九四
二五三八三八
五三二〇二
六〇三五九七
六五三八八二
九八三六七三
三三〇五五九〇
二二六六〇七
三〇四四七三八
二〇九八九三
二九九三三七
二〇六九九八
二九七二九五五
二〇四二三〇五
二二三三六四〇
二八二八三三
二三三三五四
二三三二一六
二二九六三二五
二二六二五三
十億円
十億円
十億円
十億円

重要輸出品累年推移表


生糸
綿織物
絹織物
綿織糸
精糖
陶磁器
メリヤス製品
小麦粉
四億九
四億八
四億七
四億六
四億五
四億四
四億三
四億二
四億一
昭和三年
昭和二年
昭和元年
大正十四年
大正十三年
大正十二年
大正十一年
大正十年
大正九年
大正八年
大正五年

重要輸入品累年推移表


四億九
四億八
四億七
四億六
四億五
四億四
四億三
四億二
四億一
昭和三年
昭和二年
大正十五年
大正十四年
大正十三年
大正十二年
大正十一年
大正十年
大正九年
大正八年
大正五年
棉花類
鉄
羊毛
木材
肥料
豆類
小麦
砂糖

14.20-149

凡例

一、本書は昭和三年に於ける阪神兩港の重要輸出入品の概況を叙述す

一、叙述のために採錄の商品は阪神兩港に於て輸出又は輸入年額二百萬圓以上のものを標準としたるも、大阪として特に重要ならざるものは之を省略したり、生糸、絹織物の如きその例とす

一、第四、第五篇大阪港及神戸港輸出入國別表は本所の特別調査に係るものにして江湖の資料として其價値大なるを信ず、第二、第三篇叙述の品目に關しても本表を參照せられんことを望む

概表に使用せる國別名表示例左の如し。

支—支那、香—香港、關—關東州、印—印度、海—海峽殖民地、暹—暹羅、蘭印—蘭領東印度、亞露—アジアロシア、細—其他のアジア諸國、佛印—佛領印度支那、瑞—瑞西、丁—丁抹、典—瑞典、チ—チエコスロバキア、歐—其他の歐洲諸國、埃—埃及、東—東部アフリカ、喜—喜望峯弗—其他のアフリカ諸國、加—カナダ、合—米國、玖—玖瑪、北米—某他の北米諸國、亞—アルゼンチン、ウ—ウルグアイ、布—布哇、新—新西蘭、不—不詳、其他—以上に國名項目なきもの

昭和四年十月

大阪府立商品陳列所

昭和三年

大阪貿易彙纂

第一篇　總　說

第一章　本邦輸出入概勢

一、概　　効……一
二、月別輸出入……一
三、貿易不振の原因……三
四、品種別貿易……五

第二章　主要對手國概勢

一、北米合衆國……七
二、支　　那……一三
三、印　　度……一四
四、蘭領東印度……一五
五、比　律　賓……一七
六、海峽植民地……一八
七、濠　　洲……一九
八、英　　國……二一

九、佛　　國……二三
一〇、獨　　逸……二五
一一、カ　ナ　ダ……二六
一二、埃　　及……二八
一三、ケニヤ、ウガンダ及南阿……二九

第二篇　重要輸出品概況

一、小　麥　粉……三三
二、鰯其他海產物……三四
三、砂　　糖……三五
四、寒　　天……三七
五、罐詰食物……三八
六、樟　　腦……四〇
七、薄　　荷……四一
八、魚　　油……四三
九、硬　化　油……四四
一〇、除　虫　粉……四五
一一、綿　織　糸……四六
一二、綿　織　物……四八
一三、綿　毛　布……四九

一四、メリヤス製品……六八
一五、帽子……七〇
一六、釦……七一
一七、洋紙……七三
一八、陶磁器……七五
一九、硝子瓶……七六
二〇、琺瑯鐵器……七八
二一、ゴム製品……八一
二二、洋傘及附屬品……八四
二三、刷子……八五
二四、玩具……八六

第三篇　主要輸入品概況

一、米……八八
二、小麥……八九
三、大豆……九〇
四、鷄卵……九一
五、生牛肉……九三
六、採油原料種子……九四
七、牛皮及水牛皮……九五

八、革類……九六
九、生ゴム……九七
一〇、硝石……九八
一一、硫安……九九
一二、棉花……一〇一
一三、苧麻類……一〇三
一四、羊毛……一〇四
一五、燐礦石……一〇五
一六、木材……一〇六
一七、油糟……一〇八
一八、牛脂……一一一
一九、パラフインワツクス……一一二
二〇、曹達灰、苛性曹達……一一三
二一、漆……一一四
二二、硝子板……一一五
二三、染料……一一七
二四、毛織糸……一一八
二五、パルプ……一一九
二六、石油……一二四
二七、毛織物……一二五
二八、貝殻……一三五

二九、筒及管……二六
三〇、鐵（條、竿、アングル類）……二六
三一、鋼（塊及錠）……二七
三二、葉鐵及葉鋼……二八
三三、鐵板……二八
三四、發電機及電動機……二九
三五、亞鉛（塊及錠）……二九
三六、ワイヤロッド……二九
三七、金屬工及木工機械……二九
三八、紡績機械……三〇
三九、縫衣機……三一
四〇、銑鐵……三二
四一、アルミニウム（塊及錠）……三三
四二、鉛（塊及錠）……三四

第四篇　大阪港輸出入年計表
第五篇　神戸港輸出入年計表

昭和三年

大阪貿易彙纂

第一篇　總說

第一章　本邦貿易概勢

一、昭和三年本邦輸出入の概勢

本年度本邦對外貿易は

輸出　十九億七千百六十八萬九千圓
輸入　二十一億九千二百八十五萬八千圓
計　四十一億六千四百五十四萬七千圓
差引入超　二億二千百十六萬九千圓

こいふ結果に終つた。前年に比し輸出は二千六百六十二萬八千圓を減少し、輸入は千三百七十萬圓を增加した。入超額は前年の一億八千六百八十三萬圓に對し、三千四百三十三萬圓の增加となつた。即ち輸出が減少したに拘はらず輸入は却つて增加し、其和だけ入超額を增加したのである。

貿易總額は大正十四年以來連年遞減の狀態にある、即ち大正十四年に四十八億七千八百萬圓を算した輸出入總額は昨年に至り四十一億七千百萬圓となり、本年は四十億六千百萬圓になつた。尤も大正十四年の數字は前例を急劇に破つた記錄的のものであるが、偶々本邦產業界一般の進展充分ならざる證佐たるこを少くこも示すものでなければならぬ

二、月別輸出入の推移

一月から五月までは前年に比し輸出好調で、一方輸入は減少し一時貿易の前途頗る好望を思はしむるものがあつた然るに六月に至るや輸出漸く減少を見せ、輸入を逐減したが其足取比較的緩かに前途早くも不安の兆を見せた、然し上半期だけで言へば入超額は二億三千四百萬圓で喰止められ、前年に比し六千三百萬圓の輕減を記錄する事が出來た。

然るに積極的改善を期待された出超期たる七月以降は、輸出が豫想の如く伴はず、輸入は却つて著増の趨勢となり出超の程度は七月中旬以來前年に比べ著しく減少し、十一月中旬には僅かに六十一萬圓に過ぎず、十一月下旬に入るや一轉して千五十萬圓の大入超を示した。

即ち前年に比し二旬も早く入超期を招來し、爾後の貿易尻も芳しからず、輿論の要望する金解禁も可なり暗影を感ずるに至つた。

今各月別出入の跡を見るに左表の如くである。

月別輸出入

	輸出	輸入	出入(△)超過
一月	一四四、三九五	一九一、九九六	△四七、六〇一
二月	一六〇、七七〇	二〇〇、九九六	△四〇、二二五
三月	一六九、二八八	二二三、六二三	△五四、三三四
四月	一五九、七八七	一八八、〇五三	△二八、二二六
五月	一六四、九二一	二〇一、九六五	△三七、〇四五
六月	一四四、一五〇	一七二、八〇六	△二八、六五四
七月	一六一、〇六九	一六三、二〇三	△ 二、一三四
八月	一八九、二〇八	一五六、〇二二	三三、一八六
九月	一七一、三八九	一五八、六六七	二二、七二二
十月	一七九、六九九	一九〇、七四一	八、九五八
十一月	一五三、四二四	一六五、三六八	△一二、九五四

三、貿易不振の諸因

前項述ぶるが如く本年は二億二千萬圓の入超で、全體的に思はしくなかつた。之が一般的原因の主なものを擧ぐれば、爲替の波瀾の大きかつたこと、對支問題特にその排日貨殊に各地草僑の排日貨、南洋諸國の購買力減退、印度の關稅引上等である。

(イ)爲替の不安定

本年度貿易不振の最大原因は爲替相場の動搖常なき波瀾にあつた。支那の排日貨、生糸の輸出減退を云々する者も多いが、之らは數字から見てむしろ大きな問題ではない、爲替相場さへ安定してゐたら對米對支貿易ともつと振つた筈である。爲替安が輸出を促進するように一般に考へられてゐるが、それよりも相場變動に恐れて逸せられた商機が如何に大なる損失であつたかを考へなければならない、政府が左顧右眄して金解禁の擧に出る能はざる間に我財界は益々深味に陷り、貿易も依然として伸びることが出來ないであらう。

爲替相場變動表(正金建値)

	昭和三年				昭和二年			
	對米		對英		對米		對英	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	四七、一弗	四六、五分ノ八弗	一・二八分ノ一志	一・二八分ノ一志	四八、四分ノ三弗	二・〇〇八分ノ一志	二・〇〇八分ノ一志	二・〇〇八分ノ一
二月	四六、八分ノ七	四六、八分ノ七	一・二十六分ノ一	一・二十六分ノ一	四八、四分ノ三	二・〇〇八分ノ一	二・〇〇八分ノ一	二・〇〇八分ノ一
三月	四八、一	四六、八分ノ七	一・二八分ノ五	一・二八分ノ五	四九、一	二・〇〇四分ノ一	二・〇〇十六分ノ三	二・〇〇四分ノ三
四月	四七、八分ノ七	四七、二分ノ一	一・二十六分ノ九	一・二十六分ノ九	四九、一	二・〇〇四分ノ三	二・〇〇四分ノ一	一・二四分ノ一

五月	四七、八分ノ七	四六、八分ノ一	一・二四分ノ一	一・一〇四分ノ三	四六、一
六月	四六、四分ノ三	四六、八分ノ三	一・二十六分ノ一	一・一〇十五分ノ一	四七、八分ノ三
七月	四七、三分ノ一	四五、三分ノ一	一・一〇八分ノ七	一・一〇十六分ノ七	四七、四分ノ三
八月	四五、三分ノ一	四四、四分ノ三	二・一〇十六分ノ七	一・一〇八分ノ一	四七、八分ノ三
九月	四五、八分ノ七	四四、四分ノ一	一・一〇十六分ノ二	一・一〇八分ノ三	四七、四分ノ一
十月	四七、二分ノ一	四五、八分ノ五	一・二三分ノ一	一・一〇八分ノ三	四六、八分ノ三
十一月	四六、四分ノ三	四六一	一・二八分ノ一	一・一〇四分ノ三	四六、三分ノ一
十二月	四八、八分ノ一	四五、四分ノ三	一・一〇十六分ノ三	一・一〇四分ノ三	四六、八分ノ三

（備考）昭和三年十二月の高低は二十九日までの分

五月	四六、八分ノ一	一・二十六分ノ二	一・一〇八分ノ七	一・一〇四分ノ三	四六、一
六月	四六、四分ノ一	一・二八分ノ三	一・一〇八分ノ七	一・一〇十五分ノ一	四七、八分ノ三
七月	四六、八分ノ七	一・二八分ノ三	一・二八分ノ一	一・一〇十六分ノ七	四七、四分ノ三
八月	四七、四分ノ一	一・二八分ノ三	一・二四分ノ一	一・一〇八分ノ一	四七、八分ノ三
九月	四六、八分ノ三	一・二十六分ノ五	一・一〇八分ノ七	一・一〇十六分ノ七	四七、四分ノ一
十月	四六、二分ノ一	一・二一—	一・一〇八分ノ七	一・一〇八分ノ三	四六、八分ノ三
十一月	四五、八分ノ五	一・一〇八分ノ七	一・一〇十六分ノ七	一・一〇四分ノ三	四六、二分ノ一
十二月	四五、四分ノ三	一・一〇六分ノ三	一・一〇三分ノ一	一・一〇四分ノ三	四六、八分ノ三

（ロ）支那問題

本年支那の輸入貿易は前年に比し二億五千萬圓の增加であるが、專ら英米獨の進出を主因とし、何れも前年に比し著しく對支輸出を增加し、全體に對する比率も夫々增加してゐるのである、日本のみは之らと同じからず、對支輸出額は若干の增加はしたが、前記諸國に比すれば全然問題とならない、即ち我國の本年の對支輸出は當然得可かりし進展の大勢から除外された。要は機宜を失へる政策と、支那民衆の間に反感を抱かる、爲政の首腦者が、如何に我對支貿易、延いては國家的利益の上に多大の損害を與へたかを考へざるを得ないのである。

（ハ）南洋及印度方面の不振

試みに歐洲及南米に對する本年の我輸出を見るに前年より增加してゐるが他の地方はしからず、特に印度及南洋に對する輸出減少は著しく、印度の二千萬圓、佛印、馬來、蘭印、比島の通計の三千四百萬圓、合計五千八百萬圓の減少である、本年の輸出不振の主因は此地方への不振にあつたとも言へる、此地方の購買力の一般的低下、在留支那商人の排日貨は兩々相俟つてこの不振を結果した次第であつた。

四、品種別貿易

昭和三年品種別貿易額單位千圓△は前年に比し減

輸出の部

三年		前年比較
▲食料品（粗製品）		
米および粟	一、二二六	△ 五二一
豆類	一〇、四〇一	△ 六五二
水産物	一七、三七五	△ 二、七六八
その他	一一、〇七七	△ 二、四九三
計	四〇、二二九	△ 五、四七七
▲同（精製品）		
小麥粉	二四、七一七	一〇、四九九
製茶	一一、八四八	九五二
精糖	三八、四一五	九、四九七
麥酒	四、四一二	一六六
寒天	四、一四二	八九四
罐瓶詰食料品	三三、〇三〇	三、五三一
その他	九、五八七	△ 一三四
計	二一六、一五一	二五、三五六
累計	一五六、二八〇	一九、八七九
▲原料品		
除虫菊	七、四八七	四、四二六
屑糸及眞綿	二一、五四八	三一〇
石炭	二四、三一三	△ 九九六
木材	一七、九六三	△ 二、〇六五
其他	二六、〇三七	五、二九五
累計	八八、五四八	一〇、四七〇
▲原料用製品		
植物性脂肪油	六、〇二一	△ 五、七四六
薄荷油	二、〇七六	△ 二三八
魚油及鯨油	八、一六二	△ 六八三
樟腦	五、四四六	△ 一九一
薄荷腦	七三二、六九六	△ 九八二
生糸	二五、八九二	△ 八、五三一
綿織糸	四、八四五	△ 二二、九〇一
鐵鑛	五、五七五	△ 二、四九三
眞鍮	四、七一六	△ 三、七四二
製帽用眞田	一、五五三	△ 一、五五三
その他	二四、三七一	△ 二六、〇九三
累計	八三、七一四	△ 一三四
▲全製品		
石鹼	二、〇九	四七九
マッチ	五、一一六	△ 三、〇三九
絹織物	一三四、〇五八	△ 三、五五六
綿織物	三五二、二一七	△ 二一、三六三
毛織物	三、六〇八	九七〇
綿ブランケット	二、七七七	△ 四三七
絹ハンカチーフ	五、二〇五	△ 七〇八
綿タオル	三、三九三	△ 四
綿メリヤスシャツ	二七、三七八	二、二八五
メリヤス靴下	四、八一六	一、八六七
帽子	二二、一九二	二、八二四
鈕釦	七、六五三	△ 二、一九七
身邊粧飾用品	八、〇一五	四、〇五〇
紙類	二五、六七三	六、四一〇
セメント	六、八八四	△ 二三六
陶磁器	五四、六三七	四、一四七
硝子及同製品	二二、九四三	△ 三、六八八
鐵製品	二三、六八〇	一、六二二
ゴムタイヤー	五、七二二	七八二
機械及同部分品	一〇、六〇五	△ 七〇六
洋傘	二、五一六	一七三
ブラシ	五、一一九	△ 五一〇
ランプ及同部分品	八、三六八	一、四八九
玩具	一〇、九九七	四七
其他	一〇、二七八	九、七〇五
累計	八二二、九四九	△ 一一、一八四
其他の雜品	三〇、二七二	四、五五五
通計	一、九二一、七六四	△ 二、三七三
再輸出品	六〇、一八九	△ 一七、九九〇
全計	一、九七一、九六三	△ 二〇、三六三

右の中輸出額増減に影響を及ぼせる主なものを擧ぐれば、先づ増加せるものとしては小麥粉、精糖、罐壜詰食物、メリヤス類、紙類及陶磁器等であつて、殊に小麥粉は前年に比し八割餘を増加して二千三百八十八萬圓となり、紙類も三割餘の増加で二千五百四十萬圓となつてゐるが、我輸出の大宗たる生糸絹織物綿布綿糸は、轡を並べて減少してゐる。即ち生糸は數量では前年より五分増加の五十四萬ピクルであるが金額は一分五厘千七十萬圓を減じ如實に爲替及原價安の影響を見せ、綿糸布の減少は明かに支那、南洋、印度方面の需要不振を物語る、即ち前年に比し綿糸は千三百餘萬圓を、綿布は三千萬圓近くを、夫々、減少してゐる。

輸入の部

▲食料品(粗製品)				燐礦石	二、九七三	レール及フイツシユプレート	四、〇三三
米及籾	三三、六七二	△四五、二三三		油粕	八六、八二七	△三、二四〇	
小麥	六七、七六五	一三、八五五		綿	五四九、九三八	△七四、六九一	
豆類	六七、八三〇	一四、九二三		實棉及繰綿	二、一七一	一〇、一八二	
鳥卵	六、九六八	△三、〇二三		其他の植物織維	二七、八二一	一、四八九	
其他	三三、六四九	五、七七六		羊毛	一二、八五七	七、八九三	
計	二〇八、八九九	△一三、七〇二		石炭	三六、九七六	七、〇八〇	
▲同(粗製品)				鐵鑛及其他の鑛	一〇、八二三	二、三五二	
砂糖	六四、九五六	△一〇、八四六		木材	一一〇、八八四	一七、八一四	
牛肉(生)	六、九七一	△九九一		ふすま	一四、二三三	△三七、二八一	
其他	一七、七二二	△七四三		其他	一〇一、三三九	一、〇〇七	四五
計	八四、六四九	△一一、〇九四		累計	一、一六五、一九九	三八〇	
累計	二九八、五四三	△二四、七九七		▲全製品			
▲原料品				揮發油	六、五八〇	△四、四二七	
採油用原料	二一、八二一	二、九六八		石油	三〇、六八六	六、四四八	
生ゴム	二七、八九三	△六、五〇七		綿織物	七、四三五	一九九	
チリー硝石	六、一〇八	△六四六		毛織物	三、一一三	△三、五四七	
硫酸アンモニユーム(粗製)	三六、三〇四	三、五五三		印刷料紙	五、五二〇	△一七九	
				自動車及同部分品	三二、一四四	二二、九六三	
				發電機及變壓器	七、四五八	四二七	
				その他機械類及同部分品	八四、七四八	二三、一六七	

其他	二六、七六〇	一七、六三一		其他の雜品	一四、五六六	三九九	
累計	三三三、五四四	四三、六八二		通計	二、一九六、六九四	一六、八八九	

右の中増減の著しいものに對して言はんか輸入の大宗と目さるゝ棉花は上半期に買控へられて、上半期買易を好調に導いた一原因をなしてゐたが、下期には補充買が盛んに行はれて下期買易をして俄然惡化せしむるの主因をなし、結局五億四千萬圓の輸入を示した、併し之を前年に比すると一割一分即ち六千五百七十萬圓の減少である。油粕の如きも千二百餘萬圓の減少で滿洲特産界に一刺戟を與へ、其他砂糖、毛織糸等亦減少さなつた。

之に反し増加した主なものは小麥、豆類の一千四百萬圓をはじめ、木材、石油の夫々七百餘萬圓、羊毛の千五十萬圓なぎある。

再輸入品 二、六一九 三九

全計 三、一九六、三一三 一七、一三〇

第二章　主要對手國概勢

一、北米合衆國

米國貿易概況

本年の米國貿易は總額五十一億二千九百萬弗で實に一九二〇年以來の大記錄を示した。輸出品中好成績を擧げたものは自動車、農産物、機械、鑛産物類であり、特に銅、棉花、大麥、罐乾果類が目立ち、小麥及製粉類は不振であつた。米國數年來の輸出入を見るに左の如し。(單位千弗)

	輸出	輸入	出超
一九二三年	四、一六七、四四九	三、七九二、〇六六	三七五、四一七
一九二四年	四、五九〇、九八四	三、六〇九、九六三	九八一、〇二一
一九二五年	四、九〇九、八四八	四、三六六、五八九	六八三、二五九
一九二六年	四、八〇八、六六〇	四、四三〇、八八八	三七七、七七二

一九二七年	四、八六六、一六〇	四、一八四、四五三	六八二、七〇七	減
一九二八年	五、二九、一三二	四、〇八九、九三〇	一、〇三九、〇二	

輸出額は前年に比し五・四%を増加せるに反し輸入額は二・二%を減じ一九二四年來の低記錄を示してゐる。之れがため結局十億三千九百萬弗といふ巨額の大出超を見たのである。

更に輸入品の內容の大略を見るに左の如し。(單位千弗)

輸出

	一九二七年	一九二八年	增減
原料品	一、一九二、七七六	一、二九三、二六四	八・四%增
食物原料	四三一、一〇七	二九三、四八七	三〇・三%減
製成食料品	四六三、二九九	六七、〇三三	〇・八%增
製成品	一、九八一、九五五	二、二九、三八六	一四・〇%增
半成品	六九九、七二七	七一六、五二二	二・四%增
計	四、七五八、八六四	五、〇二九、六八二	五・七%增

輸入

	一九二七年	一九二八年	增減
原料品	一、六〇一、六四七	一、四六六、五四四	八・四%減
食物原料	五〇四、五七一	五四九、五四三	八・九%增
製成食料品	四五〇、五九八	四〇五、四九一	一〇・〇%減
製成品	八七八、二七八	九〇六、九一六	三、二%增
半製品	七四九、六五一	七六二、六三三	一・七%增
計	四、一八四、七四三	四、〇九一、一二〇	二・二%減

即ち輸出に於ては、食物原料が著しく減じたが、他は何れも增加し、就中全製品の一四%、原料品の八、四%の如き有力なるものである。

輸入では原料品と全成食料品が減少し、食物原料、全製品及半製品が增加してゐる。

本年食物原料の輸出が三〇%も激減したのは、主として小麥、小麥粉及裸麥の輸出減退を原因とするもので、玉蜀黍、大麥の農作輸出增加も之を償ふに足りなかつた。全製品中鐵及鋼は數量に於て三一%を增加し、農耕機器も一八・七%の增加で新しい記錄を作つた、石炭及コークスは前年來の好勢に反して減少し、石油は市價低落の爲め數量上多大の輸出を見た。精油の如き數量上四六%を增加せるも金額は八%增加に過ぎなかつた。

本邦對米貿易

次に本邦對米貿易を顧るに、叙上の如く米國が記錄的貿易額を示せるに拘らず、本邦對米貿易は輸出八億二千六百十四萬一千圓、輸入六億二千五百五千萬三千圓、計十四億五千百六十四萬圓。

即ち輸出に於ては七百六十六萬圓、輸入に於ては四千八百十八萬圓を夫々減少し、結局前年に比し總額五千五百八十五萬圓の減少である。

輸出に於ては、生糸、絹織物、薄荷腦、油脂類が何れも減少し、僅かに陶磁器と罐詰食料品が增加した。生糸の六億八千七百四十萬圓は昨年に比し一千七十八萬圓の減少で、大正十四年の八億四千八百萬以來引續いての減少である。尤も數量に於ては五十一萬擔を超え未だ曾て見ざる多量の輸出であつて、この數量に於て增加し、金額に於て減少する傾向は近數年間の原則となつて居る。原因としては人絹の壓迫が値段を抑へ、絹の普及は量を增加するものであると考へるのを大體に於て至當としよう。絹織物も本年の一千五百四十萬圓は昨年に比し二百八十萬圓の減少である。佛國品及瑞西品が增加しつゝあるに反比例して本邦品の減退を見るのである。其他薄荷腦、魚油、植物性油等の減少並びに陶磁器、罐詰食料品の增加等を表に依つて見るに左の如くである。(單位千圓)

	昭和元年	昭和二年	昭和三年
生糸	七〇八、四六九	六八六、二四六	六八七、四六四
絹織物	二六、二二五	一八、一八九	一五、四〇六

茶	一〇、〇八八	八、六四〇	九、二八八	同 二年	同 三年
陶磁器	一三、九四七	一二、二四四	一三、七九三	三四三、五六三	二四五、九二六
屑糸、眞綿	七、四三九	六、一六〇	一三、五五九	七一、二八九	八四、九二六
罐詰食料	八、五五〇	八、八二四	一二、二八五	三六、七四四	三九、三二七
プラシ	四、五九五	三、二六一	一、九四四	三一、一一三	三四、三二〇
薄荷腦	六、一三四	二、四六八	一、三八六		
製帽用眞田	三、六六一	二、八七八	一、一六二		
玩具	三、八三三	三、四一七	三、六七〇		
植物油脂	四、一六四	四、二六一	二、五〇一		
樟腦	二、四四〇	二、二七四	二、四一三		
豆類	一、八九三	二、六四五	五、〇一〇		

次に輸入品に就てみるに、棉花が昨年の三億四千三百五十六萬圓から、九千七百六十萬を減じて二億四十六萬圓となつた事は、總輸入額の減少を來せる主たる原因である。尤もこれは本年の米棉高に因る買控への結果で、本年の特別な現象と見る可く、翌年度には反動的に増加す可き事情にある。木材の八千四百萬圓は昨年に比し二割に近い増加である。少麥の千六百萬圓は昨年に比し一割四分の減少はカナダの豊作の影響もあり、米國農民保護法の關係もあり本邦製粉業の發達から見て反對な現象である。硫安の昨年五百萬圓から本年三百四十萬圓は著しい減少である。英獨製品の進出と、米國品の優秀ならざるに主因がある。其他自動車類、石油、機械、銅、鐵など何れも増加を示した。主なる輸入品金額は左表の如くである。（位單千圓）

	昭和元年	同 二年	同 三年
棉花	三一七、四三七	三四三、五六三	七一、二八九
木材	八四、七〇八	七一、二八九	三六、七四四
鐵	三三、六九五	三六、七四四	三一、一一三
機械同部分品	四三、〇七三	三一、一一三	
小麥	二五、二九三	一八、三六五	一四、九〇三
石油	八、六九一	一一、四四八	一四、九六四
自動車類	一三、一〇四	一六、〇一三	二九、三五三
硫安	九、七六三	五、一八九	三、四七七
揮發油	八、〇五五	二、〇〇六	一〇、四三三
革類	四、一九九	四、〇八二	三、三九一

要するに本年の對米貿易は減少したと言ふも結局出超額は増加して二億六十三萬圓となつた。併しこれは輸出増加に因るものでなく、輸入の減少に因るものである。而も生糸、絹織物の不振と製造原料たる棉花、小麥の輸入減は、明かに本年の對米貿易が滿足する性質のものでなかつた事を考へさせられる次第である。

米國を市場として見るに支那と共に我國貿易上の最上の顧客であつて、此兩國に對する我國貿易に輸出超過で我國際貸借の不足を補ふ重要のものである。從て我經濟の生命は實に此二國の貿易に懸つて存すると言ふも過言でない。

其他の歐洲各國に對しては常に輸入超過となり、米國に對しては常に輸出超過となり、畢竟米國より得る所を以て之を歐洲に失ふといふ狀態にあるもので、此關係は從來のみならず、更に尙繼續す可き大勢にある。

今對米輸出品に就いて大勢を見るに、富みて榮えつゝある米國に對しては獨り生糸のみならず、本邦としては殊に我が阪神としては、他の所謂生產品に亘りて極力その市場の發見に努力せねばならないのであるが、茲に悲しむ可き一事は米國の市場に於て歐洲各國の輸入品と相並んで雌雄を爭はんとする本邦品が近年著しく敗色濃きことである。蓋し我國の通貨過剩にして物價の法外に高きことはその一大原因である。生糸以外の雜貨品にして從來米國市場に賣買せられたる本邦品幾百種類に亘り歐洲各國の低廉なる物品の壓倒を蒙り、漸次米國市場より姿を消し行く有樣は眞に千秋の痛恨事と言はねばならぬ、無限とも言ふ可き購買力を眺めながら空しく手を拱いて傍觀するが如きは到底我國として堪ふる所でない。

雜貨品が米國に於て勢力を失墜しつつある原因は我國の物價騰貴賃銀昂騰を一大原因とする外に尙ほ大いなる原因ありと言はねばならぬ、本邦商人が彼れの流行に投じよく彼れの好む所に符合せる製品を送るに拙なることはその一

である。米人一般に見らるゝ所謂東洋趣味を巧みに利用することに拙きことその二である。一度び賣行きよしと見らるゝ商品あれば競爭者續出して漸次値段と品質を低下し遂に其商品の運命を末路に導きつゝある、自殺的小競ひ合その三である。徒らに從來の商品にのみ捉はれて新規商品の創造をなし或は既に日本にありて未だ米國に紹介せられざるものを紹介して販路を拓くことの努力足らざることその四である。

二、支那

本年の我對支貿易は決して順調に經過したと言ふ事は出來ない、國民革命軍の北伐進行に伴ふ各地の事變に因る通商の不圓滑、殊に濟南事件に端を發して全國的に喚起されたる排日貨運動は年末に至る迄終息することなく、益々深刻の度を加へた爲に對支輸出の阻害さるゝ所誠に量り難きものであつた。今これを數字から見るに

	昭和三年	同 二年	大正十五年
支那へ輸出	三七三、一四一、九二一圓	三三四、一八三、六〇六	四二一、八六一、一三五
支那より輸入	二三四、五四七、一〇一圓	二三六、〇三四、三五九	二三九、四二〇、四六二

の如く、斷じて減少を來しては居らないけれども期待し得可き當然の豫想から見る時は、より以上大いに增加す可かりしものが、當然の結果を見ずして終つたと見る可きものである。試みに列國の對支貿易を見るに、歐米諸國のそれは二億海關兩の對支輸出增加を示し、就中英の四千萬兩米の四千萬兩等夫々增加であつて、數年來嶄然頭角を現し來つた我對支貿易の駸々たる勢ひは見られないのである。

支那總輸入と各國の割合（千海關兩）

	一九二八年	割合(%)	一九二七年	割合(%)
日本	三二九、二九三	二六・四	三〇九、五四〇	三〇・六
香港	二二六、〇七七	一八・二	一五、五九二	二・〇二
米國	二〇五、五四一	一七・〇	一六六、七九二	一六・五
英國	一一三、七六六	九・四	七六、七〇二	七・四
其他	二二五、三三三	二六・五	二四五、九三二	二四・三
合計	一、二一〇、〇〇一	—	一、〇一二、九三一	—

思ふに排日運動の本質に關しては種々の見解がされるのであるが、假令一部の日本品に競爭的立場にある工業經營者の應援的策動のある事も考へられ、又英米商人の援助も從來の例から見てあり得る事であり、又國民黨と分離した左翼共產派の現政府牽制的策動が最も大なる原動力であるとしても、十數年來四億の支那國民の胸底に萌え出來れる外力排除國權回復の根本的思想が、此種運動の底を流るゝ潛在的勢力である事を疑ふ事は出來なくなつてゐる。殊に北伐の成功に狂喜して滿足し、一種の病的自負を感ぜる南方出身の商人にとりては、これからの建設事業に邪魔をする田中日本內閣は最初に排斥す可き當面の仇敵と考へてゐるので、從來支那民間に曾て見ざる擧國一致的統制と深刻さを以て排貨は行はれ、獨り本國に於てのみならず、在留五百萬と稱せらるゝ南洋一帶の華僑の間に於ても執拗なる排日貨は決行せられ、而も彼らは南洋に於ける經濟界の事實上の支配者である爲に、我對南洋貿易の阻害さるゝ所亦極めて深甚なるものあり。或る船會社の如きは積荷の杜絕から定期航路の配船を中止した事さへあるに至つた位である

對支輸出重要品表

	昭和三年		同 二年		大正元年	
小麥粉	一、七六三、八九六百斤	一八、六二八、八九六圓	九三八、九三四百斤	一〇、六八九、一七七圓	九〇七、五六五百斤	一〇、六八四、八四〇圓
精糖	三、一一七、〇〇四〃	三一、六一〇、四九一	二、三二八、九一三〃	二四、六一九、一八一	二、六八二、五三〃	三〇、三四一、二〇三
水產物	三三九、〇三一〃	五、一六七、六七一	五三五、五四二〃	七、四七七、八一七	八一三、四八二〃	一一、八三〇、八三九
麥酒	一四、七五七石	一、六〇〇、四六五	一七、〇三九、三九四	二、〇三九、三九四	六、五三六石	七三一、一二三
石鹼	—	九〇六、四七九	—	六〇四、七一六	—	七五三、三七三
綿織糸	六、七八八、〇一三斤	八、一〇九、九七九	八、六三三、八〇〇斤	九、〇五、〇二一	二、七九二、一〇〇斤	二五、七〇五、五一五
綿織物	五三一、三三〇、七〇五方碼	一九八、四九七、五九六	—	二三五、三六〇、六七一	—	一九九、七九七、一三一
毛織物	—	—	—	三〇八、二九五	—	四二五、七二四
絹織物	—	—	—	一、四四七、四二四	—	二、一七五、五四八

綿毛布	五、八〇八百斤	六〇一、七九六	三、三五四百斤	四〇〇、四六三百斤	六、七四〇百斤	九〇一、五七五
メリヤス製品	三七五、四九九打	一、五七三、〇〇三	三四六、三三八	一、三三四、九五〇	—	四七三、一四三
帽子	一四六、二二四〃	一、五三五、四三四	—	一、四八九、三四四	—	二、四〇一、五六八
鈕釦	—	一、二四一、五〇八	—	一、〇四二、八八〇	—	九〇九、六四六
紙類	—	一、五八〇、七七四	—	一〇、七三〇、二九六	—	一〇、六六一、八六六
石炭	一、四三九、二三六噸	一、五三三、二三九	一、三六一、〇八四	一四、七七四、九二〇	一、七七四、九四八噸	二〇、〇四六、八三一

三、印度

本年の印度財界は、紡績工場の罷業はあつが大體に於て好況裏に推移し、主要產業たる農作物の收穫も小麥を除いては各方面に亘つて滿足す可きものであつた。且つ印度の全輸入額は前年に比し若干の增加を示した。從つて我國の對印輸出も相當增加す可きが當然と思はれるのであつたが、結局輸出一四六、〇〇六千圓、輸入二八五、四七一千圓で、前年に比し輸出は二千百五十七萬圓を減少し輸入は之に反して前年に比し一千四百八十七萬圓を增加した。

輸出減の主因は我對印輸出額の半ばを超ゆる綿織物及綿糸の不振にあり、輸入增加の主因は輸入總額の約八割を占むる棉花で三千萬圓を增加した事にある。かくて輸入超過額も前年に比し三千六百五十萬圓を增して約一億四千萬圓を示する至つた。

輸出品の主なるものは綿織物、絹織物、メリヤス製品、硝子及同製品、綿織糸、陶磁器及マッチ等である。綿織物は對印輸出總額七千十八萬五千圓之を前年に比すると千五百六十萬圓、約二割を減じた。これは英國品の印度市場に於ける地歩の堅實となつて來た結果であると見られる。絹織物は對印總輸出額の約一割二分を占め、我絹織物の全輸出額から見ても一割三分六に當り、更に印度としても、日本品が全輸入絹織物の半ばを占め、相當重要なるものである。本年の輸出額千七百萬圓は前年に比し八分方の增加で他國向の減少せる中に在つて獨り增加を示せるものであるメリヤス製品は、比律賓、英國と並び、印度は我國メリヤス市場として最も重要なる地である、印度から見ても輸入の八割が本邦品である。本年の千六十五萬圓は、引續き例年の如く前年よりも增加であり、本年の增加率は二割半に當る。硝子及同製品は我同品輸出額の三分の一を占め、且つ本年の三百八十萬圓は前年に比し一割方、昨年一昨年に比し六分餘の增加で、可なり大事な市場である。綿糸は本邦全體としての輸出が年々著しく減じて行くと同じく、印度に對しても本年の九百十八萬圓は前年の半分に足らない。蓋し印度の六十番手以下の太糸生產の增加に加ふるに、英國からの太糸の輸入が激增した事は必然的に本邦品を壓迫した。殊に九月以來太糸關稅が引上げられた事は更に我輸出を減少させる原因となつた。陶磁器は印度輸入の四割位を本邦品が占めて居る。本年の二百五十萬圓は前年に比し僅かではあるが減少であつて、本邦輸出商の競爭に依る値崩しや見本違ひなどの頻出は此際頗る遺憾である。マッチは瑞典のトラストの勢力に押され前途樂觀を許されぬ、本年の九萬圓は前年の三十七萬圓に比し餘りにも甚しい減退である。

對印輸入品としての主なものは、棉花を大宗とし、銑鐵、生ゴム、油糟及豆類、米籾、鉛等がある、右の中、棉花銑鐵及油糟類は前年より增加し、生ゴム、米及籾、鉛は減少した。今之らの概況を別記すると、棉花は年々印度總輸出高の過半を買付けつゝあるもので、本年は二億三千二百萬圓、昨年に比し一割三分方の增加である。但し數量に於ける四百六十萬擔は前年に比し二割方の減少である。是は本年の棉價が昨年の安値から回復した關係に基く。銑鐵に於て印度は支那と共に相並んで我重要輸入先をなし、本年の如き其額約千三百千圓前年より一割七分を增し、一昨年より三割五分を增してゐる。本年の增加は印度產額の增加に因る相場低下と、本邦製鐵業の活況に基くものである。油糟及豆類は本邦に於ける人肥發達と共に漸入を減じつゝあり。滿洲の豆糟の如きも可なりの減少であつたに反し、印度からの本年の輸入は約四百萬圓、前年の二倍以上に上り、豆類の三百五十三萬圓も亦前年の約七割に當る增加であつた。これは英國の制限令撤廢聲明による下落から來た金額減であつて、數量から言へば一割五分餘の減少に當る。其他鉛は前年の百萬圓が五十五萬圓に、革類は二百三十萬圓か二百二十八圓に僅かながら又減少した。

四、蘭領東印度

本年の蘭領東印度は大體に於て、土人の購買力の減少と、華僑の日貨排斥に崇られて、我國の輸出貿易を減退せし

めたが、輸入は前年より若干の増加を示した。

同地の財界は農作物に依つて立つ、殊に砂糖及ゴムの出來不出來及其市況如何は財界支配の主動力をなすものである。本年は砂糖、ゴム共に市況大體に於て振はず、煙草、茶も大體に於て安値に終始した。斯くて物價は低落し、購買力は減退した樣な次第であつた。

次に在留華僑の排日貨運動である。これは本年五月頃から始まり漸次猛烈となつて本邦品の入荷漸減し、七月頃からは一段と甚しかつた。最大消費者たる土人が實際に於ては本邦品をむしろ歡迎する方である事に依つて、華商の猛威も徹底的には行かず、幸にして十月頃には排日の聲も消ゆるに至つたが、兎に角これが本邦品本年の輸出を減じた事は財界の不況と共に事實である。

本年の對蘭領東印度貿易は、かくて結局輸出七三、四一四、〇〇〇圓、輸入一一、二〇三八、〇〇〇圓となり、輸出は昨年に比し九百十六萬圓を即ち約一割一分を減じ、輸入は約八百萬圓、即ち約七分六厘を增加した。斯くて我國輸出貿易に對し蘭印は三分七厘を占め、輸入貿易に對しては五分一厘といふ地位に立つた。

同地に對する我輸出品の主なるものは綿織物、メリヤス製品、硝子及同製品、ゴムタイヤー、セメント、絹織物、陶磁器、鐵製品等で、輸入品としては砂糖、石油、揮發油、生ゴム及錫等である。今これら輸出入品に就き概況を顧みるに、

輸出品中その大宗たるものは綿織物であつて、我蘭印向總輸出額の過半を占め、同地としても本邦を以て輸入綿布の第一位國としてゐる。本年の輸出額三千九百三十萬圓、前年の四千九百二十萬圓に比し一千萬圓近くの激減であつた。陶磁器は綿布に次ぐ重要なるもので、これ亦同地としては本邦を以て第一位國としてゐる。本年の輸出額四百八十二萬圓、前年の四百二十六萬圓に比し五十七萬圓の增加である。尙ほ同地向本邦陶磁器輸出額は總輸出額中一割四分を占め、米國に次いで第一位相手國をなすこと前年と變りがない。絹織物は三百四十萬圓の輸出を見、昨年に比し九十萬圓の增加であつて、本邦總輸出から見れば二分五厘を占むるに過ぎないが、年々僅づゝ乍ら增加の傾向にあり南洋に於ては比律賓に次ぐ重要相手國となつた。セメントは二百三十七萬圓を算し、前年に比し二十三萬圓方の減少を

來してゐるが、本邦輸出セメントとしての第一市場で殆ど其の九割を占有し、其地位に於ては殆ど絕對的な事も變りはないと言へる。莫大小製品は百七十三萬圓で前年より四十五萬圓を減じ、硝子及同製品は百七十萬圓で前年より十三萬圓を減じ、ゴムタイヤーは百五十八萬圓で二萬圓減じ、木材は百十八萬圓で五萬圓を減じ、綿糸は八十三萬圓で五十二萬圓を減じたが、鐵製品は五十萬圓で四十七萬圓の增加であつた。

輸入品中の大宗は砂糖で、輸出の綿布と相對し金額は綿布以上である。本年の輸入額六千三百七十萬圓、前年に比し四十萬圓の增加である。總輸入額は七割七分を占め、同地としても日本を第一の仕向地とし、我國砂糖總輸入から見ても九割八分即ち殆ど全部を占め、本年の總輸入の減少に反し却つて增加を來してゐるのである。これは本年の爪哇糖の相場安に因るもので、臺灣糖の自給力增進を超越して輸入された次第である。石油は約一千二百五十萬萬圓前年より二百二十七萬圓の增加である。本年は米國からの輸入增加のため、我總輸入に對する割合は減じたが、それでも四割四分を占め、米國と相並ぶ我石油來源をなす。揮發油は六百十三萬圓、前年より七十四萬圓增加である。我總輸入額の九割三分强を占める。生ゴムは百二十二萬圓で馬來や印度に比べては問題にならないが、前年に比して殆ど二倍になつてゐる。錫は二十六萬圓、前年の約五分の一に減じた。

五、比律賓

本年の比律賓は、一般農作物は豐作であつたに拘らず、其消化が思はしくなかつたため、可なり不況裏に推移したので、購買力の減退となり、且つ事實上比島商權の把握者たる支那商の排日運動あり、本邦對比島貿易は前年に比し三百七十八萬圓を減じて、二千九百六萬圓となつた。尤も昨昭和二年に豐作に依る異常な活氣を示したのであるから、大勢的に言へば我對比島貿易は依然歩々着實に進展しつゝあることは確實と言へる。

本邦對比輸出品としては、凡そ如何なる商品と雖も輸出せられ、同地に市敗せられざるものなしと言つても過言ではない。而も如何なるものが如何に意外なる賣行を示すことか分らないと言ふ程の興味すらあるのが比島市場の面白いところであるが、主なものとしては綿織物、絹織物、メリヤス製品、石炭、セメント、硝子及同製品、陶磁器、燐

寸、綿糸、琺瑯鐵器などを見る。輸入品としてはマニラ麻、砂糖の兩品を以て殆ど全部に近いものとする。

輸出品の第一位は綿布で、總額中の二割三分半を占め六百八十萬圓、前年に比すると實に四百十三萬圓の激減を示した。絹織物は三百九十一萬圓、前年より百四十六萬圓の增加である。實際に於ては五百萬圓位のものであると察せられるといふのは密輸乃至低評價が多いからであるが、兎に角南洋諸島中比島は第一の絹織物市場である　メリヤス製品の三百五十八萬圓は前年より九十九萬圓の激減、大衆の平常着が隨分と儉約されたことを知るのであるが、我メリヤス市場としての比律賓の地位に聊かの動搖不安を感ずる必要はないと信ぜられる。石炭の二十八萬圓、セメント百八萬圓、硝子類の百十五萬圓、何れも相當の增加であるが、陶磁器の八十萬圓、燐寸の五十二萬圓、綿糸の四十七萬圓は何れも減少、殊に綿糸は甚しい。

輸入品中マニラ麻は八割以上を占め、一千四百五萬圓、前年より五十八萬圓の減少である。砂糖は之に次ぐが極めて微々たるもので二十萬圓、前年の五分の一にも當らない。品質の劣惡もだが、內地臺灣糖の自給力を最大原因とし爪哇糖の安かつた事も一原因をなす。

斯くて本年の對比島貿易は輸出二九、〇五五千圓、輸入一六、三四二千圓を示し、千二百七十萬圓の輸出超過で、米支に次ぐ輸出超過相手國をなす。特に輸入は年々減少傾向あるに反し、輸出に於ては著々增進の傾向あることが看取されるのである。

六、海峽植民地

馬來地方の財界はゴム市況に依つて動かされる、馬來イーコールゴムと言つてよい、そのゴムが一昨年以來既に不況つゞきであつた。而も本年はも一つ深刻なる不況であつた、殊に十月限輸出制限徹廢の旨々英首相に依つて聲明された四月以降の如きは暴落又暴落、一般土人の購買力減退は必然的結果であつた。一方新嘉坡方面の支那人の日貨排斥は、更に本邦品を散々いぢめた、此大集散地の排貨は半島消費のみならず、シアム、ボルネオ行の商品にまで邪魔となり、六月以後の本邦輸出は目に見えて激減した。要するに本年マレイは一般に不況で輸入を減じたが、日本品は排貨に依つても一つ輪をかけて仕向を減じた。斯くて本年本邦の對海峽植民地貿易は輸出二〇、四四九千圓、輸入三七、四〇四千圓となり、輸出は昨年より一千六百二十九萬圓、一昨年よりは二千百四十一萬圓の大減退を來し、輸入は百五十三萬圓增加であるが一昨年から見ると二百四十七萬圓の減少となつた。

本邦からの輸出中主なるものに就て本年の概況を顧みるに、綿織物の輸出三百五十二萬圓、前年の九百七十八萬圓に比し三分の一近くに激減した。前述の影響が最も敏感に現はれたものとして代表的なものであらう。絹織物は二百五十萬圓、昨年より二割の增加である。南洋一帶共通的に增加したものは本品である。石炭は二百萬圓、昨年より八十萬圓の增加であつた。セメントの百九十二萬圓は昨年より六十五萬圓減であるが、依然として我輸出セメントの大事な市場をなす。ゴムタイヤは前年に比し十九萬圓を減じて九十三萬圓、木材も三十四萬圓減の九十一萬圓、水產物の八十萬圓は前年の百九十八萬圓の半分にも足らなかつた。燐寸は前年の百二十六萬圓が一落して四十七萬圓と減つた。

輸入品の二分の一强は生ゴムであり、我國輸入ゴムの七割をなす。本年は千九百五十六萬圓の輸入あり、前年より二百三十二萬圓を減じてゐるがこれは價格の低落に因るもので數量の方は却つて增加を示す。鑛の輸入九百十萬圓、昨年の三分の二に足らない、蓋し支那からの輸入增加が原因となつてゐる。錫の五百三十三萬圓は前年に比し五十三萬圓の增加で、本邦輸入錫の過半に當る。

七、濠　洲

本年の濠洲財界は前年の輸入超過、勞働爭議の壓迫、農作物不作の影響などを原因として、不安裏に過され、輸入は銀行政策に依つて可なり切りつめられた。我對濠洲輸出は爲に著しい減少を示したが、輸入は若干の增加であつた。

	昭和元年	同　二年	同　三年
輸　出	五一、六二一千圓	五〇、五六六千圓	四三、〇〇〇千圓
輸　入	二六、三九六	二三、八四〇	二三〇　四九四

右の數字の如く我國は濠洲に對し輸入超過をつゞけつゝあり、輸出は輸入の半分に足りない。本年の輸出減及輸入

增の跡を重要商品に就き檢するに、輸出品中の過半を占むる絹織物の二千八百三十萬圓が昨年より四百二十萬圓を先づ減少してゐる、濠洲に於ては他國品を遙かに凌駕してゐるのであるが、本年濠洲の一般的不況の結果として全體的に輸入を減じた事に原因するものと思はれる。綿織物の二百四十萬圓は昨年より半減してゐるが、英國品の前には頭が上らぬ關係、殊に禁止的外國品關稅及國內斯業の勃興が大きな原因をなす。この外生糸、陶磁器、木材及硝子製品等があるが、何れも目新しい輸出振を示してゐない。要するに本年の輸出不振は財界不況に崇られて一般的に減少したものであつて、翌年は相當立直り得るものと思はれる。

輸入品としては、羊毛にとゞめを刺す。本年の一億五百萬圓は記錄的數字であるが、これは年々增加傾向にある。本邦毛工業の發達もだが、一昨年の關稅改正は原毛としての輸入を增加し他面に於て毛糸の輸入を減じつゝある。亞鉛、牛脂は僅かづゝ增加してゐるが、小麥の九百萬圓は前年より四百萬圓の減少であつて、カナダ麥の輸入增加に押された形で、不作の影響を物語つてゐる。

最近三ケ年間主なる輸出入品の推移は左の如くである。（單位千圓）

	昭和元年	同　二年	同　三年
輸出			
絹織物	三〇、四三六	三二、五七八	二八、三二四
綿織物	六、九二五	四、七三一	二、三九一
生糸	一、九六八	一、九二三	二、〇三五
木材	一、七四二	二、〇四一	一、七五五
陶磁器	一、二一二	九七二	一、一七二
硝子同製品	八四三	七〇〇	六二五
輸入			
羊毛	七四、一五一	九四、六〇一	一〇五、二三八
小麥	三五、一〇二	一三、九七二	九、七一〇
亞鉛	四、五四四	三、二一二	三、六五三
牛脂	五、七六六	四、六三八	四、八〇七

八、英國

本年の本邦對英貿易は輸出五八、九〇四、〇〇〇圓、輸入一六四、八四〇、〇〇〇圓で、結局一億五百九十三萬圓の輸入超過であつた。輸出は前年に比較すると六百萬圓の減少に當り、輸入は一千百五十七萬圓の增加である。大體我國の對英貿易は、往時英國が世界的通商權を把持した時代は別として、甚しく重要な地位にあるものでなく、我總貿易額から見ても五分前後を占むるに過ぎない、殊に大正十三四年頃からこの方といふもの、輸出入共に逐年減少するのが大體の傾向になつてゐる、而して本年も其の大勢から見れば別に新なる機運を示してゐるとは言へない、たゞ輸出減が比較的著しかつたこと、輸入が思ひ直した樣に增加したことは本年の特色であつた。

輸出品の第一は絹織物であるが、その絹織物が今年はうんと減つて九百七十三萬圓、昨年の一千六百九十萬圓の半分といふ程でもないが、半分近く減つた、大正十三年の二千五百萬圓に比べると三分の一に近い減りようである、これは別項加奈陀でも同樣であるが、生糸の輸入は一面に增加し、織物は日本からのみならず、佛、伊、瑞西など皆減つて居るから、英國人の懷も此節大分さびれて來た事の外、國內製織も幾分行はれ、別に人絹の擡頭などもその原因と考へられる。メリヤス製品は絹織物の減少とは反對に、一年一年と勉强して增加しつゝある、前年より百七十六萬圓を增して六百四十二萬圓といふ數字であつて、印度に次ぐお華客である、生糸の三百七十萬圓は昨年に比し百七十萬圓の增加であり、或は將來或程度の期待がかけられるのでないかと思はれる。壜罐詰食料品の六百五十六萬圓も若干の增加、昨年以來一躍して對英輸出品中の主なものになつた、罐詰の增加が主因をなす、植物油の九十五萬圓は昨年より二百五十萬圓減、豆類の四百八十萬圓は百五十萬圓減、製帽用眞田の百萬圓は百五十萬圓減、鈕釦の百二十萬圓も百萬圓の減少である。

輸入品中鐵類は三千二百五十萬圓に達し、昨年より七百萬圓を增加し、米、獨と共に本邦鐵類來源として動かぬ所を見せてゐる。機械類の二千六百萬圓は昨年より五百萬圓の增加であるが、大正十年頃から見ると著しく減少過程中

のものである。硫酸アンモニムムは激增して昨年の八百萬圓から四百六十萬圓を增して千二百八十萬圓になつた。毛織物の六百萬圓は昨年の三分の二に當り、これも減少傾向著しい。

要するに我對英貿易の前途は漸次衰へ行くものでないかといふ感がある、本年の絹織物輸出の凋落の如きは代表的な一象徴と考へられる、今後の兩國間に於ける花形は輸出の生糸、メリヤス、食料品、輸入の機械類、硫安、鐵類であつて、絹織物の輸出と、羊毛及毛織物は減退の方であらうと考へられる。

最近三ヶ年に於ける主なる輸出入品を見るに左表の如くである。（單位千圓）

輸出

	昭和元年	同 二年	同 三年
絹織物	一六、九五三	一六、九二三	九、七三〇
豆類	八、一二五	六、六〇八	四、八八八
メリヤス製品	五、一〇八	四、六六〇	六、四二五
製帽用眞田	三、二一七	二、四四二	九七一
罐詰食料品	三、五四一	六、一〇〇	六、五六一
生糸	二、〇〇八	三、二一七	三、七一六
帽子	一、七六七	一、〇八〇	二、六三九
釦	一、七二七	二、三七六	一、二四七
植物油	二、二六七	三、五一九	九四九
プラシ	九七九	一、〇八四	八二二

輸入

	昭和元年	同 二年	同 三年
毛織物	二五、九七九	二八、一〇九	二四、八五九
鐵類	三一、一九六	二五、三二七	三二、六六三
機械同部分品	二五、四一一	二〇、七四五	二六、一二四
羊毛	九、三三三	四、四八七	一、四四七
毛織物	五、七八一	八、四二一	六、一〇三
綿織物	五、四〇九	六、二四〇	五、六六六
苛性曹達及曹達灰	四、五九三	七、二四九	五、四〇六
粗製硫安	六、二九一	八、一五七	一二、七九九
紙類	四、〇六九		

九、佛國

本年の佛國財界は前年法貨整理後の順調を受けて著しく好轉し、爲に我對佛貿易は頓に賑つた、從來歐洲中本邦との貿易關係の最も大なるは英國であるが、別項對英貿易中述ぶる如く、日英間の貿易は何となく前途影淡き感あるに反し、日佛間のそれは一種の伸びんとする力があるのを感ぜられる、本年の如きは佛國は本邦との關係に於ては對歐洲輸出中第一國となつた、殊に注目されるのは對佛貿易が年々輸出超過であつて、輸入は輸出の三分の一しかないといふ事實である、何も輸入を惡み輸出萬能を思ふ譯ではないが、入超つゞきの我貿易から見て、聊か心强く思はざるを得ないのである。本年の貿易を見るに輸出六三、四〇八、〇〇〇圓、輸入二四、〇〇六、〇〇〇圓であつて、前年に比し輸出は九百三十六萬圓を增加し、輸入は三百三十萬圓を減じた。

今本年度輸出入品の主なるものに就き概況を顧るに、輸出に於てはその過半を占むる生糸以下大抵多少の增加を示した、生糸の三千五百萬圓は前年に比し約五百萬圓の增加で、其額に於ては比較にならぬとしても米國に次いでの我生糸の顧客である譯である。同國絹業の活況と、本年度伊太利蠶の不作とを主因とする增加である、生糸に次いで絹織物があり、本年の一千四萬圓は前年より百七十五萬圓の增加である、對佛輸出絹織物の特徴は本邦として羽二重が減じつゝあるに不拘、羽二重を主とし、高等な織物はないといふ事である。屑糸及眞綿六百五十萬圓は昨年より五割

に近い増加であつて、大正十四年の千三百萬圓以來の最高記錄である。薄荷油の百三十萬圓といふ少額から大正十四五年時代に復したもので漸減傾向にある我薄荷の市場として注目を惹くところである、其他製帽用眞田は百萬圓臺から九十萬圓に減じたが、薄荷腦の七十五萬圓及陶磁器の五十二萬圓は幾分衰勢を輓回し、寒天の七十五萬圓は從來に約三倍する增加である。

輸入品に於ては毛織糸の四百二十萬圓を最高とするが、これは大勢減少の傾向にある、我關稅の變化も關係があらうが、以前から此傾向は認められてゐた、蓋し本邦斯業發達の一面相をなすものと言ふ可きであらう。機械及同部分品の二百萬圓は十六萬圓の減少であるが、英米からの輸入增加に反して、若干づゝ減少の傾きがある、アルミニウムの百萬圓は約五割の增加で、本邦輸入額の一般的增加に伴ふもので、これは今後とも增加しても減るものではないと考へられる。

最近三ケ年間重なる輸入品の推移を見るに左表の如くである。

輸出

	昭和元年	同 二年	同 三年
生糸	一九、三六二	三四、五〇八	三四、九八三
絹織物	六、三七六	八、二九〇	一〇、〇四一
屑糸及眞綿	五、七一三	四、二二四	六、一二一
薄荷油	一、六〇五	五九一	一、二八二
製帽用眞田	一、三七七	一、〇三八	八九九
寒天	二三七	二三八	七五四
薄荷腦	一、二九九	四一四	七五〇
陶磁器	五八五	二九二	五三一

輸入

	昭和元年	同 二年	同 三年
毛織糸	六、七〇〇	九、六六三	四、二四三
機械同部分品	二、三九九	二、一八七	二、〇二八
アルミニウム	六七一	七〇九	一、〇二二
レール、フイシユプレート	二八九	一、二九一	六六四
毛織物	七〇〇	九一六	九〇六
自動車同部分品	八一六	五九八	四一九

一〇、獨逸

本年の我對獨逸貿易を見るに輸出一二、五八一、〇〇〇圓、輸入一三三、五三三、〇〇〇圓であつて、昨年に比し輸出は二百七萬圓を輸入は二百十五萬圓を共に增加した。對獨貿易の特徴は殆ど輸入貿易といふ可きもので、輸出は輸入の一割弱に過ぎないことである。而も本年の輸出は記錄的增加を見せてゐるに不拘、以上の樣な次第であるから輸入貿易の關係といはざるを得ないのである。後の表でも見る如く、輸出品としては殆ど我重要輸出品に關係するものなく、その額も魚油及鯨油と、絹織物の百萬圓がある位のものである。

之に反し輸入品は鐵類、硫安、機械類、毛織糸の夫々三千萬圓、千八百萬圓、千四百萬圓、千百萬圓を筆頭とし、染料の六百八十萬圓、毛織物の五百萬圓などと重要輸入品が揃つて居るのである。此中增加したのは硫安と染料で、鐵は大體變化少く、機械と毛糸は二百萬圓前後の減少である。

で商品別には特に何うするといふ程の目新しさは見られないが、全體的に言へば著しく進展の勢か看取され、輸出入總額から見ると我對歐貿易中英國に次ぐの地位にある、本年四月から實施の航海通商條約の影響もある可く、今後は戰前に復した現在の地位以上の發展が期待されるものと考へられるのである。

主なる輸出入品最近三ケ年間の推移左の如くである。（單位千圓）

輸出

	昭和元年	同 二年	同 三年
魚油及鯨油	一、八八〇	一、二五九	一、〇一三
絹織物	三七二	一、〇七一	一、〇〇一
製帽用眞田	六九九	一、一四〇	九八八
寒天	二六七	五八八	五七七

輸入

	昭和元年	同 二年	同 三年
鐵類	三六、八八九	三〇、九七三	二九、七四二
硫安類	二六、九七六	一七、八二三	一八、八四四
機械類	二、八二一	一七、六〇三	一四、七六六
毛織糸	一四、四一〇	一三、六七四	一一、九〇〇
染料	六、九六四	五、〇五三	六、八〇九
毛織物	二、〇二一	五、二四三	四、八七七

一一、加奈陀

本邦對カナダ貿易は近年漸次密接を加へつゝあり、殊に本邦工業の發達は原料來源として大にカナダの重要性を示しつゝある、小麥、木材、パルプ、鉛、亞鉛等その例である。輸入に比すれば輸出は未だ充分に振はず、三對一の割合を以て年々入超をつゞけつゝある。

本年度兩國間貿易の跡を見るに輸出二七、〇四七、〇〇〇圓、輸入六六、四九八、〇〇〇圓であつて、輸出は昨年に比し三十五萬四千圓を減じたるに反し、輸入は一千八十二萬八千圓を增加し總額に於て約千五百萬圓の增加である。

本年度加奈陀財界を顧るに、農作物の豐作に依つて一般に活氣あり、購買力も旺盛となり、輸出輸入ともに增加し殊に輸出の賑ひが目立つたが、これに關係を有つたのは英米兩國、殊に米國であつて、本邦品は一向その分け前に預らなかつた。

今主なる輸出入品に就き本年の概況を觀るに、輸出に於ては絹織物、生糸、茶、陶磁器等を主とし、輸入に於ては小麥を第一とし、鉛、木材、パルプ及亞鉛を主なものとする。

絹織物の千二百六十萬圓は昨年に比し二百四十五萬圓の減少で、逐年增加しつゝある勢も一寸腰を折られた形であるが、對加奈陀總輸出額の四割强を占むる點に於ては變化がない。生糸の三百十一萬圓は昨年に比し七十七萬圓の增加で、逐年の增加傾向一段と目立つところである、蓋し絹織物の輸出が勢を殺がれた反面には生糸の增加即ち同地絹業發達の一端を窺ふ可きものがある。此點から見て生糸の對加奈陀輸出は今後充分の將來が約束されてゐると考へられる。茶の百四十七萬圓は昨年に比し十三萬圓の增加であり。本邦輸出茶から見て一割二分半を占むる重要市場である。陶磁器の百四十二萬圓は昨年に比し二十萬圓の增加を示した。

輸入品の筆頭たる小麥の輸入額三千百七十四萬圓、昨年に比し千二百四十六萬圓、即ち約六割の激增に當り、實に本年度輸入增加の原因をなすものである。本年度加奈陀小麥の安値なりし事と、本邦製粉等の發達は其原因である。鉛の七百十萬圓は昨年より四十二萬圓の減少は米國からの輸入增加の關係もあらう、木材の六百八十八萬圓は昨年の千二百十四萬圓から見て四割半の激減である、これも米材輸入增加の影響と見られる、パルプの六百二十五萬圓は僅かに昨年より增加し、本邦輸入パルプの過半を占めてゐる、亞鉛の三百七十二萬圓は昨年に比し五十四萬圓の增加である。

最近三ヶ年の主なる輸出入の推移左の如くである。

	昭和元年	同 二年	同 三年
絹織物	一四、〇四八	一五、〇三六	一四、〇四八
生糸	七六八	二、三三五	三、一二二
茶	一、三三四	一、三三五	一、四六八

陶磁器	一、三七	一、三三五	一、四三〇		
米及粉	七七三	五九七	五一五		
絹手巾	六三三	五五六	六三三		

主なる輸入品の推移を最近三ヶ年に就て見るに左表の如くである。

	昭和元年	同二年	同三年
小麥	三、八三三	一、九二七二	三一、七四〇
鉛	九、九八四	七、五二八	七、一〇七
木材	四、一二	二二、一三六	六、八八四
パルプ	四、九四五	六、〇八〇	六、二五一
亞鉛	五、七〇八	三、一八七	三、七二四

一二、埃及

エジプトの人口一千四百萬、七八割は農業に從事し、その約八割以上が棉花栽培に從事し、棉花は殆ど全部海外に輸出される、而して其輸出額は年五億乃至六億圓に達し、この棉花が殆ど同國輸出の全額に近い、輸入は四億乃至五億圓、綿布を初めとし所有種類の工業生産品を主とする。

我國の對埃輸出二千三百七十一萬圓、輸入約二千三十四萬圓、差引約三百三十五萬圓の輸出超過である。此點から言つても我對埃及輸出貿易は更に振興さる可き望みを思はされる。左表の如く綿布以下多くの雜貨品を輸出してゐるが、此外我國から入込んでゐる品物は恐らく數百種に上り、日本にある物で多かれ少なかれ行つてゐないものは無いと言つてもよい、その中或る一部のものを除いては決して歐米品に對し、ひけを取る樣なものはないと思はれるのである。

現在併し乍らも一つ思はしい輸出がないのは全く在留日本商社の無い事と、代金決濟方法の不便を原因とすると考へられる。同地に於て相當本邦品が興味を感ぜられたにしても、日本商人でない以上幾多の不便を忍んで遙々日本へ注文せずとも、簡單に歐洲品や米國品の買付けが出來るから、何うしても日本への注文は餘程有利なものでない以上二の次になり勝ちな事は止むを得ない。支拂決濟方法にしても一部外國銀行などの利用は出來るがも一つ便利圓滑に行かない點がある。正金なども折角開設しかけた支店を廢止して了つたが、何とか爲替機關の完備が必要である。

現在の綿布中心はそのまゝとしても、尙各種雜貨を通じて、未だ賣込の餘地は充分ある。就中罐詰食物、麥酒、茶石鹼といふ樣なものは充分手が付けてなく、見す〳〵一市場を放棄してあるといふ樣なものである。も一つ面白い着眼は近年エジプト模樣の一般に好まれる點から、旅行者其他に買はれ賣ることを目的とするエジプト土產といつた風のものゝ製造賣込である。これは現に更紗などにエジプト模樣を施したものを希望する商人もあるから、斯ういふ方面は勿論、進んでこの土產といふものに着目して、一つ研究したら、必ず見事に成立つ商賣であらうと思はれる。

一三、ケニヤ、ウガンダ及南阿聯邦

本一九二八度貿易額を見るに

	一九二八年	一九二七年
輸入	七、五七五、六四二磅	六、七七七、五三〇磅
輸出	六、六六一、六七三	五、三九七、二二六
計	一四、二三七、三二五	一二、一六四、七四六

の如く、輸出入共前年に比し長足の進展を見せてゐて、その經濟的發展の可なり急速なることを知るに足る。

右の中輸出に就て言ふと、ケニヤ三、二六六、四〇三磅、ウガンダ三、三九五、二一七〇磅といふ割合をなしてゐる。輸入に關しては關稅が兩地共通であつて、實際消費か如何なる割合になつてゐるか詳かでない。

輸入國別を見ると英國が三百萬磅、即ち全輸入高の約四〇%を占めて第一に居り、前年の四四%に對して比較的減少に當るのは米國や印度其他が增加してゐる關係に因る。米國は九十八萬五千磅で一三%を占め前年は一二%であつ

た。印度は前年の一〇%から一一%となり八十六萬磅を占め和蘭が四十七萬磅で六%を占め、次が日本の三十九萬五千八百六十二磅、昨年の三十一萬九千六百八十磅に比し二割餘の增加を示し割合は引つゞき六%に當る。獨逸は日本と相並び三十八萬磅で五%に當り昨年は三十五萬磅であつた。

輸出品の主なものは次の如くである。

	ケニヤ 二八年	ケニヤ 二七年	ウガンダ 二八年	ウガンダ 二七年
棉花	二、五三七百封度	五七一百封度	五五三、九四四百封度	五二六、九一〇百封度
玉蜀黍	八九二、六六〇cwt	一、七八七、六六二cwt	—	—
サイザル及粗麻	一六、五一六噸	一五、八三九噸	—	—
珈琲	三二、六〇八cwt	二〇九、八〇五cwt	四〇、三四三cwt	四三、五一四cwt

ケニヤは面積約二十五萬平方哩、人口二百五十萬人、ウガンダは九萬四千平方哩、約十五萬人を有する。ケニヤは珈琲を主產として玉蜀黍、サイザル麻、曹達、皮革等の產があり、ウガンダは棉花を主產として珈琲、唐辛子、砂糖を產出する、これら物產の產出狀況は直ちに購買力の消長を支配し、人口の大部分を占むる土人の購買力は勢ひ本邦品の輸出の消長を支配する、たゞ彼らに貯蓄心ない爲めに、且つ貨幣の價値を深く認めない爲に之が獲得に努力せず從つて積極的に購買力の增進を見ることのできないのは頗る遺憾である。尙ほ棉花其他農產物の出廻り期は自然購買力の大なる時である。この需要期は地方に依つて一定し難いが大體に於て十一月頃から六月頃までである。

尙ほ南阿聯邦と我國との經濟關係は逐年密接となり、兩國間の貿易額千四百五十萬圓に達し同國入港船舶トン數中我商船のトン數は英獨に次いで第二位を占むる實狀にあり、而も將來經濟關係は益々密接を加へんとしつゝある、然るに現在日本人は禁止移民として入國を禁止せられ、居住營業の自由及不動產の貸借も認められないといふ始末である。これは國家の體面のみならず、彼我通商貿易の發達を害することゝ一通りでない。待遇改善の主張が我國で盛に稱へらるゝのは極めて當然であり、我當局及商工界の運動を必要とする所である。

タンガニカは面積約三十萬平方哩、人口四百十三萬（土人四百十萬、印度人一萬、アラビヤ人四千、歐洲人二千五百、其他）あり、產業としては農業及牧畜を主とし、棉花、珈琲、サイザル麻、落花生、コプラ等の農產、羊、山羊驢、豚等の畜產がある、農牧の開拓の餘地も充分にあり、將來ある地である。

ケニヤとウガンダは經濟上離る可からざる關係にあるから、かゝる場合普通一般に取扱はれ名稱としてもケニヤウガンダとつゞいて呼ばれる樣である。

綿織物の輸入は毎年百二三十萬磅に上り、總輸入に對して一割五分乃至二割に當る重要な地位のものである。この中本邦品は二割を超えて英國に次ぎ、和蘭と伯仲してゐる。大別して言へば生地物にありては約三十萬磅の中、日本は十六萬乃至二十萬磅を占め、絕對優越的に第一位を占め、晒物にありては約八萬磅の中日本は約八千磅を占めて英國の過半數及和蘭の約三分の一に次ぐ第三位に位し一割强を保つてゐる。捺染物にありては約十萬磅の中日本は約一萬磅を占め、丁度晒物と同じ地位にある。染木綿にありては約二十二萬磅の中日本は英國和蘭に次ぎ、伊太利、印度、獨逸などゝ肩を並べて夫々約四分の一を占め、殘りの四分の一を其他各國の分持ちといふ事になつてゐる。

當地の關門は固よりモンバサである、此地に於ける印度商人は南洋に於ける支那人と同樣商業上奪ふ可からざる勢力を有する、本邦品を取扱ふものも亦印度商人の外にないのである。最近直接取引を思ふ者が少くないが、彼らとの直取引は事實上極めて困難である。殊に彼らの中には所謂植民氣分的なのもあるし、取引條件から見ても孟買商人は日本人が孟買商人に對して與へるより遙かに有利な條件を此地商人に與へてゐるのであるから、取引の安全は消極的であるが、やはり確實な孟買商人任せの方が先づ以て適宜の方法であらう。特殊の關係ある取引先を作る事が出來たら勿論すべての意味に於てそれに越した事はないが。直取引の困難は銀行の點にもある Natural Bank of India, Standard Bank of South Africa Barclay Bank の三銀行があるが、そして東阿各地に支店を有する勢力ある銀行であるが、取引上金利其他の點で顧客の不便が少くない、願ふ所は日本の銀行の設置されんこと之である。

綿布の關稅は生地物にあつては荷造込重量一封度に付四〇仙、加工綿布は從價二割である、ケニヤ、ウガンダ及タンガニカ共に同一關稅で、關稅に關しては三地を一團とする同盟を作り、一地で徵稅されたものは他の二國へ入る時は課稅されないことになつてゐる。

第二篇　重要輸出品概況

小麥粉

昭和三年全國輸出高は二百三十七萬二千餘擔、二千四百七十一萬八千餘圓で、昨年居に比し百十二萬擔、千四十六萬圓の增加であつた。即ち數量に於て九割と云ふすばらしい增加で、小麥粉輸出の最高レコードを作つた。而も決してダンピング的色彩なく、すべて堅實なる採算的輸出にして時勢の然らしむる所である事は、製粉會社の業績と海外に於ける狀勢より察知することが出來る。

最近の製粉會社は各々最新式の機械を設置し、經營を合理化すると共に、技術的に非常なる進歩を示し、從つて下級品質の小麥を以てするも立派に小麥粉を作り出す爲、外國品との競爭に於ても常に割安を持續し得る等は海外輸出を採算的に增加せしめたる基礎をなすものと云はねばならぬ。

吾國製粉の輸出先は殆んど支那（七七、四％）で他に蘭印、海植方面へも出るが問題ではない。支那向輸出は昭和三年度百七十六萬擔、四百七十六萬擔、四百七十六萬袋で昭和二年の九十三萬擔、二百六十三萬袋、昭和元年の九十萬擔、二百四十四萬袋に比し逐年增加の趨勢にあり、本年度の如きは昨年度に比し八百三十萬瓩、二百十三萬袋、九割强の增加率に當る。

支那本年度の政局は不安定にして然も日貨排斥は極めて熾烈なりしにも拘らず以上の如き著しき增加を見たるは、根底深き理由の伏在するものと見ねばならない。

そも〳〵小麥粉食用の風潮は世界の大勢にして支那に於ける需要も最近著しき勢を以て增加しつゝある事は否めない事實で、食料必需品として政局の不安定、日貨排斥の聲を外にして考慮さるべきものであらう。然もこの旺盛なる需要が我國に向けられたるは、前述せる如く吾國製粉業の合理化と、製粉技術進歩のもたらす生產原價の低減並びに地の利を得たるによる供給の圓滑等に負ふものと見ねばならぬ。

昭和三年度內地小麥の生產高は六百四十七萬石（一石約二百斤）で昭和二年度に比し四十萬石約七分の增收ではあつたが前年度持越高が僅少なりしと小麥粉の需要增大、輸出旺盛その他外麥安等の爲外麥輸入高は一千九十五萬七千擔で前年度に比し三百十八萬三千擔、四割强の增加であつた。

昭和三年度製粉高は概略四千二百四十七萬袋と概算され前年度に比し五百七十七萬袋、一割六分の增加である。この增產の原因は要するに內地消費並びに輸出の增加に負ふもので最近數年間の需給の大勢を表示すれば左の如し。

	製粉高	輸入高	輸出高	內地需要高
昭和元年	三八、三四九千袋	三九千袋	四、五五三千袋	三四、二三千袋
同　二年	三六、七〇三	八九八	三、三七九	三四、二二〇
同　三年	四二、四七六	三七五	六、四四三	三六、四二〇

海外狀況　支那に於ては近年小麥粉の需要頓に增加しつゝあり、上海その他重要都市には製粉業の發達相當見るべきものあるも何分一小部分に限られ、遠く內地一般は今尙幼稚なる方法を以て製粉してゐるので到底需要を滿すによしなく、多量の小麥粉を外國の輸入に俟つ次第である。今迄は米國、加奈陀から主として入れてゐたが近年に於ける吾國の進出は實に目覺しきものあり、製品の信用と需給の圓滑は益々吾國製品の需要を喚起するものと思はれる。

蘭印　濠洲粉は北支那方面に於ては日本粉に押され、歐洲に於ては米國粉に押され、埃及に於て最近數年來ダンピング其他の方法により漸く該市場を左右し得るに至れるものなるも、三十年來の地盤たる蘭印地方を死守する事は最も急務たるものあり、日本品に對して猛烈なる競爭的態度を持しつゝあり、濠洲粉は常に國內に多量の在荷を存し、競爭者出現の度に思切りのダンピングをなすを常例とし南洋に於ても日本品の出現に對して、ひたすら値段を以て警戒しつゝある模樣にて、その上日本粉の色相濠洲品に比し多少の赤味を帶び品質常に一定せざる等の爲、この地方に於て日本品は延びるべくして未だ延び得ざる狀態にあり、日淸、日本兩者の販賣協定により濠洲多年の地盤を浸蝕する事は國家の大いに待期する所ならん。

スラバヤに於ける日本小麥粉相場は四、一〇盾より三、八五盾位にして濠洲物は四、八五盾より四、五〇盾にて取

引されつゝあり。

鰯　附水産物

昭和三年度の鰯輸出高は八萬九千八百五擔、三百二十九萬一千圓で昨年の十五萬三千三百擔、五百十六萬七千圓に比すれば六萬三千五百擔百八十七萬五千圓の減少で實に數量に於ては四割一分四厘を、價格に於ては三割六分三厘を減少した。云ふまでもなく、支那南洋の排日にたゝられた結果であつたが上海市場等には排日をみこして米國產安物等も進出して大いに本邦品を惱ました。乾魚の輸出中鰯の如きは昨年より僅か二十萬圓見當の減少を見たゞけであつたが主要乾魚たる鰯が前記の如き大減少を示したものであるから、乾魚全體としても甚だ不振、前年の二十五萬四千七百二十一萬九千二百圓に比するに、六萬九千擔二百六萬二千圓の減少で、十八萬五千三百擔、五百十五萬七千圓となつてゐる。今之を大阪港、神戸港に就て見るに、大阪は前年より九萬八千擔、一千圓の増加を示し七百二十二擔、二萬八千八百三十六圓で神戸港は鰯は前年より四萬五千擔、百三十七萬四千圓を減じ六萬三千三百四十九擔、二百四萬三千であつたが鰯は一千九百五十四擔を増しながら價格に於ては四萬八千圓を減じてゐる。三ケ年について之を比較すれば

全國（鰯）

	數量（擔）	價格（圓）
昭和三年	八九、八三五	三、二九二、八二七
同　二　年	一五三、三九九	四、一六七、五四六
同元年・大正十五年	二九、三三一	七、〇二九、三三一

大阪港（乾魚及鹹魚）

	數量（擔）	價格（圓）
昭和三年	七二三	二六、八三六
同　二　年	六二四	二七、八三六
同元年・大正十五年	一六、〇六七	一四三、五八七

神戸港（鰯）

	數量（擔）	價格（圓）
昭和三年	六四、三四九	二、〇四三、〇〇〇
同　二　年	一〇八、四五一	三、四一七、〇〇〇
同元年・大正十五年	一二七、九〇八	三、九四四、〇〇〇

鰯の輸出狀況を月別にみるに、一月には昨年の暮越しの景氣をついで一萬九千六百擔、六十四萬三千圓の輸出を見たが二月三月はヂリ落ちに一萬一千擔、四十一萬圓―四十三萬圓見當であつたのが四月にゞか落ちの六千二百擔、二十三萬四千圓となり五月はやゝ盛かへして八千四百擔二十九萬四千圓見當となつたが、六月に至つて支那出兵の擧あるやその輸出はゞか落ちに落ちて近來の最低の記錄を見るに至つた。即ち一千百擔、四萬圓であつた、七月、八月、九月と段々回復して九月には六千三百擔、二十二萬五千圓となつたが十月には九千六百擔、三十七萬圓を見、十一月に至つては反動的に輸出減となり四千四百擔、十八萬八千圓を輸出し此の不況を續けたまゝ十二月を終つた。

今年の水產物界を見るに大體に於て前年と大差はないが寒天、海鼠、食鹽を除いてはいずれも少しづゝの減少である。寒天は別項に記載してあるから詳述しない。海鼠は支那、南洋向の輸出減少にも弱らず二十三萬圓見當の増加をみせ、食鹽は數量に於ては前年より減少を示したにも不拘價格に於ては極く微量の増加となつた。水產物を輸出地別に調べて見ると、増加したのは合衆國と關東州で各々、二萬六千擔、九十一萬五千七百餘圓、及三萬八千二百擔、五十五萬圓の増加で、此のうち米國（布哇をも含む）へ輸出した水產物の內譯は左の通りで大部分は冷凍鮪がしめ、鮮魚の輸出は逐年の増加傾向である。

蟹罐詰	一〇、六〇四、三六六	冷凍鮪	一、一〇〇、一四六
魚油	七二五、九三五	寒天	六〇八、三二二
貝類罐詰	四三二、一四九	其他	一二〇、〇〇〇

輸出減の方で特に著しいものは海峽植民地でその輸出減額は六萬百擔、百九十九萬一千餘圓に上り此結果同地の輸出高は一躍昨年の三分の一となつた。支那は十二萬六千五百擔、二百三十一萬圓餘を減じ香港、布哇も各七千百擔、五十八萬八千圓、一千七百擔、二萬圓見當を減少した。差引十一萬二千四百八十一擔、二百七十六萬九千六百三十五圓の減少である。

砂糖

輸出狀況　本年度精糖輸出高三百七十九萬七千擔、三千八百四十一萬圓で前年度に比し百十六萬六千擔（四割四分）九百五十萬圓（三割三分）の増加であつた。一昨年に比するも數量に於て二割六分、價格に於て一割三分の増加である。

かくも輸出の増加を見たるは支那內地の動亂にも拘らず、關稅引上見越による思惑輸入が行はれたると、香港糖が

敗退した事による邦品の増加及び露領亜細亞、關東州方面向の増加によるものである。

輸入狀況　昭和三年度砂糖輸入高六百三十五萬擔、六千四百九十五萬八千圓で前年度に比し數量に於て六十七萬擔（九分五厘）一千八十四萬圓（一割四分三厘）の何れも減少であつた。之は臺灣產糖の增加により外糖をあまり輸入する必要がなかつたによるもので、近年輸入額は年々減少しつゝある。

然して瓜哇糖は依然第一位に居りその額六百二十三萬擔、六千三百七十萬圓に達してゐる。反之比律賓糖は昨年の七分の一、一昨年の十分の一以下になつた。

內地產糖高は百九十六萬擔で前年度に比し四十萬擔の增加であつた。移入高は總計九百七十九萬四千擔で昨年のそれに比すれば約二百八十萬擔の增加である。之は昭和二—三年間の臺灣產糖が最大記錄に達したからで、一部昭和三—四年度の原料甘蔗を例年より早く壓搾したによる新糖の移入も含まれてゐる。

輸入は前述せる如く六十七萬擔の減少で結局本年度供給高は前年度繰越高を入れて千九百六十六萬擔である。一方輸出は三百七十九萬擔、移出三十萬擔、內地消費千四百九十八萬擔、計八百九十九萬擔で次年度への持越高六十七萬四千擔ばかりとなる。

內地砂糖需要表（單位千擔）

	前年持越高	內地產糖高	輸入高	移入高	供給計	輸出高	移出高	推定消費高	需要計	次年度への持越高
昭和三年	一、五六〇	一、九六〇	六、三五〇	九、七九四	一、九、六六三	三、七九七	三〇〇	一四、九八一	一八、九八九	六七四
同　二年	一、四五九	一、五六八	七、〇三一	七、〇三九	一七、〇七八	二、四四三	一三九	一三、九五七	一五、五五八	一、五六〇
同　元年	三六九	一、八〇七	七、五六八	七、四四三	一七、三七四	三、〇六三	一九四	一三、五五七	一五、八二五	一、四五九

臺灣產糖狀況　昭和元—二年度に植付期の旱魃による減產を除つては年々躍進的に產糖額を增しつゝある。次の如し。

大正五—六年	六、八一九、四三〇擔	同十一—十二年	五、八二四、六〇三	同十二—十三年	七、三八七、三七六
同十三—十四年	七、八七八、七四三	同十四—十五年	八、二二三、三四四	昭和元—二年	六、六九七、三七八
同二—三年	九、五三八、六四七	同三—四年（豫想）	一二、〇〇〇、〇〇〇	同四—五年（同）	一四、〇〇〇、〇〇〇

即ち昭和二—三年度の總產糖高は九百五十二萬擔で領臺來の新記錄であつたが昭和三—四年度は尙之を超して千二百萬擔と推算されてゐる。

かくも產糖高の增加した事は、栽培方面に於ける改良と相俟つて歩ごまりの良くなつた事によるもの並に作付反別の增加によるものである。

寒　天

昭和三年中の寒天輸出高は二百十四萬九千斤、四百十四萬二千圓で昨年の一百八十一萬五千斤、三百二十四萬九千圓に比すれば三十三萬四千斤、八十九萬三千圓の增加で佛蘭西への輸出が昨年に比して一躍二倍以上に昇り二十三萬五千八百斤、五十一萬五千六百圓の增加を見たのを始めとし、合衆國の五萬七千七百斤、十六萬六千八百圓、支那の四萬六千七百斤、九萬六千百圓逸獨三千七百斤、一萬九千圓許の增加を見た、今之を全國と大阪神戸兩港に就て比較すれば

	全國 數量	全國 價格	大阪港 數量	大阪港 價格	神戸港 數量	神戸港 價格
昭和三年	二、一四九、七六九	四、一四二、〇三九	七一、八〇九	一六三、六八六	二、〇二一、七八四	三、八四八、〇〇〇
同　二年	一、八一五、四二七	三、二四九、三一四	三三、四八八	七五、六八七	一、七四一、六三三	三、〇九七、〇〇〇
同元年・大正十五年	一、八〇六、一四五	三、七四三、〇四〇	六四、五六五	一五七、〇三九	一、五七七、八七八	三、二三七、〇〇〇

之を關西品と信州品とについてその檢査高を見れば、關西品は細把寒天の檢査高五十五萬九千三十九斤同簀捲七十三萬七千六十八斤であつて、これを前年に比較すれば細把の四十萬五千四百五十斤に對し十五萬三千五百八十五斤を增し、細簀捲の六十八萬五千七百二十七斤に對し、四萬八千五百二十七斤を增し角は十四萬七千五十三斤に對し二萬九千二二百十五斤を增した。次に信州品は細把寒天の檢査高九萬七十五斤同簀捲四十五萬六千六百斤角七萬一千八百三十七斤であつて之を前年に比較すると細把の十一萬二千百九十三斤に對し二萬二千百十一斤を減じ同簀捲の三十三萬五千七百九十斤に對し十二萬八百十斤を增し角は十二萬九百五十五斤に對し四萬九千七十八斤を減じた。

罐詰食物

昭和三年度に於ける本邦罐詰輸出高は數量三千五百七十萬三千斤（容器共）二千三百三萬一千圓で昨年の一千九百五十萬九千圓に對比して三百五十二萬二千圓の増加となり、之が内譯を見れば蟹罐詰はさすがに本年度に於ける收獲高甚だ良好なりしため三百九十一萬三千圓の増加を示したが之に反し、鮭及鱒は二十六萬五千圓を減じ、同樣其他の魚類も亦五十三萬六千圓の減少を示した。之は豊漁による需要先の輸入手控へと相場弱氣による輸出價格の減少によるのであらう。鮑は最もお得意の支那南洋の排日にたゝられ二十萬三千圓の減少を示した一方筍及其他の蔬菜に於ては五十六萬九千圓を増加して排日何ぞの氣概を示した。

最も著しいものは合衆國の増加で二百四十六萬一千圓で之について英國三十六萬二千圓、濠洲十二萬圓、關東州の十一萬七千其他の五十八萬圓等の増加であり、支那も一昨年よりは減少はしてゐるが昨年に比すれば辛うじて一萬七八千圓見當の増加となつてゐる。種類別に數量を調べて見ると左の通りとなる。（單位瓦）

鮭（カムチヤツカより直輸送の分）	九五〇、〇〇〇	蟹	一〇、〇四〇	濱	一六、一三八
蟹	五〇八、九一三	海老ボイル	一、九〇八	北	一〇、四二〇
鮭鱒（主としてピンク）	一〇八、五四五	筍ボイル	三二、九九八	寄	七、九九三
魚貝類	二四、三一九	松茸ボイル	八、〇九五	獸鳥肉製	一七、一六五
鮑ボイル	三三、二六七	トマトサーヂン	二四、七一九	合	計 一、七七八、七九三
蜆蛤ボイル	二一、四九九	蔬菜	一三、七七五		

商況 罐詰は他商品に比して騰落の幅がせまいだけに不景氣でも打撃は比較的少なかつたが各種類別に之を見ると次の如くである。

野菜類（筍ボイル）は何れも新物の入荷がまたれた程であつたため、三斤罐などは輸出向には存外の消化を見たが、六斤罐は相當經つた製産數を示し、生れ値段も三斤罐より比較的安い處から購買心を誘つて見込買などするものもあつて、以外にも活氣づいた。中には御大典景氣を期待して強く見込をつけたものもあつたが、御大典が濟んでみれば左程でもなかつた、然し裾物から消化されて在荷は減少を見てゐるが相場保合、松茸は春以來軟弱を辿り秋の新物には矢張御大典景氣に幾分望をかけられたが結局駄目であつた。最近松茸の賣行き減少を氣にして十二月初旬製造方法につき懇談會が開催せられ色々と研究されたが、罐詰として値打ちあるものが出來れば悲觀した程の事もないと思はれる。グリーンピースは支那方面の需要が起らないため、製造當時は一般に買入れを躊躇したので、近年にない安値を生んだ。然し存外不作であつたゝめ製造後間もなく一圓方もはねあがり、中には生産減を見込んで思惑するものなどもあつて自然品消化と共にジリ高歩調を辿り安値から二圓方も騰貴してゐる。

果實類（パインアップル）檢査施行後、最初の出廻りだけあつて、等級の區別には一時面喰つたが、春以來中々の人氣で一般荷動きの中心であつた、其内夏製品の入荷後、幾分軟弱を告げて居たが荷動きは順調であるが、原料高のため不需要季に入り反つて、引締つて來た。洋桃は一般に消費者の嗜好が變つて來し安値物の水蜜桃などは年々賣行減退し、其反面に於て高級品としての洋桃の賣行は最近目立つて來たが、此品は何れもが各印物を賣出してゐるだけに相場にはあまり變動はなかつた。

魚貝類（鮭ボイル）製産數に於ては例年の數倍に達してゐる程であつたゝめ相場は常に安保合を續けてゐたが、青森（三菱）品の燒失を見て幾分引締つて來たけれど一般は何れも極薄利で動いてゐる。尙ほ鰹、鯖、鰮何れも値巾小さく保合を續けて來た貝類では總じて品薄勝にて何れも相場は確かりしてゐたが、淺利貝味付のみは振はなかつた、肉類は依然印ものゝ賣行きを見せ相當活氣を續けた。漬物類は殆んど變化はなかつた。

此内特に蟹罐詰について見ると、その製造高は五十萬九千九百五十函で昨年の約五十五萬函に比して約一割の減産であるが、之は昨年蟹工船漁業水産組合が限産協定を行つた結果と産地カムチヤツカ地方の不漁に歸因するものである。その内譯は、

蟹工船	三〇三、五九四	カムチヤツカ	二二七、八六	北海道（道廳届出）	三二、九六
朝鮮	一三	奥羽丸	四〇、二四四	露工船	三四、三〇〇

之を日本工船と昭和工船の兩會社について罐型及等級別に比較すると左の如くである。

	日本工船			昭和工船		
	一封度罐入	半封度	四分の一封度（十六打入）	一封度	半封度	四分の一封度（十六打入）
一等	二七、一二四	一〇八、四六一	二、三三二	一六、一二四	四七、六〇五	—
二等	七四九	四、二七四	四、七二五	—	三五九	—
三等	一〇、六九五	四〇、三八〇	—	九、五九八	三一、〇六八	—

輸出は五十萬八千九百四箱であるから昨年の三十八萬一千四百九十五箱に比すれば輸出に於ては三割强の增加をした事になる。

鮭罐詰について世界の漁場を見ると何といつても、米國太平洋沿岸、英領カナダ地方が第一であつて、大戰當時は一千萬函以上に上る生產高を見たが其後大正十五年の豐漁を除いては、七百萬函から八百萬函程度の生產である、昭和三年度の生產高は七百三十六萬一千餘箱に達したが其內容を示すと左の通りであつた。

種類	米國	カナダ	露國及日本
レッド	一、四四一八	三一九	二九五
ピンク	一、九九三	二四七	二六六
チヤム	五四五	六七一	六
ミルベー	三八八	二五四	八四
キング	一二	四六	—
スチルヘッド	八〇	三	—
合計	四、四五八	一、九五二	九四九

樟腦

輸出狀況　神戸は吾國樟腦輸出の重要港にして殆んど大部分たる九割五分を輸出してゐる。本年度總輸出額三萬六千六百七擔、五百四十四萬七千五百二十二圓で前年度に比し數量、價格共僅かづゝ減少を見てゐる。

輸出の四割九分は米國へ向けられ、印度二割三分、佛蘭西八分と云ふ順序で本年度は英國向きが著しい減少を見せた事と獨逸向が五割減であつた事が目立つてゐる。米國、歐洲向のものは主としてセルロイド原料に用ひられ、其他醫療藥として用ひられ、印度向のものは薰香料として宗教儀式に使用さるゝと共に除蟲劑としても廣く用ひられる。

他に樟腦油として三萬五千二百三十三擔、一六萬三千十九圓の輸出を見てゐる。本年度樟腦油としてかくの如き多量を見たるは近年稀に見る所で昨年の二萬六千五百五十二擔に比し何れも五割六分、三割三分の增加で、該油中に重要藥品たるサフロール、ピネン、カムフエーン、龍腦等を多量に含有し、その他何れも分溜すれば貴重なるものを多量に含有せるまゝを輸出さるゝは惜しい事である。

樟腦油の大部分たる三萬四千九百八十六擔、百萬圓は神戸港よりの輸出にかゝる。その重なる輸出先は米、獨、佛印度にしても主として防臭、防蟲劑とし又一部分分溜してサフロール其他の溜出或は藥品の溶媒として用ひらる。

臺灣に於ける採腦業の中心は中北部三州にして、臺南、高雄其他東部方面の採腦業も相當の努力はされてゐるが、米國方面に於ける合成品の壓迫により採算惡く、或は閉鎖、縮少されんこの噂すら聞くの狀態にあり。臺灣の生產高約五萬擔と註される。之等は殆んど內地及海外に向けられる。

薄荷

本年度薄荷腦輸出は三千二百三十五擔、三百九十一萬四千餘圓で前年度に比すれば數量に於て三割二分、價格に於て二割の減少であつた。一昨年に比すれば非常なる減少である。かくも著しき減少を見たのは前年度の不況により作付反別減少し、爲に收獲高が著しく減少したによるものと見られる。即ち品薄なるが故に商談に應じられなかつた感がある。腦相場九月頃より俄然狂騰したに見るも明らかなものがあらう。

本年度內地生產高、薄荷腦四十五萬斤、油五十五斤と推定されてゐる。昭和元年の腦六十八萬斤、油三十四萬斤に

比すれば著しき減少であつた。

薄荷市況は前年度不況の後をうけて如何かと氣づかはれたが、一昨年の見越的買煽りの後をうけてストック少なかりしと、本年の收獲少なかりしとにより、市況常にしつかりであつた。

昭和三年各月平均市價（斤ニツキ單位圓）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
腦	八、九〇	九、〇〇	八、七〇	九、四〇	一〇、〇〇	九、八〇	一二、五〇	一三、〇〇	一四、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一三、〇〇
油	四、〇〇	四、〇〇	三、九〇	三、八〇	四、〇〇	三、八〇	四、五〇	五、〇〇	五、一〇	六、〇〇	四、八〇	四、〇〇

前表によつて市價變動の有樣を知る事が出來るが、その變動の如何に甚しきかに一驚せざるを得ない。昇るかと思へば降る、その相場は實に海外よりの注文の有無によるもので、全く投機的の觀なき能はず、何等か市價の健實なる變動こそは將來斯業發展の上に必要なるものにあらざるか。薄荷は日本の特產として全世界に君臨してゐるとは云へ近年合成薄荷の出現を見つゝある際として一層この感を深うするものである。

日本薄荷生產地は北海道、三備地方で、之が精製は大部分神戸でなされる。

（米國）は日本薄荷腦の最大賈客にして昭和三年度は千五百三十八擔の輸入をした。然し昭和元年の三千二百二十六擔、昭和二年の二千四百四十七擔と年々減少を見つゝある。これ元より日本全輸出が年々減少せる爲であるが一面米國に於ける薄荷生產高の增加をも見逃す事は出來ない。同國生產薄荷油四千擔で最近は採腦し得るまでに至つたと報ぜられてゐる。一九二六年の油輸出額は二十一萬封度、八十三萬弗であつた。

人造薄荷が最近獨逸方面から相當入つて來てゐるらしいがはつきりとした統計は得られてゐない。

（支那）支那は日本と共に薄荷の生產地で現在は日本より輸入してゐるが、その將來は相當重要視されてゐる。民國の薄荷腦及油の生產高は年により相違あり、民國の統計によるも八萬斤位の事もあり、二萬斤位の事もある。昭和元年頃より上海に上海永盛薄荷股份有限公司設立され、日本人技師を聘して薄荷精製をなしつゝあり、昨今年々五千斤ばかり歐米へ輸出しつゝある由で、一ヶ年原油七萬斤餘を使用すると、然してその品質は油は本邦品に劣るも腦は本

邦品に比し遜色なきまでになり値段安きを以て歡迎されつゝあり。

要するに支那に於ける薄荷は原料安の爲め本邦よりは採算有利なるもの、如く、支那並に海外に於ける本邦品の競爭品となる日も遠くはあるまいと見られてゐる。

魚油

日本は世界に於ける三大漁場の一たる北海道を有する外、近年朝鮮の漁獲高益々多きを加ふる關係上多量の魚油を生產し、之等は內地の硬化油其他の需要に向けらるゝと共に極めて多量に廣く各國にまで供給しつゝあり。

本年度魚油生產高は未だ正確なる統計は得られないが、朝鮮地方相當の不漁を傳へ、北海道又鰛の漁獲高前年度の六割見當と云ふに於ては相當の減少で、朝鮮四千五、六百萬斤、北海及內地四千萬斤の計八千五、六百斤と推定される。それにしても前年は特に豐漁なりし爲相當のストックを有せし關係上本年の供給高には大した變化はなかつた樣で、朝鮮よりの移入高も昭和二年の四千六百五十七萬擔に比し、本年は四千六百三十三萬擔と極めて僅かの減少を見たに過ぎない。一般の不漁は年末に及んで相當の影響を及ぼし、市價も相當の騰貴を見るに至つた。

本年度供給高に於ては前年度と大して變化なく却つて年初はストックも相當豐富に供給潤澤なりし關係上、引合相當旺盛なりし爲、本年度輸出は後半期に於て內地品薄及硬化油業者の手當等により減少を見たが、尙前年度に比し多少の增加であつた。

內地生產の狀況は前述せる如くで本年度生產高八千五、六百萬斤で昨年度の持越高等併せて供給高は前年度と大差なく約一億斤と思はれる。その中輸出されたもの約六千萬斤、內地消費四千萬斤であらう。

內地消費の殆んどは硬化油となり、之等は內地の石鹼の原料として消費される外相當量の輸出を見つあり、輸出數量八百六十萬斤で硬化油として輸出さるゝ數量が益々增加しつゝあるは喜ぶべき現象である。

年本度鰛油の相場は前年度の如き大した變化はなく、年初百斤十圓二、三十錢のものが、內地、朝鮮共不漁の爲多少づゝ昂騰し、年末十三圓二、三十錢を稱へらるゝに至つたもので爲に年末輸出も極めて不活潑に、內地硬化油業者

の手當は相當深刻なるものがあつた。

硬化油

硬化油工業の擡頭は極めて最近の事に屬し、その製產高の增加も近々數年間にして今や日本內地硬化油生產高二萬九千噸を見る。然し實際生產能力は優に五萬噸を突破するものと云はれてゐるが、本年初頃より硬化油共販組合の創立を見、この組合によつて內地の需要並に輸出による海外の需要を按配、よく市場の統制をはかり、增產による不況を防止する事に努めし爲め昭和三年度の總生產高も二萬九千噸見當に止まつたわけである。その中內地の需要は石鹼原料として及び蠟燭製造原料として、消費されるもので石鹼原料としては千五、六百噸餘製造技術の進步により近來頓に需要增加しつゝあるも現今の需要總量一萬五千噸、蠟燭原料としては千五、六百噸で、殘餘は輸出に仕向けざるべからざる現狀にある。然して輸出については輸出奬勵補助金の交附をうけ極力輸出に全力を注ぎつゝあるが、最近輸出も思はしからず、結局本年度は八百六十五萬斤、約五千百噸の輸出に過ぎなかつたそれにしても、今まで輸出として重要視されなかつた硬化油が一躍にして八百六十萬斤、二百萬圓以上の巨額を示した事は一つの驚異でなければならぬ。これ一に吾國が世界に誇るべき魚油の生產國であり、この魚油を硬化する事によりて製造さるゝものにて、特に日本に於て研究よく行はれ、爲に工業的成立日尙淺きに不拘、今日の隆昌を見たるものにて、今まで魚油として輸出しつゝありしものを、硬化油として輸出し得る事は喜ぶべき事であり、環境に惠まれたる斯品の今後に於ける貿易上の價値並にその活躍は期して待つべきものがあらう。

然して硬化油は殆んど全部神戶港を經て輸出され、その輸出先は伊太利、佛國、英國、白義耳等で之等の數字は後揭阪神兩港の表によつて知られたい。

尙共販組合加入會社は七社にして、その申合せ總生產力は月額二千三百六十噸で、合同油脂一千二百噸、旭電化五百噸、大阪酸水素、二百八十噸、北海曹達百噸、日本曹達八十噸、ベルベット八十噸である。

然して硬化油の市價は年初二十一圓頃であつたが二月共販成立以來市場の統制よく行はれ、市價は牛脂高につられて漸騰し、二月二十一圓八十錢、四月二十二圓、七月までに二十四圓にて、年末二十五圓を唱へて越年した。

一方輸出値は年末十九圓二、三十錢頃であつたが、之では歐洲に於ける牛脂との競爭に於て不利の立場にあり、業者の頭を惱した所で、本年度輸出餘力相當强大なるものありながら、五百噸にて結着した事は一に値の引合に屬し、年末ストック高も或は四、五千噸とさへ云はれてゐる。

海外事情　世界に於て硬化油工業の最も盛なるは日本並に獨逸、佛蘭西、英國、伊太利、米國等で、その各國生產高は不明なるも歐米地方に於ける製品は相當優良なるものあり、近來食用脂として供給さるゝまでになつてゐるとの事なるも品質は日本品の上には出でまい。然して世界に於て硬化油の供給國としては日本が斷然たる地位を占めてゐる。他の國の輸出は殆んど云ふに足りない。

除蟲菊、殺蟲粉、蚊取線香

除蟲菊本年度輸出數量十萬四千五百擔、七百四十八萬七千圓で前年度のそれに比すれば數量に於て五割五分、價格に於て十二割七分の增加であつた。

かく輸出の激增を見たのは米國、佛蘭西等より大口注文殺到せるによるもので、昭和元年の大增收以來漸貨相當量に上り、之に加ふるに大口注文殺到にてこの結果を見たるものと思はれる。

輸出先の主なるものは米國、佛蘭西、加奈陀、濠洲等ある。輸出の大部分は神戶港を經てなされる。

本年度內地除蟲菊生產高は前年度と大差なく百七十萬貫で本年度供給量約二百萬貫と云はれてゐる。內地市況は昨年よりはよく五圓を上下した。

昭和三年度除蟲菊各月平均相場表（一貫目ニツキ）

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四、〇〇	四、四〇	三、九〇	三、八〇	四、〇〇	四、五〇	五、五〇	五、一〇	五、三〇	五、一〇	五、〇〇	四、八〇

日本は世界に於ける除蟲菊の產地としてダルマチヤと共に知られ、原產地はダルマチヤにて內地栽培種子は今尙同

地より輸入する有樣ではあるがその產額は日本の一割にしか相當しない。

殺蟲粉、蚊取線香は除蟲菊を加工せるもので、主として大阪、和歌山で製造、多量に輸出され世界各地に向けられてゐる。その輸出額は次の如し。

昭和三年度輸出表

	全國		神戸港		大阪港	
殺蟲粉	九、四八九擔	八〇八、七四四圓	四、六三一擔	四二六、四七三圓	四、七九四擔	三八六、五一六圓
蚊取線香	一、一〇一、四〇一斤	八九三、一〇一	五六、二三五斤	四七八、〇三七	四七五、六〇〇斤	三八一、三四八

綿織糸

最近數年來本邦綿糸の輸出は、逐年減少ありて增加なく、大正のはじめ約五千萬を以て生糸の二億弱に次ぐ第二位輸出品たる地位は、大正六年頃以來綿布の擡頭に依て永久に下位に立つに至り、今や絹織物、精糖、陶磁器、莫大小製品の次に位するに至つた。蓋し本邦及本品輸出先たりし地との間の夫々の經濟事情の發達乃至變化が、商品從來の上に齎す變化を明かに認める次第である。本邦綿糸輸出の減少は大正七年後大正九年の約一億六千萬圓を最高として逐年減少し、本年の二千六百萬圓は聊か激減の如くも見えるが、併し大勢から見る時は將來更にこれ以上に減少して行くものと思はれる。綿糸の減少は其反面に於ける綿布の增加と對應し、それだけ我生產方面の發展を語るものと言へよう。

前年五月から六年振りの操短をはじめた我紡績は今年に入つてはじめて其効果を收めることが出來た、年初には前年來の操短も利かざる多大の在荷を擁してゐたが、爾來漸次生產を減じ、却年の增產期に入るも生產に變化なく、每月二十萬梱前後のまゝ九月まで續いた、その頃には滯荷も一掃され年末には常備在庫を殘すのみといふ位になつた。

綿糸の市況も前年より稍々良好であつたが、支那事件のごたゞのために我綿業全般の伸力の押へらるゝこと一方ならず、輸出數字は兎に角增加はしてゐるが、實際上直接間接の打擊は決して尠少でなかつた。

要するに本年中の紡績業を顧るに先づ米綿の下落、輸出の不振、滯貨の增加等で、當初商勢思はしからず、操業短縮の結果と四圍の情勢漸次改善されしとに依り、何うにか無難に經過したと言ふ可きものであつた。紡績會社といふ方から見れば、原棉の比較的安定したこと、市價が比較的安定してゐたこと、前述の如く輸出は少なかつたが國內消費が可なり旺盛であつた事、更に來る可き深夜業廢止への對策の結果其他による生產費の低下などによつて、必ずしも業績は惡くなく、先づ平作とも言ふ可き年であつたと言へる。

次に技術的方面から見ると、昭和四年七月一日迄に實現を要する深夜業廢止を目標として、我紡績は專心設備の擴張、生產費の低下及豫め生產制限に慣るゝ等完全に近い準備を遂けつゝあることである、本年中增錘は五十餘萬に上り、錘數總て七百萬錘に達せんとするに至つた。

製品の方から見ても綿糸輸出の減少は、綿布化への道程大いに進みつゝあることを示し、多くは織布兼營をなしつゝあり、綿糸自體としても太番から漸次細番手糸へと轉ず可く現に其途上にあり原料の方から見て米棉埃及棉の輸入增加しつゝあるのも其證據をなす。

綿織物

本邦綿織物は今や生糸に次ぐ輸出品として極めて重要なる地位を占めてゐる。生糸が數十年一日の如く原料用品としての形を變ふる事なく、其輸出先としては米國其他比較的工業先進國の製品化に對する原料たるに過ぎず、販路に於ても人絹の出現以來種々前途觀はなされるが、要するに其相場の伸張力を制肘されつゝあることは動かす可からざる事實であるに反し、綿織物のみは完全なる製品として比較的工業後進國へ仕向けられる、一國產業の立場から考へて綿織物の地位は此意味に於て大いに誇る可きものである、而も製品の原價の低下並に品質の向上は必然的に販路の擴張を伴ひ、廣汎なる需要先に於ても其生活程度の向上、嗜好の變化に伴ひ優秀なる製品、流行的なる製品は漸次其販路を廣く深く開拓し得るものである。故に綿織物は更に洋々たる前途あると共に、その製產の精工業化を必要とするものであり、本邦綿織物はよく此の趨勢に乘じつゝあり、益々第二第三段の發展を遂けんとしつゝあるのである。

入超の一大原因をなしつゝある棉花の消費が多く、綿製品輸出額との間に尙ほ約二億の開があり結局二億圓だけは國內に於て消費せらるゝことゝなり、本邦紡績業は未だ國內消費を完全に償ふだけの輸出額にまで達し得ざるものと言はねばならない。然るに原綿を輸入し製品を輸出することに於て同一事情にある英國が、優に輸出入の間に完全な償却をなしつゝあるの事實から見て、前記二億の數字を漸次縮少しやがて之を償ふの日を期待することは決して不可能の事ではない筈である。輸出貿易の伸張殊に製品の精製品化と販路の擴張は此目標に近づく第一の手段である。

今日本邦輸出綿布を見るに、今や生地物に於ては世界に於ける第一人者たる觀あり、東南洋一帶は固よりアフリカ東部、近東諸國、南米、濠洲等殆ど全世界に亘る販路を有し、殊にスエズ以東の地に於ては事實上の覇者たる地位にある。然るに一般加工品となると、必ずしも生地物の如くならず足許の東南洋地方に於て略々英國品と比肩し得る程度に過ぎず、僅かに一葦帶水の彼岸支那の市場に於て地理上の有利なる距離を利用して第一人者たる外は先づ以て他國品に一歩を讓りつゝあり、我國を距ること遠き地方ほどその勢力は減じてゐる。而も前述の如く、輸出綿布の將來に於ける妙味は加工綿布にあることを豫想するに難からず、或は加工品の優劣、流行との適否如何が其國際市場に於ける勝敗を決する分れめとなるかと考へられるのである、幸に本邦加工業も逐漸發達しつゝあるが、加工賃の低下、製品の向上及流行に對する適合といふ點に關しては百尺竿頭尙ほ數十歩を進むる必要がある、手近な晒加工に於てすら其設備に怠る所あつてか、至近の市場に英品其他の製品を跋扈せしめつゝあるといふだらしなさを往々にして見るのである、捺染、染色等に於て尙ほ茲に遺憾なことは、輸出先の要求に依つて或程度までは安價を旨とすることが時に必要でもあり止むを得ざる所ではあるにしても、事實上染料の高價なものを用ふることが他國品との競爭上不利となる事あり、止むなく染色の堅牢度等に於て不良のものを見るに至ることのある事である、これは政府當局あたりにしても染料國產保護一點張りの妄念を排し相當此邊にも考へ及ぶ必要があらうと思ふ。

尙ほ輸出貿易に直接從事してゐる向に於ても、生地綿布は既に充分海外に於て認められもし宣傳も出來、信用も出來てゐるが、加工品に關しては尙ほ充分の活動をしてゐない樣に見受けられる。單に取引先から見本に依る引合の來るのを待つといふ程度では相當發達した今日の我加工品の宣傳としては不充分であるばかりでなく、流行の點から見ても既に時期が遲いことになる譯である、諸外國商が例年新規品の見本を携へて取引先を旅行する態度に劣らず、それ以上の積極的な且つ流行の上にも一歩を進めて創造的指導的地位に立つて行く樣にあり度いものである。筆者が常に遺憾に思ふ事は消費品に於て消費者のみならず取扱商人すら或程度の本邦製品に關しては、そんなものが日本に出來るといふ事すら知らないものが尙顏る多いといふ事である。若し當業者にして今一歩積極的活動を試みんか、熱烈なる直取引希望者の出現を信じて疑はないのである。

次に安物といふ問題である、勿論安物即ち粗製品といふ意味に於てゞはなく本邦綿製品の主要輸出先たる地方の需要者の要求との合致といふ問題である。普通品であつてよく生活程度の高くない需要者と手を取り合ふことであり、且つ見本通りと言ふ點は一歩も踏外してはならない、正直に眞向から我らの華客にお氣に召す樣なやり方、安い日用向な物ですと言つてやるやり方、これは大いにやる必要がある。筆者の信ずる所に依ればこのやり方は世界に誇る可き日本の誇りである。斯くの如くして彼らを歐米高級品の搾取から解放するからである、斯くして彼らをして近代商品を容易く利用せしめるからである、斯の如くして彼らを漸次程度の高い消費者となる可き階段を上らしむることゝなるからであり、この間本邦工業も高度の發達へと進む基礎時代をなし得るからである。

本邦綿布には一つ巾の問題がある、巾の點に於て我綿布は常に他國品の脅威を感じつゝある。工場の設備を急に改變することは望む可くして得ざる事であるが、相手商人の望む巾廣のもの、五十五吋巾位までのものは何品に限らず隨時容易に作ることの出來るだけの設備を着々進めて頂き度いと紡織當業者へ至囑に堪へない。

擴張されて行く販路に伴つて、取引の後授者たる諸機關、就中銀行に就ても、今日尙ほ不充分と思はれるところが少くない。比較的世界的に網を張つてゐる正金などにしても商人に對して與へる便宜といふ點では常に不充分な樣に言はれてゐるが、それはとも角日本の銀行を海外にもつと多く設立することは、聲を大にして其必要を叫びたいのである、最近特に其感の深いのはアフリカ方面である。

昭和三年全國綿織物輸出額表

生地のもの	晒したるもの	其他の綿布
三三、九九九、一二四方碼	二、〇二三、八五八方碼	一方碼
八、二四四、九六四圓	三四四、八九七圓	一圓

晒生地のもの

	昭和三年	同二年	同元年
	三三、四四四、六六六（一〇〇・〇%）	三六、八八一、六四〇（一〇〇・〇%）	四三、六九九、四三三（一〇〇・〇%）

其他の綿布

	昭和三年	同二年	同元年
計	三三、四四四、六六六（一〇〇・〇%）	三六、八八一、六四〇（一〇〇・〇%）	四三、六九九、四三三（一〇〇・〇%）

右表に依れば、加工綿布の總輸出綿布に對する割合は比年增加しつゝありしに反し、本年に至るや突如この傾向を失ひ、生地綿布は晒其他の綿布に比し著しくその比率を高めたるに反し、加工（其他の）綿布は著しく比率を減じてゐる。而して實數から言へば生地綿布の增加は必ずしも大ならず、加工綿布の減少が特に目立ち、總額の減退は主として加工綿布の減退に基くこと見るこゝが出來る。蓋し生地綿布に於ては多少の排貨、乃至競爭國の侵入ありこするも、本邦品の强味に依つて必ずしも影響を受くる所大ならざるに反し、高級なるもの乃至加工品に於ては此點頗る敏感である。殊に排貨に乘ずる英佛獨米瑞等の製品侵入は主として此種のもの、間に行はるゝが故に、本年の如く南洋一帶の華僑多き地方に於ては歴然たる減退を餘儀なくされた、加ふるに南洋一帶の不況も之が購買力を減じ高級品の輸出を減ずるこゝなつた譯である。故に本年の加工品比率の低下は大體に於て一時的の現象であつて、來る可き將來は反動的增加を見ること疑を容れず、現在の六割標準は漸次高まつて行くであらうし、又高めて行かねばならぬ所である。

次に輸出先の分布を見るに左の如し。

最近三ヶ年全國綿織物輸出額國別表

	昭和三年	同二年	同元年
支那	一三、三〇七、七四五（方碼） 一三六、四七七、五六六（圓）	一三、三〇六、六七一（圓）	一七、七七、三一（圓）
關東州	四三、七二二、三六五 一五〇、五三、五四〇	一二、八三〇、九五五	一五、八八、三六一
香港	八、五三、三三四 一七、四四四、四三七	二九、四三六、一八四	二四、四五六、100
英領印度	三五、七一〇、〇八九 七〇、一八五、四〇八	八五、七一、六六	八九、七六、八四〇
海峽植民地	一五、九四四、一五八 三、五九、九八六	九、七六、八〇〇	一一、九八、三八
蘭領東印度	一七、七〇、八六三 三六、二五、三〇〇	四、二三、七九	四、四八、八五三
比律賓	三〇、九七〇、五五〇 八、七七、三五六	一〇、九二、〇四八	九、一三、五九九

暹羅	六、三四五、六六一	一、三五九、四六五	四、〇三八、五五一	三、一九〇、四八八
土耳古	一五、三一〇、三三七	二、九七〇、六四九	二、二〇一、五九六	三、六五七、五三二
米國	一、二二九、七二五	二四八、八九九	二七二、三五二	五七〇、六九一
智利	三、八二二、二五〇	八五〇、一〇五	一、一二七、九七五	九七六、六六七
亞爾然丁	八、九六〇、四八三	二、一七四、八八〇	四、七二七、〇三八	二、一六一、七八八
ウルグワイ	四三八、四九七	九〇、九六一	—	—
埃及	七七、五九六、〇二二	一七、六三七、五八三	二五、二九六、六六〇	一八、二五〇、三四〇
喜望峰	九、六五五、七二五	二、〇九六、〇八五	二、六四三、〇三五	二、〇四五、九三九
濠太利	二二、二八三、五六一	二二、三九一、八一八	四、七三一、二六四	六、九三五、八六三
新西蘭	一、四二一、七五三五	二七六、四二九	四八七、三二四	六七七、六一五
布哇	九二三、三二四	二二五、三九〇	二五一、六八三	二二一、五八〇
其他	五〇、〇三二、九六六	二一、〇九二、六〇九	一六、四九五、二三五	一九、五九二、一九四
計	一、四一八、七〇三、四六四	三五二、三二七、五三六	三六一、七六〇、八二四	四二三、六九九、五六八

イ、白木綿

所謂小幅木綿であつて、支那滿州を主たる仕向先とし、亞細亞ロシア海峡殖民地、米國邊りへもよく積出を見る所である。主として大阪の持切りであるが、大體からいふと、先づ本品は年々生産を減じつゝあり、本年一月及十一、十二月の交には異常の逆鞘傾向に陷つたものゝ、やはり生産最低工費を割込み廣巾轉機の機運濃厚である。蓋し輸出としては滿洲にせよ、支那本土にせよ、此種のものは容易に製織されるし、又地方民が手機で織るのもあるし、結局は値段次第であるとも言へるから、此點に原價を低め得れば、多大の用途もあるし、增加させることも必ずしも困難ではないとは言ふものゝ、先づ以て大して甘味がないからである。

本年の輸出額は昨年より增したが一昨年には及ばない、昨年は奉票の下落あり、北伐騷ぎや、何彼と日支間の紛爭もあつたから特別に少かつたのであつて、必ずしも本年は增加したと見ることも出來まい、大體この邊が平均需要數を示すところと見る可きものゝようである。

ロ、シーティング

本年のシーチング輸出は俄然たる激減を示した、全國は勿論、大阪も神戸も揃つて減少した。數量金額共に減少である。印度の六百八十萬圓が本年は約三百萬圓を減じたるをはじめとし、埃及の約三百萬圓、中南アフリカの約二百萬圓、濠洲の五十萬圓、アルゼンチンの百五十萬圓などいふ減少は特に目立つ。由來本品の如き製織の比較的簡單なものは後進國の紡織の發達に依つて市場は容易に縮少される、支那の如きはその好例をなすものである。加ふるに本邦シーチングは既に世界的に名があるけれども、市場に覇を稱すると否とは僅かにその價格の些細な開きに依つて決せられるといふ際どい性質が本品には著しいから操短だと言つてゐる間に輸出の上に可なりな影響を來したことを否む事が出來ないであらう。大體から言つて此種生地ものに多くの力を注ぐことは本邦紡績として得策とは言へないことは疑へないし、從つてその輸出減を必ずしも遺憾とはしない、現に金巾に至つては反對に增加してゐるのだから、我紡績が行く可き道を辿つてゐると稱してよからう、たゞ若し操短の如きよからぬ細工に依つて生産費の僅かな昂上を來したことを否めないとすれば、當然得可き市場を自ら失つたものと言ふ可く、頗る遺憾とせねばならない。

輸出先に就ては附錄の細表の示す如くである。市場及販賣法等に至つては充分研究し盡されてゐる所であるが、最近の各地事情を紹介して參考に供することゝする。

香港市場の主なものは十二封度もので、駝鳥、人魚、双鳴、桃等が主なもので、用途は金巾と同じく冬服の裏地を主とし、從つて八月から十一月頃までを輸入の最盛期とする。

佛印では輕目粗布(十三封度以下)が土人上着用として褐色に手染するものとして有望と認められる、稅率さへも少し安かつたら充分の見込がある。

ボンベイでは龍C、猫帽などの輸入あり、再輸出さるゝことは周知のことである、上海から水月、福燕、單牛など

がはいつて來て、さかくこれらに壓せらるゝの色を見る。

ボンベイからアデン、東阿、近東地方への再輸出はアデン五萬梱、紅海沿岸五千梱、東アフリカ一萬五千梱計七萬梱に上り、この内三萬梱は本邦品で他の四萬梱は上安品に屬する。

東阿タンガニカ地方では數年前までは米國品が多かつたが、現在同地市場では八割以上日本製品の占むるところとなり、絶對的優勢にある、日本から直接積出さるゝものあり或はボンベイ、アデン經由で積出される、三六吋三〇碼もの三〇反入で八封度乃至一〇封度までのものが、バザーに於いて一五志乃至一七志で賣られてゐる、用途は土人のカンズー Khanzu、帆、蒲團、枕等となり、奥地の土人は腰卷、肩掛にも用ひる。Ameuicani Asili と呼ばるゝ米國製の三二吋×三〇碼もの、目方五封度乃至五封度半のものはバザーで十一志乃至十二志に賣られる、二十五反入一俵であつて、現今印度製、日本製も之に代つて市場に現れるに至つたが、尚八分の輸入を米國品が占めてゐる。

市場にける約四割は英國品である、印度から印度教徒の用ふるドウティーが來るが、これは印度紡の晒加工設備の關係上數量には限がある。他の六割といふものは和蘭から來る。

内地後半期の概況を顧るに、十一月に印度、バルカン、エジプト方面に好需を得て急騰し紡績は早くも年内物を賣盡し年末には既に二三月物が相當經つて商内はれてゐた、其餘波として十一月朝鮮市場を刺戟し同地に於ける重目租布は飢饉的商狀を呈し期近物の急需あり久々各種綿布にも活氣を添ふるに至つた、併し十二月には間もなく凡化して反動的賣物殺到を見た。

八、金巾

本年の金巾輸出額は僅かであるが增加した、數量は幾分減つたのに反し金額では却つて增加である、シーチングが著しく減じたに反し、金巾の增加を來したことは、世界的に需要品の内容が漸次向上することを語るものであると考へてよからう。値段が比較的よかつたのに拘らず賣れたといふことは一層この感を深くする。更に生地のものは先づ增加し難い色があるが、晒したもの、捺染、染色したものゝ方は漸次增加しようとする勢歴然たるものがあることも同樣の感を抱かせるところである。。輸出金巾の國内後半期の概況を顧るに、三巾金巾は七月から雜牌物惡化し九月には本年の最安値を呼んだが、上キャリコは七月以來比較的手堅く下落り十月からは印度向として好需あり賣物薄に見送られた、京都の實需筋は御大典裝飾の民間需要に應ず可く前年よりは二割方入荷增加を示してゐた。

二巾金巾は三巾と同じく御大典を目當に各社の增產計劃もあり、潰し量も相當多額に上つた事は京都の入荷數量が前年より約五割方の增加になつてゐることでも知られるがやはり供給超過相場を免れず十二月に於ては特に足取りが面白くなかつた。

輸出先については阪神兩港に關する限りは附錄の詳表の如くである。二三市場の近情を紹介すれば

香港　輸入の本邦生地綿布としては細綾に次いでは並巾金巾が最も多い、十封度品の東方朔、寶車鷹、鷄等がある、冬服裏地が主たる用途である、從て輸入期も八月から十一月頃までが最も旺盛である。尚は晒金巾に於ては三十四吋、三十五吋、三十六吋、三十八吋等の幅物に對し、長さは四十碼乃至四十二碼が最も一般的である。晒金巾は支那全體から見て最も需要の多いものであるに拘らず、同地に於ける輸入高中本邦品は約一割を占むるに過ぎざる現狀から見て、本邦紡績として大いに晒加工業に着眼するの要を痛感せざるを得ない、日本の一割に對し、英國七割米國二割といふ持分を示してゐる。原糸の精選、晒工業の進歩、糊の研究など當面の問題であらう。香港として奥地各地の需要は固より、暹羅、佛領印度支那など廣大なる再輸出先を有するのであるから、何時までも之を現在のまゝに委しておくのは實に惜しむ可き市場と言はねばならぬ、現在本邦品で僅かに商標の通つてゐるのは二媽、觀音、駱駝などである。

シヤムの晒金巾は盤谷に於て本邦品は完全にマンチエスター品を壓倒し、全輸入額三百三十萬チカルの内二百萬チカルを占め、逐年增加の傾向のある所から見て今後益々有望なる市場である。商標として二嬌觀書、郭子儀標が代表的である。

ボンベイの主なものは三巾及並巾もので、三月頃から五月頃までが需要が多い。金巾の輸入は數量に於ても金額に

於ても本邦品が首位を占めてゐるが、晒金巾となると英國品が優勢である、三月頃から六月頃までを需要期とし、尺としては三十六吋×四〇碼がよい。

カルカッタでは衣服用並に寢具用として用ひられ、ドーティーに次ぐ輸入品である、本邦品と、マンチエスター品とが市場に於ける伯仲の勢力を有する。

ニ、天竺布

從來長く固定的輸出額を有してゐた天竺布も本年は俄然たる減少を來し、一葉落ちて正に天竺の秋を知るの概がある。蓋し本品の主たる輸出先は支那であつて、その强靱なる布質はよく支那南北を通じて根强き實需を有し、支那紡績發達の近年に至つても依然この地盤に搖ぎを見せなかつたものである、時に支那紡の脅威は感ぜざるを得なかつたし、又事實上價格の上にも相當の牽制を受けたことは事實であるが、今年の如き俄然たる減少は未だない所である。勿論本年の支那の時局日支關係からして、實需的商品であればある程商標を目標として購はれる支那人の中であるから排日騷ぎの間に例年の如く賣捌くことは困難であつた事を否むことは出來なかつたに相違ないが、それよりも支那紡の發達は假令排貨はなくともやがては長く海外からの輸入に待つの要なきに至るであらう、今日まだ脈があるのはその染色ものを主としつゝあるからこそであつて、生地ものゝ如きは特に前途たよりないものであらう。この關係は別項シーチングの場合とも同樣に考へられるところである。支那に於てのみならず、香港市場、こゝは此地奥地のみならず近くの南洋、佛印への再輸出品市場と見る可き地であるに於ては並巾ものにしろ天竺にしろ、近來年を重ぬる毎に上海紡績品に壓倒されつゝあるのである。

然らばさつさとこの種製品はあきらめるがよいかと言ふとそれは疑問である、上海の本邦紡績に讓るがいゝかといふと必ずしもさうでない、內地の各工場としては、何時でも此種製品の生產が出來る樣に、大量廉價に出來る樣に慣熟し準備してゐる必要はある、上海紡の前途に一脈の不安があり、經營上の有利の點が果して永く維持されるか何うか分らないからである。

ホ、綾木綿

本年の本品輸出額は之を昨年と比べて、數量の五分の二、金額の二分の一といふ激減である。大阪も減つたが、積出の大部分を占めてゐる神戸が殆ど三分の一に減つた、これで見ると、廣汎なる本品の販路に亘り至るところ著しく輸出を減じた事を知るのである、何故に斯くも慘憺たる減少を見たか、印度の昨年九百萬圓から本年四百萬圓に五百萬圓の減、蘭領東印度の昨年一千萬圓から本年二百萬圓八百萬圓減、埃及の五百萬圓から三百萬圓の二百萬圓減、埃及以外のアフリカが百二十萬圓から僅か十五萬圓減と百萬圓なり、主なる輸出先何れも轡を並べてごか減りを來した事に因る、爲替相場の不安定、紡績操短の市價への牽制、華僑の排日貨などが一しよになつて積出の頭を抑へた、印度南洋は華僑の外に購買力も今年は思はしくなかつた。

大體から言ふと本品は世界的に普偏的な實需をもつてゐるから本年の如き不振はむしろ稀な珍しい現象であるといつてよろしく、來年度は必ず多大の恢復を來すであらうと思ふ。世界的であり、實需に即してゐればゐるだけ、値段の僅かな開きによる輸出の增減は敏感である、而して來年は恐く本年の如くではなからうと考へられる。二三市場の近況を見ると、ボンベイでは、日本の鷺鳥、星象などが見られるが、これはペルシア方面へ再輸されるものである。再輸出先はアデンの三千梱、東阿弗利加の二千梱を主なものとし、この合計五千梱は主として本邦品である。タンガニカに於ける本品を見るに、當地では生地綾木綿をマルドウフ Marduff と呼び、現在尙アメリカ製品がよい賣行を見せ、これを模倣せる印度製品も賣れるが、英國品は漸次勢力を失ひつゝある。現在日本の鷺鳥が市場に現はるゝに至つた。バザーに於ける値段を見ると二七吋×四〇碼もの、十二封度半乃至十四封度のものが三十二志乃至三十八志位である。

ヘ、小倉織

昨年に於て前年に比し數量約二倍、金額六割餘といふ激增を示した本品の輸出は、本年に至つて再びもとの木阿彌

になつた、支那への軍服用、南洋の野外服、シャツ地等としての需要埃及に於ける衣服、シャツズボン用としての需要印度の衣用等を主な華客とするが、支那は愈々振はず、軍服、巡警服等の注文は殆ど見られなくなつた、たゞ左記の如く民間用としての人絹入小倉の增加は相當目立つところであこが、今年は蘭領東印度向としては二百萬碼が四百五十萬碼と約二倍、金額は九十萬圓弱から約百萬圓と增加してゐるだけが例外的の增加である、强さ、糸染、布染共に有する味ひ、而して値頃など同地の需要に適合してゐるものと見られる、同じ關係にある比律賓か三十五萬圓から十萬圓足らずに減つたのは米國品の擡頭を主因とし、麻、砂糖の不況に依る所も關係してゐる。埃及の約百五十萬圓が僅に三十萬圓に激減したのは頗る遺憾である、綿業不振に基く歐洲品、英國をはじめ伊獨瑞佛等の製品の競爭が頗る烈しかつたのは止むを得ないところであるが、爲替不安定や操短による相場關係が商談を鈍らすこと甚しかつた。

因みに香港に於ける本品に情報があつたから之を紹介すると香港は大體大した市場ではない、僅かに雲南方面と汕頭、厦門方面に若干の積出を見るが、これとても人絹交織品であつて、茲に擧ぐ可き純然たる小倉織ではない、併しこの人絹交織は最近の流行で、滿洲、山東、上海方面にも頻りに需要を見るに至りつゝある所で注目される所である交織品としては徑四〇乃至四二番人絹撚糸式の小倉としての變織といふ可きものゝ外、杢カルゼ、格子織など研究の餘地は充分にあり、大阪市内でも、岡山邊の中小機業家に注文して輸出しつゝあるものが少くない樣である。

次にボンベイに於ける本品の現狀をみるに一年中需要あり、三〇吋×四〇碼の如きものが賣行のよい方である。

ト、細　綾

本年の細綾輸出は殆ど昨年と變化を見せないが僅かの減少である、數量の減少に比ふれば金額の減少は極めて僅かである。叙上の各種綿布の減退に比べて本品の如きは先づ本年としては成績のよい方である。蓋し本品は加工品が主となり、生地ものは三割に達しない、而して加工品の主たる輸出は支那であつて、絶對多數的地位にある、而して爲替の不安の比較的少いのも支那であり、値段の點よりは柄合其他好尙的方面を主とするに至つてゐるのも今日の支那である。支那に對する加工物の重要性はこゝにある、本品の輸出が、綿布一般に大勢不振であつた本年に於て相當の成

績をあげたのも一に加工物を主とすることに基く。大阪からの輸出が增加せるに反し神戸が可なり減つた事も、大阪が加工地であり、東洋殊に支那相手を主とするに反し、神戸が遠隔の地を主とし、他の綿布と同樣の不振に見舞はれざるを得なかつたのによる、且つ又輸出單價が比較的高價に維持されたのも亦この加工品であるといふ點を主因とする。要するに本品の比較的よい輸出振を見せたのは輸出綿布の加工品化の必要の好適例といふ可きである。

取引振を顧るに上半期大體右の如く對支鄭出を相當振つたが後半期の生地ものに至つては、八九月滿洲に賣れたが加工用水雷綴雜牌は上海向杜絶以來低迷し特に三十番手四十番手物は全く見返られず辛うじて南洋方面に振向けられてゐた、十二月に入つては印度南洋が春物として買附いたから生產も相待つて上向した。

香港に於ける晒細綾を見ると、晒金巾と同じく、今後充分研究の餘地もあり市場としての有望さも認められる、殊に同地は常夏の國を再輸出先として廣く控へてゐるのであるから、問題は今後にある、現在本邦品としては双童票が最もよく知られてゐる、沿岸地方向としての需要期は三月からであるが、大體年中輸入の絶えないものと見てよからう。

捺染細綾を見ると二三年來五枚朱子に壓倒され、光輝付捺染細綾は非常の減退を來してゐる、尙ほ本品は香港、廣東向としては固い仕上げは絶對に不向である。生地ものに於ては輸入生地物の大部分を占め、双鶯、双鴨竹虎、三星双獅子の上級ものは永く英國品に代つて强固なる地盤を有したが、兩三年來は綿糸同樣上海在支紡績品に壓倒され、現在上海品たる双魚票と相半ばするに至つた、遠からずして、上海、青島品に壓倒さるゝ事明かであつて、僅かに數年來賣込みし商標の有難さで辛じて現在の地位を維持しつゝあるに過ぎない、需要の多いのは八月からである。

ボンベイに於ては生地のまゝのものは當地へ輸入の餘地全然ないと思はれる、然るに捺染細綾は捺染物の中で最も需要の多いものである。二月頃から九月頃までを需要の多い時期とする。

チ、綿ボブリン

本年の輸出を見るに數量に於て約一割、金額に於て約三割の減少で、丁度一般綿布輸出不振の一例の形である。比

律賓、印度の如き相當大きな市場への仕向が前數例に見ると同一軌の下に減じた事が主因である。本品は必ずしも一般的需要性を具ふるまでには未だ至つてゐないけれども、小供服、婦人服用としての好みは漸次普及しつゝある樣に見られるから、今後に於ては幾分づゝでも增加して行くものであることだけは期待してよい。二三市場の近況を紹介すれば、

香港では歐洲大戰當時英伊品杜絕時代には本邦品の入荷多量なりしも、近年本邦捺染五枚の進出に依つて其地位を奪はれ數量上大なる減少を來し、殊に平ボプリン、紋ボプリン等、婦人小供服向としては全く捺染三枚に代られた感がある。只經六〇番緯三二番三子の普通品紋ボプリンだけは依然として一般向男子用としての脈がある。需要期は八月から十一月頃まで主に內地からの輸入である。

ボンベイは二月頃から六月頃までを輸入期とし、將來有望である。現在のところ英國品が優勢で、幅は三十二吋ものである。

ラングンでは當市場としてはボプリンは最近からの輸入品である。女用のロンギーに用ひられる、赤、青、紫、黃といつた樣な鮮かなものが喜ばれる。

リ、綿　縮

數量の約一割五分、金額の約二割を以て、本年の本品輸出は昨年よりも減少した。一昨年に比すれば三割以上の減小である。大阪の五十萬圓から百四十萬圓は約二倍半の增加であるが、神戶は四百四十萬圓から二百四十萬圓、四割以上を減じた。輸出先から見ると、大阪仕出の主相手國たる支那へは四十二萬圓から百三十萬圓に增加し、關東洲も五萬圓から八萬圓に增加してゐるのに反て、印度の百七十萬圓は九十七萬圓に、濠洲の八十七萬圓が二十萬圓に、喜望峯の五十三萬圓が、四十八萬圓にと、遠隔地は概して減退し、仕出地たる神戶からの數字を減ずること、なつた。ただ埃及の二萬圓が十萬圓となつた位が稀に目立つ所で、先づ總退却に近い。

元來本品は我國としては特有のものと言つてよく各國に亘つて洋々たる前途を思はしむるところがあつたものであ

る、にか、はらず兩年來甚しく萎縮してゐる。勿論一般不振の影響、殊に遠隔地に對しては爲替の不安にも抑へられた。併し本邦縮の名一度聞ゆるに至つた三四年前來の競爭が、品質を低下するに至り、遂に第三國品に地位を奪はるゝことになつたと見られる節も少くない。米國にしても今日は殆ど市場といふ可き地ではなくなつたが、一時は可なり活氣を呈し、頗る有望視された事もある。而も劣惡品質を以てする競爭の結果割高の米國品に完全に取つて替られた形である。

要するに急激に伸びんとして失敗したものと言ふ可きであつて、今や立直し、新期蒔直しである。支那への仕向增加の如きも、至近の彼地に需要に適するものをよく知りよく之に應じた事に依つて生じた結果であるとすれば、本品の將來は、この對支新期復活の例を以て、改めて各地市場に押出すことにある。

今二三の市場に於ける近情を紹介すれば、タンガニカの本品は殆ど日本品で、各種の色ものがある。一反三〇吋二〇碼もの、バザーでの値段は八志乃至八志五〇仙位である。白人の衣服、小供衣服となる外、流行好みの土人婦人のターバンやカンズールにも作られつゝある。

ボンベイで最も需要あるは馬印である。三〇吋×二〇碼ものとする。需要期は二、三、四月頃である。

ラングーンでは馬印、星印等最も多く、巾三十吋長二十碼もの五十反入を普通とする。需要期は一月から四月頃までとする。用途としてはインギー、ロンギンー、ショール、ターバン等に用ひられる。特に流行といふ方面の苦心は必要を認められない。十一、二月頃は輸入が始まり、一ケ月百個位の輸入があり、その中八割は白地で、二割が無地染といふ割合である。全體の七割は上ビルマ方面へ仕向けられる。

佛領印度支那では一、二月の頃を除いては常夏の國と言ふ可き地であるから本品の如きは大體有望なるものであり殊に佛國製綿縮が可なり高價であるから、頗る有望である。三封度格の輕目品、阿波絨の如きは最も土人商人の氣に向く模樣である。阿波絨の赤格子は土人婦人下着用として特に有望である。

香港では近年廣東方面及暹羅、佛領印度支那への輸出として、少量乍ら商談あり、上等品は都會向として言ふに足らず、一般向としては三封度內外のもの三〇吋二〇碼品が最賣行よく、仕上は無糊にして柔きものを喜ぶ、捺染の柄

物は未だ大量ならず主として無地白時の二色物が市販の中心で、需要期は三月からである。

又、綿フランネル

本年の輸出減少は、他の多くの綿布と略々同一軌にあつた。各市場の近況二三を紹介すると、

哈爾賓市場に於けるフランネルの輸入高は年額二十萬乃至二十三四萬圓見當である其の中大部分は綿ネルにて毛織ネルは頗る僅少である。輸入先きは主として日英米獨等で其の他特殊織物の中にはブラガからの入荷も多少ある、本邦品は支那側に需要多く其の他は在留外國人に消費されて居る、今各種別賣行狀況及び相場等を見れば、純毛ネル主に英國製品が輸入されて居るも値段の高い爲め需要は頗る少ない、然し純毛ネルと稱するも綿交織物は多少の需要を見て居る、値段は純毛一碼一圓五六十錢、綿毛交織八十錢乃至一圓十錢見當である。綿ネル片綾は大部分本邦製品で支那人の外套裏に用ひられ、支那人に消費されるフランネルの約八十パーセント或はそれ以上を占めて居る、幅は三十二吋長さ三十碼物が主に輸入され、商標は山羊印、金山印、水車印等である尙ほ本年の嗜好としては一般に大柄物が歡迎され値段は三十錢乃至四十錢見當である。捺染ネル露國人は部屋着に用ひ一般に中柄物を好む風がある、支那人は衣服の裏地として中柄乃至大柄物が歡迎されて居る、本邦製品は柄合が露西亞人の嗜好に合はない爲め賣行振はず米獨製品が歡迎されて居る、本邦品は富華印、三笠印、青龍印、五路財神印、マーチ印等が輸入され値段は二十五六錢から三十錢處である。無地ネル露支人間に何れも相當の賣行あるも全體の輸入割合から見れば僅少である、値段は普通品二十錢から四十錢厚地は一圓內外である。以上の外最近米國製の人絹を交織せる頗る體裁の良い物が賣出されて居るが、派手好きの中下流の露國婦人に喜ばれ相當の賣行を見て居る、値段は四十錢から五十錢位である尙ほ全般の賣行を見るに一般に安價で體裁の良いものが歡迎され、生地の品質如何は常に第二第三の問題とせる模樣である。本邦品は大部分安東經由にて輸入され外國品は凡て大連經由であるが、關稅は前者は從價三分五厘、後者五分である。

香港では無地四色、赤一色最も多量に輸入せられ、殊に赤一色は婦人子供服、男子帽子裏等に利用さるゝ點に於て

喜ばれる。雲南への積出が多量にあるが現在多くは神戸在留華商の手で取扱はれつゝある。二三年來小中柄及內地大柄ネルの需要を見つゝあり。可なりの數量に上つてゐるが、之らは主として福建沿岸汕頭厦門方面へ行くもので、小中柄は廣東廣西兩省一帶へも向けられる。大柄は婦人子供服小中柄は男子服裏に利用される。需要期は八月から十一月までである。

ボンベイの需要期は八、九、十月頃であり、將來共に有望なる商品と思惟される。

オランダからは兩面起毛の厚手物が輸入せられ、伊太利からは廣巾もの、輸入がある。

カラチに於ける捺染物の需要漸次增加するの傾向があり、最近の輸出品としては、伊太利の十五萬留比、本邦品の十三萬留比といふ割合であつて英國品は少い、晒物は英國日本から入るが極めて少い。

ラングンでは巾二十八、九吋、長四、五十碼ものを普通とする。無地、捺染縞、捺染格子の順に需要がある。捺染格子でも兩面格子よりも片面の方がよく賣れる。無地染では赤、綠、空色、桃色の四色があり、時に白を加へた五色ものもある。白無地は極めて普遍的なもので、輸入綿ネル全體の半分位に當る。需要期は九月から一月頃までとて、用途は上着、腰卷等に用ひられ、輸入の八割は上ビルマへ仕向けられる。

ル、縞木綿

他種綿布同樣不振を免れなかつたが、比較的高級品に屬するものが一般に輸出減の程度大ならざる一例として本品も擧げられる。やはり遠隔地よりは近い市場に對しての輸出が順調であつた。

香港に於ける本品は高級ものに屬する六〇番以上のもので勾配入白縞物、織込縞物等は從來英國であつたが、一昨年の英貨排斥後は米國品、獨逸品、チエコスロバキア品が代つて入り、本邦品も弗々見られるが値段の割合に品が思はしくないとの評を免れない樣である。偶々以て精巧なる織物を如何にして安く供給するかは刻下本邦綿業界の急務と言ふ可きであらう。これらは夏物關係上三月からを需要期とする。

縞三綾を見るに香港は爪哇、印度と共に本邦品の重要なる市場で、各方面に亘り四季を通じて需要せられ、年中輸

入を見る。普通藍柄は勿論、色縞物二十四吋十五碼ものも、三十碼ものと同程度に輸入せられ、經緯吋間百二十三本が標準とされてゐる。佛領印度支那の取引が同地排貨で行詰つた事は同方面行としても數量を可なり減じた事と思はれる。尙同地方では縞柄の流行が甚しく變遷するから、此點は充分の着意を當業者に望まねばならない。

なほ捺染白地縞三綾では竹虎級の生地が最も多く、それ以下の生地は香港向としては不適當と思はれる。春夏物シヤツ、ズボン用として男女共用ひる流行品である。相當數量の輸入を見つゝあるが、本邦品は洗濯に强くない關係があり、充分研究の餘地がある。インダンスレン染として安く供給する必要があらう。

ボンベイの縞三綾は五月頃から九月頃までを主なる需要期とする。本品はボンベイに於ても製產されるため、ラングンやカルカツタに比べると輸入額は少い。

ヲ、更紗

更洲の輸出は逐年減りつゝある。本年は昨年に比し數量二割强、金額二割弱を以て更に減退し、殊に神戸積出の比較的遠隔地への仕向けが頓に減退した。

主なる仕向先として、支那は昨年八百二十萬圓であつたが本年は九百五十萬圓即ち約一割六分を增加した。就中その主體たる大阪の七百九十萬圓から九百四十萬圓は目立つてゐる。印度は昨年の二百四十萬圓から本年は百二十萬圓に半減した、殊に神戸の積出は二百二十萬圓から五十萬圓に減り、大阪積出は二十三萬圓から六十三萬圓になつた。漸次大阪寄航船の增加に伴つて直積が多くなりつゝあることを示す、印度への全體的減少に爲替と歐洲品の活躍殊に獨英品を見逃せない。關東洲、香港は大した變化はないが若干減少し、蘭印は六十萬圓で昨年に約二倍する、支那印度に次ぐ地位に達するかも知れない。暹羅の八十五萬圓が本年は僅かに七萬圓と減じ、比律賓の七十五萬圓が十八萬圓に減じたる如きは著しいもので、前者は排日貨の主因とし、後者は不況と米品の擡頭を主因とする。香港に於ける本品に關する小報を紹介すれば同地では仕上げが總べて柔かなるを必要とする、稍々熱帶に近い關係上洗濯が頻繁にされるから固い仕上げは禁物であり、染色の堅牢は勿論のことである。

ワ、綿繻子

凡そ本年の我輸出綿布は、支那に對する限りは大部分增加であつて、他市場向が一般は振はなかつた一般的不良の中にあつて目立つ所である。本品の如きも對支輸出は昨年三千七百四十萬圓が本年は四千七百四十萬圓となつてゐる通り、支那が輸出先の大宗たるのみならず、その增加を來したことが直ちに全體の增加をなしてゐるのを知るのである。關東洲も三百五十萬圓に達し、昨年よりは幾分の增加である。香港の四百二十萬圓は昨年に比し約五百萬圓の激減じあるが、同地を經由する佛印暹羅等行が排貨に多大の影響を受けたのを主因とすると見られる。關東洲を通じて見た支那としては結局五百餘萬圓の增加となつてゐる。印度は昨年の百五十五萬圓から百〇五萬圓に減じた、主として神戸からの減少で、大阪としては四十二萬圓が六十四萬圓に殖えてゐる。蘭印に對しては大阪から三百八十萬の積出あり、昨年より九十萬圓方の增加であるが、神戸は百二十萬圓から三十四萬圓となり、仕出港としての地位を著しく大阪に讓つてゐる。蘭印自身としては結局大した變化はなかつた事になる。

內地としては何うであつたかを顧ると、主として後半期の概況について言へば、五枚繻子は四十二番手綿糸の四百三十圓に達した七月始めに二十七錢五厘の相場で商內が行はれた、其の後綿糸安で引下げられたが上海が賣行閉塞に近い狀態の裡にも天津、靑島、滿洲に賣れたのと新開拓地南洋、印度の需要が段々多くなつて來たので期近物が案外消化良好でかれこれ一萬俵以上の月產額も難なく潰されたが、さすがに一般綿布の景氣不良が祟つて採算上の甘味に乏しく、唯金錢の極めて自由な點と、續ければ可なり能率の累進して來る爲め機業家が競つてタベット裝置を施し自働織機を設備して此種綿布に進出してゐる。今年は特に單糸を以てした主として捺染生地用の五枚朱子が增產されたのは一進境であつた、十二月に入つては方那八方塞りで過剩氣味となり本鞘化として來てゐたが、舊正前の一順賣行は相當にあつた。右の外四十二番手經糸の變織綿布四、五月支那方面に好賣行を示し量に種類に格段の發展を見たが排貨以來は頓る順調につゞけた。香港に於ける本品の近況報告を紹介すると、

同地本品の大半は五枚繻子で、八枚はその三分の一程度の輸入を見る。兩三年來光輝付八枚朱子で逐年輸入を增しつゝあるのは喜ばしい、各方面へ再輸される爲め、縞三綾に次ぐ數量を占め、使用方面も服地のみでなく、八枚の如きは靴にも使はれるなど、四季とも不斷の需要がある。暹羅方面へ五枚黑の再輸出が漸次增加しつゝあつて、或は遠からず本品は香港輸入本邦綿布の主位に立つに至るであらうと期待される。

捺染五枚朱子、拔差捺染五枚朱子は二三年前より逐次冬孝婦人子供服として紋ボプリンに代用され、配色の妙、柄行の變化等により非常なる勢力を以て輸入を見つゝある。柄合も花模樣は既に倦かれ、格子其他時代模樣式のものに移りつゝある樣である。主として廣東方面へ出向くもので、需要期は冬物なるため八月以降である。

カ、綿モスリン

本品は貿易統計の上にはじめて上されたところであつて、從來は主に金巾としての名目中に含まれてゐたものである。實質上薄手の金巾とも言ふ可きものかも知れないが、普通は新モスの名で呼ばれてゐた。更紗捺染等を施し、モスリンの味をまねたものである。右記の數字は全部加工品であつて生地ものを含まない。輸出額は阪神合して二百萬圓を超すに至り、比較的新しいものとしては相當の進出と言へる。

抑々本品が輸出される樣になつたのは、羊毛工業會の對支モスリン輸出宣傳をやつたことからはじまる。同會がモスリンの宣傳を支那ではじめた最初は鮮麗なモス友禪は先づ北京の妓女を中心として流行しはじめ、逐年宣傳個所の移動と共に各地に流行したが、近年漸次減少し、今や百萬圓に足らなくなつた。これは主として友仙の圖案そのものはよいが、衣服に裁上ける際脊の縫合せ目を合致させる支那人の要求が考慮に入れられなかつた爲め、餘分の尺を買はせぬばならず、需要者をして不經濟を感ぜしめたなどの原因もあり、綿繻子の勢力もあるが、一方此の間に値の安い綿モスの進出に因る所が大である。換言すれば本品はモスに誘導されて支那に入り、今日では蘭領東印度へも約七十萬圓は行くようになつた。其他僅かではあるが關東洲、香港、海峽植民地へも出るようになつた。國別の詳細は付表細示の通りである。支那では既に固定的な地位が出來てゐるが蘭領東印度方面を見ると本年末の如きはナフトール赤一色染の綿モスに對する需要激增してそのオッファーの如き一口二十個乃至五十個と云ふ大口ものばかりで小口ものが一も無いと云ふ程の盛況で尙漸增の傾向顯著である。生地は紅藤、櫻五千番級のものを用ひ赤一色で內地向柄その儘に染色されてゐる。土人がヴェールの如く頭から一種の裝飾用として用ひられるこゝで、染色の堅牢なのと、價格の低廉なとで土人の需要に合致して、從來その種需要に供せられてゐた佛伊製のボイルの領域を完全に略取したと傳へられてゐる。堅牢度の高い紅色の鮮かなものゝみが歡迎され本邦品中でも粗惡品は非常に評判が惡い。目下の賣約價格は一切一圓七十七錢五〇でこの見當の相場なら間斷なしに買註文を寄してゐるような次第で、前途多望を思はしむるものがあつた。

香港でも二三年來逐次增加の傾向あり、廣東、汕頭、厦門に相當の入荷を見つゝある樣である。主に婦人小供服として歡迎されるもので、綿を入れて冬服に使用される。

綿毛布

本品の本年度輸出は金額約一割五分餘を減じて二百八十萬圓となつた、たゞ數量に於ては反對に却つて約一割を增加し、從來に比べて稀に見る多數に上つた。昨年までは年毎に減少しつゝあつたが本年は久し振りに大正十四年の二萬九千擔に近い數字に回復し、頓に頹勢を挽回せる趣があつた。

市場に就て見ると、各地とも本品に對する需要は假令少しづゝでも漸增することは疑へず、問題は獨逸、伊太利及白耳義品の競爭である。而して從來本邦品は其製織原糸が高級に過ぎ、前記歐洲品が屑、襤褸を利用して製造せられ著しく原價が安く出來つゝあるのに對しては對抗困難であつた。戰後十年、歐洲品の實力回復と共に本邦品は輸出減少亦止むを得ざるところであつた。これが近年の漸減を來せる何よりの主因であつた、併し幸にして、府下大津町をはじめ主生產者に於て極力生產方法の改善に努め、遂に最近に至つては歐洲品に比較して二三割方安價に出來るようになつた樣である。誠に喜ぶ可きところで當業者の努力を多とせねばならない、輸出金額は減つたが數量では大いに回復したことはかゝる事情に基くもので、希くは斯く充分の準備が出來た以上、販路の擴張、數年前の輸出額又はより

以上の進出これである。恐らく將來これは實現するものと期待されるところである。二三市場の近況を附記すればラングーンに於ける綿毛布はボーター付き及びフレンヂ付きの二種あり、模樣は捺染花模樣及格子を以て代表される。四十八吋七八吋ものである。從來は殆ど日本品の獨占的勢力下にあつたが、最近に至り孟買方面から格安品が輸入されて來て、これがため日本品は漸次減少する傾向がある、研究を要する。大體シャムの本邦品は全輸入額の二割であるが、增加率は可なり著しいものあり、も一つ進出の望みあり。有望なる市場である。

ボンベイでは現在對抗品として伊太利品と獨逸品がある、伊太利品は下級品で本邦製品との競爭品である、獨逸は高級品を供給する。

メリヤス製品

メリヤス製品は本邦輸出品として極めて重要な地位に居る。本年の如きは綿織糸を拔いて其上に上り、生糸、綿布絹織物の如き第一位品には遠く及ばないが、之に次ぐ精糖、陶磁器に次ぐの地位即ち我が輸出品の實に第六位にある。其輸出額も年を逐うて增加し、本年は一千百四十萬打、其金額三千三百萬圓を超ゆるに至り、昨年に比し約二百萬打四百三十萬圓の增加を來してゐるのである。

この三千三百萬圓といふ數字は綿糸輸出金額の上にもあるもので、本邦綿製品としては綿織物の二億五千萬圓は固よりであるが、之を除けば莫大小の製品の外に生地メリヤスが約百萬圓の輸出を示してゐるから、絹製其他を控除しても三千萬圓と下ることはない。而して大阪は輸出莫大小即ち大阪と言ふ可き地位にあり、東南洋一帶は固より、英國、阿弗利加、南米其他殆ど全世界にその羽翼を伸してゐるのは、誠に一の壯觀と言ふ可く、大阪のために誇る可き一の產業をなす。

輸出額三千萬圓といふ數字は、この中千五百萬圓が原料たる棉花の代金である、紡績會社の利益が約三百萬圓に當り、殘りの千二百萬圓が本業者の利得となり、工業の結果を國內に止めることゝなるのである。日本の如き國情の下に於て推奬す可き代表的產業の一であると言はねばならぬ。

大阪及神戸積出のそれは常にその九割以上を占めてゐるから大體に於て本表とかはりはないが、詳細は附錄の詳表に讓る。

海外市場としては依然印度、英國、比律賓を主なるものとし、阿弗利加、南米も近年市場としての著しい重要さを示す印度に對して本年は百萬打、二百二十萬圓と增加し、依然我莫大小市場の第一位として又實需上の確實さを見せてゐる、本年の印度は農作物の餘惠必ずしも豊かならず、奥地購買力も減じてゐたに不拘かゝる成績を示し、然も相當な注文にして未だ本年中に積出を見ないものも少くなかつた。

英國向輸出の八十萬打、百八十萬圓增加も頗る大きく、印度と共に二大市場と共に顯著な增加で吾人の意を强うする所少くない。英國は莫大小輸入關稅上程と共に通商上の不安著しく、彼の濠洲の二の舞となるのではないかと案ぜられたが、幸にして四月に該案の否決を見たのは何よりであつた。尤もこの爲め年初以來長期商談は控へられ、その後も他國より代つて入荷したもの、爲に一時は新注文も少かつた、併し下半期から再び商談は旺盛に行はれ一般の活氣を以つて積出が行はれた。尙ほ此方面向の人絹入其他高級品の需要に應じて自ら我莫大小業の精工業化を來しつゝあることも喜ぶ可き現象である。

比律賓は僅かではあるが昨年よりは減少を來した、數量では約三分足らずの增加なるに反し金額は約百萬圓の減少である。若し新嘉坡、爪哇等に至つては一層甚しく、歷然として華商の排日貨の跡を示してゐるのである。これは同地方の不作等をも原因とせぬでもないが、主因は排貨にあつて、田中外交の飛沫は輸出を可なり減らしてゐるのである。

爪哇、スマトラ地方に於ける綿メリヤスシャツの消費量は近年頗る多く、年々八十萬打、金額三百萬ルピーに達する巨額の輸入を見つゝある。而して歐洲大戰前はドイツ品が第一の輸入量を占めてゐたのに反し、戰後日本品の進出著しく、その販路を蠶食し、遂に第一位に上り、現在では左の如き持分をなしてゐる。

	昭和元年		同　二年		昭和元年		同　二年
日本	二、一七二、五七四	二、四九九、八二一		ドイツ	五六四、五一八	三四二、三五五	

オランダ　二六七、五六六　支那　五〇、九二七　一三六、二九五　六八、七六六

しかしながら本邦品は價格の低下にのみ重きをおく爲め、獨逸品の堅牢なるに比べると、縫目が綻び易く、縞もの染色加工がよくないために日光の直射で脱色し易い、從つてドイツ品が比較的上流階級に需要者を有する反し本邦品は土人等の下層階級に多く使用せられ、年々品質は低下しつゝある。切角築上げた本邦品の信用も、長く此の狀態では、遂に信用を失ひ、同時に販路を失ふものと言はざるを得ない。

埃及　南阿共に本年の進出は著しく、歐米品に代るセーセー其他特殊品の增加した事、奥地市場へ漸次普及して來たことなき有望なる前途を約束してゐると思はれる。西部方面に對しても、マルセイユ、リバプール經由で行くものが少くなかつた。

其他南米　支那等相當の市場であり、大勢から言ふ時は全世界を通じて增加するとも減少しないので我莫大小輸出の趨勢である。

帽子

昭和三年の輸出帽子は合衆國、香港、アルゼンチン等の輸出減があつたにもかゝはらず、全體として昨年に比し二百七十八萬四千圓の增加となつた。即ち、合衆國は昨年より、七十五萬二千圓を、香港は十六萬九千圓をアルゼンチは三萬圓を各減少したが對英輸出額は昨年に比べ約三倍に垂んとし、百五十六萬圓の增加を示したのを始め、蘭領印度十七萬圓、關東州十萬八千圓、支那四萬六千圓濠洲三萬四千圓其他百八十一萬三千圓の輸出があつたゝめ結局、前記の二百七十八萬四千圓の增加となつた。即ち對米輸出減を對英輸出增にて補つた容である。

之に對して大阪港はフェルト製五萬三千二百四十一打、六十萬六百十三圓、其他製三萬七千七百四十一打、三十萬三千百二十八圓合計九萬九百八十二打九十萬三千七百四十一圓の輸出を示し、昨年の九十六萬四千二百四十六圓に比し六萬五〇五圓の減少である。然るに神戸港は、模造パナマ製二十七萬七千七百餘打、二百九十四萬一千圓、麥稈製九萬二千百打六十六萬三千圓、其他六百四十二萬四千圓合計一千二萬七千圓の輸出を示し、七百三十八萬に比し二百六十四百八千圓の增加を示してゐる。

大阪はフェルト帽子を主とせるため昨年よりも減少するのやむなきに至つたが之に反し神戸港は從來原料眞田が主で帽體が從てあつたものを顚倒し、麥稈製九萬二千打六十六萬一千圓、フェルト十三萬三千打九十五萬八千圓、模造パナマ製二十七萬七千打、二百九十四萬一千圓、布帛製三十四萬九千打、八十六萬九千圓其他三十二萬五千打四百五十九萬二千圓合計百十七萬六千打一千十五萬餘圓にして（神戸港輸出統計參照）輸出品中重要の位置を占むるに至つた。特別の事情の突發せぬ限り依然好調を持續するものと見られる。思ふに昨年度の輸出帽子がこんなに活況を呈したのは、海外需要地に於ける嗜好が、原料眞田から手編にかはつた結果で、形體色彩乃至原料等には新規の意匠で歡迎されつゝある事は明かである。然し、手編の嗜好が一年間で捨たるとは思はれないし且つ手編の如きは原料眞田と異なり生產能力にも限度があるから見込は甚良好である。臺灣全島、琉球を合せて七月平均最大限能力は六七萬打に過ぎなかつた。需給關係から見ても昨年中常に供給が不足勝ちであつた事から見ても海外に大した滯貨があるとは思れないから來年度に於ても活況を呈するものと豫想されてゐる。

鈕釦

貝釦の輸出は年初英國の關稅問題起り可成その前途が憂慮され、一面支那問題にて年初活況を呈したこの方面の貿易も一休みをした爲、一時は如何なる事かと思はれたが結局數量に於ては前年に比し多少の增加を見た位であつた。然して近年海外より下級品の取引著しく激增せるとと業界が引續く不況に動きのとれぬ窮狀に陷りし爲、之を脫せんとするあせりの爲値下げにつゞく値下げを以てせる等の爲、數量に於ては約二分五厘方の增加であつたに拘らず價格に於ては二百二十二萬餘圓、二割五分强の減少を見た。然して英國向に於て五割强の減少を見た事は矢張全體に影響し他方面向には大した變化は見て居ない樣である。

其他釦類は需要多少旺盛で例年よりは多量に出された、然し市價は一般に低下した關係上價格に於ては多少減少してゐる。ナット釦界は販路の擴張並びに製產の增加により相當活氣あつた樣である。

斯業の中心は何と云つても大阪で、生産地たる大阪及和歌山、奈良及淡路を控へその輸出は殆ど阪神兩港を經てなされてゐる。

輸出先の主なるものは英國、支那で其他世界各地吾鈕釦の影を見ざる地なき狀態にある。然して各地共年により多少の增減なきにしもあらざるも、大體は一定してゐる事は如何に本工業が廣く平等によく努力せるか、その努力の蹟を物語るものにして、業界今日の濫競爭に何物かを指示するものにあらざるか？

貝釦は依然として不況狀態にある。即ち一般製造業者は引き續き原料高に引き續き換へ製品安なる爲商內活潑ならず、多少の繰短を見つゝも尙ストックを多量に殘す狀態にて海外への廉賣も盛に行はるゝ有樣である。一面內地に向つてもこの際新販路の擴張にはつとめてゐるが之とても競爭者續出思はしからず、今や各業者とも身動きもならぬ窺狀にある。たゞ優良品及比較的廉價なるも生產費の伴はざる支那トブ貝釦の如きは漸く採算を保つてゐる模樣である。

たゞナット釦類のみは海外販路の擴張及製法の改良等により多少活況を呈した樣である。

洋紙

貿易狀況　昭和三年中に於ける洋紙貿易狀況は意外の好成績で、輸出總額一億七千八百餘萬封度、二千五百六十七萬二千餘圓で前年度に比し數量に於て六割價格に於て三割三分の激增で未曾有の多量に上つたわけである。

他面輸入狀態を見るに數量一億五十萬封度、一千四百三十余萬圓で前年度に比し數量に於て一割二分、金額に於て七分の減少で大正十一年以來の最少に下つた。從つて輸出入差引尻は數量に於て七千七百五十餘萬封度、金額一千百三十餘萬圓の出超で我が洋紙貿易上未曾有の好成績であつた。

本年の洋紙貿易がかく好成績を示したのは印刷用紙の輸出激增及包裝用紙の輸入激減によるもので、印刷料紙の輸出增は內地生產過剩の爲極力之を支那、南洋方面へ輸出したにより、包裝用紙の輸入激減は、富士、王子、樺太の三社共に多量に之が製造をなせる爲輸入を阻止したものと見られる。

輸出狀況　輸出洋紙の主なるものは印刷料紙にして紙類輸出の年額を占め、之に次ぐは板紙、煙草用紙、包裝用紙、鳥の子紙等である。

洋紙輸出先の主なるものは支那、滿洲で支那は一千五百八十九萬圓、全輸出額の六十二%を占め、滿洲へは三百八十四萬圓、金額の十五%にして、香港、北米合衆國之に亞ぐ。

輸出洋紙の主位を占むる印刷用紙の約八割は支那へ向けられ、漸洲、香港之に次ぎ、煙草用紙は支那、比律賓、滿洲に向けられる。

本年度洋紙輸出の激增は印刷紙輸出の增加に起因し、印刷料紙輸出の增加は支那向輸出の增加によるものにして、昭和二年度支那向印刷料紙輸出高は四千六百九十萬封度、五百八十六萬圓で、本年度は之に比し三千八百五十萬封度(八十二%)四百十九萬圓(七十一%)の增加であつた。

支那に於ける日貨排斥が極めて熾烈であつたに拘ちずこの旺盛なる輸出を見た原因は入地生產過剩により各業者が努めて安價に輸出をはかつた事と支那が日貨排斥をなしつゝも紙類のみは日に月に增す需要を如何とも阻止し得べからず、その上、日貨排斥によりの供給杜絕とならば、紙價の騰貴は必然の結果にして日刊新聞に之に耐ゆべからず、さりとて之を歐米に仰ぐには輸入不如意にして又印刷機械類が日本製なる爲のサイズに無理を生ずる等故障續出にて不得止日本洋紙輸入に辨法を講じて、吾製品に俟たざるを得ない狀態にて、日に增す需要が殆ど日本に向けられたに依るものと見る事が出來る。

其他の諸國向輸出には大した變化はなかつた。

輸入狀況　輸入洋紙の主なるものは印刷料紙にして五百五十二萬三千圓、輸入總額の三分の一以上に占め、之に次ぐは包裝用紙の三百九十四萬圓、模造羊皮紙の百五十萬圓、筆記用紙の一百萬圓等なり。

アートペーパーは關稅率引上げにより昨年度は一時相當の減少を見たが、內地の需要依然增加の形勢にあり然も內地製品の品質は未だ充分に外品に對抗して印刷業者鑑賞家等の滿足を得べくもあらず、內地生地昨年に比し二割餘の增加を見しに拘らず輸入に於て六割八分の增加を見たる次第である。

本年度紙類輸入總類一億五十萬封度、一千四百三十四萬六千餘圓で前年度に比し一千二百六十萬封度(約一割一分)

一百萬圓(約六分五厘)の減少であつた。この減少の主なる原因は包裝用紙の減少によるもので昨年度の五百三十萬圓に比し百三十一萬圓(二割五分窮)の著しき減少で之は內地に於ける富士、王子、樺工等の著しき增產によるものと見られる。即ち昭和二年度約五千六百萬封度なりしもの昭和三年度八千一百萬封度を生產せるに見るも明らかである。

其他アートペーパーを除く一般印刷料紙も多少の減少を見てゐる。一面模造羊皮紙、寫眞用紙等は相當の輸入增加であつた。

之を要するに內地斯業は益々發達し、凡ゆる製品の大量生產に一歩〳〵成功しつゝあるも一部特殊製品及新製品は需要急激に增加するも製造之に伴ひ得ず過渡的に一時輸入相當量に達するの狀態である。

而して印刷料紙の四割四分、包裝用紙の六割二分は阪神兩港よりの輸入にかゝる。

內地狀況　昭和三年中に於ける日本製紙職合會員各社の總製造高は、十三億五百七十餘萬封度で、未曾有の多量を示し、前年に比し、一億五千四百二十餘萬封度(一割三分四厘)の增加である。昭和三年中の繰短による減產量は約一億封度であるから繰短がなければ相當の巨量に達するわけであつた。本年中の新抄紙機增設は五臺——網巾五百五十六吋であつた。

一方需要の方は是亦記錄の巨量を示した。即ち總量十二億四千九百餘萬封度で前年に比し八分四厘九千七百萬封度の增加であつた。本年は御大典總選擧による出版物の臨時需要增加及び引續く圓本用紙の需要による增加がこの巨數を示したものと思はれる。

かくて內地生產高は未曾有の多量に上り、多面需要高も之に伴ふ位の多量であつたにも拘らず、本年中の洋紙相場は例外なしに漸落の一路を辿り印刷用紙千歲印一封度年初十六錢五厘より年末十六錢に、同じくB模造紙十五錢一厘が年末十四錢四厘と何れも低落した。これで大正十四年春以來引續きの下落であるが、本年に於ける下落率は多少縮少された模樣である。

かく生產增加による競爭熾烈で市價は下落しつゝあるも各社共殖分宛生產費の輕減に銳意せる爲、採算は前年に比し殆んど變化はなかつた樣である。

陶磁器

輸出狀況　吾國陶磁器の聲價は高く海外に響き、高級品より下級品に至るまで夫々その國情に應じ、その民土に適する樣廣く世界各地に仕向けられつゝあり、かつては支那を以て陶磁器の本場とせるもの、今や變じて吾國が世界の本場たるに至れり。而して近年歐米諸國に於ける東洋趣味の流行を見るや本品の需要益々旺盛ならんとするの趨勢にあり。昭和三年度陶磁器類輸出總額三千四百六十四萬二千六百七十八圓、昨年に比すれば四百十五萬千二百八十三圓、一割四分弱の增加に相當する。一昨昭和元年度に比するも尙百四十六萬餘圓の增加じある。かくも多量の輸出を見るに至りたるは前述せる如く、歐米就中米國に於ける東洋趣味の流行を業者がよくさらへて、この大勢に順應し得た事、並に蘭印方面の需要が益々旺盛となり、支那向が戰亂にも不拘案外好成績なりし事等にして、歐洲方面は大した變化なきも、米國、蘭印、濠洲、加奈陀方面への著しき進出を見たるは將來の問題として特筆慶すべきであらう。

大體日本品として海外に廣く活躍しつゝあるものはコーヒセット、洋皿、小皿類より、薬物、砂糖入、土瓶、茶碗其他一般食器類等重きをなし、何れも總體に於て安物なることを以て名あり。歐米、濠洲方面等には硬質陶磁器其他高紙品が向けられてゐる。現今米國方面向には特に東洋趣味の思潮旺盛なるものある爲賣行き盛なるも同國の國民性によればその流行の生命は至つて短く、嶄新なる意匠を常に求めつゝあるが如くに認められる、他面同地方に於けるチエコスロバキヤ、獨逸、白耳義等の競爭相當猛烈にして、宣傳これ努めつゝある時に際して、一時の賣行により曼如たらんか、常に嶄新なる意匠と、經統的販賣方法を以てよく米國人の風習流行に投じ、之を導かんものと不斷の努力を怠らざるチエコ、獨逸等の製品によつて、延びつゝある吾が市場を惑亂さるゝ、決して杞憂に止まらざるに至らん。

支那、南洋、濠洲にして然り、格別なる事變なき限り同地方に於ける邦品の需要は年年增加しつゝあり、特に南洋方面の需要の增加は著しきものあり、同地輸入の皿類に於て八割、鉢類六割、其他邦品最も優越の地位にあるも、これ亦チエコ、獨逸、白耳義等の進出目覺しく、日本品の壟斷を許さらんとしつゝあり、その販賣方法等同地方に先

輩たる吾國の取つて以て他山の石とするに足るものがあらう。

人情風俗趣味等系統的に敏活に研究してよく吾が市場の維持發展につとめねばなるまい。

内地生産狀況　昭和二年度生産高七千四百四十萬圓で、本年は約一割增産の八千萬圓程度と見られ、その中飲食用器具最も多く六割を占めてゐる。愛知縣最も盛にして全國の半分を生産しつゝあり。輸出は今まで神戸、横濱、名古屋の三港より輸出されつゝありしが近年名古屋港の完備と相俟つて同港より輸出さるゝ數量頓に增し、昭和三年度同港輸出額千八百七十七萬二千圓に上る。

硝子壜（附硝子製品）

本年度硝子瓶の輸出は前年度に比し數量に於てさしたる變化は見られなかつたが、價格に於ては多少の增加であつた。昨年度はモラトリヤム後財界不況の爲め市價低落し、爲めに輸出は增加したが本年は市價も割合に戻した後をうけて之を維持し得た事は喜ぶべき事である。

瓶類の中で最も外く出るものは藥瓶、礦泉瓶、清冷飲料水瓶で之に次ぐは斤瓶である。

而して之等瓶類の中阪神兩港より輸出さるゝもの三百五十四萬圓、大部分は大阪製品で、仕向先の重なるものは印度（八十一萬六千圓）比律賓（七十三萬七千圓）蘭印（五十萬六千圓）支邦（三十六萬）等である。

その中藥瓶、斤瓶は印度南洋方面に向けらるゝもの多く、礦泉瓶は支那、比律賓方面にむけられる。一時支那方面へ之等瓶類は極めて多量に輸出されたが近年同地方に製造家簇出の形にて昔の殷盛は一場の夢となつてしまつた。

コツプ類の阪神兩港より輸出さるゝもの二百二十四萬圓、その中印度へむけらるゝもの九千七萬圓、蘭印四十六萬圓、濠洲二十八萬五千圓である。印度、蘭印、濠洲方面に於ける邦品の地盤は相當根强きものあり、他國の一指だも染め得ざる程度のものと思惟されたるに近頃歐洲品の進出あり、かて、加へて內地同業者の無暗なる同士打の繰返さるゝ等、爲に同地商人も日本品取扱に間々不安を生ずる事なき能はざる樣子、その將來を案ぜらるゝ由である。氣候風土の關係上、同地方向コツプの需要は尙々增加するものと思はれる。相當考慮する餘地があらう。

鏡は印度、支那、滿洲、蘭印方面に向けられ、極めて安價に輸出されてゐる。數量に於ては殆んど變化はなかつた。硝子腕環、模造眞珠等多少づゝ減少したが、之等裝飾品は、印度、蘭印、海植方面が割合に不況なりし爲と思はれる。

内地狀況　板硝子を除く一般硝子製品製造の中心地は大阪で、昭和三年度大阪硝子製造組合員の生産高二千六百九十四萬九千百八十四圓で、その中內地向一千五十一萬五千六百九十三圓、輸出向一千六百四十三萬三千四百九十一圓と發表されてゐる。その他模造眞珠、腕環、光珠等で同組合以外に獨立檢査をうくるもの相當に上る事よりすれば輸出の殆どは大阪製品と見る事が出來る。今その生産並に輸出狀況を表示すれば次の如し。

昭和三年度大阪硝子製造組合員生産並に輸出表

營業品種類別	內地之部 生産額	內地之部 價格	輸出向之部 生産額	輸出向之部 價格
鑛泉・ソーダ・ラムネ壜	三、〇〇五、〇〇〇打	一、六五一、七五〇圓	一四四五、六六九打	一〇四、一三七圓
麥酒・日本酒壜	二、三五三、六〇〇	二、三七九、三四〇	三、二五一	二、一六七
醋酸壜	六、三〇〇	三九、〇〇〇	一、一六五	一、四四二
諸藥壜	四、四八二、一四〇	一、〇九五、〇〇〇	五、七四二、六五八	七三九、七六九
化粧品壜	五、〇九二、三〇〇	一、五三七、七五〇	六五五、七〇五	二一四、三四三
斤壜	一〇〇、三五〇	九八、五三八	一四八、六七五	三六九、五三六
其他ノ諸壜	一、七八五、七二〇	五八〇、三六〇	四四五、八六二	二六六、五八九
食器	二、四二八、七〇〇	七七七、一八四	三、一八七、四九二	一、九三三、〇二三
食料容器	六二五、三五〇	五〇〇、〇〇〇	二一一、四九五	一七一、一二二
ランプ火舍	五二一、五〇〇	一七、五二〇	九一五、六〇二	三〇〇、六一三
ランプ電燈用笠	七三四、三六〇	一、〇四三、〇七八	九七、五三一	一五八、五六六
ランプ油ツボ	一五、六〇〇	六、五五二	二五六、六九八	二八四、三八四

模造眞珠	—	一、二〇〇、〇〇〇	二五一、〇〇〇	—	二〇二	九三九、八一七			
光珠其他裝飾品									
理化學用品		五三六、四五〇	三三一、一〇九	—	八五五、五九六	一七二、七六九			
腕環	—	—	—	—	—	—			
試驗管	—	—	—	—	二五、九九一、四九三	一、四三六、〇五八			
ビーカー	—	—	—	—	五、四三三	一、五八四			
フラスコ	—	—	—	—	二、五六八	四、二六三			
漏斗 分液漏斗	—	—	—	—	三、一四五	六、八八五			
其他	三、五六二、七七〇	四二七、五三三	二、二五九	—	六一、三四四、一八八	三、七六七			
小計	二六、一三九、七三〇	一〇、五二五、六九三	八四、三六六、六一七	七、六九五、六七九					
				一六、四三三、四九一					

備考　光珠、腕環、模造眞珠の數字比較的小なるは何れも工業組合の組織と共に組合を脱退し獨立檢査を行ふによる

昭和三年度大阪の生產高は前年度に比し多少の增加で、輸出に於ては何れも一部を除き數量價格共多少づゝ減少を見てゐるが、それだけ內地向は一部を除き殆ど增加を見てゐる。然して內地向市價に於いてはさしたる變化はなく、却つて多少戾した樣にも見受けられる。然し一般に尙業界不況の域を脫するに至らない。

海外狀況　支那に輸入せらるゝ硝子及同製品の主なるものは板硝子、食器、化粧品、藥罐等にして硝子器及水晶器、空壜について之を見るに

硝子器及水晶器

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
	七五五、七四四海關兩	七二九、九六七海關兩	八六三、五三三海關兩
空壜	六三九、八八二	四八五、六六一	五三三、九八一

最近三ケ年間上海港輸入硝子器及水晶器統計表(單位海關兩)

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
英國	一、六八、九四一	三一、〇二六	二三、〇七七
獨逸	六六、五二四	八九、九九九	四、八二三
白國	五三、一二八	一〇、一九一	一八五、八一〇
日本	八四〇	一六三、四六七	—
比律賓	一三二、一五八	四二、五二七	六二、六七五
米國	六六、五五八	三四〇、八八四	三八四、三七七
計(其他を含む)	九九七、九四九		

同硝子空瓶輸入統計表(單位海關兩)

	一九二四年	一九二五年	一九二六年
日本	二五五、三三三	一七四、四二四	三二二、三〇二
英國	五八、二七五	一六、二八四	三一、九五九
獨逸	六、七六六	二、九四九	二、五六七
米國(比を含む)	九、九九四	一三、四五三	一七、八二四
計(其他を含む)	三三八、二八三	二〇八、六三四	二七八、〇九四

以上によつて見る如く、支那上海輸入硝子瓶、器具の輸入は年々減少を見つゝある。之は支那就中上海を中心として硝子工場の勃興せるに起因するものと見る事が出來る。

然して支那輸入硝子製品の七割近くは日本品の占むる所で、日本の割合は益々增加しつゝあるも結局は大勢減少の傾向にある。

上海方面にて硝子を製造しつゝある工場の見るべきもの二十有餘、小なりといへども年々その生產高を增しつゝある、現今年產百五十萬弗と算せられる。工場中日本人の經營にかゝるもの多く生產の半分を占め、製造品目は小罐類洋燈ホヤ、電氣傘、食器等である。

同地原料硅砂は寧波硅石粉の五百噸、廣島の二百噸、大連の四百噸、日本の百噸、其他百噸計千二百噸を每月消費されつゝあるとの事である。

琺瑯鐵器

輸出狀況　本年度琺瑯鐵器輸出額は一千八百七十三萬斤、六百四十四萬四十圓で、前年度、前々年度よりも五十萬圓と云ふ多額に上つた。そも〳〵かくの如く增加を見たるは蘭印並に印度方面の需要增加によるものと思はれる。

大阪神戸兩港にて輸出するものは金額の九割五分を占め、その大部分は大阪製品である。輸出先の主なるものは印度、蘭印、支那、滿洲で、比律賓、暹羅方面へも相當出される。

支邦方面は數年來年々減少の一途を辿り昨年度は漸く六十七萬圓に過ぎなかつたもの本年も殆ど同額に止まつてゐる。かく同國向の減少を見つゝある事は同國に斯業の勃興を見つゝあるが爲である。然しもうこれ以下に降る事はなからうと思はれる。本年度增加の原因は何と云つても蘭印方面の需要頓に增加せるによるもので前年度同方面向八十七萬圓に過ぎなかつたものが本年は百二十六萬六千圓と約五割の增加であつた。同地向かかくも優勢であつた事は同方面が氣候、風土の關係上、又習慣的に本品の嗜好旺盛なるものある上に、日本商人の努力の跡明らかなるものあり着々として培ひつゝありし地盤を堅固にせし爲で同方面に於ける歐洲品の地盤も邦品の爲に一層侵蝕されつゝある樣である。

印度方面も亦前年よりは二十萬圓程の增加で、チエコ、獨逸等の延びんとするに先だつて邦品の進展は大いに意を强くするに足りやう。

內地狀況　內地生產高昭和三年度千二百萬圓、その中大阪府下生產八百三十萬圓である。府下生產の中重きをなすものは洗面器の三割二分、皿の一割六分、茶瓶の一割三分、鍋類一割と云ふ割合であつた。

府下生產高の八割六百十萬圓近くは輸出された樣である。

市價は總體的に多少の下落を見た樣で、これも輸出を增進せしめた原因と云ふ事も出來る。

海外事情　印度に於ける本品の輸入は年々增加の趨勢にあり、本邦品主位を占め、嘗ては同地輸入の六割强を占めてゐたが、晩近獨逸、チエコ墺太利品等の優良品に多少づゝ進出され、一九二六年より二七年に至る一ヶ年間の割合は日本四割八分に過ぎざるに至つた。（單位留比）

	一九二三—二三年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年
日本國	一、四四〇、六〇、二〇〇	一、三七三、五五九	二、四九五、三〇一	一、九二五、六四四
英國	二五四、七七七	三二一、八四一	三八一、六六九	二七五、三九三
獨逸	五六三、七四四	九四五、二六五	七三四、七六七	九六〇、四九八
墺國	三七、二五一	二七、四一五	一六、一八五	三〇三、〇〇五
チエッコ	六一、四六七	一九九、六六七	二六六、二六七	四〇二、四八〇
計（其他を含む）	二、三六四、二九一	三、一〇八、六七一	四、二九、九三三	三、九六九、三六七

ゴム製品

Aゴムタイヤー　本年度ゴムタイヤーの輸出高五萬一千三百三擔五百七十二萬四千餘圓にして前年度に比し一萬餘擔、八十萬圓の增加であつた。かく輸出タイヤーの增加を見たる原因は支那の動亂に拘らず、需要增加し、地の利を得たる吾國の供給に俟つた事と新輸入關稅率實施による見越買付の旺盛なりしによるもので、九、十、十一、十二の各月共平均數量以上の輸出を見たに見るも明らかなるものがあらう。

滿洲、蘭印方面も多分の增加であつたが、海植方面のみは多少の減少であつた。

支那方面へ出されるタイヤーは自動車タイヤー、自轉車タイヤーで蘭印方面向のものは自轉車タイヤーテューブが外品を壓してゐる。本年度は原料安と業者間の競爭的賣込により數量の割合に金高は上らなかつたわけである。

海外事情　北米合衆國は世界に於けるゴムの消費國即ち製品生產國にして輸出としても世界の優位にある、一九二八年度ゴム製品輸出高七千三百四十萬弗中、ゴムタイヤーは六割たる四千百二十萬弗を占めてゐる。前年度輸出の四千五百三十七萬弗に比し一割の減少で、之は歐洲各國が保護關稅により自給自足の政策をとりつゝある事、就中米國最大の買容たりし、英國がこの方法をとり、英本國がすでに自給自足の域に達すると共に輸出超過に轉ぜし事、加奈

陀又關稅障壁高く、同國の製造業隆盛となりし事等に起因するものと思はれる。

Bゴム靴　ゴム靴の輸出は近年旺盛となり、就中支那、滿洲、蘭印方面には便利なるものとして非常なる歡迎をうけ、頓に輸出を増加するに至り、本年度輸出金額四十四萬六千五百三十打、三百八十八萬三千餘圓である。今阪神兩港についてその仕向先を見るに次の如し。

	神戸港		大阪港	
支那	一、八四八、七九四圓	一六九、五七三打	二九五、一一〇圓	三七、三一三打
關東州	一六二、二三八	一七、九八四	五〇、九三〇	四、九〇一
香港	六六六、六〇八	八六、六五二	八、四八二	一、一八一
蘭印	三三五、四一一	四〇、三八二	五、七三一	一、一六七
印度	六五、六三八	一七、一四一	七一、〇九六	二一〇、〇三五
計(其他を含む)	三四九、六二一	三、二四一、六〇三	四八、一七一	六六、六六五

即ち主なる仕向先は支那、滿洲(香港へのものは支那へ積換へらるゝもの相當あり)で、同方面に於て本品の需要を喚起したのは極めて最近の事に屬し、昭和二年終頃からその便利にして廉價、然も耐久力あり在來の支那鞋に比すべくもないと云ふ所より流行し初め、本年中期より注文一時に殺到の有樣であつた。然も支那內地に於ける動亂、排日貨の聲の中に頓にこの增加進出を見たるに想到すれば、本品に對する需要熱の如何に高きかを思はしむるに充分であらう。ゴム靴の外に地下足袋あり、統計面には記載なきも、輸出の狀況より見れば優に三百萬圓を突破するものと見られてゐる。共に勞働靴として都市勞働者は勿論、坑夫、農夫の間に稱用され、ゴム靴就中支那鞋は勞働者をはじめ一般店員、小者、中產階級に益々蔓延せんとしつゝある。今後の本品の輸出としての價値は相當重要なるものがあらう。運動靴については大した將來はなからう。

オーバーシューズ長靴、メリメン靴等も南北支那、滿洲方面に於て相當延び得る餘地ある樣である。

米國の各種ゴム靴の輸出は年々增加の趨勢にあり、一九二八年の輸出は前年に比し二十七%の增加である。之を表

示すれば次の如し。

	一九二七年		一九二八年	
ゴム長靴	九八四、一九九足	二、三三五、一三六弗	一、三三四、七三〇足	四、〇二九、三三七弗
ゴム半靴	一、九一〇、六五九	一、九〇九、四二六	二、三六九、三二六	二、七九一、四九四
ゴム底カンバス靴	四、二四四、七四三	三、七二四、七二八	四、七四八、一四一	四、〇三一、八〇七
ゴム靴底並踵	—	一、四二六、二六四	—	一、九六九、〇四〇
計	—	九、八五五、五七四	—	二、八二一、六二八

即ちゴム長靴に於て前年に比し數量三五%價格三〇%の增加であつた。そのマーケットは英國、デンマーク、濠洲瑞典である。ゴム半靴も長靴と同じ位の增加で歐洲就中獨逸、英國、ノールウエー等である。

カンバス靴は比律賓、玖瑪、アルゼンチン等を市場とし、加奈陀物等も米國品として出されてゐる。本品は一〇%位の增加であつた。

英國のゴム靴は輸入尙年々增加の傾向にあり、輸出はさしたる變化もない。一九二七年の輸入額百萬磅で一九二八年は百六十二萬磅と六一%の增加である。仕出地は加奈陀、米國、佛國、獨逸で一九二七年には加奈陀十七萬七千打米國十萬九十打、佛國十萬三千打、獨逸四萬五千打であつた。

輸出の重なる先は南阿(三萬打)アイルランド(二萬九十打)印度(二萬二千打)等である。輸出入狀況を表示すれば次の如し。

		一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
靴(輸入)		八六二、六二三磅	一、三三二、〇四六磅	一、〇三〇、三三〇磅	一、六二六、二三三磅
靴(輸出)		五七〇、三六九	四九六、〇三一	四九六、〇三一	四五六、二五五

Cゴム製品及其他ゴム製品　ゴム靴具其他製品の輸出は年々增加の趨勢にあり、ゴム靴具は米國、印度、英國力面向のもの多く、阪神兩港より出されるものは印度、南洋方面にむけられる。

其他一般ゴム製品は滿洲、支那、南洋方面を賈客としてゐる。之等は大阪製品多く、殆ど阪神兩港を經て出される。

洋傘及附屬品

昭和三年本邦輸出洋傘及其附屬品を見れば輸出洋傘は二百五十一萬七千圓で前年の二百二十四萬四千圓に比すれば十七萬三千餘圓の增加にあたる。但前年即ち昭和元年度の三百萬一千圓に比すれば大約五十萬圓の減少となる。大阪港、神戸港は殆んど之が全額を占め、大阪九十六萬九千圓神戸百四十六萬圓であつた。

全國の輸出高を輸出先別に調べると、支那向は四十六萬六千圓を增加し百二十五萬五千圓、蘭領印度に於ても二十七萬三千圓を增加して九十萬八千圓を示したのは一に我國の特に關西に於ける洋傘製造が可成完全の域にまで發達したものと見られる。然るに印度に於ては近年洋傘の組立てが大いに起つて、傘柄、傘手の如き部分品は大いに本邦品が使用されてゐるが洋傘そのもの、輸入は激減した、三年度の如きは印度向輸出額は十一萬四千圓で此がために昨年の約五分の一の二萬七千圓の輸出しか見なかつた。海峽殖民地、シヤム等もそれ〴〵十萬九千圓、二萬一千圓の輸出減であつた。

之を種類別について見ると、綿布張のものは全額の半ば以上を占め二十一萬五千打、百八十五萬二千圓で昨年に比ぶれば四萬一千打、四十萬九千圓の增加となる絹布張のものは、昨年より七千四百打二十、五萬圓を減少し四萬六千打、六十四萬九千圓であつた。其他紙類、布製の日傘等は一萬八千個、一萬三千圓の輸出增加となつて昨年に比すると、十三四倍の一萬八千個、一萬六千圓の輸出高を示した。

絹布張は繻子製のものが關領印度に於て歡迎される傾向あるが故に或ひは本邦製品が特に意匠に對して充分氣を付け實質的にも丈夫であれば尙一層の販路を擴張し得る事と事はれる。

なほ大阪港の本年積出し高を調べると、昨年より二萬九千打、三十萬四千圓を增加して九萬一千打、九十六萬九千圓の輸出高を示し、之に對し、神戸に於ては數量に於ては四千打を增したが價額に於ては九萬八千圓の減少を見た。之は絹張洋傘が昨年より減少したゝめである。

更に此の內容を調べると、大阪港に於ては昨年に比して綿布張三十萬一千圓を、絹布張三千圓を輸出增加してをり神戸に於ては綿布强十萬圓を增加したが絹布張に於て二十一萬圓餘を減じてゐるから結局今年の洋傘輸出高の增加は綿布張、特に大阪港より輸出されたものによる增加である。大阪港より輸出洋傘中特に著しい變化のあつたものは支那向綿布張で二萬六千圓の輸出增加を示し八萬二千七百打、八十五萬二千圓であつた。全絹布張も六千圓の輸出增で四百二十四打、一萬一千三百圓阿弗利加向、南洋向綿布張も各一萬六千餘圓づゝの增加を示して居り、特にアフリカの如きは昨年の十八倍に相當してゐるのは注目に値する。神戸に於ては綿布張では支那向輸出增十二萬九千圓、特にめぼしいものでその他の增減は極く少額であるが阿弗利加向が減つて南米、濠洲方面向が增えてゐるのも注目に値する。絹布張は南洋方面に於ての減少が著しく十八萬四千圓見當の輸出減を示してゐる。

三年度の傘柄及傘手の輸出を見ると八十七萬五百打、七十八萬九千七百圓で昨年に比すれば三萬一千四百打、十五萬六千六百圓の減少である。此內大阪港は三十一萬三千打、三十萬一千圓を占め、昨年に比ぶれば數量に於ては九萬八千打を增加してゐるが價額に於ては反つて三萬圓減少してゐる。神戸港は五十五萬六千打、四十八萬七千圓で昨年對比四萬六千打、十一萬圓の減少を示してゐる。

尙ほ本年輸出された日傘、その他の和傘は八萬五千八百打、三十七萬一千圓でその內、神戸港は殆んど全體を占め七萬八千九百八十打、三十二萬四千圓であり、大阪は五百四十九打、五千八百圓であつたが之を仕向地別に見ると神戸のは歐洲向三萬九千四百八十打、十四萬六千圓で約大半を占め、之について北米及カナダ地方向の一萬八千七百七十打、七萬三千九百圓南洋向八千六百七十打、三萬圓、濠洲其他の八千四百打、四萬二千八百圓等である。大阪は支那向七十打、七百圓、南洋向四百五十打、四千八百圓の外にフランス向二十二打二百五十圓の輸出があつた。

ブラツシユ

昭和三年に於ける本邦輸出ブラシ總額は四百五十七萬四千二打、五百十一萬八千四百六十圓で昨年に比すれば五十一萬二千九百七十八圓の減少である。

之を種類別に見ると齒ブラッシュが最も多額の三百六十七萬六千五百打三百二十二萬一千五百圓を占め昨年に比す

れば、六萬一千百餘打十五萬三千百圓の減少でその他毛髪用八萬七千三百打七十七萬三千百圓は二十二萬六千八百打四十四萬七千四百圓の減(之は主として英米國向の分の減少に起因してゐる。)爪用十一萬七千百打十六萬六千六百圓は六萬八千九百打、七萬六千七百圓の減衣服用六萬七千九百打四十二萬六千圓は八千七百打七萬一千七百萬の減で其他の雜ブラシュに於て二十三萬六千百圓程の增加を示してゐる。

本年のブラッシュは割合各月共に平均した輸出高を見せ、東洋及び南洋に市場を有する他の各種輸出品が五月六月の對支出兵の影響を受けて夏枯の徴候を示したにも不拘割合に順調に推移した。即ち一月より二月三月と漸增の輸出傾向を示したが(一月四十萬五千圓三月五十萬六千圓)四月に入つて四十三萬三千圓となり、尙ほ減少の途を辿り五月の三十八萬一千圓を示すに至つた。然るに支那出兵の六月前後に可成の出荷があつたため四十五萬八千圓見當になつたが直ちに反射的ドカ落を示し、七月に入つて三十八萬八千圓、八月九月十月は四十五萬——四十一萬の間を往來したが十一月持切れず三十三萬七千圓に減少した十二月には來春を見越して多少增加を見て、四十萬六千圓の輸出となつた。全國輸出額を輸出先別に調べると、英米兩國向の高級品に於て甚だしき減額を示してゐるが、之は我國最近の製品が外國製高級品に壓倒されてゐることに起因してゐるので、悲しむべき現象といはねばならない。即ち米國は二百七十八萬四千五百打二百九十八萬四千七百圓で昨年より二十七萬六千三百圓を減じ、英國は四十萬三千四百打八十二萬二千九百圓で二十四萬一千二百圓の減少に相當してゐる。加奈陀、濠洲、シャム等も各四萬九千圓七萬六千圓、三萬六千圓の減少を示してゐる。一方支那は八萬九千圓、英領印度二萬圓の輸出增加の外にアルゼンチン向一萬八千九百圓の輸出增加であつた。

大阪港と神戸港について之を見れば、大阪港は輸出額百六十六萬一千三百打二百一萬七千圓、此中、齒用ブラッシュ百四十三萬二千五百打、百二十八萬九千八百圓其他二十二八千八百打、七十二萬七千五百圓で昨年に比すると齒ブラシに於て三十九萬三千七百打、三十七萬一千六百圓、其他に於て四萬三千七百圓の減少を示してゐる。神戸港は二百七十三萬三百打、三百六萬五千圓中、齒用ブラッシュは二百七萬二千百打、百九十一萬八千圓、其他六十五萬八千百打百十四萬七千圓で、昨年に比ると、齒用に於て二十九萬六千二百打、三十二萬五千圓の增加であるが其他に於て三十三萬三千圓の減少であつた。

玩具

昭和三年度に於ける本邦玩具の輸出高は支那、南洋方面に於ける排日のため幾分の減少を見るべく豫想されたが此豫想は裏切られ反つて昨年よりも輸出增加を見るに至つた。

即ち前年輸出高總計一千〇五十二萬一千圓に對する本年度總計一千百萬圓で差引約四十八萬圓の增加である。この原因としては(一)上半期に於ける海外市場の好轉(二)本邦玩具の價格低下(三)新製品の增加(四)當業者の努力による新販路の開拓等をあげ得るが更らに、從來の傾向より見て、甲の年の輸出減は乙の年の輸出增となり更らにその翌年は再び輸出減となるといふ風で斯くして輸出地に於ける需給の調節が保たれてゐる事實も見逃してはならない。

元來我國の玩具生產地は東京及大阪を主要なるものとし、此內東京はセルロイド玩具の生產が最も多く其の輸出先は合衆國、南米、英國、歐洲、大陸を主とせるため、一年を通じて概ね順調を保つたが一方大阪は鍼力製ゴム製セルロイド製其他の雜玩具を主とし(生產約六百五十六萬圓內、內地向約二百九十萬圓、輸出向約三百五十萬圓)其輸出先は支那(二割五分)印度(一割五分)南洋(一割五分)等の東洋方面を主要輸出先としてゐる關係上、上半期に於ては支那市場人氣の好轉を始め一般に賣行きは甚だ良好で大阪に於ける製造業者の如きは何れも全能力を發揮しつゝあつたものが、五月濟南事件の突發とともにこの傾向に一頓挫を來し殊に中南部支那市場に於てのみならず、南洋、比律賓、シャム、海峽殖民地方面に於ても輸出の不振を加へたゝめ、供給過剩に陷つて後半期の不況を誘導し、輸出品の相場も概ね上半期に比し五分乃至一割方の低落を見た。

相變らずセルロイドは多額で四百二十二萬九千圓約二十二萬圓の增加で且總輸出額の約四割弱に相當してゐる。次はゴム製で百九十三萬四千圓約四十萬圓の增加である。木製は之に反して六萬圓を減少してゐるが之は獨逸製品その他の壓迫によるものと思はれる。他は大體前年と大差なく、つまりゴム製とセルロイド製に於て輸出しただけが玩具全額としての輸出增加になつた譯である。原料に於て豐富な本邦がセルロイド玩具に於て優越な地歩を占めるのは怪しむに足らぬが其原料を海外に仰げるゴム製玩具が年々著しい輸出增加を示してゐるのは注目すべき現象である。木製玩具に獨逸の進出を見ゴム玩具に亞米利加の進出を見る際として、尙一層努力が必要であらう。

第三篇　重要輸入品概況

米

輸入狀況　數年來米價不況の所へ昭和三年は大豊作であつた爲、米界の前途は悲觀され、政府もこゝに見る所あり、本年三月遂に外米輸入制限令を出して需給の調節をはかる事とした爲、本年度外米輸入は內地並に朝鮮の增產と相併せて近年稀に見る減少を見た。

即ち昭和三年度外米輸入總量百七十四萬石で前年の四百十三萬石に比し二百三十九萬石の減少で前年度の四割二分一厘に相當するに過ぎない。

輸入米の主なるものは蘭貢米、西貢米、暹羅米、加州米及支那米にして、本年度暹羅米を除く外は全部非常な減少で、蘭貢米の如きは前年度の十分の一に減激し、西貢米は半減し、支那米又十分の一になつた。その間にあつて暹羅米が僅かの減少に過ぎなかつた事は同國が條約上制限令の適用を受けなかつた事と前年增收の殘存米を擁して輸出餘力に富んで居た事等その重要なる原因と見られる。

然して神戸港の輸入高は一、八二六、四七九擔、一二、四五六、三一八圓、大阪港の輸入高は一、二九七擔一三二七八九圓であつた。

左に米の需給狀況に關する二表を記す。

最近米需給表（單位千石）

	供給				需要			
	前年よりの持越高	產高	輸移入高	供給總高	輸移出高	消費高	需要總高	翌年持越
昭和元年	五、五〇〇	五八、七〇三	九、五四一	七四、七四五	五、八	六八、三四九	六八、七七七	五、九六七
二年	五、九六七	五五、五八三	三、六七六	七四、三三七	一、二六八	六七、一九三	六八、四六一	五、七六五
三年	五、七六五	六二、一〇四	二、一三三	七九、二三三	九八二	七〇、二九九	七一、二八二	七、八四〇

內地米作反別及收穫高表

	作付反別	收穫高	一反當收穫
昭和元年	三、一五八、二七一、二	五五、五九二、八二〇	一、七二〇
昭和二年	三、一七三、六八三、五	六二、一〇二、五四一	一、九五七
昭和三年	三、一九一、七四三、三	六〇、三〇二、七八〇	一、八八九

小麥

輸入狀況　昭和三年度小麥の輸入高は一千九十五萬七千擔、六千七百七十八萬七千圓で、前年度の七百七十七萬四千擔、五千二百九十一萬圓に比し三百十八萬三千擔（四割二分）千三百八十五萬八千圓（二割六分）の增加であつた。

昭和三年度內地小麥生產高が前年に比し四十一萬一千石の增加であつたに拘らずこの輸入增を見たるは主として前年度持越高の僅少と、製粉能力の增大、輸出の旺盛、外麥安等によるものと見るべきであらう。

然して之を國別に見るに加奈陀最も多くして輸入の過半を占め、米國二割五分、其他を濠洲、支那、滿洲より輸入しつゝあるの狀態にして、近來特に注意すべきは加奈陀產小麥輸入の激增にして、最近までは米國產小麥主位を占め濠洲物之に比肩して優勢なりしも、數年來加奈陀小麥之等を壓倒し、本年の如き輸入の過半を占むるに至れるものなり。

かく僅々數年を經ずして主客轉倒せるその原因を見るに加奈陀小麥の輸出能力米國より遙かに大にして世界的に重要さを有し、然もアメリカ小麥に比し常に生產費割安にして市價又有利なる立場にあると共に吾國製粉技術の向上はアメリカ產の軟質小麥を必ずしも必要とせず却つて輸出其他の點に於て加奈陀產の硬質小麥を有利とするに至れる等この增加の最大原因をなすものと見られてゐる。

昭和三年度小麥收穫高は概算四十五億九千萬ブッシェルにして前年に比し二億七千萬ブッシェル（六分强）の增產で

あつた。之を主要國について見るに米國は三分、加奈陀は一割四分、露西亞一割五分、濠洲三割三分、亞爾然丁四分の何れも增產にして印度のみ一割三分餘の減產であつた。

今各生產國の國內消費を差引いた供給高は十一億二千七百萬ブッシェルと見積られ、加奈陀の四億六千萬、米國の二億六千萬、亞爾然丁の二億三千萬ブッシェルが供給の主なるものにて、需要總量を八億八千八百萬ブッシェルと見るも尙二億四千萬ブッシェルの供給過剩にして前年度持越高を加算する時は實に莫大なる次年度持越高となる譯である。

內地の昭和三年收穫高は六百四十七萬五千石で前年度に比し四十一萬石六分七厘强の增加であつた。併し、關東地方は天候不順なりし爲その品質は著しき低下にて格下げをなすの止むなきの狀態であつた。本年度の相場は大體外麥相場の影響をうけて同步調を取つたと見て差支へあるまい。

大豆

大豆として輸入されるものゝ中、大豆油搾取用以外の直接或は間接に食用とされる分量は輸入物の約四割位と推定される。殘りの六割が大豆油とし、大豆糟として一般の需要に供されるものと見る事が出來る。然して直接或は間接にそのながらで或は加工して食料とされる數量は多少づゝ增加はするが大して變化なきものと思はれる。

故に年々大豆輸入の增減は大豆油及糟工業の需要如何が大なる要素をなすと見る事が出來やう。本年は大豆輸入數量七百七十九萬九千擔、四千九百六十八萬圓で前年度に比し、百十六萬擔(一割九分)、前々年度に比し七十七萬八千擔(一割一分)の何れも增加であつた。

本年はかくも多量の輸入を見たが、之は內地に於ける油の需要年々旺盛なるにも不拘、二ヶ年も續く菜子油の供給不足により大豆油の需要旺盛に起因するものと思はれる。即ち內地菜種による菜子油の數量は殆んど一定し、輸入菜種による油の一部分が輸出されてゐたわけで、輸入菜種による內地向供給高年々五十萬罐、百五十萬擔位であるが本年は輸入物による供給高僅々六十萬擔で、今まで菜子油獨步の狀態にあつた油脂界に之に代つて大豆油が相當進出したが爲であらう。

かく輸入大豆多量なりし反面大豆油の輸出が多少でも減少してゐる事實は一層之を裏書きしてゐる。

大豆市況は年初大連卸百斤六圓見當だつたが、歐洲向輸出旺盛なりし等の爲め、一時六圓四十錢を稱ふるに至つたが年末五圓八十錢頃にて越年した。

大豆は滿洲の特產品にして、滿洲昭和三年度大豆收穫高南滿洲二百十七萬九千噸、北滿洲三百二十四萬一千噸、合計五百四十二萬噸で、前年度に比し五十二萬噸等の增收であつた。

その中日本に向けられた數量は四十一萬二千噸で、歐洲方面へ向けられた數量は百六十二萬一千噸であつた。

日本に向けらるゝ數量は年々四十萬噸見當でさしたる變化はないが歐洲向大豆の數量は近年著しき增加を見つゝある。

雞卵

昭和三年に於ける全國の鳥卵輸入高は前年及前々年と比して大いに減少し、前年九百九十八萬二千圓及前々年千百三十一萬八千九百圓に對する六百九十五萬九千六百圓であつて實に昨年對比三百二萬二千圓の減少であり、昨年對一昨年の減少百三十三萬七千圓に比してもなほ百六十八萬五千圓の激減で輸入減少の率から云つても、昨年より一層の甚だしかつた事がわかる。

之は一に對支問題の紛糾のため支那に於ける卵の買出しが手薄になつたのにもよるが一は政府當局が熱心に養雞產卵の增加に力を注いだため本邦產雞卵の安値供給が可能になつた事にも由るのである。之について調査を見ると大正十年頃には消費總量二十億一千六百萬個のうち七億七千九百萬個、此の價格千七百九十八萬五千圓もの輸入を見たぐらいで本邦の雞卵市場は一時支那卵の壓倒をかうむつた。然るに政府筋の奬勵と飼育方法の改良と相俟つて生產は大いに增加し、價格も低下したため漸次輸入卵を壓迫するに至つた。今年の如きは內地消費量二十四億七千五百萬個の內二十二億四千八百萬個を自給して僅かに二億三千七百萬個を輸入したのみで此の價格は六百九十五萬圓であつた。

政府は昨昭和二年より全國五ヶ所に國立養雞所を設置することになり、既にその完成を見た所もあるが未だ全部の完成を見るに至らずして早や此の成績を擧げるに至つた事は府縣が政府と協力して販賣配供方面の改善に特に力を入れ養雞組合出荷團體の設立を奬勵し生產品の販賣を養雞業者に有利ならしめる方法を取る一方、低廉なる飼料の普及につとめた結果であつて、此調子では一時問題にされなかつた輸入の防遏も近く完全に實現されるに至るであらう。大正十年と、昨今年を內地產卵と輸入卵の數量と價格について對照すれば左の如し、（單位數量千個價格千圓）

	昭和三年 數量	昭和三年 價格	昭和二年 數量	昭和二年 價格	大正十年 數量	大正十年 價格
內地卵	二、三四八、〇二五	八六、三四三	一、九八一、五八七	八一、四四七三	一、二四〇、四八五	六三、二三五
輸入卵	三三七、九三一	六、九五九	三一七、五六一	九、九八二	七七、一七〇	一七、九八五

今神戶港に輸入されたに雞卵について見れば、合計五十萬一千二百二十六箱でこれが產地別數量は左の通りで青島卵四割八分五厘、天津卵三割三分二厘、上海卵一割九分三厘見當である。

上海卵	八九、七二六	青島卵	二四四、六四一
天津卵	一六六、八五九	合計	五〇一、二二六

全國の輸入高を港別について見れば、（單位箱）

神戶港	五〇一、二二六	門司宇品港	八、三四二
大阪港	一三一、四八六	長崎港	二二、九八七
橫濱港	四八、九三六	合計	七九三、九八〇

市場　前記の如く輸入減のため內地に於ける支那卵の相場は著しく昂騰し、年度末に於ける市場相場について見れば天津、青島卵三百六十個入一箱十一圓に對し本邦淡路產三貫七百匁入八圓八十錢（卸賣相場で百匁に換算すれば支那卵二十七錢以上に對し內地卵二十三四錢となり却つて本邦產の方が下値に置かれる有樣である。此の傾向は今後も持續するかも知れず、もしそうなれば本邦卵の活躍はます〳〵盛んになるであらう。

生牛肉

昭和三年度に於ける本邦の生肉輸入高は二十七萬八千擔六百九十七萬二千圓で昨年の三十萬九千九百擔、七百九十六萬二千圓に比すれば三萬一千八百擔九十九萬圓の減少となる。支那よりの輸入は之が八割二分を占め二十二萬九千擔、五百七十八萬九千圓で、昨年に比べると三萬一千三百擔九十二萬六千圓の減少を示した。關東州は六千六百擔、二十萬二千圓を減じ一萬斤二十七萬五千九百圓であり、加奈陀は一萬二千八百斤三十一萬五千圓を減じ濠洲牛は一萬九千六百擔四十八萬五千圓見當の增加を示してゐる。濠洲牛の輸入增加は濠洲及南洋航路の冷凍設備に原因を發して居り結果如何では益々增加の見込みありとして注目されてゐる。

大阪神戶兩港について之を見れば大阪は價額に於て全國の四割一分八厘を占めて、九萬七千四百擔、二百九十一萬六千圓で昨年に比ぶれば五千九百擔、三十三萬六千圓の減少である。神戶は全國の四割七厘を占め十三萬八千擔二百八十三萬六千圓で前年に比して一萬三千擔、三十萬九千圓の減少である。兩港に於てがくも減少を示した事は輸入牛肉の大部分を占める青島牛の原產地に於て例の濟南事件があつたゝめ、膠濟鐵道に於ける貨車は停まり、農民は怖れて取引は一時杜絕のやむなきに至つたゝめ、生牛の出廻りが甚だ僅少であつた事に原因してゐる。

大阪港の支那牛肉輸入は昭和二年よりも數量に於て五千八百擔、價額に於て三十三萬四千圓の減少を示して九萬七千三百擔二百九十一萬一千圓であつた。滿鐵の推賞による滿洲牛、蒙古牛等の肉も關東州より輸入され百四十五擔、四千三百圓餘に達した。濠洲物は神戶商人の手を通じて輸入するため、神戶に於ては著しく增加を示したが、大阪は前年より減少を示し、三十一擔、九百二十八圓であつた。此の減額約六千圓であつた。神戶港を見ると、支那よりの輸入は一萬八千七百擔四十一萬六千圓の減少を示し、十一萬四千九百擔二百三十五萬四千圓であつた。關東州は約六千圓見當の減少を示し五千五百擔十二萬六千圓であつた。カナダよりの輸入は二千六百擔五萬三千六百圓の大激減を示し十五擔三百八圓しかなかつた、之に反し、濠洲よりは一萬六千七百擔三十三萬四千圓の輸入があり之を前年に對比すれば七千六百擔十八萬一千圓の輸入增加にあたつてゐる。濠洲牛肉の輸入は益々增加するものと思考される。前

々年迄は何等輸入をみなかつた、南米よりの輸入が前年より九百擔一萬六千圓の増加を示してゐるのも注目に値する

採油原料種子

本年度採油用種子の輸入高二百八十二萬七千擔、二千一百七十三萬八千圓にして前年度に比し數量二十八萬擔（一割一分）三百萬圓（一割六分）の何れも増加であつたが昭和元年のそれに比すれば遙かなる減少である。

然して之を個々に點檢すれば、昨年に比し、又一昨年に比し著しき減少を見たるは菜子にして、他は皆多少づゝの増加を見てゐる。

即ち菜子及芥子の本年度輸入は四十四萬二千擔、昭和二年度六十八萬三千擔、昭和元年百七十萬八千擔に比すればその著しき減少の跡が知り得られやう。本年度輸入が僅か三年の間に四分の一以下に減少したわけである。これは支那菜種の供給不足による變態的現象によるものであると見られてゐる。

菜子かくの如く供給極めて不如意なりしについては菜種油の代用として然も廣き需要を有する棉實油の需要從つて旺盛に、棉子の輸入も亦近年漸増の傾向にある。

工業用油脂の内地需要益々旺盛なる爲、之等の原料たる亞麻子、蓖麻子、胡麻子等逐年増加しつゝあり。

原料種子の仕出地について見るに支那最も多く關東州、印度之に亞ぐ。支那は菜種を筆頭として棉子胡麻子、亞麻仁其他を、滿洲は、亞麻仁、蓖麻子を主とし、印度は亞麻仁、胡麻を入れてゐる。

然して菜子、棉子は大阪港に輸入されて製油業者の手に渡り、亞麻仁は主として印度より入る關係上神戸港に荷上けされてゐる。大阪港本年度輸入總計百二十八萬二千擔、七百六十七萬圓、神戸港三十九萬三千擔、三百八十六萬七千圓であつた。

菜種の内地生産高は年々殆んど相違なく約五十八、九萬石で、石二百斤として、百二十萬擔である。之等は全部内地製油原料とされそれに輸入菜子を加へて内地消費高とするに昭和元年度の消費高二百九十萬擔、同二年百九十萬擔同三年百六十四萬擔となるわけで殆んど三年間に半減したわけである。内地油の消費量には大した變化はなく、自然輸出の減少を見たわけである。

然して菜子の相場は品薄なる爲案外高く百斤十二、三圓どころで、種油の相場は年初石七十三圓位であつたものが海外の注文少なかりし等にて、六月頃六十二、三圓臺にまで落ちたが、それ以後は七十圓臺にまではね返した。

原料種子一般に大した變動はなかつた樣である。

支那の菜種は本邦製油業に甚大なる關係を有するものである。昭和三年に於ける支那の菜種の生産高を適確に知る事は極めて困難なる事に屬するも輸出數量並に種粕としての輸出數量等より推算する時は約百四十萬袋であらう。その中菜子としての輸出量は四十萬袋見當で、その中上海より輸出された數量は三十三萬四千袋であつた。

支那産の菜子は年々殆んど輸出にむけらるゝかと思はるゝ位であつたが、昨年度來支那事變勃發内地への輸送思はしからず、自然石油、肥料等高價となる爲、支那に於て搾油肥料及燃料油を自給する態度に出でしものと思はれる。

本年度六月以降十一月に至る六ヶ月間の菜子輸出量二十五萬袋で前年度同期に比し僅か四萬袋の増加であつたが一昨年同期の八十六萬五千袋に比すれば思ひ半に過ぎるものがある。

牛皮及水牛皮

日本内地に原料殆んどなき關係上大部分は輸入に俟ちつゝあり、時勢の推移と共に革製品の需要は各方面に旺盛となり必然的に原料皮の輸入旺盛となるべき傾向にあるが、昭和二年より本年即ち昭和三年へかけて二ヶ年間は減少を見た。本年は前年に比し數量に於て一萬四千擔の減少で價格に於ては二十萬圓の増加であつた。この輸入數量の原因は世界的に原料皮の缺乏によるもので米國の如き年々原料皮として多量の輸出を見たものが非常なる減少を來して居り、同國の市價も鰻上りの昂騰を示してゐるに見るも明らかである。

之が仕出地に就て見るに支那、米國、英印、英國等で、支那六割、米國三割と云ふ順序である。

市況は上半期はしつかりで、下半期多少だした樣である。然し年初の相場前年度の一封度三十五錢頃より見れば本年は五十五錢と約二十錢方の高値であつた。

米國　近年世界牛皮の市況は米國市場を中心として動いてゐるかの感がある。最近二ヶ年間に於ける世界の大勢は革類需要增加、原料皮供給激減につきるものがあらう。

米國に於けるは原皮仕込數は一九二七年度一億二千六百餘萬枚なりしものが一九二八年は一億三千四百餘萬枚となり、更にその反對に畜牛數は一ヶ年の間に一割前後の減少を招いたとの事である。畜牛數の減少はたゞに米國のみに限られず、一般供給國にして增加せるものなしと云はるゝ位にして、畜牛數の減少は即ち原皮供給困難を招來するものでなければならぬ。

一方革に於ても靴底革不足の爲、延いては甲革、鞄、袋物用革等薄物に用ひられたものも或程度まで底革として代用されたる爲、この方面にも品薄を見るに至り、在荷品の如きも一九二三年末一億二千餘萬枚なりしもの一九二七年末には八千八百餘萬枚に減少してゐる。

獨逸の畜牛數千九百萬頭で戰前の二千三百萬頭に近寄つて來たがまだ成牛としての屠殺數は大したものでなく、最近一ヶ年間にて成牛百十萬枚、犢牛四十餘萬枚で、輸入數量九百七十萬枚で仕出地の主なるものは支那、印度、南米、濠洲である。

革類

日本に於ける生活樣式一變の機運は必然的に皮革製品の需要を增し、原料皮及革の輸入を旺盛ならしむる結果となり、年々之等の輸入は增加しつゝあつたが、昭和二年、三年と引續き輸入數量は減退しつゝある事は別項の牛皮、水牛皮に於て見たると同じくこの減少の原因は、世界的に原料皮拂底に起因するものにして、かく原料の拂底は必然的に價格の騰貴を來し、各國共自供の策に追はれ、當然輸出は減退したるものであらう。就中重要原料たる牛皮革に於てこの感がある。この牛皮の供給不足に反し、羊皮、山羊皮の供給は相當潤澤で、吾國の輸入もこれのみは相當の增加であつた。

米國より輸入されるものは牛皮の加工せるもので靴底革最も多く、之は殆んど米國物に限られてゐる。米國物は品

質が日本の氣候に適してゐる爲ではあるが、同品は世界に於て同品の製造最も盛なる關係にもある。米國が從來日本への輸入革の六割餘を占めてゐたものが本年は四割餘に下つたのは一にこの底革の減少にあると云つてもよい。

英國は前年度より數量に於て約二倍、價格に於て五割の增加は羊革、雜種革類輸入の增加によるもので、獨逸の增加はボックス革の進出によるものである。

印度は羊、山羊革の輸出國で、英國より日本に向けられる羊革の中に、印度產のものも相當含まれるわけである。

昭和二年初より原料皮の狂騰を見、年末すでに日本皮革製鳳凰印象皮百斤百六十八圓を稱へられたが、原料皮の相場も本年に入つて殆んど不變で、昨年末の高値よりは多少の下値たる百五十五圓で終始した樣である。

生ゴム

昭和三年度輸入は實に未曾有の大量に上つた。即ち本年度輸入數量四十三萬四千二百三十四擔で、記錄的多量であつた大正十年の三十八萬九千百六十二擔より尙四萬五千餘擔、昭和二年度よりは八萬二千擔の增加であつた。然して價格に於てはこの增加にも拘らず非常な減少で、二千七百八十九萬圓、前年より減少する事六百五十萬圓であつた。かくも多量の輸入を見たるは英國政府の制限法撤廢聲明による市價慘落を機として輸入頓に激增せる事、內地ゴム製品の輸出相當旺盛なりし等に起因するものと思はれる。

英政府の輸出制限法撤廢論の擡頭により數年來暴落の步調は一層强められ、新嘉坡現物市況も年初最高六十九仙七五を稱へられたもの、日を經るに從ひ躍進的に低落し、四月四日英首相ボールドウイン氏の撤廢聲明により一擧二十七仙五十の安値を現出した。爾來三十二仙臺と二十九仙臺を往復した。內地市況も大勢海外市況に引きずられ、年初封度八十七錢のもの、二月八十錢臺を割り、月末六十錢臺に落ち込み、四月英首相の聲明は終に五十錢臺割れを見るに至り、同月末四十一錢五厘と云ふ近年になき安値に落ち込んだ。爾來一進一退で時には三十八錢臺をも見たが、殆んど不變であつた。

一九二八年度に於ける世界ゴム生産高は六十四萬七千噸と推定されてゐる。馬來、錫蘭の生産高三十五萬噸、蘭印生産高二十三萬八千噸其他五萬九千噸で、消費の方では米國が最多量の四十三萬噸、英國五萬噸、佛、獨四萬噸宛、其他十四萬噸計七十萬噸と云はれてゐる。

馬來は一月以降十月まで六割制限なりし爲、それまでは平均二萬五千噸位の輸出であつたが十一月には制限令撤廢により一躍六萬八千噸の輸出を見るに至り、十二月も同じく六萬七千噸近くの輸出で、昭和三年度輸出總額四十萬八千噸に上つた。然してその中には勿論蘭印よりの輸入品も含まれてゐるが、之等を差引いた純馬來の輸出高は三十三萬噸餘であらうと思はれる。同地は久しく世界ゴム供給の大部分を占めてゐたが生産過剩の爲、市場を統制するの意味に於て永く輸出制限をなしつゝありしも市價の騰貴は必然的に蘭印の生産高を増し、リクレームの使用量を増大せしむる等所期の成績を得ず、遂に輸出制限を撤廢するの擧に出でたのであるが、その間同方面のゴム樹は發育良好となり、各社又生産費低下の方法として極力増産を行ふ傾向にある爲その生産能力は實にすばらしき増大であると見られてゐる。

ゴム制限法は蘭印ゴム園を保護助長せしむるの結果となり年々生産高を増しつゝあつたが、本年制限法撤廢の聲明實施による市價慘落の爲、採集を手控へたるにより本年度生産高は前年度より減少と云ふ珍しい現象を現はした。即ち昭和三年生産高二十三萬八千噸で前年度よりは二萬四千噸の減少であつた。

硝　石

硝石としての仕出地は智利が主で、近來獨逸方面の合成硝石の輸入量漸く増加するの傾向にあり、前年度三千擔見當なりしもの本年度は一萬三千擔を見るの狀態で之等獨逸合成硝石は主として藥品用に供せられる。

智利硝石の需要は近頃極めて増加しつゝあり、之は肥効大なると速効性なるにより、麥作肥料として桑園用肥料として喜こばるゝ一面、三井物産及び三菱商事が日本の販賣權を掌握しその責任數量の賣捌に腐心して居る爲、益々需要の聲旺盛ならんとするものにして、本年度の輸入數量前年度並に前々年度より尠き如きも肥料年度たる昭和四年六月に至る一ヶ年間引受け數量九萬一百噸、前年度の六萬餘噸に比し非常なる増加で之等は何れ、後半期に於て輸入される事とならう。

神戸は横濱と共に硝石の主要輸入港にして本年度輸入量三十六萬四十餘擔、二百五十二萬六千圓で昨年よりは數量價額共相當の減少である。

內地に於て硝石が化學工業用として用ひらるゝ數量は約一萬一、二千噸と推定されてゐる。かくて內地への輸入硝石は殆んど肥料用として消費さるゝものにしてこの方面は數年來四、五萬噸見當であつた。

昭和三年は引受量賣捌き、獨逸品との競爭等の爲、市價は極めて低廉で從つて廣告、宣傳と相俟つて相當の賣行きでストックの如き割合に少なく年末には相當の値上りを見るに至つた。即ち本年を通じて噸當り百十五、六圓で、十一月頃百十三圓を唱へられた事もあつたが、直ぐ十二月に百二十二、三圓と跳ねた。

智利は世界の硝石供給國にして一九二八年度産高三百十六萬三千噸で最近に於けるレコードと云はれた一九二七年より尙二十萬噸の増産であつたと。

硫　安

本年度硫安の輸入高を見るに四百七十四萬擔、三千六百三十萬圓で前年に比し五十七萬擔(一割二分)三百五十五萬圓(一割一分)の増加であつた。

かく増加を見た事は農家經濟が二年續きの豐作により案外よく、その上硫安の肥効が他の油糟類よりは多く、施肥便なる事、及び英國ブランナーモンド社が中性硫安の賣擴めに懸命となりつゝある事等その原因と見られる。

仕出地の主なるものは獨逸、英國、米國で、獨逸は昭和元年は破格の多量に上つたが他の年は逐年多少づゝ増加の趨勢にあり、米國は近年著しき減退振にて前年度より三割餘の減少であつた。之に引換へ英國はブランナーモンド社統制の下に着々地盤を附植しつゝあり、昨年度も本年度も六割餘の躍進的増加を見てゐる。この英國販賣高即輸入高の増加についてはブ社が日本內地への配給について犧牲的施設を爲して顧客本位の營業方策を採り、その上爲替の關

係等この結果を導けるものと見る事が出來やう。其他和蘭から二萬噸餘を入れてゐる。

內地硫安生產高は年々增加しつゝあり昭和元年十四萬五千噸、昭和二年十八萬一千噸、昭和三年約二十三萬噸と稱せられ、之に輸入量昭和元年二十九萬噸、昭和二年二十四萬五千噸、昭和三年度二十八萬噸で、結局消費高は昭和元年より四十三萬五千噸、四十二萬六千噸、五十一萬噸と大勢は矢張增加しつゝある。かく輸入數量も大體に於て增加を見つゝある反面に內地生產の增加は著しく、劃合に於て既に昭和元年全消費の三分の一なりしもの昭和三年四割となり各內地製造家の增產計畫相繼ぎつゝあり、內地合成硫安の自給も亦近きを思はしむるものがある。

本年度硫安の相場は、一般肥料の昂騰につれて一月頃より五月頃までは暴騰したが、ブ社の賣込策の猛烈なりし事や、智利硝石對抗等の爲六月頃より崩れかけそのながらで越年した。

即ち年初雷印十貫目五圓のもの漸騰で五月五圓五十錢を稱へたが六月に入り五圓臺に落ち、七月臺割れ、そのながらで十二月には四圓八十錢頃であつた。

世界の窒素生產物一九二七—八年度產額一、六五七、三〇〇噸にして前年に比し四十二萬噸三十四%の增加で、內智利硝石の增產十九萬七千噸、其他各種合計二十二萬九千噸であつた。又同年度消費高は一、六〇二、〇〇〇噸で前年度に比し三十八萬噸九千噸、二十二%の增加であつた。

之を表示すれば次の如し。

純粹窒素生產物世界生產消費高(單位米突噸)

生產	一九二三—二四年度	一九二四—二五年度	一九二五—二六年度	一九二六—二七年度	一九二七—二八年度
副生硫安	二六四、六〇〇	二七八、三〇〇	二九六、七〇〇	三〇四、一〇〇	三二八、三〇〇
合成硫安	二三一、一〇〇	二五五、〇〇〇	二八九、一〇〇	三〇〇、〇〇〇	三六六、一〇〇
計	四九五、七〇〇	五三三、三〇〇	五八五、九〇〇	六〇四、一〇〇	七〇二、四〇〇
サイアナマイド(イ)	一〇四、〇〇〇	一二五、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一九七、〇〇〇
硝酸石灰	一八、〇〇〇	二五、〇〇〇	三〇、〇〇〇	八一、〇〇〇	一〇一、〇〇〇
其他の合成窒素(ロ)	五一、一〇〇	六六、一〇〇	一二〇、七〇〇	一三三、四〇〇	二二〇、四〇〇
其他の副產窒素(ハ)	五〇、一〇〇	四七、四〇〇	四七、七〇〇	四〇、三〇〇	五五、一〇〇
智利硝石	三八、五〇〇	三六、七〇〇	三九、四〇〇	一九、六〇〇	三九〇、三〇〇
合計	一、〇七七、五〇〇	一、一五四、三〇〇	一、二三三、七〇〇	一、二三七、五〇〇	一、六五七、三〇〇
消費					
合成窒素	七二九、〇〇〇	七八六、八〇〇	九三四、三〇〇	一、〇三七、五〇〇	一、二一〇、七〇〇
智利硝石	三四〇、〇〇〇	三六三、〇〇〇	三一〇、二〇〇	二七五、二〇〇	五五、二〇〇
合計	一、〇七九、〇〇〇	一、一四九、八〇〇	一、二五八、五〇〇	一、三二二、七〇〇	一、六五七、三〇〇
農業用消費高(概算)	九三四、〇〇〇	一、〇一〇、〇〇〇	一、一二七、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇

備考 (イ)は日本製造高を除算し其高は合成硫安の數量中に加算せり。(ロ)及(ハ)は工業用液體安母尼亞を含む

然してその割合を見るに一九一三年には世界窒素消費の五四%を智利硝石が、副生硫安三六%、硝酸石灰(諸威產)三%、石灰窒素四%、合成硫安三%と云ふ順序なりしが近年窒素固定業の進展は終に地位を轉倒し、合成硫安三七%副生硫安二五%、智利硝石二三%、石灰窒素一四%、硝酸石灰二%と云ふ割合になつた。最近の窒素界に於ける傾向を窺知するに充分であらう。

同時に消費方面も智利硝石以外は年々著しき增加にして、硫安の增加率約十三%と推定されてゐる。今之等の消費高を表示すれば次の如し。

一九二七——二八年度純粹窒素消費高分布表(單位米突噸)

國名	硫安	智利硝石	カルシウムサイアナマイド	其他の合成窒素	計
歐州諸國	三四六、二〇〇	一四三、八〇〇	一五五、一〇〇	三六八、八〇〇	八七三、九〇〇
地中海沿岸諸國	六七、一〇〇	五八、六〇〇	一四、三〇〇	一五、三〇〇	一五五、四〇〇
亞細亞諸國	一七九、三〇〇	一三、〇四〇	一〇、五五〇	二、〇〇〇	二〇四、八〇〇
阿弗利加(埃及を除く)諸國	二、五五〇	五、五〇〇	—	一三〇	八、二〇〇

北、中、南米諸國	一四二、五九〇	一六八、三五〇	一六、一八四	二六、六二〇	三三、七四〇
濠洲	三、七九〇	一、八二〇	—	一〇〇	五、七〇〇
合計	七四一、三九〇	三九二、三三〇	一六六、二二〇	二三三、二一〇	一、六〇二、〇四〇

尙獨逸國一九二八年度の硫安輸出高は八十三萬七千餘噸にしてその中日本、支那がその主要仕向先で、英國の輸出高は三十九萬三千噸であつた。獨逸硫安の輸出高は大なる增加を見てゐないが、英國の增加は著しく、一九二七年の二十六萬五千噸に比し十二萬八千噸、約五割の增加に相當する。英國品仕向先の主なるものは日本、西班牙、葡萄牙支那等である。

棉花

本年の輸入高九百七十六萬ピクル、五億五千萬圓、近年來の減少である我紡績業は、前年來操業短縮をつゞけつゝあることゝ別項綿糸に於て述ぶる通りである。而も二割三分といふ高率の操短が年初から行はれてゐたのである、に拘らず斯く增加したのは前年の米棉不作のあとを承けて補充の必要もあつたし、且つ本年も更に不作であらうとの氣構へで買付けを急いだことゝ等を原因とする。

本年の米棉相場を見るに、年初の十九仙臺から始まつて上半期中は漸次上騰氣勢をつゞけ六月には二十三仙一〇の高値も出來た、然るに下半期に入ると、新棉收穫豫想が前年よりも百餘十萬俵多く發表されたゝめ急に相場は弱くなり九月には十七仙六五といふ安値が出來た、年末までには稍々恢復して二十仙を出るに至つたが、收穫豫想の常に千四百臺を相當出てゐる確かさに押されて伸びず、年末は二十仙の保合相場であつた。

本年の米棉收穫豫想を見るに八月八日の第一回豫想發表は千四百二十九萬俵で前年より百三十萬俵即ち約一割の增加であつた。十二月一日の最終豫想によると千四百三十七萬三千俵となり、此間大候不順の喧傳あり市況の持直しも一時の事に止り、前述の如く相場は再び下落して越年せざるを得なかつたが、機して昨年以來引つゞき不作であつた事を主因として大體に於て一般の不況に拘らず健實なる相場を以て終始したと言へよう。

印棉はと見ると、米棉が比較的收穫豫想の少からざるに因る下押氣味に反し相場は終始引締り、支那棉も比較的不振に拘らず支那紡績の買進多く强調裡に過ぎた。年末市價は印棉ブローチ五十三圓、アコカン四十六圓五十圓方を稱へ、支那棉は寧波四十七圓五十錢、天津四十五圓を稱へてゐた。

苧麻類

本年の苧麻類輸入額は、數量金額共に增加し就中マニラ麻、黃麻等の類は亞麻類に比べると更に着實な漸增の傾向がある、亞麻類系統の製品は後に述ぶるが如く需要を增加し、或は新たに開くといふ事に困難であるが、マニラ麻の綱類、黃麻布類は之に比し用途の點に於ても一つ自由な前途をもつてゐる、本年は金額は減つてゐるが數量は增加してゐるなどもこれを語るものではないかと思はれる。

本年は殊に年末には麻類の取引は可なり活氣を呈し、內地麻の如きは在荷も多からず實需の買氣も旺盛で三十貫目引來麻極上の二百二十五圓の外中品裾物も上百九十圓、中百八十圓、下百六十圓と確かりした値を稱へた。支那麻もこの調子を移した氣味で大體に於て强調年末特に確りであつた。

マニラ麻は本年々初より生產盛況で、ダヴァオ地方だけでも約十萬俵の增產を豫想さたてゐた、十月に入り突如同地麻の主產地たるダヴァオ地方に一大旋風の襲來あり、損害二百萬株と傳へられた。併し之が善後處置宜しきを得たゝめ豫定の如く成育、遂に本年は未曾有の產額に達し、輸出額も同時に左の如き增加を示した。

	一四八、八二五、七九瓩	五九、三七四、二五八ペソ
一九二七年	一七四、七九五、三二〇	五三、一八七、二二二
一九二八年		

即ち生產に於ては頗る活氣を呈したが、價格は思はしからず、數年來一跌した市價は依然恢復の色がない、爲に金額は更に增加せざるのみか、本年の如きは却つて反對に減少してゐる。

輸出額約五千三百萬ペソの中、約千四百萬圓は本邦の買付くるところで、金額に於ては略々數年來一定してゐるかの觀があり、今後とも極端な變化はないであらうが畢竟內地の需要は年次增加するのみと見なければならぬ。

今日我國の經濟生活としては麻製品は尙ほ高級品に屬しとかく需要に一定の落着きを有たない。而も我國の製麻會社は歐洲大戰中過度に事業設備を擴張し過ぎたのみならず、民間需要品を目的とせずして特殊軍需品を製造することに主力をおいたものである、で今日に於ては其擴張は殆ど無意義なものとなり了つてゐる、だから其製品が往々にして販路に窮し時々極度の不振に沈淪するのは實以て止むを得ない所と言はねばならぬ。

然るに國內需要に限度があり、之を充して海外に向くるにしても、我手許的市場たる東南洋の文化程度の低い地方には向けられない、勢ひ米國に眼を着けざるを得ないのであるが、米國の市場では歐洲の優良品がある、これとの競爭は容易なことではないと考へられる、可能の範圍と言へば、流行に對する適應の點に限られはしないか、今日の我製麻業者としてはたゞさへ大きすぎる設備にこれ以上資本を注ぎ込んで生產能力を大きくし以て値段の上で歐洲品と競爭とするいふ事は先づ無謀に近いから、製品販路擴張の一手段は先づ例の米國式な流行に投ずるにあらうかと思はれる、絹織物に於てさへ米國の流行に對しては兎角追付き兼ねるといふが、あとからあとからと一年乃至二年おくれて氣の利いた化物の引込む頃になつて出かける日本品だから、一介の麻製品に流行の云々を求めるのは困難かも知らぬが、併し何といつても相手は大米國であり、金の使ひ道に困つてゐる連中だから一番うんと力こぶを入れてよいと信ずる。

一朝有事の秋に於ける軍需品としての本業の重要さから言へば其生產能力を萎縮させてはならないのであるから國家としても相當保護を加へる可く考慮の要があり、國民今後としても斯業の存續發達には援助を惜んではならない、引合はぬ生產や、贅澤に亘る消費は國家經濟として面白くないが、國家として大事な事業だから當業者の外朝野の援助乃至善處す可き方法の研究は極めて必要である。

羊毛

本年の輸入八十八萬ピクル一億一千萬圓、昨年より一割を增加した。

本邦毛織物業は久しく梳毛式機械の設備成らず、トップを海外に求めつゝあつたが歐洲戰中歐洲輸出の禁止せらるゝあり、近くは本邦輸入關稅の改正せらるゝあり、諸會社の梳毛設備略成り、今日に於てはトップの輸入は著しく減少し、大部分は原毛として輸入さるゝ樣になつた、國家產業としての斯業の爲に喜ぶ可き現象である、しかし尙前記の如き數字を示してゐる。

本年度濠洲からの羊毛輸入額は一億五百二十三萬八千圓、我總輸入羊毛の九割四分强に當る。

	昭和元年		同二年		同三年	
總輸入	六二、〇一五擔	六六、〇二四千圓	七六、〇四六擔	一〇一、六六七千圓	八八〇、五一六擔	一二一、八五六千圓
濠毛輸入	五五二、五五四	七四、一五一	七四、〇五一	九四、六〇一	八二六、九三〇	一〇五、三三八

之を昨年に比するに數量金額共に昨年及一昨年に比し夥しい增加である。

一九二七—八年度の濠洲羊毛生產額は二百四十六萬二千俵であつた。これは平年作に比しては勿論、昨年に比しても僅かではあるが增收である。而して之に對する本邦側輸入量は、三十六萬二千六百七十五俵となつてゐるから、總輸出高に對する割合は一四•七%に當り、昨年の一〇•八%に比する時は著しき增加と言はねならぬ。因みに各國本年の買付は、英國三〇%、佛蘭西二〇%、日本一四%、其他三六%といふ割合であつた。

而して本邦輸入羊毛は、その九割餘が濠洲羊毛を以て占められてゐるものであるが、此の增加と比例して濠洲の羊毛產額も增加したから、買付上の困難はなかつたようである。濠毛產額の增加が右の如く我輸入高を增加せしむる一因となつた事も勿論だが、本邦羊毛輸入の增加は、事實上必要の趨勢であつて、今後とも增加するとも減少す可きものとは考へられないのである。蓋し最近に於ける我國羊毛工業の顯著なる發達は、別項記述の如く、毛織物の輸入が漸次減少し、其輸出は反對に漸次增加しつゝあり、毛織糸も漸減こそすれ增加の模樣はない等の事實を見ても知る通り、我羊毛工業の有望なる將來と共に、羊毛の輸入は更に增加す可きこと明かである。

燐礦石

本年度輸入高七百八十八萬八千擔（四十六萬九千五百五十五噸）一千百九十七萬八千圓で前年度に比し百十萬擔（六

萬四千噸）の增加であつた。かく增加を見たのは昭和二年十月以來過燐酸石灰の限產協定決裂し市場にストツク少なかりし爲各社共競ふて增產せるに伴ふ輸入增によるものである。

仕出地の主なるものは米國、埃及、亞弗利加等で、神戸、大阪からはその四割五分が陸揚けされる。

燐酸肥料として最も多く用ひらるゝものは過燐酸石灰で、その他配合肥料とし、又化成肥料としても相當量に達してゐる。

本年度過燐酸石灰生產高二億三千百萬貫で前年度に比し約三千萬貫を增加した。

過燐酸石灰生產販賣高（單位千貫）

	生產高 上半期	生產高 下半期	生產高 合計	販賣高 上半期	販賣高 下半期	販賣高 合計
大正十三年	八五、六三二	七五、四四八	一六一、〇八〇	九七、六一八	五七、五三一	一五五、一四九
同十四年	九一、五六七	九七、五九七	一八九、一六四	一一〇、〇四八	九〇、九九八	二〇一、〇四六
同十五年	一一二、〇三九	九二、八二五	二〇四、八六五	一二三、九二四	六八、四〇二	一九二、三二六
昭和二年	一〇三、八九四	一〇〇、三八七	二〇四、二八一	一二七、四三六	六二、七七一	一八九、一九八
同三年	一二〇、六九六	一〇〇、九五〇	二二一、六四六	一六〇、一九五	七一、九一九	二三二、一一四

內地過燐酸生產高は前表の如く未曾有の增加を示したが、之は前年度限產協定の結果ストツクが相當消化された後をうけて、限產協定は破れ、各社共增產をなせるによるものにして、市況は年初一叺一圓十五錢と云ふ、前年度末以下の安値にまで落ちたが二月以降過燐酸手當期を控へて多少騰貴し、四月頃一圓三十二、三錢となつたが以後又々安値に低迷し、年末一圓二十錢位を稱へられた。

木材

昭和三年の木材界は相變らず不況をもつて終始したが波瀾は少なかつた。市價の高低もその差が段々僅少になつて來て居り、之は思惑が少くなつた結果とも見る事が出來木材界の不況も早や今年で底入であるかの感がある。外材の輸入は續いて旺盛で、その輸入總額は一億一千一百萬八千百七十九圓で之を前年の一億三百八十萬五千百三十三圓に對比すれば七百二十萬三千四十六圓の增加である。米材の輸入高はまたもや過去の最高記錄を作つて八千四百九十二萬六千七百七十七圓の多額を示して居り、北洋材の積取も亦豫想を裏切つて一千二百六十八萬石に上り過去のレコードたる昭和二年度より僅かに四十五萬石の減少を見たに過ぎない。

相場の經過を見ると年初は小康狀態で推移したが其後入荷がふえるに從つて在荷過多の壓迫が加はり六七月頃にかけては甚だしい不況に陷つた。然し八月を過ぎる頃から反動時代に入り、輸入減少を見たゝめ市況は漸次安定となり年末に近づいては春頃の市價を上廻る好調を呈した。毎年十一、十二月は市況の逆轉するが例であるのに今年は全く反對の珍現象を呈した。後記のストツク表に示す如く市場在荷が年末になつて近年の最低位に下り、品逼迫を告ぐるやうになつた結果である。（木材相場表）

年月	米杉大中角 高値	米杉大中角 安値	米杉並四分 高値	米杉並四分 安値	エゾ中丸太 高値	エゾ中丸太 安値
三年一月	一〇、三〇圓	一〇、三〇圓	五、二枚	五、二枚	四三〇圓	四二〇圓
二月	一〇、三〇	一〇、三〇	五、四	五、四	四四〇	四四〇
三月	一〇、三〇	一〇、三〇	五、四	五、四	四四〇	四四〇
四月	一〇、三〇	一〇、〇〇	五、四	五、四	四五〇	四五〇
五月	一〇、三〇	一〇、三〇	五、六	五、六	四五〇	四二〇
六月	一〇、三〇	一〇、〇〇	五、六	六、〇	四五〇	四二〇
七月	一〇、〇〇	一〇、〇〇	六、〇	六、〇	四二〇	四二〇
八月	一〇、〇〇	一〇、〇〇	四、八	四、八	四二〇	四二〇
九月	一〇、〇〇	一〇、〇〇	四、八	四、八	四二〇	四二〇
十月	一〇、九〇	一〇、三〇	四、八	四、八	四二〇	四二〇

十一月	二、三〇	一〇、九〇	四、五	四、八	四三〇
十二月	二、八〇	二、三〇	四、五	四、六	四五〇
二年中	二、八〇	一〇、〇〇	四、五	六、〇	四三〇
三年中	二、五〇	一〇、〇〇	五、二	六、〇	五三〇

油糟

本年全國輸入高は豆糟一六、三五九、五六四擔七三、三六二、六〇六圓。棉子糟八六九、五五一擔、四、三二〇、四八五圓。菜子糟一、四六九、七四六擔、七、六九九、五九八圓。其他三一三、八六六擔、一、四四六、一一八圓。計一九、〇一二、八二七擔八六、八二八、八〇七圓で就中輸入油糟中の大宗は豆糟で、之は主として滿洲より入り、棉子糟は菜子糟と共に殆んど支那より入れられる。

大阪港へ入る數量は極めて尠く、棉子糟重きをなし油糟總計三十萬擔、二百五十萬圓で、神戸港への輸入は豆糟重きをなしその數量二百七十餘萬擔、千二百三十萬圓、その他菜子糟、棉子糟の順序にて總計三百五十二萬二千擔、一千六百三十四萬圓である。

肥料として日本一般に使用さるゝものなる爲、特に神戸、大阪港と荷上げされず、運賃等の關係上、日本各地の貿易港に荷上げさるゝ數量極めて多く、門司、その他北陸地方、九州各港等相當多量の輸入をなしつゝあり。

A豆糟　豆糟は日本へ輸入さるゝ肥料中の大宗にして、大正七年頃は各種輸入肥料中の七割四分五厘を占めて居たが、爾來豆糟の輸入數量は增加しつゝあるも、その反面他の肥料の輸入益々旺盛に就中同じ窒素肥料たる無機肥料硫安、智利硝石等の需要增加につれ、その割合も段々低下し、本年の如きは、全肥料輸入に對する割合漸く五割と云ふ地位にまで至つた。

本年度豆糟輸入數量は千六百三十五萬九千擔、七千三百三十六萬圓で前年度並に前々年度に比し非常なる減少である。之が原因については近年肥料智識の普及につれて含有成分に對して割安なる鑛物質肥料の需要喚起されたるによる打擊並に內地大豆糟の生產增加及び、滿洲產大豆並に糟の歐洲向輸出增加による供給不足がその主因と考へられる就中大豆として歐洲向輸出が年々極めて高率を以て增加しつゝある事は見逃す事は出來ない。即ち大連港積出しの數量二千二百三十五萬擔で、前年度の千四百九十四萬擔、前々年の九百五十萬擔に比し非常な增加で、勿論日本向も多少の增加を見ては居るが、歐洲向は非常な增加であつた。尙浦鹽港經由等の數量を合して歐洲向昭和三年度輸送數量は百六十二萬噸と云はれてゐる。かく歐洲向の增加したる事は、今まで歐洲向大豆輸送は大豆の品質を害し、製品より割高につく爲であつたが本年は、極めて水分多きものゝ輸送に成功し、一方船會社の勉强により大豆の輸送割合に安くなつた爲で、之が爲歐洲方面では豆糟、豆油として輸入するよりは大豆として輸入し、之を搾油するに經濟的であり、同時に豆糟は直ちに食料とし家畜の飼料とし得る便あり、今後共にこの方面への輸出益々增加せんとしつゝある。

かく大豆としての輸出增加の反面に豆糟としての輸出は大いに減少せるを見る事が出來る。これ日本への供給思はしからざりし一原因でなければならぬ。

即ち大連港の輸出について見るに

	大豆		豆糟	
昭和三年	三三、三五四、三七二擔	六七、九九四、八〇七兩	一四、八〇四、六三三擔	三二、三四〇、八七兩
同　二　年	一四、九三九、六九二	五三、四五六、三五九	一五、五三一、二六二	三七、八七六、八四二

又、歐洲向大豆輸出增加の狀況は次の樣である。

大正十三年五六〇、四六六噸　大正十四年七九九、二〇六噸　大正十五年七四〇、一〇一噸　昭和二年一、〇六〇、九九七噸　昭和三年一、六二一、九六四噸

然して內地豆糟生產高は約三百四十萬擔位であらう。前年度たる昭和二年は二百五十萬擔、昭和元年三百三十萬擔位で前年度に比しては相當の增加であつた。

一方內地市況を見るに九月に一時二圓五十錢と云ふ高値を現し、年初の安値一圓九十七錢から見れば五十三錢、二割

七分の激騰であつた。昭和二年の高値たる五月の二圓三十二錢を超える事尚十八錢である。かく昂騰を見たのは輸入の減退から農家が一齊に買付けたによるものであらう。年末他の肥料安に隨伴されて二圓十錢まで落ちるに至つた。

B 菜子糟　菜子糟の輸入は前年度に比し非常な増加であつた。之は内地に於ける煙草、果樹類の肥料として年々需要増加しつゝあるにも不拘、本年並に前年の菜子輸入は支那の動亂及不作によつて極めて少量なりし爲、内地の生産減少せる爲、之が輸入を促し、一方支那にては菜子としての輸出尠なかりし反而糟としての供給極めて潤澤で、本年度輸入の増加も之に起因するものと思はれる。即ち支那昨年度並に本年度の糟輸出を比較して見るに次の如し。

	昭和二年	同三年	比較増
藁付大判	二三二、九五五袋	三九六、〇三六袋	一六七、〇八一袋
藁付小判	九九、七四八	一五七、五二五	五七、七七七
無藁小判	六五、四八九	八三、八三四	一八、三四五
計	三九七、一九二	六四〇、三八五	二四三、一九三

然して菜種糟の上海に於ける昭和三年上半期の相場は次の如し。（單位一袋、上海兩）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月
藁付大判	三、四〇	三、六〇	三、四〇	三、〇五	二、七五	二、六四
藁付小判	三、五五	三、六二	三、四〇	二、九八	二、八〇	二、七〇
無藁小判	三、七二	三、八二	三、五五	三、一三	三、〇八	三、〇五

C 糟棉子　之は殆んど大部分が支那から輸入され上海がその仕出地である。本年は前年より多少の減少であるが一面棉子としての輸入が年々増加しつゝあり、之による内地生産増加の爲、輸入の増加が押へられてゐるものと思はれる。

價格は年末粉百斤五圓、板糟六圓見當であつた。

牛　脂

全國の輸入、昭和三年二二七、五二九擔五、四〇七、〇四一四、前年に比し數量に於て七千八百擔（三分）の減少であつたが、價格に於ては三十八萬圓（七分六厘）の増加であつた。本年度輸入の中九割は濠洲物で一割は支那物である。數量がこゝ數年來減少を來してゐる事は石鹸工業隆盛の折柄珍しい事ではあるが、これは内地硬化油工業の發展による牛脂代用品供給増加に負ふもので、本年度は特に牛脂市況强調なりし爲、硬化油の使用増加せる事は見逃し得ない事實である。

牛脂市況は昨年度不況の後をうけて案外よく一年中通じて百斤二十七圓を前後した。

パラフインワツクス

本品は主として蠟燭用原料として使用され、日本内地の産額極めて尠く、殆んどを輸入しつゝある。昭和三年度は前年度より輸入多少増加した。その過半は阪神兩港よりの輸入にかゝる。仕出地は米國、蘭印、印度等である。

市況を見るに年初一二五度物百封度二十三圓を稱へてゐたが、それ以來あまり變動はなく、七、八月頃より多少づゝ値上りを見、九月頃より年末へかけて二十六圓六十錢と云ふ昨年度の最高を通り越した高値を見た。

之等パラフインの大部分は蠟燭として費消されるが、最近合同油脂等が國産ステアリン酸を以てパラフインに對抗せんと大いに努力しつゝあり。パラフイン對國産ステアリン酸の競爭の將來は相當注目されてゐる。

曹達灰及苛性曹達

A 曹達灰　昭和三年度曹達灰並に天然曹達輸入數量百三十一萬擔、前年に對比して三十六萬擔（約二萬噸）の減少であつた。

昭和元年は特に僅少であつたが、大低は年々十萬噸より十二、三萬噸の曹達灰を輸入に俟ち、内地生產二萬噸を加へて内地需要を充しつゝあつたが、近年曹達工業の確立が嘖傳され、一方技術的並に經濟的基礎は漸次確立の機運に向ひ、旭硝子はじめ業者引續き增產計畫を樹て、大正十四年内地生產高一萬二千噸見當のもの、昭和二年度は二萬五千噸となり、昭和三年度は正確なる統計は不明なるも約三萬五千噸見當と思はれる。

かく内地生產の增加は、需要が年々增加するにも不拘、この輸入減少を招來せる原因と見られる。

曹達灰の主用途は硝子製造用にして、その他昨今之を苛性化して人絹用苛性曹達として消化さるゝ向もあるが殆んどは硝子製造に用ひられる。硝子製造用に使用される曹達灰の中、最も廣く用ひらるゝものはマガヂ曹達灰にして年三萬噸、月印は一萬八、九千噸で、米國物近來非常なる進出にて、將來の活躍が見物であらう。

旭硝子の生產能力二萬五千噸、日本曹達一萬噸見當で、更に兩者共增產計畫の完成を急ぎつゝあり。昭和三年末生產能力五萬五千噸にて、滿鐵の曹達灰製造計畫と共に將來を期待されてゐる。

相場は品薄にてしつかり百封度四圓八十錢頃で年を越した。

B苛性曹達　苛性曹達は主として英國、米國より輸入され、内地需要百五十萬擔、その中輸入百萬擔、内地生產五十萬擔であつた。神戸港は最も多く輸入し全國の七割餘に相當し、大阪は殆んど云ふに足りない。

輸入は最近年々增加の趨勢にあるが、之は内地紙工業が近年益々增產しつゝあると共に、石鹼工業の膨脹、レーヨン工業の急激なる發達其他工業の需要增加に起因するものにして、内地苛性も年々增產を重ねつゝあるも種々なる原因の爲、この增加しつゝある需要に順應し得ない樣である。

即ち内地苛性曹達は晒粉の生產と共に從たり難く、主たり難き關係的地位にあり、苛性の需要に添ふべく增產せんとするも晒粉の需要に伴はざる時は苛性の增產不如意となり、晒粉の需要は苛性の需要膨脹に伴ひ得ず、苛性も晒粉の需要に引もされつゝ少しづゝの增產を見つゝあるの現狀なり。昭和三年は製紙界空前の增產による晒粉の需要、生產增加は必然的に苛性曹達の增產を招來したり。即ち昭和三年生產高六千百十四萬六十封度、前年度に比し六百萬封度、前々年に比し九百四十萬封度の何れも增加であつた。

晒粉とその生產を對比すれば次の如し。

	晒粉	苛性曹達
昭和元年	七三、六四九千封度	五一、六六一
同　二年	八四、三二九	五五、一四七
同　三年	九三、四〇六	六一、一四六

かくの如く内地生產の苛性は電解法によるものなる爲晒粉に牽制されて、急增する需要に伴ひ得ざるうらみあり。かくては終に時代に取殘され、又化學工業の基礎的藥品たる斯品の供給不可能なる事は即ち勃興し發展せんとする化學工業を壓迫する事となり相當の考慮を拂ふ必要にあり最近製造樣式の變改を稱ふるもの漸く多く、作今一、二曹達灰の苛性化による苛性曹達製造法を採れるものもあり。晒粉の使途擴張と鹽素瓦斯利用關係をより擴める事により電解法の增產をも計畫すると共に他の製造樣式を採用して今後に處すべきであらう。

現今内地需給關係は上述の如く、二對一の割合にて、外國品中ブラナーモンド社製品最も市場に廣く、内地品薄その他事ある毎に同社の思ふまゝに市場を左右にさるゝ狀態にあり、大いに考慮する要あり。

本年度相場は年初百封度八圓四十錢見當であつたが、二月、三月頃一時下げ五月頃よりヂリ高にて八月より九圓臺を保つた。

世界に於ける苛性曹達の取引高は約二十二萬噸で、その中英國の輸出高十萬六、七千噸、米國六萬噸、佛蘭西三萬五千噸、獨逸一萬噸と云ふ順序で各國の輸出量何れも年々例外なしに增加を見る事は世界の大勢として苛性曹達の需要工業益々多からんとする事を談るものであらう。

漆

本年度輸入は全國二、五五八、七〇〇斤四、三〇五、五三〇圓神戸港一、二一八、七九六斤一、九一七、〇七三圓大阪一、三三九、八六四斤二、三八八、三六七圓にして前年に比し二十萬斤(一割)の增加であつたが、價格に於ては

七十萬圓(一割四分)の減少であつた。かくも輸入數量の增加したのは內地漆の減產及內地漆器の增產によるものゝ思はれる。

輸入は殆んゞ全部は阪神兩港によつてなされ、支那(中部支那を主ゝす)より百六十二萬二千斤、佛印より九十三萬六千斤を輸入してゐる。內地最近の漆生產高三十萬斤ゝ推算されてゐる。

本年度市況は殆んゞ變動なく一貫目四十圓位であつた。

硝子板

昭和三年の硝子板輸入高を見るに、無色半面厚二、二ミリ以下一、四七一、三五四方米八〇七、二二一圓厚四ミリ以下三七七、一〇一方米四三七、四二九圓其他の厚物六九五、〇六二方米三、二五〇、七六九圓其他の硝子板八四六、四二五方米一、三九九、四六〇圓計三、三八九、九四一方米五、八九四、八七九圓の如く本年度硝子板輸入は數量價格共に相當の增加を見てゐる。然し之を詳細に見るに薄物に於て減少し、厚物乃至は、色物、條線の入りし物、網入りのもの等特殊品に於て增加してゐる。

現今日本內地の硝子板生產高二百二十萬箱で米國、白耳義に次ぐ生產地であり、この生產を代表するものに旭硝子日米板硝子等あり、その生產は年々增加しつゝあるが、その品物は大部分薄物で厚物に至つては各社共その製造に留意しつゝあるも外國品に品質に於て將又價格に於て對抗するに至らず、米國の技術を入れてこの方面の製造に精進せる極東硝子にして尙會社を整理せざるべからざる立場にある。旭硝子に於ても網入、條線入等の製造を研究し、相當の品物を作るに至れるも未だ充分ゝ云ふに至らない。かくて之等特殊製品の需要增加は必然に輸入增加を來せるものゝ見る事が出來る。今神戸港のみについて見るに(大阪港は僅少なるにより神戸港のみにつき見る)無色平面厚物硝子の輸入は昨年度四十六萬二千六百餘平方米突、百九十四萬八十餘圓なりしもの、本年は五十五萬五十四百平方米、二百二十七萬六十圓ゝ非常な增加である。然して之等の仕出他は、白耳義、英國、獨逸である。

條付のものも前年度神戸港のみにて二十五萬方米、四十二萬五十圓のもの本年は三十三萬方米、五十一萬圓ゝなり金屬線又は網入のものも、三萬六千方米、九萬八千圓より十一萬二千方米、三十四萬九千圓ゝ非常な增加であつた。之によつてもその輸入の大勢並に日本內地板硝子工業の大樣を察知し得やう。金屬線又は網入のものは白耳義物多く條付のものも亦白耳義物多く、約七割を占めてゐる。

近來厚物に於て獨逸品の進出目覺しきものありその將來は相當注目すべきものがあらう。

兎に角薄物硝子板は輸入年々減少の傾向にあるも依然ゝして海外品、就中白耳義物の低廉に壓迫を感じつゝある。市價も常にこれによつて建てられつゝある情勢にて、昭和三年々初は黑菱印一函八圓位なりしもの外國品ゝの競爭により七月六圓八十錢ゝなり外國品に對抗せるも外國品は常に十錢乃至四、五十錢方の安價を以て賣られてゐた。

染料

昭和三年度合成染料輸入高は四百四十九萬七千斤、九百九十二萬四十圓で前年度に比し、五十萬斤(一割二分)二百二十萬圓(三割弱)の增加であつた。

その中特に增加を見たのは直接染料の三十萬斤、酸性染料の二十六萬斤、媒染々料の二十四萬斤、建染々料の十七萬斤等で、鹽基性染料は前年度ゝ變りなく、人造藍は四十萬斤、硫北染料は十萬斤の何れも減少であつた。

この總體的に輸入の增加せる事は、昭和二年度に於てモラトリヤム及財界不況なりし上、爲替關係の不利等により輸入差控へられたる關係上、本年度は市場品薄なりし爲輸入增加せるものである。

人造藍の減少は最近數年間の傾向であるが、之は海外品對抗の意味に於て三井染料が專ら製造に着手せる爲、獨逸米國共に競爭的に値を下げて之に對抗し、爲に佛蘭西、瑞西等の之等輸入は殆んゞ採算不引合の立場にあり、之等が輸入減少を誘致したものゝ思はれる。硫化染料の減少は日本の生產增加にあるものである。

全染料を通じて獨逸品の輸入最も多く、人造藍に於て六割、鹽基性五割强、直接四割、酸性七割、媒染六割、硫化七割、建染八割、其他七割總計にて六割ゝ云ふ割合である。然し獨逸物は總體に高級品多く、價格に於ては六割九分を占めてゐる位である。

獨逸に次ぐは瑞西で、近年頓に進出し本年は米國を凌駕するに至つた。その重なる品種は鹽基性、直接、媒染、酸性等で人造藍も相當量に上つてゐる。

米國よりの輸入は本年相當の減少を見たが之は人造藍、直接染料等の減少によるものである。

日本に於ける染料生產高は遲々として增加せず、現時は年產千六百五十萬斤と稱されてゐる。最も多く生產されるのは硫化染料で多少の輸出をすら見て居る。高級染料の製造されるもの相當多種には上つてゐるが、一部を除き未ぎ保護なくしては成立し得ない狀態にある。

一九二七年度世界の染料製造高は約四億萬封度と推算せれてゐる。之を表示すれば次の如し。（單位千封度）

	生產高	輸出高		生產高	輸出高
獨逸	一六五、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	日本	一一〇、〇〇〇	—
米國	九五、〇〇〇	二六、〇〇〇	伊太利	二二、〇〇〇	—
英國	四二、〇〇〇	九、〇〇〇	其他	二、〇〇〇	—
佛國	三五、〇〇〇	八、〇〇〇	計	四〇〇、〇〇〇	—
瑞西	二〇、〇〇〇	一八、〇〇〇			

獨逸　同國は世界に於ける染料製造國にして歐洲大戰前は二億九十萬封度世界の八割强を生產したが、現時は四割强にしか過ぎない。それにしても染料供給國として世界の主座に居る事に變りはない。同國最近の輸出高は左記の樣である。

一九一三	三三、五九八、一三五封度	五一、六六六、一六八弗	一九二五	七五、八七九、〇三五	四四、三二一、二五五
一九二一	二五、九七四、九〇〇	八〇、七八一、八九二	一九二六	八二、八八三、二三五	四七、二三四、一六六
一九二三	七三、九七四、四七五	四一、五八〇、七四二	一九二七	一〇七、五五三、五一九	五五、四三二、一四二
一九二四	八一、〇三三、九二一	三〇、九三三、三六八			

同國輸出の最大賈客は支那、印度並に日本である。戰爭中その市場を殆んど失つたにも拘らず戰後の努力は戰前の市場を殆んど恢復したかの感あり。支那に於ける日本の販路の如きも一、二年を出ですして奪回したるが如き、その底力を思はしむるものである。支那方面に於ける獨逸の勢力はすばらしく、最近獨逸染料會社の支那代理店の合同を見たる等益々堅實なる地盤を確立しつゝある。

合衆國の一九二八年に於ける生產概量は九千六百六十萬封度で前年度より、一・五％の增加である。然して同國需要の九二％は國產染料によつて供給され、同時に人造藍をはじめ一般低級染料の輸出を見る事相當量で一九二八年は二千六百萬封度であつた。同國染料輸出先の重なるものは英、獨、支、加及日本である。ヴアット染料の製造は近來問題の中心をなし、二八年の生產高六百三十萬封度、前年度より三十萬封度の增加であつた。

英國の染料生產高四千二百萬封度で同國の該工業は發展の過渡にあり未だ高級品の殆んどは自給を見るに至らず輸入染料との對抗に腐心し居るが如くに思はれる。

同國輸出の中アリザリン染料と人造藍はその五％を占むるもので、アリザリンの輸出量一萬一千五百四ハンドレッドウエート、人造藍二萬二千七百三十七ハンバレッドウエートで、アリザリンは印度を顧客として全量の九割人造藍は支那が最大顧客で八割を入れてゐる。

佛蘭西の一九二七年度生產高は一萬二千五百米突噸で輸出五千五十噸、輸入千五百五十七噸である。

瑞西の染料製造は最近急速の進步をなし特に人絹用としてヴイスコース或は醋酸纖維素兩用の染料製造販賣に成功する等見るべきものがある。然して同國生產の九割は輸出され、その中アリザリン染料の總輸出高二八年七千六百五十二噸で獨、佛、米、英を顧客とし、人造藍は同年二千五十二噸で、之等は年々增加の趨勢にあり世界市場に於ける染料の競爭激甚なる中に同國の進出は偉とすべきものである。

毛織糸

昭和三年の輸入八、七四六、七〇二斤三二、一〇七、二四一圓で前年の著しい輸入急增に比し二割五分を減じ略々一昨年の數字に復した。而も昨年に比べると單價に於ては高くなつてゐて、數量の減少は約三分を減じてゐる。

本邦羊毛工業は製品需要の增加に伴ひ其原料も亦比年需要を增加しつゝあるが、多くは原毛として輸入せられ半製

品たる本品は增加よりはむしろ減じて行くのが趨勢である。セルやモスリン原糸としての用途が依然本品をして右の樣な輸入數字を示させることゝなるが、國内の梳毛紡糸設備の充實と共に漸次減少することを疑はない。羅紗セルヂス原糸としても、洋服着用の範圍著しく廣くなりつゝある今日愈々需要は大となる可く、必然原毛輸入の增加を來しつゝあるが、これとても糸としての輸入は減少はあつても多く增加することはないであらう。

本年の國内羊毛工業は原物薄物を通じて市況振はず、大企業の會社方面に於ても、小企業側に於ても共に相當困難を免れなかつた。而して大會社は剩餘紡糸の販路に苦心する一方小企業側は輸入原糸の高價に苦しむといふ趣があり茲に毛織糸需給に頗る合理的ならざる點がある。一方に輸入し得るといふ牽制力があるから、安じて大工場の原糸を小工場としては購入することゝし、大工場も輸入糸に優に對抗し得るだけの生產費切下に努めたならば、原糸買付の面倒も避けられ、相共に其業績を擧げられ、生產費の低下は製品需要の普及となり、やがては糸の形から原毛のみへと輸入上有利な地位を獲るに至り、製品輸出への轉換も長足の發展を期し得るに至る筈であらう。綿糸紡績に偉大なる實力を示した我國が半毛工業に於てのみ成功し得ない筈はない。

パルプ

メカニカルパルプの輸入は二十三萬封度、一萬一千餘圓で內地生產五億封度を突破するに思を至せば皆無とも云ひ得べきである。化學的パルプ其他特殊パルプの輸入は內地生產の增加にも係らず益々增加の趨勢にあり本年度この種パルプ輸入一億六千五百萬封度にて前年度に比し五百萬封度三分の增加であつた。

加奈陀は給供の大宗にして數量に於て六割六分、價格に於て五割五分を入れ近年吾國に對する重要さを增しつゝあり。米國諾威瑞典之に次ぐも瑞典、諾威、獨逸等は年々減少の傾向にある。

主要輸入港は神戸にして全國の六割五分、七十萬九千擔、七百六十三萬六千圓を入れてゐる。

內地パルプ工業は大正二年頃より漸次顯著なる發達を遂げ現時製造工場二十八、その中碎本パルプのみを製造するもの七工場、亞硫酸パルプのみを製造するもの七工場、兩者を併せ製造するもの十四工場にして生產高樺太二十三萬七千餘噸、北海道十三萬七千餘噸、內地十二萬八千餘噸、朝鮮一萬三千餘噸、合計五十六萬七千餘噸なり。之を種類別に見るに亞硫酸パルプ三十一萬餘噸(五割四分强)碎木パルプ二十三萬七千二百餘噸(四割一分)クラフトパルプ二萬三百餘噸(四割)なり。かくて碎木パルプは內地需要の殆んどを供給し、化學的パルプは八割五分を內地品を以て供給するの現狀にあり。昭和四年度は生產より增加するものと見られ、六十三萬六千餘噸と見積られてゐる。

市價は益々低下の傾向にあり、輸入物封度當り七錢見當にて前年に比し四厘方一昨年に比し八厘方の下落にして現時市價內地物未晒一封度六錢八厘五毛、晒八錢二厘なり。

尙最近日本に於ける人絹製造の擡頭はヴィスコース式を採用し居る爲、之に要するパルプの需要年々增加しつゝあり。然もこれ等人絹用パルプは未だ內地にて製造されず殆んどを輸入に俟ちつゝある現狀にして本年度內地人絹製造高を一千五百萬封度と見れば之に要せるパルプ二千二、三百萬封度であらう。年末樺太に於ける人絹パルプ用木材排下げ問題は相當喧傳されたがその樹木の權限は兎も角として、著しき發達を示せる內地パルプ製造業に於てこの方面の製造を見る事と思はれるが、植林に相當長年月を要する木林に比し年々生長しては刈り取られ、然も極めて多量にして現に臺灣のみにて日本に現在使用するパルプ用木材の九割たる五百萬石に相當する量を產すると云ふに於ては、國策としてもその將來は矚目せらるゝ所である。

石油

昭和三年の石油輸入高は四億六千五百三十九萬ガロンで前年の二億三千四百三十四萬ガロンに比し約二倍の激增である。その他の石油として三十九萬五千擔で之亦前年より六萬餘の增加であつた。之を價格について見れば、本年度八千九百八十八萬圓で前年に比し二千三百六十一萬圓、約三割五分六厘の增加であつた。

輸入石油の中重なるものは原油及重油で三億八千六十萬ガロン、揮發油の一千四十三萬ガロン、石油の六千八百五十

十萬ガロン、機械油の五百八十萬ガロン等であるが、就中原油及重油が全量の八割餘を占め、近年益々增加の趨勢にあり、大正十五年は前年の一割四分强、昭和二年は前年の三割八分、本年は前年の二倍と云ふ增加の後に見るも如何に本品の內地需要旺盛なるかゞ伺ひ得られやう。然もその反面揮發油の輸入が年々著しき減少を見つゝある。即ち大正十五年までは多少づゝの增加であつたが、昭和二年は前年度より二割七分、本年は四割五分と何れも減少を見てゐる。

かく原油及重油の輸入が增加し、揮發油の輸入が減少せる原因は米國に於ける輕油の供給不足にして日本に輸入することゝ非常に困難なる立場にあり。これに反し原油の產出益々多量に、重油は輕油分餾殘留物として共に供給極めて潤澤なる上、之が取扱は米國はじめ各國業者の最も頭を惱ます問題にして、從つて價格も揮發油其他に比し割安にして、その上吾國輸入關稅率も輕油に比し極めて低き爲、原油或は重油のながらに輸入し、重油は之をクラッキングして揮發油其他輕油として有利に內地に供給せんとするによるものにして、近時內地にこの種重油のクラッキングによる揮發油製造會社の創設、企畫を見る事の多きは之を裏書きしてゐやう。

尙同時に船艦其他工場に於ける內燃機關の燃料用として重油の喧傳今日より甚だしきはなく、不況の繼續による生產原價の遞減は各製產業者の最も意を用ふる所にて、內燃機關用として重油の經濟的價値が廣く認められ、非常なる勢を以て重油使用設備に變改しつゝある事は又重油の輸入を大いに刺戟してゐるものと思はれる。

仕出地は原油及重油に於ては米國最も多く、蘭印之に次ぎ、揮發油は蘭印九割五分を占め、その殘りは米國に、石油は米國、蘭印相半す。

元來米國は世界石油王國にて原油、重油をはじめ一般石油類等吾國への輸入量最も多かりしも、最近蘭印よりの輸入激增し、揮發油の如きは米國內の供給不如意なる位にて吾國は殆んどを蘭印より輸入する事となつた。

阪神兩港の輸入額は全國の二割に過ぎない。而して大阪港の輸入は殆んど米國品にして、神戶港の輸入品は蘭印七割を占め、米國之に次ぐ。

自動車、航空機の驚異的發達と近來著しき發展を見つゝある船艦の內燃機關化の傾向は石油の需要を彌が上にも增し、その上各種工業用機關、爐等の燃料として重油の經濟的進出等、液體燃料としての石油の重要性は益々增加しつゝある。吾國の石油需要高も世界の大勢に順應して逐年增加の傾向にあり、昭和三年前半期の石油類總供給高千五百六十四萬一千函の增加で、昭和三年の總供給高を前半期の二倍を以てするならば三千百二十八萬二千函で、昭和二年に比し一割三分强、大正十三年に比すれば六割一分五厘の著增である。然して之等增加の主なるものは重油、揮發油機械油等で、大正十三年に比し重油は二倍半に、揮發油も亦二倍以上となつてゐる。

右の如く內地需要は近年頓に增加しつゝあるが一方內地產油量は殆んど變化なく、增加する大量は全部輸入品によつて補充しつゝある。

その中にも揮發油類は冒頭にも述べし如く、輸入重油を內地にて精製する量益々多く、その增加の蹟見るべきものがある。その大要は次表により伺ひ得やう。

內地石油需給統計表（單位、函）

	三年前半	前年同期	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年
揮發油						
國產	七四八、五〇〇	六九五、六〇〇	一、三四一、九八五	一、二三三、〇九九	八三〇、七二八	六二一、九九五
外油精製	一、〇三、四三五	六六五、〇〇〇	一、三九四、四四三	九六一、八七四	六三三、九四七	五二一、六六〇
輸入品	一、九九二、五〇〇	一、六三〇、〇〇〇	三、四九八、三一三	二、九一九、二六三	二、二五一、七六〇	二、一八五、五九〇
移出	一六、四三八	(一) 一三、六二四	(一) 二一、一八五	四二、六五一	三四、六三七	一四、五三一
供給計	三、七四八、〇一七	三、〇〇四、三二四	六、二四五、九二六	四、九九一、五八五	三、六八一、八〇七	三、一三四、四二四
燈油						
國產	二九〇、四〇〇	二八五、五〇〇	六四〇、七六八	五四四、八八八	七五二、九〇一	七四九、六五五
外油精製	二二七、七五〇	一三三、一〇〇	四四八、五三三	四九三、〇一五	五三一、四三七	三〇〇、〇〇〇
輸入品	一、四五五、九四〇	一、二八〇、〇〇〇	二、五六六、八二四	二、五六八、二五〇	二、七八、七二八	二、八二六、一三七
移出	八七、八〇六	八二、六五六	一四七、七五五	一九九、四七五	一九九、五五四	四七、七五七
輸出	二、〇〇〇	三八、八六八	五七、六七〇	—	—	—

	合計				重油				機械油			
	外國油精製産	供給計	移輸入油精製品	移輸出品	外國油精製産	供給計	移輸入油精製品	移輸出品	外國油精製産	供給計	移輸入油精製品	移輸出品
大正十年	三、六一〇、二六四	一、九九七、六三三	一、六六〇、〇四二	三、〇三三、三五六	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三
大正十五年	一、九九七、六三三	一、九九七、六三三	一、九九七、六三三	一、九九七、六三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三
昭和四年	一、六六〇、〇四二	一、六六〇、〇四二	一、六六〇、〇四二	一、六六〇、〇四二	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三
昭和五年	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三
昭和二年	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三
昭和三年前半期	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三
同年前期	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三	一、四七〇、〇三三

備考　日本石油會社調査統計に據る。臺灣産原油にして內地に於て精製されたものを含む(一)は移入が移出に超過せる分を示す

內地原油産出高は千五、六百萬石で、年により增減はあるも概して減産の狀態にあり、たゞ昭和二年度は農林省の石油試掘補助金の下附等あり、多少の增産を見た樣である。

本邦原油産出高（單位石）

	本土	臺灣	合計
大正五年	二、九二二、七四七	一、七七〇	二、九二四、五一七
大正十年	一、六六〇、〇四二	六、六三三	一、六六六、六七五
昭和四年	一、四七〇、〇三三	三、〇三三	一、四七三、〇六六
昭和五年	一、四七〇、〇三三	七〇、三三三	一、五四〇、〇六六
昭和二年	一、四七〇、〇三三	一二六、三三三	一、五九六、三三三
昭和三年前半期	七四七、三三三	五六、一六六	八〇三、四三三
同年前期	六三二、三六六	三、六六〇	六六五、〇六六

石油相場　石油相場は各種各態で騰貴したものも下落したものもある。

揮發油は昭和二年末一函十二圓六十錢が三年六月には十二圓になり、十月には更に十一圓に下落した。之は近年需要增加の爲各社增産をなせるに上期輸入增による供給過剩によるものである。機械油は比較的波瀾なく春初五圓七十錢のもの六月頃より二十錢安の五圓五十錢處であつた。

重油は三月頃まで石一〇圓五十錢を稱へられたがそれ以來一〇圓で保合つた。

海外狀況　最近國際聯盟の發表する所によれば一九二七年度世界原油産出高十二億四千四百萬バーレルで、一九

一三年の三億八千五百萬バーレルに比し二十二割餘の增加であると報ぜられてゐる。一九二八年度產出高は未だ正確なる報告に接しないが米國ドハーティー會社のガーフィア氏の豫想によれば十二億七千九百餘萬バーレルであらうと。

米國は世界石油產出量の七割五分を占むる最大產出國であるが、近年天然產物保存其他市場調制の目的にて、產油量を調節せる爲、產油量は前年度と大差なく月產七千萬バーレル臺であつた。相場は概して良好で一九二七年の漸落步調も一月以來一休みの態にて六月頃より漸騰し初め年末既に春初に比し一弗もの昂騰を示した。

即ちペンシルバニヤ原油に就て見るに

	最高	最低		最高	最低
昭和二年一月	三、四三弗	三、一五弗	昭和三年六月	三、〇五	二、八五
同　三年一月	二、八〇	二、八〇	同三年十二月	三、八五	三、六〇

毛織物

本年の毛織物輸入額三千百萬圓、前年より約一割を減じた。而して數量に於ては却つて若干の增加を示し、本年の羊毛工業品の不振が世界的であつたことを示すものと言へるが、同時に我國に於ける毛織物の需要が、內地生產の增加に拘らず、依然海外よりの輸入を必要とすることを示すものと言へる。しかし、これは極めて僅かであつて、洋服着用の慣習の普及の大なるに比ぶれば、前記輸入高は極めて少いもので、全く國內斯業發達が輸入增加を防いでゐるところは少くないのである。數年前の國產愛用運動以來、みだりに外國品を有難がらなくなつたし、又國內製品にしてもよく國人の滿足を充すに充分なもの少からず、今日に於ける輸入品は主として特殊か或は流行を中心とするものを中堅とするもので、換言すれば一部の服裝特殊性維持慾患者が、前記數字を維持しつゝあるのみと言つてもよい。これを除けばさう多額の輸入を外國に待たねばならぬ程我羊毛工業はいつまでも幼稚ではない。

今日に於ては羊毛工業は本邦に於ては既に所謂基礎工業の一として極めて重要なるもの、一つである、國內需要の普及はその第一根底をなすものである。而して工業そのものと消費とは相關係的に斯業の發達を促すものである。從つて前記特殊者流の存在も大した問題とならず、逐年普及する消費はよく斯業の發達を促さう、國內需給の充實はやがて對外輸出への實力涵養となる、近くは支那市場の需要增加が趨勢を示せるあり。今日の綿業と同じく羊毛工業は鬱然たる王國を形成するの可能性を信じられる、現在の羊毛工業會等にしても操短協定機關として活動するかはりに全國關係方面をして、大羊毛工業への合理的機構たらしめ、專ら牛產原價の低下を目標として進むの機關たるを得んか、本業のため、本邦產業の爲め誠に幸である。

貝殼

輸入狀況　本品輸入高は二十一萬五千二十八担、三百三十一萬余圓で前年に比し數量に於て二萬二千三百六十五擔、前々年度に比し五萬九千九百九十七擔の何れも增加であるたが、價格に於ては夫々十四萬五千圓、八十六萬二千圓と減少を見てゐる。

かく數量に於て著しき增加を見た半面價格に於て減少せるは高瀨貝其他特殊高級原料に於て昭和元年度九十圓位を稱へて居たものが二年度六十圓見當の市價となつて二年度は相當價格の減少を見たが本年度は二年度に比し大した變化はなく、却つて多少騰貴の跡すら見うけられる位でこの方面にその價格減少の原因の見出し得ないが主として是等上等品を輸入する神戶港の輸入數量の減少割合と價格減少劑合を對比する事によつて知られやう。その原因は何と云つても支那ドブ貝の低落によるものと見る事が出來やう。即ち前年度湘南物六圓以上のもの本年平均五圓見當であつた。

然して數量に於てかくも多量に上つたのは業界不況をかこちつゝも品物は案外に捌けたによるもので就中支那ドブ貝等の格安物は工賃其他の關係上相當量の需要增加を見たからである。

本品の優良原料たる高瀨貝は沖繩、臺灣、南洋新領土に於ても多少づゝ採取され、內地貝釦の原料とはなるが殆んどは濠洲、南洋方面、即ちマカツサ、ソロモン、木曜島、フィジー等の諸島嶼から產出され、之等は主として貝釦の本場たる、大阪、奈良、兵庫、和歌山を控ふる阪神兩港より輸入消費されてゐる。

外に貝釦原料として內地鮑貝、サヾエ貝、玉貝、廣瀨貝等も使用され、之等は沖繩、和歌山其他沿岸各地より蒐集される。本年鮑、サヾエ等は罐詰業不振の爲品薄を稱へられたが市價は不動であつた。

年末市價は高瀨貝マカツサ小、六十圓、大、四十圓、木曜島中、小六十一圓、大三十五圓、支那ドブ貝湖南物四圓二十錢より六圓、江西物上物七圓二十錢、玉貝十三圓、廣瀨貝二十五圓と云ふ所である。

海外商況　マカツサー方面の通信によれば、同地眞珠母貝「ビマ」もの「セムラ」もの等概して引合多く、「アルー」もの及び高瀨貝に對しては特に日本よりの買氣旺盛で、「グリーンスネール」貝及び黑蝶貝は品薄氣味なりしに不拘商內相當旺盛なりし由なるも相場は大體を通じ殆んど不變であつたが黑蝶貝のみは多少の昂騰を見せてゐると。

同地方に於ける七、八、九月頃の市價は大體次の樣であつた。（百基替、單位盾）

眞珠母貝　ビマもの	一〇九、三〇	高瀨貝	八七、八一―八七、四三
セラムもの	一〇九、三〇	グリーンスネール貝	六三、二四―六四、六六
アルーもの	一九一、〇四―一九四、三六	黑蝶貝	三七、三三―三七、二四

筒及管

昭和三年中における管及筒の輸入は內地生產の不足と需要增加に伴ひ增加し、其の輸入高は全國にて九十八萬五千二百十四擔、八百八十七萬七千九圓、阪神兩港において四十六萬三千八百八十三擔、四百十七萬百八圓の輸入を見、全國の約半を見た。即ち全國的に見る時は前年に比し多少數量增加し、兩港においては多少の減少を見た。而してこれは斯界の生產相當盛なりし結果に外ならない。

鐵（條、竿、アングル型類）

近時鐵材の輸入は逐年減少を續けて居る。而してこは一面內地製鐵工業の繁榮を暗示せるものと言ひ得る。即ち昭和三年度における吾國の鋼材生產高は百五十七萬八千瓩でこれを前年の百三十二萬瓩に比すれば二十五萬餘瓩の增加となつて居る。吾國の鋼材生產高は逐年若干の增加を示して居るが、然も昭和三年において著しく增加せし所以は八幡製鐵所が自給自足の方針により進みしこと、我國相場昂騰の結果輸入減少せることによるもので、多年採算不利と市況の不振に惱みつゝあつた、我鋼界も昨年以降著しく見直して來た。

銅（塊及錠）

銅の需要は逐年增加する現狀に在り、從つてその原料塊及錠の輸入は產出比較的少き我國として增加亦已むなき所であつて、本年阪神兩港のみの輸入額實に五百八十七萬三千四十九圓の多額に達し全國總輸入額の過半を占めた。而して主なる輸入國は支那、米國であつて前者は九十七萬圓餘、後者は四百八十萬圓餘を供給した。（阪神兩港）

我銅相場は米銅の寫眞相場と稱し得可し從つて昨年初來頓に强調を呈し來れる米銅相場は我銅相場に自然影響を及ぼし日對米爲替の不利となりたる結果いよ〳〵强調を來たし、一時百斤建六十二圓五十錢を見た。

而してかく米國銅相場の强調を來せるは同國における其の生產高が激減せしと滯銅量の減少に因るものであつた。

次に昭和三年における本邦の銅統計を示すと左の通りである。

昭和三年本邦銅統計表（單位英噸）

	生產	輸入高	輸出高	消費高	在庫高
一月	五、〇五〇	二五九	〇	五、三五〇	四、七七〇
二月	五、一六二	二一四	一	六、一八八	三、九六二
三月	五、三九九	三三〇	六	七、一〇四	二、五四〇
四月	五、四三五	六六六	〇	六、六九八	二、〇三二
五月	五、四〇八	一、九三八	〇	七、〇七八	二、三〇〇
六月	五、一七一	一、三四七	一	六、四一七	二、四〇〇
七月	五、九三四	二、二〇五	六	七、三二一	三、三〇〇

八月	五、四二九	一、三二四	三	六、八八五	三、三四五
九月	五、八八五	九〇八	六	七、一〇三	三、〇三〇
十月	五、八二六	二、九二〇	三六	六、六二八	五、〇九二
十一月	四、九九九	一、〇五八	六七	五、八九五	四、九九七

葉鐵及葉鋼

本年本品の阪神兩港における輸入は數量四十二萬六千三百三十五擔、價額五百三十九萬二千九百八十二圓に達し、全國の約三割を見た。而して輸入としては前年と大差なく平凡な年であつた。

昭和三年の上半期間並に七、八月は本國相場としてもさう著しき動かなく、亦爲替相場も大して市場に影響しなかつた上に需給の均衡もほゞ保たれて居た等の理由により大體に平凡の商狀を以て推移した。

鍼力板の需要先さいへば先づ石油罐が三十五%、食料品罐詰用が二〇%、菓子、茶、コーヒ等の容器並包裝用一五%、器具、玩具用、日用雜貨として一〇%位の割合で市況の如何に拘らず其の需要は年々增加しつゝあるもので之に伴ひ供給其だけ增加しつある。

尤も輸入としては大した增減もない樣であるがこはつまり八幡製鐵所の增產を暗に語るもので需要は明かに增加して居る。

鐵板

本年本品の輸入狀況を見るに前年に比し大した增加を見なかつた。然らば商況は如何と言ふに大體において保合範圍を彷徨するに過ぎなかつた、即ち六、七月の七十五錢(英一級)を最高として崩れ一時六十七錢見當に迄落ち平均七十一、二錢の所を上下した。尤も本品の相場は入荷如何と爲替相場の關係で或は高く、或は低く小波動を示したが何れかと言ふと先づ堅實相場であつた。

而して需要筋においては期待程の好感は齎らさなかつたものゝ遂年增加を示した。尤も輸入筋は內地生產の增加と過去數年來無謀の思惑輸入によつて苦しみ來たつた苦き經驗とに鑑み次第に輸入減を見た。

之即ち需給關係が近來稀らしく順調を見た證左に外ならない。

發電機及電動機

本年阪神兩港輸入額は數量百五十萬千八百十四斤、價額二百三十七萬二千三百九十八圓にして前年に比し約百四十萬圓餘の減少である。而してこの現象は之を全國的に見るも同じく、本年度全國總輸入高は數量六百二十萬八千七百七十五斤、價額六百四十一萬六千三百七十二圓を見、前年に比し、數量約二百萬斤、價額六十萬圓餘の減少を見た。而してこの原因と見らるゝものは生產投術の發達の結果國產品の聲價漸く上り舶來品を市場より驅逐するに至つた結果である。

亞鉛(塊及錠)

由來吾國は亞鉛の產出に乏しく、從つて需要の大部分は之を輸入に俟てる狀態でこの點何れの年とて變りなきもので、輸入の增減は必然的に斯業界の盛衰に關係あるのと稱し得。

翻つて本年度本品の輸入を見るに、全國數量五十九萬五千九百八十七擔、價額一千九十三萬六千九百四十六圓、吾が阪神兩港合して、數量四十四萬四千五百四十三圓、價額八百十九萬五千八百三十七圓を示し、前年度に比し多少の增加を示した。

ワイヤロツド

本品は需要の大部分を海外に仰ける關係上市價も亦主として、海外入電と爲替相場の高低によつて、變動あるを常とする。今本品市況の推移を見るに、大正十五年五月には頓九十四圓三十錢なりしもの、同年七月には海外相場及夏枯の關係で八十四圓七十一錢と低落し八月には小反撥を演じたけれども、爾後概ね弱保合の商狀を辿り昭和二年五月

には八十二圓四十六錢と最安値を示現した。然るに其後海外高に刺戟されて市價は漸次强調を呈し來り、同年十一月に平均九十圓十五錢を唱へた、本品相場は翌十二月に於て平均相場百三圓二十三錢と瞬く間に百圓臺を突破し、最高百七圓の熱狂相場を唱ふるに至つた。これは品薄に加へて入荷の少なくなつたに依るものであるが斯うした高値は自然外注の增加を豫想せしめ、爲に本年一月末から三月上旬にかけて冬枯と共に氣配盆槍の商狀を現してゐた。然るに三月に入ると共に季節柄漸く需要增加の傾向を呈し來れるに不拘一方豫想された輸入が案外に少なく却つて品ガスレの狀態にあることが明瞭となつたので四月に入ると共に又々反撥に轉じた。

ワイヤロッドの需要は近年亞鉛引鐵線、丸釘、ワイヤロープ、鐵針金等の製造業の發展に伴ひ益々增加の傾向を辿つて居る。而して輸入額の最も多いのは獨逸で全體の六割九分弱を占め、次は英國、白耳義、米國等の順序である。獨逸品の輸入が斯く多いのは主として價格の安いのによるもので品質として、米國がいゝのであるが相場において到底引合はぬ爲めである。即ち獨逸品は一擔當り値段が四圓五拾錢九厘なるに比し米國品は六圓餘に相當して居るのである。獨逸品に次いで安いのは白耳義品で大陸品が常に內地生產者の癌となつて居るのもこの爲である。其外、佛、伊、墺、和、瑞等より少量の輸入を見て居るが前年に比し增加の著しいものは矢張り獨逸で其他概ね增加を示して居る。

要之、ワイヤロッドの需要は年と共に增加しつゝあるが唯生產費關係上他種品に反比例して需要の大部分を海外より仰ぎつゝあるは遺憾である。

けれども技術の發達と大量生產とは相俟つてれれが自給を見るもさう遠き將來ではあるまいと思はれる。

金屬工及木工機械

本年全國の總輸入高は數量三百八十七萬八千二百四十斤、價額四百三十八萬千八百七十八圓にして前年に比し數量において三百五十一萬八百七斤、價額において六十萬三千九百四十七圓の減少を見、之を吾が阪神兩港において見るときは本年度輸入額は數量百二十萬五千二百九十二斤、價額百五十九萬五百六十八圓にして、前年度に比し數量において三百五十五萬六百十七斤、價額百二萬五千百五十三圓の激減を來した。

而してこは國產機械類の發達の結果海外輸入が減少せるに因るものである。

紡績機類

我國に於ける機械工業は近時大に發達し殆ど自給自足の能力を具備するに至れるも優良なる材料の安價提供、小規模の設備による經濟的生產、科學的研究等の關係で尙多額を海外より輸入せる狀態である。而して我國より東洋其他の各市場に輸出さるゝものは紡績機及織布機、電氣其他汽罐喞筒、金屬工、木工機械其他であるが何れも少額である。

かく機械類の輸入の多類なる理由については前記の如く、第一吾國においては科學的研究と優良なる材料において遜色がある。亦之が可能であつても優秀なる精密機械の製造や高級品の製作には最も完備したる設備を必要とするから其がためには莫大なる資本の投下を必要とするが我國の資本力は遺憾乍ら貧弱なるを免れない更によしこれらの大設備を完成し得としても需要範圍の狹小なる我國內のみでは、到底大量生產による經濟的經營を行ひ難いから勢ひ海外市場の開拓に努めなければならぬ。然るにこは吾國の現狀において極めて困難な事であつて其のよく獨立經營の域に達する迄には幾多の犧牲を覺語せねばならぬ、如斯にして我國の機械類は其の品質、機能等においてどうしても外國品に對抗し得ない。

而して從前は外國品は高級品、內地品は普通品と云ふ風に勢力を占めて居るが近時獨逸品が安價主義を標榜して盛に侵略しつゝあるので我當業者中には經營困難の向も少くない樣である。例へば施盤類、ドリル等の如きも獨逸品は米國品の半額以下の値段を以て輸入され內地品脅威の的となつて居る。

しかして吾國に輸入を見る機械類の主なる供給國は米國、英國、獨逸、瑞西、佛蘭西である。

紡績用機械

輸入表

	大阪港	神戸港
全國	一〇、〇五五、二六三斤	一〇、四三一、〇八七圓
獨逸	九、七三七斤	一六、四一六、二九三斤
英國	九、三六六圓	八、五四四、〇九九圓

同　二　年	一五、六六、四〇〇	一〇、二〇四、七五二	一五三、一三三	六六、五四二	一三、〇六四、七四二

本品亦國產品にして優秀なるもの生產さるゝに至れる結果その輸入額逐年減少しつゝあることは吾阪神兩港の輸入額を見るときは明かである。

八、八六四、三〇三

縫衣機

輸入表

	全國		大阪港		神戸港	
昭和三年	三、四九二、九二三斤	五、三四二、八四四圓	一〇五、八三四斤	一四七、六三八圓	二、四〇六、四七六斤	三、六〇五、一〇五圓
同　二　年	四、三三三、九七七	六、五八三、二六三	七八、一三四	一三四、四三三	二、五四二、六六四	四、〇六二、五二〇

本品亦一般機械類と同じくその輸入は逐年減少してあること前表より明かである。

而してその原因として國產品の市場進出をよけることが出來る。

銑鐵

昭和三年中における銑鐵の輸入高は數量九百四十八萬六千餘擔、此の價格二千五百二十萬餘圓であつてこれを昨二年の數量七百八十八萬二千餘擔、價格二千九十七萬餘圓に比すれば數量において百六十萬四千擔、價格にして、四百二十七萬九千餘圓の大增加を見た。

これが原因として鋼材市場が豫想外の好況を示現したゝめ內地の製鐵能力では到底供給不足を免れなかつたのと幾分思惑的輸入の行はれたによるものである。而して此を國別に見れば其の最も多きは英領印度及關東洲にして他は殆ど問題視するに足らない少額である、即ち印度鐵は昨年度において約三十一萬四百餘噸の多額を輸入せられ前昭和二年の二十六萬一千百十二噸に比較すれば四萬九千三百噸の增加に當り全輸入量の四五%餘の多きに上つて居る。これふまでもなく印度鐵は其の價類の低廉なるに加へて含有物の關係において獨特の性能を有するからであつて、銑鐵自言給論者が常に印鐵を頭痛に病んで居るも洵に然りと言はねばならぬ。

又關東洲經由の銑鐵は言ふ迄もなく、鞍山製鐵所の生產であるが昨年度に於ける同製鐵所は格別の增產を見なかつたのみならず滿洲自體に於ける需要の漸增と相俟つて昨年度は十八萬二千四百餘噸にして約一萬噸の減少となつて居る。又支那よりの輸入が幾分增加して居るのは本溪湖製鐵所の作業がやゝ見直したによるものであるが、何れにしても問題とする程でなく其他、米國を初め英獨等も前年との比率より見れば相當著しい增加を示せるも實際數量よりせば、印度鐵、滿洲鐵の比ではなく、特に印度鐵の將來は大いに興味ある問題である。

六大生產國に於ける昨年の銑鐵生產に關する最後の改訂統計に依ると、其の產高はまさに新記錄を意味するものであつて而してこれを以て大體昨年の世界に於ける概勢を窺ひ得るわけで之を月別的に戰前の一九一三年及び一九二七年と對比すれば左の如くである。（單位千グロス噸）

國	一九二八年	一九二七年	一九一三年
英國	五五〇、九	六〇七、七	八五五
米國	三、一五三、一	三、〇四七、一	二、五八〇、五
獨乙	九六八、三	一、〇七四、八	一、三二四、四
佛國	八二四、六	七六二、八	四二七、二
白耳義	三三〇、三	三〇七、八	二〇三、八
ルクセンブルグ	三二六、八	三三三、四	二〇九、〇
一月小計	六、〇四三、八	六、〇三三、六	五、六四九、九
一年總計	七、五三五、六	七、二八三、六	六七、七八八、八

即ち一ケ月生產高は六國を通算して六百四萬三千八百噸、一ケ年七千二百五十二萬五千六百噸と總計において一九二七年を三三・五%一九一三年を七%凌駕した事になる、而して佛國の增產が最も顯著なる事實は注目に値する。

アルミニユウム（塊及錠）

昭和三年中におけるアルミニューム(塊及錠)の阪神兩港に於ける輸入は合計十四萬千三百三十八擔、七百三十五萬八千六百八圓に達し、全國の大半は兩港において輸入を見たのであつた、而してこは近來益々電線、工業用、科學用に其の需要增加しつゝあるに因る、而して輸入先を國別に見るときは最大なるは依然米國にして前年に比べ著しき躍進を遂げ之に反し、米國、佛國、白國等何れも多少減じ、獨逸では略同樣の狀態を、瑞西は四割餘の增加を示した。

世界に於ける產高を見るに本年は過去の三ヶ年に比して著しき增加を示せるもので、即ち一九二六年の產高は十九萬三千二百瓩、一九二七年には二十一萬二千二百六十瓩、なりしが、同二八年には二十三萬瓩の生產を見たのであつた。

鉛(塊及錠)

鉛は國內產出が極めて少量であるにも拘らず近時これが用途は鉛管ケーブル、ペイント、水道鉛管其他廣範圍に亘つて盛に需要を見るに至りたる結果其の原料塊並に錠の輸入は逐年增加し來れるものである。只價額が前年に比し其の割に增加せざりしは蓋し鉛は從來世界的に生產過剩の傾向を以て推移し本國相場下落せるに因る、而して輸入鉛を數量より見るとカナダのタヾナック、紐育のセルビ、ビルマのBM濠洲のBH、ASの順序であつた樣である。

本年度金物界は鋼材を初め一般に良好なる趨勢を示したが本品亦近年稀に見る場面を見せた、既述の如く、鉛は近時世界的生產過剩の傾向に在るの結果、本國相場の軟調と共に內地相場も茲數年來ヂリヤスの步調を以つて推移し本年三月上旬に於いて倫敦相場が二十磅臺を割て一九磅の安値を現出したので內地相場亦海外安のため實に十三圓といふ最安値を示した、勿もこの現象は其後八月に入りて十五圓臺に立直るに至つた。

要之本品相場は一高一低しつゝも其の內容が從來よりも餘程改良されて居るから內地海外共に現在以上に惡化する理由に乏しく寧ろ幾分樂觀されて居る樣である。

大阪港輸出入品國別明細表

	輸出之部		輸入之部
第一類	植物及動物	一	四一
第二類	穀物、穀粉、澱粉及種子	一	四一
第三類	飲食物及煙草	二	四二
第四類	皮毛角牙類同製品	六	四六
第五類	油脂蠟及同製品	七	四八
第六類	藥材化學藥及爆發藥	八	五〇
第七類	染料顏料及塗料類	一一	五五
第八類	絲縷繩索及同材料	一二	五七
第九類	布帛及同製品	一三	五八
第十類	衣類及同附屬品	一〇	六二
第十一類	紙及紙製品	一四	六四
第十二類	礦物及同製品	一六	六七
第十三類	陶磁器及硝子類	一七	六九
第十四類	鑛及金屬	一八	七一
第十五類	金屬製品	二〇	七五
第十六類	時計、學術器、船車及機械類	二二	八一
第十七類	雜品	二四	八九

大阪港輸出品（內國產）

國名	數量	價額
百合根		
支	一（千個）	九円
香	〇	〇
印	〇	三
計	一	一四
其他ノ植物及動物		
支	一	九、八五五
關	一	三、三七八
香	一	三三
蘭印	一	五六
細	一	一〇三
伯	一	一六五
計	一	一三、五七九
精米		
支	四（擔）	六〇
關	一三五	二、〇六一
香	四五	六一〇
印	六三一	九、一四九
海	二五〇	三、七一〇
蘭印	六九	七六八
比	二一	一、一八三
佛	一	三〇
東	三〇	四四六
濠	六	一〇〇
其他	四	七六
計	一、二六六	一八、三四四
大豆		
支	四二（擔）	四六七
關	一四四	一、六六三
香	五	五四
印	二七	二八三
海	一三	一六一
蘭印	三	三六
英	八	一三一
佛	一	一六
土	一	一六
合	二五	一三一
計	二六九	二、〇六〇
豌豆		
支	一〇（擔）	一三四
關	七四	八九七
香	六	六九
海	一	一一
計	九一	一、一一
隱元豆		
支	一六八（擔）	二、二六八
關	一八六	二、三〇三
香	一〇	一一
印	二一	一四一
海	二六	二八
蘭印	一四	一一〇
佛印	一三八	二、〇二一
佛	一	二六
合	一三五	二五
濠	四	一六
其他	一	一三
計	一三、一三四	二、〇六〇
其他ノ豆類		
支	一七四（擔）	二、三一一
關	六四五	八、〇三四
香	一六	一〇九
印	一五	一九七
海	六一	八一九
蘭印	二九	二七七
細	三	三三
英	九	一〇二
合	一五	一五七
濠	三	四一
其他	三	二六
計	九七三	二一、一〇八
小麥粉		
支	一二、一〇三四（擔）	一〇三、九〇六
關	四、六三五	三七、六〇五
アロ	四、八一〇	三九、〇〇〇
計	二一、四六九	一八〇、五一一
澱粉		
支	四四七（擔）	六、〇六六
關	一、三八五	二〇、五九三
香	一〇	一四一
印	二一	二八
海	一四	一九
蘭印	一四	一六
佛印	一三八	二、〇二一
佛	一	二六
合	三	二五
濠	八五	一、一一〇
計	二、〇九四	三〇、三九四
其他ノ穀粉		
支	七一（擔）	二、六六六
關	二、三六一	四八、四二四
香	五	七三
印	五	九九
海	一九	三一四
蘭印	一三	二〇八
細	一	一
佛	一	一五
合	二	一九五
墨	一	一五
計	三、一三九	六二、〇四〇
其他ノ穀物及種子		
支	—	五、五〇四
關	—	二、九九九
香	—	一三
印	—	一七
海	—	二九八

英	細	關	海印	印	香	關支	椎茸(瓶)	計	關海印	玉蜀黍(瓶)	計	合	比
一	一	〇	〇	二	〇	一〇	三六	一	一	三六	一	一	一
六〇	四三	六四	一四	八〇	五五	四〇	三〇、六九	八九	四五	四六	五七	四五	三

其他ノ乾物

合	佛	英	細	佛印	印	香	關支	乾椎茸(瓶)	五	計	其他	滋	合	細	比	海印	印	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、九六	四五	七四	三五	四、四四	六五	六六〇	五五、三六四	三、三六六	一、三五	五五、三六四	三、三六六	一、三五	八	五〇	一〇	五六	三、三六六	一、三五	三〇

其他ノ野菜

香	關支	計	關海印	玉蜀黍(瓶)	計	合	比
一	一	一	一	一	一	一	一
四〇	三六	三六、六九	一〇五	三六、六九	四、三四	九、六六	四五

合	佛	英	細	佛印	印	香	關支	其他乾物	五	計	其他	滋	合	細	比	海印	印	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、九六	四五	七四	三五	四、四四	六五	六六〇	五五、三六四	三、三六六	一、三五	五五、三六四	三、三六六	一、三五	八	五〇	一〇	五六	三、三六六	一、三五	三〇

大根干

香	關支	計	關海印	大根干(瓶)	計	合	土	佛
一	一	一	一	一	一	一	一	一
三六	三	三六	七五	六〇(瓶)	一、三五	五六、三六	三〇	三五

栗林蜜

香	關支	計	關海印	印	香	關支	栗林蜜	五	計	其他	滋	合	細	佛印	印	關	海印	印	香
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五五、三六七	四、四六	六〇、六六	五五、三六四	一、四四	六五	四、三六	五五、三六七	三、三六六	一、三五	五五、三六四	三、三六六	一、三五	八	五〇	一〇	五六	三、三六六	一、三五	三〇

蔬菜漬物

香	關支	計	關海印	印	香	關支	蔬菜漬物(斤)	計	其他	滋	合	英	細	佛印	印	關	海印	印	香
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四四、八八	五六、三七六	三五、六六三	三、六六〇	三六、七七	三、六六〇	三〇、八六	五五、三七七	三、三五、三三	三、六六、一五六	三、三五、四四	三、七五	三四、三五	三、三五、四四	三、七五	三、三五、四四	三、三五、四四	三、七五	三、三五、四四	三、三五、四四

其他ノ果實及核子

印	香	關支	計	細	海印	印	關	支	其他ノ果實及核子(瓶)	五	計	其他	滋	合	細	比	海印	印	香
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五六、九七	一	五五	三、六六	三、六六	四、四四	五七、六八	五五、四四	三、六六	一、五五	五六、三六	三、六六	一、五五	八	五〇	一〇	五六	三、六六	一、五五	三〇

其他ノ茶

印	香	關支	計	細	海印	印	關	支	其他ノ茶(瓶)	五	計	其他	滋	合	細	比	海印	印	香
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五六、九七	一	五五	三、六六	三、六六	四、四四	五七、六八	五五、四四	三、六六	一、五五	五六、三六	三、六六	一、五五	八	五〇	一〇	五六	三、六六	一、五五	三〇

香	關支	計	關海印	糖精	計	滋	佛	細	比	海印	印
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四一	三五、七九七(瓶)	三四、三五、三三	六〇	四一、五七三	一	一	三	五	一	三	六〇

其他ノ砂糖

香	關支	計	關海印	砂糖(斤)	計	合	佛	細	比	海印	印
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三四、三六〇	六六、〇〇三(瓶)	六一、三六三	一〇、三五〇	三四、四六三(斤)	四三	六六、三五三	一〇、三五〇	四〇	一〇	三五	四五、七一

其他ノ砂糖子

香	關支	計	關海印	砂糖子(斤)	計	合	佛	細	比	海印	印
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三六、九六	三〇一、六五五(斤)	一、三六八	七、〇四五	四六、三五〇	一、〇〇〇	四、三五	一〇	四〇	一〇	三五	四一、七七

其他ノ鮮魚介類

支	計	其他	滋	合	佛	細	佛印	印	香	關支	鮮魚介類(瓶)	計	關海印	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六六、三〇	一九、四五	〇	一	一	一	〇	一	一	三五	三七(瓶)	六六、七五	三五、三三	一〇、四四	一、四六	三五、七五	一、九六	三、一七

昆布(刻ミタルモノヲ含ム)

支	計	布	英	加	合	英	細	海印	印	香	關支	昆布(刻ミタルモノヲ含ム)(瓶)	計	關海印	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四六、七五	一、七10	10	六、六七	四	三	三五、三六	七〇、九四	三、九	三、〇七一	三、三五	一〇、六六	四六、七五	六、六四	三、六七	三、三五	一、七五	三、七六	一、七五

其他ノ乾魚類

支	計	合	佛	細	比	海印	印	香	關支	其他ノ乾魚類(瓶)	計	合	細	海印	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九五(瓶)	三九	四	一	三	五	六	三	一	六五(瓶)	四三	三〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、三六	一、七六	四、四九	〇	〇	九	二	三	四	一、七五	四、三九	一〇六	一〇〇	一四	四、七六	五五、八五	三、七五	三、三六	三、三六

其他ノ鹽魚

支	計	合	佛	細	比	海印	印	香	關支	其他ノ鹽魚(瓶)	五	計	細	海印	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六〇、七六	四、四五	〇	〇	九	二	三	四	一	六六	一七(瓶)	五五	一、九三	〇	七	三〇	四	一	〇
一、三五	四、三四	一〇〇	一四	四、七六	五五、八五	三、六六	四、三四	五五、七六	三、六六	一、五五	八六	三、六六	一、九六	〇	七〇	一四	三〇	一、七〇

其他ノ魚類

支	計	合	佛	細	比	海印	印	香	關支	其他ノ魚類(瓶)	計	合	細	海印	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七、九九	一、五四	〇	〇	九	二	三	四	五	六六(瓶)	四、三九	三、七九	四、四五	六六、三五	五、七六	四、四五	三、七五	三、三六	三、三六

其他ノ煎貝類

香	關支	計	合	佛	細	比	海印	印	香	關支	其他ノ煎貝類(瓶)	計	合	細	海印	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇〇六	三五	110	五七七	一七〇	四、四六六	六	一	四	三〇	七	六六	一、四五	三五、三七	五五、四四	三、六六	四、三四	五七、六八	三、六六	一、五五

支	二(擔)	二、五九五
關	二	二一〇
海	〇	三〇
蘭印	二	三〇四
計	二五	三、一三九

其他ノ乾貝

支	〇(擔)	三八
關	四	四〇七
計	四	四四五

乾鰕

支	〇(擔)	七〇
關	九	五六六
秘	八三	八、四三一
計	九二	九、〇五七

鱶鰭

支	二(擔)	一〇三

海鼠

支	一〇(擔)	一、一九九
關	三〇	三、〇七六
計	四〇	四、二七五

鰹節

支	八八(擔)	二一、〇三一
關	一六三	二七、一〇一
香	〇	三八〇
印	一三	二、五三〇
海	一〇	四、一六八
蘭印	八	一、六〇六
佛印	〇	一〇〇
佛	〇	二七
墨	〇	三
東	〇	二六
計	二九一	四七、〇二一

海苔

支	五、〇一六(斤)	五、八二六
關	五、一五七	一一、〇二四
香	一五八	三二四
印	一七〇	三五〇
海	三三八	五八四
蘭印	二七一	五七三
佛印	五	二〇
細	三八	四八
墨	五	一〇
計	一一、一五八	一八、七三九

寒天

支	二、八四九(斤)	二四、五三六
關	三、七三八	二八、九九二
香	一四八	三三四
印	五五〇	一、〇七〇
海	六	一六
蘭印	三四、六五九	八五、六〇三
佛印	三〇〇	六五〇
アロ	二〇〇	三六〇
暹	二〇〇	四二四
合	一〇、一九九	二一、七〇一
計	七二、八〇九	一六三、六八六

味噌

支	六二六(擔)	一〇、一〇三
關	一、一〇六	二〇、九一二
香	五四	七七九
印	一一九	二、三七三
海	六一九	一一、八八七
蘭印	二一五	四、三〇八
佛印	二	四〇
比	三六五	四、五三四
暹	三	六九
細	四七	六四六
英	六	一五三
佛	八	一三五
土	一	一六
合	六	八八
墨	二	二四
東	一	二七
濠	九	一八六
其他	一九	二八一
計	三、二〇八	五六、五七五

醤油

支	七五六(石)	四四、五七六
關	八二四	四七、五八四
香	四七	二、九五七
印	三七	三、三八〇
海	八三	五、四一六
蘭印	三八	二、四三七
佛印	一〇	五九六
アロ	一	九三
細	一九	一、一七五
英	六	三六六
佛	一九	九九四
土	〇	一四
合	九	六七六
墨	〇	二五
東	〇	三六
濠	九	六五八
其他	二	一八四
計	一、八八〇	二二、一六七

礦水

支	二(石)	一七
關	五	三四六
計	七	五二三

其他ノ飲料

支	―	三一、三三三
關	―	一〇、九〇六
海	―	二〇七
蘭印	―	四三七
比	―	六五〇
細	―	一九二
計	―	四三、七二五

コンデンスミルク(粉狀ノモノヲ含ム)

支	二、六七八(容器共斤)	六、〇四五
關	二一、七二〇	一〇、四九一
計	二三、三九八	一六、五三六

鑵詰及鑵詰(鳥獸肉)

支	二、二九七(容器共斤)	一、六四四
關	六、九九四	四、九〇六
香	二二四	一五〇
印	一七一	一五八
海	一、三一六	一、一七六
蘭印	三三〇	一八六
細	二二一	一五九
計	一一、五一三	八、三七九

同(蟹)

支	九、七〇七(容器共斤)	六、七九八
關	二〇、九〇五	一四、五二四
香	一四八	一〇八
印	六一九	四九三
海	七四九	六一七
蘭印	五七一	四二五
アロ	八八	七一
細	一〇六	七〇
英	三七、四〇一	二六、一九二
和	一、五一八	一、一〇二
合	三二、一四三	三三、一七九
加	三、四九二	三、一六六
濠	一、三九五	一、三五一
計	一〇七、八四二	七八、〇九〇

同(鮭及鱒)

支	九、二四六(容器共斤)	三、一九五
關	八五、八九〇	二一、三三三
香	一四五	四〇
印	二九五	八八
海	五五七	一六二
蘭印	三〇六	七四
細	二〇	四九
其他	三、七五〇	一、一〇〇
計	一〇〇、三八九	二五、〇四一

同(其他ノ魚)

支	一八、二九〇(容器共斤)	九、六〇六
關	四〇、九九七	三三、三九七
香	八六六	六九一
印	八四二	五九二
海	三、三三三	一、八八一
蘭印	一、五〇〇	九〇九
比	五八	三〇
細	七八四	四二九
合	五四六	三〇六
濠	一〇九	五九
其他	五〇〇	一九四
計	六七、七二五	三七、八〇四

同(鮑)

支	一三、五五六(容器共斤)	二三、八五七
關	二〇、四二四	二九、九三六
香	二一九	二〇三
印	四三〇	三六五
海	一九〇	二〇七
蘭印	九九三	九〇五
アロ	三六	三〇
英	一一〇	一〇〇
計	四五、九三四	四四、六〇三

同(其他ノ貝)

支	二五、三六〇(容器共斤)	二二、三五二
關	四四、五七四	二〇、二三三
香	一五二	一〇九
印	七二	三八八
海	三、六五六	二、一六八
蘭印	二、三三八	六四七
アロ	一九六	一五八
細	六六三	三七一
合	四二六	二二六
濠	七七	六八
其他	四六	二四
計	七八、一八八	三六、七二四

同(筍)

支	六七、〇八〇(容器共斤)	二七、六七二
關	三四七、七三二	一〇一、二九四
香	九、三七〇	二、五三四
印	四、三九一	一、一一七
海	七、二〇四	二、三三六
蘭印	二、二九四	六四〇
細	六九四	二二七
英	七六	二四
佛	五九一	一三九
土	三三	七
合	一四、三五三	四、〇九七
墨	五〇	一七
埃	八〇	一六
濠	二二七	五一
其他	四七二	二二一
計	四五四、六〇五	一三〇、八八二

同(其他ノ蔬菜)

支	四七、一六八(容器共斤)	一八、二二〇
關	一三、三〇三	四四、三二八
香	六、六九八	二、四四八
印	七、二四五	三、三三一
海	二〇、九〇三	九、六三九
蘭印	一〇、八〇四	三、九四六
比	二九〇	七四
細	二、二三九	七九六
英	五〇	三〇
佛	六〇〇	二二七
土	一三六	四二
合	五、二七二	一、四六七
埃	五一	四〇
濠	六五一	二七六
其他	一、〇九四	三七六
計	二七、五三三	八五、〇三七

同(調味料)

支	九七、〇三五(容器共斤)	九四、五七三

同	計	土	細	逗	比	關	海	印	香	關	支
計其他	二五六、二四五(容器共斤)	三五六、三五六	二、八三二	二、九二三	一、九二三	九、〇〇	二、六九	二	五〇、五六、三四〇		
計其他	二四一、四二	一三五、六四〇	一、四二一	四、六七八	二、四三四	七	九、八〇	二、九九、六七七	二、六、九九七	二、七四、七九	二、三二、三五〇
計其他	一六九、二四六	一三、二五〇	一、四五、五六	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五

同	計	土	細	逗	比	關	海	印	香	關	支
計其他	二五六、二四五(容器共斤)	三五六、三五六	二、八三二	二、九二三	一、九二三	九、〇〇	二、六九	二	五〇、五六、三四〇		
計其他	二四一、四二	一三五、六四〇	一、四二一	四、六七八	二、四三四	七	九、八〇	二、九九、六七七	二、六、九九七	二、七四、七九	二、三二、三五〇
計其他	一六九、二四六	一三、二五〇	一、四五、五六	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五

(其他)

計	其	漆	塊	合	佛	英	細	比	關	海	印	香	關	支
四一、四二	一六九、二四六	一三〇、五五五	一、六、三五	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇	一三、二五〇
一四、四二一	一四、七九七	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五
一四、四二一	一四、七九七	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五	一、六、三五

清酒

計	歐	佛	細	ア	佛	關	海	印	香	關	支
四、五五五(有)	三、〇四五	〇	三	〇	〇	二九	三	〇	一〇	一〇	一〇
四九、五六、二九	二五、九六、九九	七五	六三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

麥酒

計	細	印	香	關	支
一二九(有)	八三五	〇	〇	一、一三六	六、六、六
一三、〇四九	六、六、九	一四	五五	四、四五五	九、一三三
一、六、七五〇	三、一四六	一三五	一四	五五	四九、三四

其他ノ酒類

關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一

其他ノ食料品

計	佛	英	細	佛	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

食鹽

計	香	關	支
一	一	一	一
五三、二四〇	九、二	七、八	一五四

其他ノ煙草

計	其	漆	塊	合	佛	英	細	佛	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三〇、五五五	一、六、七	一四	一六	一三、一四一	一三八	一三〇	一三、三五	四、六、四三	七、一、六四四	一、六、五五	一、四、三六六	一、七、六六	四、三四〇	五三、二四〇
五六、九七七	四九、七七	四、四五五	一、六、七	一、三五、六	一、四、四五	四九、三三	一、六、七	一、六、七	一、六、七	一、六、七	一、六、七	一、六、七	一、六、七	一、六、七

其他ノ皮毛角牙類

計	佛	英	細	ア	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四、六、四五	四、七、六一	一七	一〇	五	一三、四四四	四〇	七、八六六	一〇、九七七	一四〇	一三、六六四	一七、六三六	五〇

毛

計	滿	合	英	關	支
一	一、二五五(斤)	四	五六、二五六	一一、五六六	一、四四一	五六、四四六
〇、六六六	五、一五六	一三、九〇六六	五一、一六一	七、九九〇	一〇、二四三

皮

豚毛

計	滿	合	英	關	支
一	四	三〇〇(斤)	一、六四四	三五、五四四	一、七、一五五	三、二、六五五	三四、四四四
六〇、六六六	五、一五六	一三、九〇六六	五一、一六一	七、九九〇	一〇、二四三

其他ノ皮毛角牙類

滿	加	合	獨	佛	英	細	ア	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三六、六六五	一七、六三六	五〇	一三、九六六	一七、六六六	一〇、九七七	一四〇	一四、四五五	一、七七	一〇	五	一三、四四四	四〇	七、八六六	一〇、九七七	一四〇	一三、六六四	一七、六三六	五〇

計	細	佛	關	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一
四四、六四一	四、七七七	一六六	一四四	一、一四五	一、六、七五五	一三、四六六	一、七、七六六	四九、二四

其他ノ革製品

計	關	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一
一四六、九七七	一四、七七七	一六六	一四四	一三〇	一、七、〇〇	七〇	一四、三四四

轅

機械用帶

計	合	英	海	印	香	關	支
一	四六、三六(斤)	三六、四四一	五六、六九〇	一四、六六六	一、四四一	四、六四四	一四、六四一	一、四五五	一、四五五	一、四五五	一、四五五	一、四五五	一、四五五
四〇、九六六	四、〇七五	一三、〇四九	一〇、九九〇	一、六、四四	一、六、四四	一、六、四四	一、六、四四	一、六、四四	一、六、四四	一、六、四四	一、六、四四

象牙製品

計	細	逗	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一、一五〇	一三、一〇一	八、六〇〇	九、九五	一、一六七	一四、六六六	一三、四七〇	五四、五四〇	一三、九〇〇	一、六、六六	一、六、六六	一、六、六六

亞麻子油

計	其	漆	塊	比	佛	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四、九六六	一三、五〇〇	一四、四五五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

其他ノ皮毛角牙類製品

計	細	逗	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四、六六六	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

菜種油

計	細	逗	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四、六六六	一三、六六六	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

薄荷油

計	逗	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一
一四、六六六	一三、六六六	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

棉子油

計	比	關	支
一	一	一	一
一四、六六六	一三、六六六	一、六、七五	一、六、七五

樟腦油

計	合	英	比	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四、六六六	一三、六六六	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

荷子油

計	滿	合	英	比	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四、六六六	一三、六六六	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

魚油

計	滿	合	英	東	埃	秘	和	獨	佛	英	逗	比	關	海	印	香	關	支
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一四、六六六	一三、六六六	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五	一、六、七五

合	四八三	八、九〇〇
漆	九四	一、四九九
計	八、〇三三	二五、七二四

鯨油

支	七五(擔)	一、二六〇
關	一	一九
計	七六	一、二七九

石油

支	四三〇(ガロン)	三三八
其他	八	六
計	四三八	三四四

其他ノ礦油

支	八六一(擔)	一九、二三三
關	二、四四三	三二、九一六
香	二	四二
印	一	三
海	一	二六
蘭印	一六九	三、二七五
アロ	一	七
暹	一	一八
細	四三	七二一
其他	三	三八
計	三、五二四	五六、二九七

木蠟

支	八七九(擔)	四三、〇八六
關	四〇	二、二三〇
香	二六九	一五、一六三
印	八	四二八
比	六	二七一
秘	三	六一九
計	一、二三五	六一、八〇六

硬化油

支	四六、六四〇(斤)	三、〇三〇
關	二四、四五四	一二、〇二一
海	六八	一五
計	七一、一六二	一五、〇六六

化粧用石鹸

支	九二九、八八八(打)	七九二、八二五
關	六五三、三八九	七九四、七三〇
香	七七〇	八七〇
印	九、四六一	四、五三三
海	一、〇〇五	二、四五四
蘭印	一、九五三	二、五四九
佛印	一〇〇	二二六
アロ	二〇〇	二三五
比	八〇	一三〇
暹	一、〇三七	一、五八二
細	二〇〇	四五七
加	二三〇	四四三
東	一〇〇	四五
漆	一〇	一三
計	一、五九七、四一三	一、六〇一、〇九〇

其他ノ石鹸

支	四三、七八二(斤)	三、二六〇
關	五九、八七二	一四、二三四
香	五五三	三六三
印	四〇	一〇
海	二四三	一四一
蘭印	六八	五三
細	七三六	二八
東	三七〇	一九五
計	一〇四、六六一	二七、四七三

化粧クリーム

支	二四一、九二九(斤)	一八六、八二四
關	四七七、八八四	三七四、六六九
香	一一〇	一〇五
印	二、三六三	一〇、一〇八
海	二七八	二七六
蘭印	六〇	五四
細	一〇	一八
東	七五三	五四一
漆	一六	二〇
計	七二二、四〇九	五七二、六〇五

香水及香油

支	四八、二三四(打)	一三三、一三三
關	三六、八九四	一〇九、一三七
香	五七	三三五
印	五、九二二	九、七四三
海	七四七	二、八二八
蘭印	三〇	一五〇
比	三三	一五五
細	二五	六九
合	四三	二四六
計	九一、九七三	二四四、七九六

其他ノ油脂蠟及同製品

支	—	七四、九九九
關	—	二一、七四六
香	—	二、三三七
印	—	一四、〇五九
海	—	五、六五九
蘭印	—	七、六六七
アロ	—	三九九
比	—	四、四四五
暹	—	二三四
細	—	一八六
合	—	一七〇、〇五〇
東	—	三、一九六
漆	—	一、七八八
新	—	八八
計	—	三九六、七九三

人參

香	五五(擔)	三八、一四四
比	〇	一六〇
計	五五	三八、三〇四

除虫菊

合	七、五〇三(擔)	五六〇、四六三
加	四二三	三一、五三〇
漆	一六八	一五、一〇〇

計	八、〇九三	六〇七、〇六三

膠

支	九、九四〇(擔)	三五三、三九〇
關	一、四三五	五〇、八六四
印	九三五	三三、二四四
計	一二、三一〇	四三七、四九八

硫黄

支	二、三四五(擔)	二六、二二二
關	四、三三六	三三、七八四
香	三八〇	二、二五九
印	七八六	四、〇〇七
海	二、〇三四	二一、一〇三
蘭印	九八	五九三
比	一八七	一、〇八四
計	二九、一四六	一五九、〇四〇

沃度

支	一、〇八〇(斤)	二一、三七四
關	一八二	一、九七〇
香	六	九三
印	一	九
海	二	一四
比	三六	三五〇
計	一、二九八	一三、九一〇

醋酸

支	三二一(擔)	一四、〇八五
關	一八二	八、三三三
香	四	一九一
印	二〇	八三八
海	一〇	四五〇
計	五三七	二三、八八六

硫酸

支	三四、二三五(擔)	二五、九二〇
關	二、八六七	一九、八四九
香	二、二九八	一三、九一九
印	一、四八〇	九、一六〇
海	一、二二三	七、三三四
蘭印	一、四六四	九、一八七
佛印	一四一	八四六
比	四、九六八	三〇、二四七
暹	一、〇三三	六、四六〇
細	六〇	三七〇
計	四九、七五九	三一三、二八二

硝酸

支	三二、七二四(擔)	四二〇、七〇五
關	一、四〇〇	一八、七五九
香	三、六五〇	四八、五五三
印	二五	三一五
海	三六六	四、八三九
蘭印	五三七	七、一七〇
佛印	六四	八五五
比	一九九	二、六一八
暹	四一七	五、五五〇
計	三八、三八二	五〇九、三六四

亞砒酸

支	二五、一〇五(斤)	三、三三三
關	二、九一三	一、五〇三
海	二五二	三
蘭印	八四〇	一一
布	一六、六〇〇	二、一〇五
計	五四、七一〇	六、九七四

硫化曹達

支	四六、三八三(擔)	三〇四、五二七
關	三七三	二、三五九
香	八六四	五、八八六
計	四七、六二〇	三一二、七七二

沃度加里

支	二、九〇三(斤)	二九、三八六
關	二〇七	二、二七三
香	一三	二八七
印	一、四三九	一三、八八七
海	四〇	三九八
蘭印	四	四五
暹	一七〇	二、二五〇
計	四、七六五	四八、四三六

晒粉

支	九、三四七(擔)	七七、八二〇
關	六八六	五、八六九
香	五〇〇	四、四一三
佛印	五三四	四、四九六
比	一三	一六八
計	一一、〇八九	九二、七六六

炭化石灰

支	四、七一八(擔)	三六、八二〇
關	九〇四	七、二四九
香	一六六	一、三三六
海	一、〇九五	八、五〇五
比	一七	一四二
合	二	一六
計	六、九〇二	五四、〇五八

樟腦

支	二五六(擔)	三四、六七六
關	七二	一〇、一六五
香	四	五九五
印	七	九四九
海	一四	一、七四六
蘭印	一五	一、八六八
比	六	七七九
暹	二	二六二
合	三	四〇〇
秘	七	九〇〇
計	三八五	五三、三四〇

薄荷腦

支	〇(擔)	一、五三九
關	〇	三四三
香	一	六二〇
印	三六	二八、七六一
海	六〇	四三、六〇三
蘭印	四	四、二九五

比	二	二、四二六
暹	三	二、三〇三
英	六四	四三、〇〇二
獨	五	三、三〇二
白	二	一、七〇五
和	四	二、八一〇
合	一三	二六、八九一
秘	〇	二三〇
計	一九三	三六一、八二〇

薄荷玉

支	一六、七〇二(斤)	三〇、八六四
關	三三一	五四二
印	七五	一六〇
海	一、一八七	一、八三三
蘭印	一九、六二一	三五、八八六
比	六七三	九八三
計	三八、五六九	七〇、二六七

殺蟲粉

支	二、七八八(擔)	三三、五二四
關	一、一五三	九三、二三一
香	二八六	三三、四一六
印	九三	七、五〇六
海	六〇	四、六六八
蘭印	一四六	二一、二二六
佛印	二	一六〇
暹	二九	二、五一八
緬	〇	三三
英	〇	二七
佛	三	一、一五四
歐	四	三五一
合	一三	一〇、二三三
加	五	三三九
秘	三	三三〇
亞	四	三、八二〇
埃	二	三、七五六
東	五	三九三
新	一〇	九〇二
計	四、七九四	三八六、五一六

蚊取線香

支	二五六、一八六(斤)	三〇五、八一八
關	三一、七二四	二六、八三六
香	三三、〇四四	一七、五七八
印	三一、五四六	二六、六三七
海	五〇、九二四	三七、九七四
蘭印	五六、〇三三	四四、〇二四
佛印	二、〇三一	一、五一八
比	六七五	五二四
暹	一三、〇三五	九、一八一
細	九二〇	七〇〇
佛	七〇〇	六七五
西	三六二	三一〇
歐	二、三四六	一、六五四
合	三、〇四三	二、四〇六
加	三〇〇	二八〇
墨	五四五	四一一
秘	三、〇〇〇	二、三八五
ウ	一、〇〇〇	八一四
埃		八五五
東	一一五	九一
濠	一、〇九三	八八七
計	四七五、六〇〇	三八一、五四八

齒磨粉

支	三三三、七七五(斤)	二五三、三一三
關	三〇二、二三五	二二三、〇一五
香	六四四	五五七
印	四、四九九	四、一五一
海	四、三三二	四、四六四
蘭印	一、〇二四	一、〇三〇
佛印	二〇一	一九四
アロ	三一一	一四四
比	一四五	一〇〇
細	一六一	一四〇
加	七八六	五三五
埃	一五	一四
東	二〇〇	一八三
濠	八五	七五
計	六四八、二七三	四八六、九一五

白粉

支	五八、九五四(斤)	五六、九四八
關	一〇四、二三九	九五、〇二八
香	九二七	八八二
印	八、九五六	七、一五七
海	五、〇四三	四、七六四
蘭印	五、九六五	四、六四七
佛印	一三〇	一三〇
比	一三三	一二四
細	一四	一六
計	一八四、三五〇	一六九、六七六

其他ノ調製(薫香類)

支	四七、九四七(斤)	四六、四三三
關	一六八、七八六	一六六、八〇九
香	一、二九〇	一、二四二
印	五、八四一	六、九六三
海	七、三三〇	八、六一九
蘭印	一、九二一	二、〇五七
佛印	六一九	五〇三
比	一三〇	一三二
暹	二六七	二四一
細	三五	三一
合	六六	六五
計	二三四、二三三	二三三、〇八四

ガーゼ脱脂綿及繃帶類

支	—	一六三、四四一
關	—	一六五、二九九
香	—	一八、四五〇
印	—	四三三
海	—	四、〇〇〇
蘭印	—	一、二八三
佛印	—	一二〇
アロ	—	九六
暹	—	二、五五〇
細	—	一二七
計	—	三五五、六三九

賣藥

支	一八八、九二七(斤)	五三六、八二四
關	一〇三、六三八	一八三、〇六〇
香	七、三四五	一三、一四五
印	八、二〇五	二七、三三二
海	九、八二三	二〇、四七七
蘭印	一五、六五六	二九、〇六三
佛印	九七八	一、八七六
アロ	八〇	六七
比	一三一	三六四
暹	一、一二四	二、九八七
細	七	一七
合	一、六六二	三、〇七七
埃	八	二五
東	三三	一二一
濠	三四	一九九
計	三五七、六四七	八二八、六六四

其他ノ藥材化學藥及製藥

支	—	一、四三八、四九三
關	—	六二七、二七五
香	—	一三三、九六二
印	—	二一、三五七
海	—	五四、〇五九
蘭印	—	一五三、六七七
佛印	—	九一六
アロ	—	一四、八六二
比	—	一〇、八八九
暹	—	五、八七一
細	—	三、八八七
秘	—	九六
南米	—	五〇四
埃	—	五〇
布	—	二〇
其他	—	一三
計	—	二、四四五、八九一

爆發藥

支	一三三、八六七(斤)	一一五、一七四
關	一一七、五六六	九二、四九四
計	二四一、四三三	二〇七、六六八

燐寸

支	一六、五二〇(斤)	三、七九八
關	六、一三三	一、四〇五
計	二二、六五三	五、二〇三

コールター染料

支	一五四、六二二(斤)	一〇三、七七一
關	三九、三九八	一七、一六七
香	五〇〇	一一五
印	三、八七五	一三、四三一
海	一、五一三	二六一
細	一〇〇	二
計	二〇九、〇〇六	一三四、七六六

金屬粉

支	七〇、八九五(斤)	六二、五六四
關	一三、八〇四	一三、一九二
香	一五、四七九	一四、三三一
海	三七	四五
蘭印	七五	六〇
比	八三	一〇五
計	一〇〇、三七三	九〇、二九七

鉛丹

支	二二、七三二(斤)	四六、五一五
關	三八四、八二五	八三、六五七
香	三、〇〇〇	七五〇
印	一、一三七、二三七	二四九、九四一
蘭印	三四、〇六四	六、六二七
暹	一、二五八	三五一
計	一、七七三、〇九五	三八七、八四一

コールタール及ピッチ

支	六、六二四(擔)	二三、八三九
關	七、四七八	三〇、二二一
香	四三	一七四
印	一六、八四〇	六六、三九七
海	三〇五	一、〇五八
蘭印	六、〇七九	二三、三一三
細	一六	六〇
計	三七、三七五	一四五、〇五一

鉛筆

支	六三、〇五七(哥)	一四二、三五九
關	二七、四三三	四九、九六九
香	六一〇	五七一
印	一〇一、二九二	一〇六、一七七
海	一、七〇〇	一、八七〇
蘭印	一二五	二四〇
暹	二三〇	二九〇
加	二、一〇〇	二、七九五
秘	一二〇	一五一
埃	二、〇〇〇	一、八〇〇
東	四〇〇	四四九
計	一九九、〇〇七	三〇六、六七一

インキ

支	三二〇、一六一(斤)	二五〇、〇三九
關	一四四、四三九	二一六、四三六
香	六五、八〇〇	五一、三三一
印	六、二二九	四、一四三
海	八三〇	六四四
蘭印	二、三五六	一、九七三
佛印	一九二	一六〇
比	七、三四〇	六、一三八
暹	九二	一〇〇
細	三〇	二二
東	四〇	三〇
計	五四七、四九九	四三〇、七九四

ペイント

支	二六九、〇八六(斤)	一三八、四九九

西	獨	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	漆	東	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支
												其他ノ染料顔料塗料及塡料											
												三六〇〇	一、三六六	四、六六七	一〇一、三三	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、三六六	三、六六六	三六、〇一〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、三六〇	三五〇	一、〇四〇	三四五	一、〇四〇	一、一三五	一四六、〇三五	一〇〇、三六六	一一〇、三六三	一四、八六六	一三、〇一〇	三六、三三三
海	印	香	關	支	海	印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香
										麻糸及麻線													
一	三六	三、六六七(瓩)	三〇、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										其他ノ線繩紐類													
海	印	香	關	支	海	印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香
										麻													
一	三六	三、六六七(瓩)	三〇、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	三、六六六	一、六九七(瓩)	三、六四四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										繩													
印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	漆	秘	
一、〇三〇	一、六六六	四、六六七	一〇一、三三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										打綿													
印	香	關	支	計	海	印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香
一、〇三〇	一、六六六	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										綿織糸(二十番マデ)													
印	香	關	支	計	埃	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	漆	細	比	ア
同(四十番マデ)																							
一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一〇三、六六六	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
印	香	關	支	計	海	印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香
一、〇三〇	一、六六六	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										同(六十番マデ)													
印	香	關	支	計	海	印	香	關	支	計	非	東	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印
一、〇三〇	一、六六六	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										同(其他)													
印	香	關	支	計	非	東	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	細	蘭
一、〇三〇	一、六六六	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
										綿縫糸													

計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支
毛亞麻類(屑及故ヲ含ム)																							
一、六九、九四〇	一、六九(斤)	九三	一〇〇、〇三三(斤)	一、六九、九四〇	一、六九(斤)	九三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三
麻繊糸																							
三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四	三五、四四四
海	印	香	關	支	海	印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香
屑糸及屑綿糸																							
三〇、七六七	三五、三三三	一〇、五〇	三、六六七	三、六六七	三、六六七	三、六六七	三、六六七	三、六六七	三、六六七	三、六六七	三、六六七	一、四四七(瓩)	三、六六七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七
レース糸																							
一〇〇、〇三三(斤)	七三、七六七(斤)	八〇、八三三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三	一〇、〇八三
人造絹糸																							
四三、七一七(斤)	九五、三六	三、七〇一	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三
紡績絹織糸																							
一三、六六七(斤)	七五、〇六	一四、六六七	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五	一、一三五
計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支
真綿																							
一(瓩)	三六六	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七
印	香	關	支	計	漆	合	和	獨	佛	英	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	漆	細	比
其他ノ絲縷及同材料																							
一、一三七	一、六六七	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
生地綿布(白木綿)																							
一、一三七	一、六六七	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同(綾木綿)																							
一、六六七	一、六六七	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
印	香	關	支	計	漆	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	漆	細	比
同(六十番マデ)																							
一、六九、六〇〇(斤)	三〇、六六七	三、六六七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
印	香	關	支	計	非	東	細	比	ア	蘭	佛	瑞	比	ア	蘭	海	印	香	關	支	計	細	蘭
同(其他)																							
三五、六六七	三五、六六七	四、七	一、一三五	一、一三五	三五〇	一〇一、〇八六	一三一、三三五	一四六、八三五	一、六六六	三、六六六	三六、三三三	一、六九	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
綿縫糸																							

計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支
同(細綾)																							
一、六九、一一六(方碼)	一、六九、四三〇	三、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七
計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支	計	關	支
同(縮)																							
一、六九、一一六(碼)	一〇、五四七	一五	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七
印	香	關	支	計	蘭	海	印	香	關	支	計	蘭	海	印	香	關	支	計	蘭	海	印	香	關
同(フランネル)																							
一、六九、一一六(碼)	一〇、五四七	一五	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七	一、六六七

仕向地	数量	価額
關	五八五、五八八	二八、八二九
香	一八、八〇〇	三、四八〇
印	二一〇、八九一	三〇、六七七
蘭印	一六、五〇〇	四、三二九
亞	一五、一六九	四、九一六
計	三、六六九、〇六六	一、三一七、二六三

同（金巾）

仕向地	数量	価額
支	五〇、五九八、五六三（碼）	一一、一六四、五九二
關	八、九七〇、三九一	一、九二八、二二七
香	四、三七五、六九八	七九一、六六一
印	一五三、一三五、七五一	二六、九三九、四七二
海	一一、五八八	二、〇三七
蘭印	三四、五八四、五七一	五、九六一、五一四
比	五、四〇〇	九九七
暹	三三、〇〇〇	五、二五八
細	二三、二三三	三、七〇六
土	一、六八四、四四一	三一四、七七四
埃	九二、〇〇〇	一九、〇二五
東	一三三、三六六	二四、四八二
沸	三二、五〇〇	三、九四九
計	二五三、六六八、四九一	四七、一九六、六九四

同（シーチング）

仕向地	数量	価額
支	二、二〇三、六〇六（方碼）	四五三、一四七
關	一、〇五一、七〇五	二三八、五五二
香	七四、六〇〇	一五、五四一
印	五、五二一、九四二	一、〇七六、五四五
海	一三六、〇六〇	二九、五四九
蘭印	一、三六九、四一八	二八四、三一三
比	六、〇〇〇	一、二三〇
細	二、二六六、三三五	四三九、三三八
英	二〇、〇〇〇	三、七五〇
白	三一、八七五	五、二八四
露	八、七五〇	二、二五〇
土	一、三六六、一〇五	二五一、一五五
亞	一三〇、〇〇〇	二三、一四五
埃	一、三四七、一九五	二六五、〇八二
喜	四、八七五	九一三
東	四、五一二、八二五	八五〇、八〇〇
沸	四一五、四一〇	七三、八一七
濠	八六、三三三	一五、六六六
計	二〇、五九三、〇二三	四、〇二〇、三五七

同（天竺布）

仕向地	数量	価額
支	三、四七八、五二七（方碼）	八四五、五五六
關	二三八、二八〇	五三、一〇八
香	四四三、三三二	七八、六八七
印	九、六〇〇	二、五〇六
海	二一、六〇〇	五、四六六
蘭印	二八六、八七八	二七、九四五
亞	二九、八〇〇	四九六
埃	一六〇、二〇〇	三五、九五七
東	九〇、〇〇〇	一八、三〇〇
濠	一三一、三四八	三一、四八六
計	四、八八三、五六五	一、一三五、四〇七

同（帆布）

仕向地	数量	価額
支	三〇七、一五四（方碼）	一七八、二〇六
關	一六〇、九六六	八六、四四四
香	五八七、一一七	二五二、三八三
印	四三、四四四	二三、四二八
海	一七二、五〇六	一〇五、二八三
蘭印	三六、一一〇	三三、〇七三
佛印	一〇、七五〇	五、五四〇
比	一、八七八	一、四九〇
暹	五、〇九〇	二、六五六
細	二八、五九二	一七、四四四
埃	二四	一三
濠	四、五〇四	三、四八七
計	一、三五六、一三五	六九八、四四六

同（其他）

仕向地	数量	価額
支	四一六、七五六（方碼）	四二、三一八
關	一三五、二一七	二五、六九一
香	三〇三	一〇
海	一、一一五	九二
計	五五三、四四四	六八、一一一

晒綿布（白木綿）

仕向地	数量	価額
支	二三五、六六八（斤）	二九、九三三
關	五三四、四〇六	七三、五六三
香	四、五四〇	六三二
海	七、七一九	一、〇七九
計	七七二、三三三	一〇五、二〇七

同（綾木綿）

仕向地	数量	価額
關	二、六五五（斤）	九四五
印	五四、九二二	一六、八六八
蘭印	七六、四三三	三三、二二一
細	九、五五六	三、六〇二
埃	一七、七三三	四、三〇八
東	一六二、〇五二	四三、三三三
沸	四、六六六	一、二〇七
計	三三七、〇一六	九〇、四七四

同（細綾）

仕向地	数量	価額
支	六六八、六〇九（斤）	一八四、五六五
關	一〇九、三四七	二八、三三一
香	一、一〇五、〇三七	三〇二、五六七
印	六七三、八九四	一八五、五〇七
海	九、六四四	二、八二一
蘭印	一、六二四、九三三	四三二、二五八
細	三、五〇〇	一、〇一七
亞	六、二二三	一、七〇七
東	一三、六八六	三〇、七八三
計	四、三三三、八七二	一、一六九、五三五

同（小倉織）

仕向地	数量	価額
支	八、二九五（方碼）	三、七七七
關	五、五二一	二、四五三
計	一三、八〇六	六、二三九

同（縮）

仕向地	数量	価額
支	四、四四三、二四六（方碼）	九四〇、八〇九
關	三〇六、四四八	六三、九九八
香	六三、五一〇	一三、三〇七
印	一〇七、三五四	二一、二二六
海	一、〇〇〇	二三〇
蘭印	三三、六四五	四、四〇六
比	一、六六六	三三〇
細	三七三	九三
計	四、九四六、二四三	一、〇四三、三八九

同（フランネル）

仕向地	数量	価額
支	一、三二一、二三二（方碼）	四〇一、〇二五
關	一〇九、八五八	三五、六〇七
香	四五、三九四	一三、二九三
印	二二三、五三七	五七、七三三
海	六、四八七	二、〇五五
蘭印	三三、九〇九	三一、一三九
細	四、一二三	一、〇二〇
亞	二九、五五八	九、六四〇
計	一、七四一、九九六	五五〇、五一三

同（金巾）

仕向地	数量	価額
支	六七、六八三、一一三碼	一六、三七三、六五九
關	三、六三三、〇九一	八三七、二七八
香	四、三三六、六二三	九六四、四六一
印	三、〇八〇、八三三	六三七、一八〇
海	一七八、六〇三	四一、四五四
蘭印	四、四二三、九〇五	九六五、三一一
佛印	三、一四九	七四〇
比	四一九、八〇〇	九七、六九九
暹	三二二、〇一七	七一、八〇五
埃	一〇、五〇〇	二、四〇七
東	一〇、一三五	二、三七四
其他	二、六六六	二、一三八
計	八三、六九一、四三三	一九、九九六、五〇六

同（天竺布）

仕向地	数量	価額
支	二四、一五〇（方碼）	五、一三〇
關	一六七、八四七	三三、二九三
香	一一、九三〇	二、四九五
印	一、五六〇	二四〇
海	六三六	一六〇
細	八、〇〇〇	二、二〇五
伊	八、〇〇〇	二、二〇五
其他	一、一六六	二三八
計	四三三、三七九	九三、九六六

同（其他）

仕向地	数量	価額
支	六三三、二三七（方碼）	二四七、八〇七
關	三三八、一六九	四七、三三八
香	一、六九〇	五三九
印	二六、〇三一	一一、七五一
海	四三、三〇七	一一、六三一
蘭印	八三、九四〇	三〇、九八二
細	二三〇	八三
計	一、〇〇六、五一四	三五〇、一三一

其他ノ綿布（縞木綿）

仕向地	数量	価額
支	四、一〇一、〇一〇（方碼）	九二四、七六九
關	九七三、七五三	二五一、九〇二
香	五〇一、七四五	一一七、八六五
印	一七、七三五、七五八	四、〇一九、五六九
海	三八六、二八〇	八五、四三〇
蘭印	二九、五二〇、三五二	六、四七二、七三四
佛印	八、一〇〇	一、八〇九
比	二、七〇〇	六〇一
暹	八七、〇〇〇	二三、九一五
細	七六五、三三三	一七一、二三〇
土	一七九、一〇〇	四〇、六九二
亞	二六五、三三八	六一、八五五
埃	四、四三四、一四七	一、〇一五、三一〇
東	二、一三七、五六〇	四七五、九四四
沸	四六、七〇〇	一〇、四七五
濠	九三、一二四	二〇、三九七
計	六一、二三七、九六〇	一三、六五七、四九八

同（色木綿）

仕向地	数量	価額
支	一一、〇七三（方碼）	二、〇四〇
關	四四、三九三	七、八九六
香	八六	一五
海	四、九〇五	八九六
計	六〇、四五六	一〇、八四七

同（綾木綿）

仕向地	数量	価額
支	二二四、九三三（斤）	五八、三三七
關	一三七、三三四	四二、二〇六
香	四八、六三三	一四、七三八
印	三〇四、一四二	九〇、七〇二
海	三、二七七	九八三
蘭印	一、四八五、七七三	五一七、九一八
暹	一五、五五三	五、〇四六
東	七五〇	二五一
沸	六、四四四	二、四八六
濠	三、一八八	九五二
計	二、二二九、九八四	七三三、六〇九

同（細綾）

仕向地	数量	価額
支	五五、八〇三、八五三斤	一五、七七四、〇八四
關	五、〇三八、四三七	一、三四三、〇一九
香	二、六六七、一五七	七五四、五九七
印	九、四七七、一六八	二、六〇四、四一〇
海	六四〇、五一七	一九三、三六八
蘭印	二〇、五九四、〇五〇	五、三七五、八五三
アロ	二、八〇〇	六〇九
比	九、三三三	二、二五六
暹	六〇、九〇〇	一六、九二四
細	七二、七九六	一九、〇〇〇
和	八、五四〇	二、六四四
東	一、三八五、〇三四	三八九、五六〇
沸	四五、五六九	一三、六四五
計	九五、八〇六、一一三	二六、四八七、九六九

同（小倉織）

仕向地	数量	価額
支	二、九一七、四八六方碼	一、一三七、七五八
關	四一九、一七六	一六五、四七八
香	二〇、六五〇	七、七〇三
印	一九五、一三八	六四、〇六八
海	一、七五〇	六〇九
蘭印	一七六、一四四	五八、八五三
亞	八、一〇〇	三、〇三三
喜	一〇、五〇〇	四、〇〇八

東	六、二六三	一、五九三
濠	五八、四二六	二、九八七
計	三、八一三、六三二	一、四五五、〇八〇

同（縮）

支	一、三四一、〇七四（方碼）	三五五、七四四
關	五三、五五一	一四、二四三
香	三三	一九
印	一四六、六八六	二九、四三八
海	四四	一五
蘭印	一〇一、四九九	一九、八二九
比	一、五〇〇	三三二
暹	八三三	二八四
計	一、六四四、四二〇	四一九、九〇四

同（フランネル）

支	二四、二九四、二六五方碼	七、〇四〇、七四五
關	一、一六七、八九二	三三一、二四五
香	一三九、〇三三	三七、九八〇
印	三、〇一〇、一五九	八二四、九一三
海	九七、一〇五	二六、二〇四
蘭印	一、四八五、九二六	四二六、九九九
佛印	二二、九三二	五、四四五
暹	五八、六九〇	一八、二五一
細	一一、九八四	三、七三〇
土	二、三三三	七二七
亞	三八三、九〇四	一三〇、三六二
埃	三六九	一一六
東	一〇四、一三三	三三、七八五
弗	一六、一九六	四、二三八
濠	二、七四一	六七九
計	三〇、七八六、六六三	八、八六四、四六九

同（金巾）

支	一七、七二六、五四〇方碼	三、六九八、二二九
關	一、三七六、八三六	二七七、二〇三
香	二、六八七、九〇六	五九四、六六三
印	三、三三六、九四一	七六四、三二八
海	七六七、二二七	一五四、六八〇
蘭印	六、二五八、〇六一	一、二七三、四九三
アロ	一、〇六七	一九二
比	一三、三〇〇	二、四九四
暹	一三九、三三五	三三、七六九
合	六三	一六
東	八七、〇六七	一七、八一〇
弗	一六、六四一	三、二九六
其他	二〇、〇五九	三、七〇三
計	三二、四二一、〇二三	六、八二三、八三四

同（更紗）

支	四三、七四一、九一五方碼	九、四六六、〇二〇
關	二、〇六六、五一八	四三八、六七八
香	一、三三二、五三六	三〇〇、三六二
印	二、六五三、八三一	六三六、〇四五
海	一三六、八八〇	二七、四五一
蘭印	二、一四九、九一六	四八四、五一一
比	一、四〇〇	三〇四
暹	一八、六〇〇	四、三九一
細	七〇、二四六	一五、三九七
埃	七、〇〇〇	一、五〇六
東	一三〇、一四七	二八、四〇九
弗	一三、七八六	三、〇三七
計	五二、三〇二、七六五	一一、四〇六、一五一

同（天竺布）

支	九、二六八、六二八方碼	二、三三三、八〇九
關	二、〇四四、三七七	五〇二、〇一一
香	一七八、〇〇五	三七、七八四
印	一、九八八、九二三	四三三、二〇三
海	一五四、四三三	三一、三七八
蘭印	一、七八三、五七六	三九〇、六一七
比	二六、八三三	六、〇五一
細	一三四、八三三	二七、六八三
土	五三二、四九八	一一、六六六
東	九七、〇八三	二三、八八六
其他	一、一六六	二四二
計	一五、七三五、三四一	三、六八五、三三〇

同（モスリン）

支	四、九九二、五七九方碼	一、二〇六、八六七
關	九九五、一六一	一九五、〇六八
香	五、九一九	五、八五三
印	八、八一三	一、八二〇
海	四〇、二八九	九、九七三
蘭印	二、五二六、二七〇	五四二、一八六
比	九、一〇〇	二、六〇五
細	二、七二二	二、三六四
合	六四〇	一五九
東	四一、二〇六	七、七一八
計	八、四三三、六六九	一、九七四、六三三

同（帆布）

支	五七三、三三二（方碼）	二〇八、五三四
關	一一〇、二二八	四三、二〇六
香	一〇八、三七六	四八、三八三
印	一五、〇〇〇	七、五〇六
海	八八、七一九	四七、三四七
蘭印	一三、四九八	七、九一〇
比	一一、九三四	四、六四四
暹	二、二二七	一、三七八
細	七九五	四二〇
計	九二四、〇九九	三六九、三三八

同（繻子）

支	一〇、七七二、六三四碼	四七、三三二、五四六
關	八、四三三、六一四	三、四九四、四七六
香	六、三三一、三三六	二、七一三、三一五
印	一、六二九、九四三	六四一、一六三
海	二六、七七〇	一〇、六七七
蘭印	九、四八三、一三一	三、八〇三、四七五
台	一二四	六九
其他	一一、二〇〇	四、五四三
計	三六、五六九、六七一	五八、〇〇〇、二六三

同（ポプリン）

支	二、三五八、一七〇方碼	一、一九〇、六六六
關	三七九、七二二	二〇九、六九五
香	四六、五四六	二三、九六一
印	四七四、九三三	一八七、二七五
海	三五、〇〇〇	一七、七九一
蘭印	二四一、五二〇	一三三、八二五
東	五、六〇〇	一、九九六
弗	一、四〇〇	四九九
計	三、五四三、八九〇	一、七五三、七〇八

其他ノ綿布（其他）

支	三八、九〇三、二〇六碼	一五、八八四、六四四
關	四、〇四一、九一四	一、六二五、九八六
香	一、六二九、一九一	六四七、三〇二
印	六九五、六〇三	三〇四、五四九
海	一八、四五七	六、三六三
蘭印	一、三〇三、八七〇	五〇八、六四〇
アロ	二、一〇〇	九七五
比	六、三〇〇	二、七八〇
暹	六四、三一七	二四、五二四
土	六一、七五一	一三、一〇八
合	四五六	一九〇
北米	六〇〇	一五七
亞	一八、二八〇	一四、〇五九
東	四、八七〇	四、八六四
濠	五、五七一	二、六五七
其他	四六、五九八	一七、八七七
計	四六、七九一、〇八四	一九、〇四八、〇六五

カンヴァス

支	三九、四〇七（方碼）	一六、四四六
關	二六、九〇三	一七、〇〇八
計	六六、三〇九	三三、四五三

其他麻織物（綿入ヲ含ム）

支	—	二八、四五九
關	—	八九、四〇六
香	—	二七三
計	—	一一八、一三七

モスリン

支	二一、七四三（方碼）	一六、〇三五
關	二三五、三一〇	一六一、四五三
香	二六八	二七〇
印	三五、五〇〇	二、九二八
海	二、六九二	二、一〇五
蘭印	六一	五五
暹	二七一	二三三
合	一、一一〇	八八〇
亞	一、三三三	一、一二四
計	二四六、二一七	一八五、〇五一

羅沙及セルヂス

支	五八七、九二七（方碼）	九一三、三八五
關	五四五、三九八	八五二、四五七
海	三	四五
計	一、一三三、三四七	一、七六四、八八七

其他ノ毛織物（綿入ヲ含ム）

支	—	三、九〇九
關	—	八〇、八六四
海	—	三〇
計	—	一〇二、八〇三

羽二重

支	六九（斤）	一、四七〇
關	四〇	七九七
香	二四〇	六、一〇四
海	二	三〇
計	三五一	八、四〇一

甲斐絹

海	一六（方碼）	三一

繻子

支	六七〇、三九八（方碼）	五〇六、五八一
關	二〇一、九六九	一五四、九一八
香	一六、二六五	一六、三三三
印	一五、四七五	一四、〇五二
海	九、二二三	六、一八一
蘭印	一〇、〇九七	五、五五三
細	五八三	五二五
埃	六、四五〇	三、八二四
計	九三〇、四四九	七〇七、八六五

琥珀織及ポプリン

支	一、〇九〇、三七四（方碼）	九七一、一三六
關	一、六八一、七六一	一、五三四、五三八
香	四六四、四〇七	四三一、二五一
印	二三四、〇七〇	一八四、九六二
海	五八、三四二	五四、〇七八
蘭印	三三七、七〇二	二五四、一二〇
暹	二四、八七九	二一、三三一
細	六、二九八	五、四六八
喜	七〇〇	六七六
東	六、一二二	四、一四九
計	三、八九四、六五五	三、四六一、七〇九

富士絹類

支	七、五四五（方碼）	七、七四三
關	三、六六九	三、七六六
香	九九七	一、一二八
海	三、二四六	四、七八六
蘭印	七三、〇九〇	五四、七三五
比	六、五六三	六、六八一
埃	二、四一七	二、五三三
計	九七、五三七	八一、四六一

壁織

支	一六〇（方碼）	一七二
關	二、〇六九	三、一九九
計	二、二二九	三、三七一

縮緬

支	四、四一八（方碼）	五、四三九
關	八、七二五	一三、八二三
香	五八三	五六六
海	七〇八	七二七
蘭印	九五〇	一、一四九
計	一五、三七四	二一、六八三

其他ノ絹織物（綿入ヲ含ム）

英ロ	印ア	海印	香港	關印	支那	計比	英東	英印	關印	海印	香港	印度	支那	計其他
襪														
				三五、八三三(斤)		八〇、三三六								
				八三、四八一		一五六、八六一								
						四								
ヤ														
				七三八、五三(方碼)		二七〇、八五一								
				一七〇、七五六		六九、二九一								
				九、三四九		三、六二三								
				二四一、三四〇		四〇四、一七〇								
				四〇四、四三四		四〇四、四三四								
ス														
				一七、三四〇		一七、三四〇								
地														
				一、三四九、八六六		四〇四、一七〇								
				一、三五六、〇四三		一、三五六、〇四三								

其他ノ布帛

英ロ	印ア	海印	香港	關印	支那	計其他	英東	英印	細比	佛蘭印	海印	香港	關印	支那	計其他
ブラケット（綿製）															
				三、三四九(猜)		三九、三五〇									
				四五六		四、八六四									
				四五一		五〇、一三六									
				一		一三一									
				一七三		一八、四一〇									
				三		四〇八									
テーブルクロース															
				九、三四六(斤)		六、三五五									
				三〇		一一、一三〇									
				四一		四一									
				一四九三		一九、三一一									
同（毛製及毛綿製）															
				四、五四四		四九、八六七									
				七		六三、〇四〇									
				四		五〇									
				二六		三、〇八一									
				二六		三、〇八一									
段通															
				四五六(方碼)		六三、六〇三									
				六四一		三、九九三一									
其他ノ地毯															
						一、四一九									
						一一、六三五									
						一四									
						一三、〇五六									
ドイツリー及センター															
						三六(斤)									
ソポンレース類（絹製）															
				四九三(斤)		二、一四六									
同（其他）															
				二六〇		一三六四									
				七三五		三、六六六									
打紐真田紐類（絹製）															
				二二三(斤)		六三〇									
				五六六		一、二〇一									
				二〇		六〇									
				九一		二、二六六									
同（其他）															
				八九六三(斤)		二三、九七三									
				二八、五九三		一七、三三一									
				八六		一、九六六									
				一〇、九六六		二四、二四〇									
				四三〇		六六〇									

絹

香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他
タオル																	
			三五、四六六(打)														
			六八、八〇〇														
			三五一														
			四九、六六三														
			七五五														
手巾																	
			四八、四三四														
			四〇〇														
			一五六、八〇一														
			八〇														
			一、四九〇														
			四九六														
			一、三四三														
			四〇四														
			一六、三三五														
			一、四一六														
			一四、五六〇														
			一四、五六〇														
手巾																	
			一四九、八六六(打)														
			一、三六六														
			一、一六六四														
			四〇〇														
			一〇〇														
			三、六〇五														
			一六、七六三														
			一六、七六三														

蒲團

支那	計英	印蘭	海印	香港	印度	支那	計新	香港	海印	印度	支那	計其他
敷布												
				一、三五六(斤)		一一〇六						
				四、四四四		九四〇六						
			一〇			一三						
			一四六			四三四						
			六、六四六			一一、九四七						
			一三、五六六(斤)			一一〇六						
グローブ及機械用ベルチング												
			一九、〇四七(斤)			一、六六六						
			五、六六三			六、〇六六						
			一一〇、九四〇			一一、六四六						
			三四三			三四八						
			一九			一三						
			三一〇			三六三						
			三四五			三四一						
			四七、七四四			四九、四四四						

綿

香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他
手巾																	
			五五、四四六(打)														
			六七、六〇〇														
			五〇〇														
			一五六、八〇一														
			四九〇														
			一、三三三														
			四六〇														
			五六一														
			一三、〇四五														
			一、三六四														
			一四、五六〇														
			一四、五六〇														
タオル																	
			三五、四四六(打)														
			六六、八〇〇														
			五〇〇														
			一五六、八〇一														
			四九〇														
			一、三三三														
			四六六														
			五六一														
			一三、〇四五														
			一、三六四														
			一四、五六〇														
			一四、五六〇														

漁網

香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他
ロープ																	
			一九、〇四七(斤)														
			五、六六三														
			一一〇、九四〇														
			三四三														
			九														
			三一〇														
			三四五														
			四七、七四四														
ゲル																	
			一、三六六														
			七九七														
			四三														
			一一〇														
			一一〇														
			一一、〇六六														
絹製品																	
			四、一五六														
			七九七														
			四三														
			一一〇														
			一一〇														
			一一、〇六六														

別項ニ掲ゲザル絹製品

支那	計新	香港	印度	支那	計其他	英東	英印	海印	香港	印度	支那	計其他
其他ノ布帛製品												

關	—	九一、一七九
香	—	三、三三八
印	—	一八、八一三
海	—	三、二四五
蘭印	—	三五、四四五
アロ	—	一四
比	—	一、一五〇
暹	—	九、一二三
細	—	六三
英	—	一七
獨	—	一〇
波	—	四六二
合	—	五七五
加	—	四一〇
埃	—	三一
東	—	二一
濠	—	六
新	—	二
其他	—	二六
計	—	二三二、九一三

ワイシャツ(絹製)

支	二四(打)	九六九
關	一九六	七、九七八
計	二二〇	八、九四七

其他ノワイシャツ

支	九九二(打)	九、二三五
關	二、〇七七	三九、四七七

海	一七五	一、七七一
蘭印	七、七四三	一〇六、四九九
佛印	九	三三〇
細	一三	一〇〇
東	九〇〇	九、三四五
其他	一	三一
計	二、五〇九	一六六、七三八

カラー及カフス

支	九六、二四七(打)	七五、七九九
關	三三、一八八	二二、六八六
香	一、八三三	二、五七九
蘭印	三、二七五	六、七二二
佛印	三〇〇	六四〇
其他	一	八
計	一三四、八三三	一〇七、四二四

綿メリヤスシャツ

支	一八〇、四六七)打(	一、一三七、五二五
關	六六、四九一	五二一、七六七
香	二四四	六九二
印	一、四六九、三九九	四、七〇〇、五四五
海	七、三八九	二九、五二〇
蘭印	一〇九、九八七	一七八、五九四
アロ	六	三三
比	九八、〇八四	三八八、七四二
暹	二、三八五	九、四六一
細	七、六三三	二五、八六五
英	四三九、七六六	一、八四三、五九一

佛	八五〇	三、三一三
白	四、四四三	一五、八六五
伊	一〇〇	三〇二
西	五九六	二、六七〇
葡	七七三	四、六一九
合	一、三〇〇	一〇、〇〇〇
加	四、四一四	一七、二五九
玖	八〇六	七、四四六
秘	四五六	二、一九七
智	八〇〇	二、五二〇
亞	一、〇四〇	六、五四九
埃	二〇、六〇三	八九、六〇四
喜	四、九七九	二一、六八四
東	三九、三一九	二〇三、七〇〇
弗	七、五二四	二九、八三八
濠	二五	三四〇
其他	四〇	一〇〇
計	二、四六九、九一八	九、五五四、三三一

綿縮製シャツ

支	四、七四七(打)	二一、五四三
關	五、五六五	三三、五六五
香	五五八	二、三一〇
印	一三、〇九四	四四、四七七
海	五五六	五、五〇〇
蘭印	二、九六一	一〇、八一三
アロ	三〇	一二五
東	一二五	六二
計	二六、五三六	一一八、三九五

絹製シャツ

支	二一七(打)	二、五二〇
關	一三三	一、三五七
印	五七	六五八
蘭印	一	一八
計	三五九	四、五四三

其他ノシャツ

支	八、八二九(打)	八六、七二〇
關	八、一三四	一二七、二六八
香	一〇	三一
印	二、〇〇〇	一、六一五
海	五〇	五一七
蘭印	二、二三六	九、六六八
アロ	二三六	五四六
英	六五〇	四、〇〇〇
東	四五〇	三、四四三
弗	二〇〇	二、八〇〇
計	二二、七九五	二三六、六〇八

布帛帽子

支	八、四七七(打)	三七、六二六
關	六、八三七	四〇、三〇七
香	三六	二二一
印	九二、〇八八	一九七、五四一
海	五〇〇	二、五五六
蘭印	一五、〇二五	六六、八〇一
佛印	四九	四七二
比	六、八三四	一一、三四三

暹	五五二	四、三三七
細	二	六
埃	一五〇	二五〇
計	一三〇、五四一	三六一、四五〇

フェルト帽子

支	三三、二四二(打)	六〇〇、六一三
關	五一、三六七	三五一、八一五
香	九〇	二、四〇〇
印	一、一四七	一〇、六三〇
海	一五〇	一、六四八
蘭印	八、三三一	七八、四九〇
佛印	六〇	一、六〇三
アロ	三〇〇	三、一八四
暹	七〇八	五、六八五
細	二〇	二〇七
東	三〇	二六七
計	九五、四四四	一、〇五六、五四二

麥稈帽子

支	二一、八三六(打)	一九〇、八〇〇
關	五、二四五	五二、六〇〇
香	一、六六六	一四、七七七
印	五六二	二、八六六
海	一五五	一、三八〇
蘭印	一、七六五	一五、六八二
アロ	三〇	二四九
比	一九六	二、三〇五
計	三一、四三五	二八〇、六九九

模造パナマ帽子

支	五、七二三(打)	六七、六五二
關	一、六三一	二七、八九四
香	五〇二	九、一五四
印	四〇	二二二
蘭印	五七二	一、八六〇
比	一〇	二二一
計	八、四六八	一〇六、九九三

其他ノ帽子

支	一、七二五(打)	七、〇五〇
關	二、〇〇六	一三、〇五九
印	二、四〇三	七、〇九〇
海	一四	二三一
蘭印	一、七四五	七、〇四三
比	一、九〇〇	二、五一六
計	九、七八三	三五、九八九

メリヤス手袋

支	一三三、六七六(打)	三三八、七一五
關	五六、六二九	一六、四一八
香	四〇	一三七
印	七、四五〇	一〇、九七四
海	一〇〇	一一六
英	一、七〇〇	四、二六六
合	一〇〇	一四九
加	七三	九六一
計	二〇〇、四一八	三七一、七二六

メリヤス靴下(絹製)

支	一五七(打)	六五四
關	二、三一三	九、四六一
印	五、五二〇	三、三二一
海	四二	一九一
比	三六九	一、三三〇
細	四	三九
埃	五	一八
東	二二五	六二〇
計	八、六一五	三四、五一四

同(其他)

支	二六、三二七(打)	六三、一四九
關	三九、一六七	二九、五六二
香	一九	四九
印	九二、七七九	一八八、六一三
海	二九七	九三二
蘭印	八、二八四	二、八二八
アロ	四〇〇	一、一六八
比	七、六〇六	一五、七一八
暹	一〇〇	二七〇
細	一、〇一一	二、三三四
英	三二七、一〇七	五四三、〇三七
歐	四五〇	一、二五〇
合	五〇〇	七五〇
玖	五、九〇〇	八、七六七
北米	五〇	八一
秘	一〇〇	六五一

智	一、三五〇	三、一一五
亞	六〇〇	一、一一三
埃	二、〇〇八	二、八二八
東	二、二九三	六、五三五
弗	一〇〇	一九四
計	五〇六、五四八	九八一、八二三

足袋

支	七、五四三(打)	二五、九二八
關	二〇、一三八	六五、五六〇
香	七三	五〇六
印	一三	三六
海	二八	一八一
蘭印	二三三	九六一
東	六〇	二四二
計	二八、〇九六	九三、四一四

絹製肩掛

支	五四四(打)	三、四八五
關	二七二	八、二六七
印	五	六九
蘭印	二	九八五
暹	三、五七四	二五、九九八
計	四、四一六	四七、八〇二

靴(革製)

支	三七二(打)	五、五七六
關	三、二二五	四一、一四三
海	一	六一
蘭印	一二四	一、六二五

計	三、七三三	四八、四〇四

同（ゴム製）

支	三七、三三三(打)	二八五、一一〇
關	四、九八一	五〇、九三〇
香	一、一八一	八、四八二
印	二〇、〇三五	七一、〇九六
海	七二〇	三、〇一七
蘭印	一、一七八	五、七三一
比	九六六	一、八〇七
細	八	一三五
西	三	九一
墨	二〇	七〇
埃	九〇	三〇〇
東	一五九	一、三三七
弗	三〇	七五
計	六六、六六五	四二八、一七一

スリッパ

支	二一、八七九(打)	四六、九八二
關	六、六七九	三一、九三三
香	一三三	五三三
印	二五七	七二三
海	八八二	四、〇五八
蘭印	四、〇九六	一三、四三四
佛印	九六	八六一
細	一〇	四一
埃	二	八
濠	一	一〇
計	二四、〇三五	九八、五八三

其他ノ履物

支	—	八四四、四〇〇
關	—	四一八、六〇一
香	—	四七、五一八
印	—	三八、四五四
海	—	一九、三三一
蘭印	—	三六、〇四四
佛印	—	一三〇
比	—	二、二五七
細	—	五、七四六
佛	—	七〇
合	—	一、一五六
加	—	七〇
東	—	九
濠	—	四八七
其他	—	一〇八
計	—	一、四二四、三六一

靴紐（絹製）

支	二二(哥)	一二七
關	一六七	六九四
計	一八九	八二一

同（其他）

支	九〇、五六二(哥)	八九、六八七
關	二一、六二七	三五、九四四
香	二、一三〇	三、六四九
印	三、三四三	五、八七五
蘭印	二、二七〇	四、〇五二
北米	四五	八五
東	一五〇	三七五
弗	一五〇	三六〇
濠	一〇〇	二三一
計	一二〇、三七六	一四〇、二五八

鈕釦（金屬製）

支	三五三、〇八八(哥)	一五三、八三七
關	一五九、六二四	四九、二三九
香	二、四〇一	一、六二一
印	四四〇	六八四
海	一〇七	一八〇
蘭印	八、三三一	七、五五〇
比	二〇〇	一五一
墨	一九五	一四一
計	五二四、三六六	二一三、三九三

同（貝製）

支	六五八、九六〇(哥)	五三四、三〇七
關	三三七、四三四	一六六、二三七
香	三、七六四	二、四三三
印	一、〇五〇、一七四	三三四、八三六
海	二、六〇八	一、五七四
蘭印	三三、四七六	一六、八〇八
比	一、一六八	八五〇
細	五、〇六〇	三、二三五
英	八二四、一三六	二六八、〇一二
佛	八二、七三一	二四、〇九六
獨	二七三、九五五	七六、七五二
白	六〇、四六一	一五、七七八
伊	九一、九三三	三三、四二四
瑞	三、〇〇〇	四〇〇
和	七六、九七四	二〇、〇六二
典	三四、三二九	一四、〇九七
露	七、〇〇四	二、〇五〇
西	一四、六一二	五、一〇八
土	一一、六四四	四、五五四
歐	三三、八二一	一三、〇五一
合	二一一、三三〇	六二、七八六
加	五八、九一六	三八、五三三
墨	三一、一九四	一四、六三三
秘	三、六七八	一、六〇七
伯	一七、七五二	九、六一三
埃	一七、四八二	五、八七八
東	一、二〇〇	一九四
弗	一、七八〇	一、七五〇
濠	九三、六八一	三七、六八六
其他	一、〇二〇	四〇〇
計	三、八二四、三五六	一、六八九、七一二

同（骨角製）

支	一、二八六、四九二(哥)	三七六、八五七
關	二〇三、五八六	七一、三九七
香	九六三	二九〇
印	六、〇〇〇	一、二六二
海	一六〇	二〇五
蘭印	三、九二三	一、五二三
比	六、九〇四	一、六五三
獨	二、九〇四	九三〇
合	三六〇	一七一
濠	三、〇〇〇	五〇三
計	一、五二四、二九一	四五四、七九一

同（其他）

支	—	一三五、六七六
關	—	四六、五六八
香	—	二〇七
印	—	二九、〇六二
蘭印	—	一、九九九
比	—	四〇五
白	—	八二五
合	—	四、二九四
墨	—	四五
計	—	二一九、〇八一

人造眞珠

支	—	一九、六六五
關	—	一五七
香	—	二、七一〇
印	—	二八、五三一
蘭印	—	一六五
細	—	二〇一
英	—	一五、六八五
西	—	八五二
土	—	四五〇
合	—	三三七、九九四
加	—	七、〇一三
墨	—	七〇五
北米	—	一三〇
秘	—	八五六
亞	—	二八、一九九
埃	—	五、二八〇
弗	—	五〇〇
濠	—	一三、七〇四
計	—	四六二、七九七

其他ノ人造眞珠

印	—	二八〇
合	—	四二〇
計	—	七〇〇

セルロイド櫛

支	六九、三六四(哥)	一五六、四三三
關	四、九〇九	一七、三五六
香	二八一	二、三四七
印	七、七六六	五七、七九七
海	六四	六一〇
蘭印	五九八	四、六九一
比	二五三	一、七四四
暹	一四二	一、二三〇
合	三〇五	三、二三〇
加	三三	四一三
北米	一〇	一七〇
秘	四〇	三四〇
東	三	三〇
濠	一、〇二八	八、八八〇
計	八四、七四五	二五五、二五九

硝子腕輪

印	一、四三七、五五五(哥)	一、〇二八、〇七三
海	一四、八五三	一〇、二一一
蘭印	八〇	一八四
佛印	一、六六七	一、七四〇
細	二、二五〇	一、八一三
合	八〇〇	一、〇〇〇
埃	三、五〇〇	三、八五〇
計	一、四六〇、七〇四	一、〇四六、一七〇

其他ノ身邊粧飾用品

支	—	三一、六〇三
關	—	八五、九一四
香	—	三、六二七
印	—	三三八、一八二
海	—	二、六六八
蘭印	—	一〇、一一七
暹	—	一、七三〇
細	—	二七七
合	—	八三一
墨	—	二一五
東	—	六五八
濠	—	二、二〇九
計	—	四七八、一二一

帶類

支	—	九〇、九四四
關	—	九五、一九八
香	—	四、四六五
印	—	一、二八八
海	—	六〇九
蘭印	—	六、四二一
比	—	二、三五三
暹	—	四八
細	—	五〇
英	—	三七〇
合	—	五七
埃	—	四
濠	—	二〇
計	—	二〇二、八一六

腿子

支	二三八、一九六(打)	一五三、九一一
關	一四四、七七六	九一、八〇七
アロ	八四五	一、〇四三
計	三八三、八一七	二四六、七六一

メリヤスさるまた

支	九、九八九(打)	二七、八〇〇
關	五、三三六	三三、六七六
香	一五六	四六五
印	七、五二〇	一一、〇八一
海	一、二六三	一、九四三
蘭印	一、三三一	四、五九一
暹	四〇	一六四
細	九	二四

英	二、六〇〇	一〇、〇八〇
秘	五三	一六〇
計	二八、一八五	七八、九八四

洋服

支	—	一九、八二一
關	—	七七、五三四
海	—	一、〇七三
蘭印	—	一、五六八
細	—	二〇八
加	—	一〇
東	—	一一〇
計	—	一〇〇、三三四

きもの(絹製)

支	—	六八
關	—	一八九
香	—	一〇〇
佛印	—	五〇
英	—	一、一一一
東	—	二九〇
濠	—	四〇五
其他	—	七〇
計	—	二、二八三

其他ノきもの

支	—	一、〇六二
關	—	七一八
印	—	五一
蘭印	—	一〇
英	—	一三八
合	—	六一
北米	—	二三一
計	—	二、〇七一

其他ノ衣類及同附屬品

支	—	六四八、七七八
關	—	二七二、三八二
香	—	三五、六〇四
印	—	一〇四、五二〇
海	—	八、三六六
蘭印	—	四〇、八〇一
佛印	—	一、八五一
アロ	—	一五、六七六
比	—	三二、六二三
細	—	九二
英	—	四、三七三
加	—	六、九九四
墨	—	六四一
北米	—	三七
ウ	—	五、二三一
埃	—	九六〇
東	—	二、七四五
弗	—	五〇二
計	—	一、一八二、一二六

印刷用紙

支	一〇三、九〇四(擔)	一、五五六、四四一
關	四七、七八一	七八二、七三三
香	二、三二七	一六一、七六七
印	—	四五
海	一三〇	二、七五六
蘭印	三七	七五三
アロ	三七一	五、九四八
暹	四七七	六、〇九四
計	一六三、〇一七	二、五二六、五三六

煙草用紙

支	一四、八二〇(擔)	一、二九五、二七九
關	一、八三七	一五七、五二一
香	七三〇	六一、〇二一
海	一五六	一一、三八九
蘭印	四七	五、〇七七
比	五九一	五〇、〇五四
暹	一四	八一四
合	三	二四二
計	一八、一八八	一、五八一、三九七

雁皮紙及薄葉紙

支	一七五(擔)	一九、七七七
關	三三	二、四一四
印	二六	二、九二八
海	一	九一
蘭印	六	九二九
佛	二	六〇一
合	五	五九〇
計	二三七	二七、三三〇

吉野紙及典具帖

支	五(擔)	七七九
關	—	二〇
合	五	二、五九〇
計	一〇	三、三八九

鳥ノ子紙

支	三、九七九(擔)	二八一、四七七
關	九、三三九	二二六、〇一六
香	一、二五九	二七、五二九
海	六二七	一三、六九一
蘭印	一三	三二九
暹	五四五	一一、八八〇
計	二四、七五二	五五〇、九二三

連史紙

支	一、二七九、四三二(斤)	二〇五、二七二
關	五六四、八四四	九二、八二四
香	一〇一、五九七	二一、四三七
海	四、八七〇	九七六
計	一、九五〇、七四三	三二〇、五〇九

板紙

支	六三、二二一(擔)	一、〇六八、四八五
關	一六、〇〇六	二〇二、〇一六
香	一、六八一	一一、五四七
印	二〇、五四九	一〇八、九五三
海	二、三五三	二九、二六一
蘭印	一〇三	二、三三一
比	九八七	五、九八四
暹	一、六〇三	八、九九八

計	一〇五、三九八	一、四三七、五七五

半紙及美濃紙

支	七五三(擔)	四三、六八七
關	二、五〇四	一七八、四七六
香	—	六
海	五	二六三
蘭印	三	一九五
細	—	二八
計	三、二六四	二二二、六五五

包裝用紙

支	二三、九九六(擔)	四一四、〇二四
關	八、一三三	一五九、八〇五
香	一、一一八	一七、五四八
印	九九七	一七、六五二
海	二四	三四九
蘭印	九一	二、二四九
細	—	八
計	三四、三五九	六一一、六三一

塵紙

支	七五二(擔)	三三、五三二
關	三、四四四	一四三、〇五二
香	一一	二一
印	一	一〇三
海	九	四三九
蘭印	五	二三六
細	四	一六六
計	四、二二六	一七七、五四九

其他ノ紙

支	五、五〇二(擔)	一六一、一七四
關	八、二四〇	二六八、六一六
香	九六八	一九、四九九
印	一二	九八八
海	三二一	六、四五一
蘭印	九四	一、八一五
佛印	三	二〇
アロ	二	七〇
比	一九	一、二七六
細	七	三二四
英	一	四八
白	一三	六三三
和	八三	五、七五八
合	一四	三、二五五
加	二	九七
其他	—	一六
計	一五、一八九	四七〇、二一〇

帳簿及手帳

支	九一、四九七(斤)	六〇、〇二三
關	二七六、六七六	一六二、三九四
香	三九九	二五二
印	二〇八九	一、五〇一
海	一、七六八	一、九一三
蘭印	一、四四六	一、三三五
比	五〇	一四
暹	一一三	一〇〇
細	三二九	二三五
英	六三六	五五六
獨	一三〇	九〇
合	一六〇	一一一
秘	三三〇	一五〇
埃	一三五	八〇
濠	一九三	一七三
計	三七五、八三二	二三八、九一五

封筒

支	七、〇一九(千個)	一三、三三二
關	三三、五五八	六四、九〇二
印	二〇三	四五七
海	一、六六九	二、四〇八
蘭印	三〇八	五九九
細	三三	八八
濠	五	七六
其他	一〇	三〇
計	四三、八〇四	八〇、八七七

煙草用吸口

支	二三〇(千個)	五〇〇

紙製ナプキン

支	二、四〇八(千個)	三、九三四
關	六、一六一	七、五一四
香	三七五	七九三
海	二一五	二八六
蘭印	二、六〇〇	三、三九〇
佛印	四	七〇
暹	一五〇	一九二
墨	四五	三六
計	一一、九九四	一六、二二四

レーベル

支	四〇、四〇〇(斤)	二〇、〇九七
關	二三、〇五八	三三、六九二
香	一、七七〇	八八五
印	三、二六五	二、二〇五
海	二〇、三〇四	二七、三八三
蘭印	一七八、三九七	二六、六六八
暹	三五	四〇
細	二	四
英	八一	二〇
典	六五	一三
合	二〇	一八五
計	二七七、六〇七	一八〇、三三三

骨牌

支	七七、三六六(斤)	八〇、一三三
關	八、〇八二	一一、六六二
香	五、二〇三	七、〇九一
印	一、八六〇	一、三九八
海	一、〇九八	二、一一三
蘭印	九七	一四四
合	二〇〇	三六一
計	九三、九二六	一〇三、四三三

紙箱(紙筒ヲ含ム)

支	一七三、九六六(斤)	四八、三四七
關	六四四、四七七	一四六、八一八

支	計其他	滋賀	東京	愛媛	加賀	西宮	伊勢	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
陶器															
磁器															
得子															
計	三〇六、三三一	三〇、六三一	二、一二六	二、〇四〇	二、〇〇〇	一、九四〇	一、〇七〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇

支	計其他	滋賀	東京	愛媛	加賀	西宮	伊勢	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
其他ノ印刷物															
計	一四四、六一六	一四、六一六	一、一四六	一、一四〇	一、〇〇〇	六、三二六	六、三二六	三、九六六	三、九六六						

關印	關支	計布	滋賀	東京	愛媛	加賀	瑞西	白國	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
肩																
計	一、〇〇一、〇一七(斤)	六六、三六六	三四、七〇四	三、〇四〇	一、〇〇〇、一六〇	三、六六、三六六	三、六六、三六六	一、八六一	三、七一一	三、〇〇	一、〇六、一六〇	三、六六、三六六	三、六六、三六六	一、〇〇〇、一六〇	三、六六、三六六	三、六六、三六六
紙																

關印	關支	計布	埃及	合衆	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
其他ノ紙製品												
計	一、〇六〇	八一	三、六六、三六六	一一、六六六	一一、六六六	一一〇	一、三三、三三六	三、六六、三六六	三、六六、三六六	一、〇六〇	八一	三、六六、三六六
石綿及同製品												
計	九九、九九九(斤)	九、〇一三	九、〇一三	九、〇一三	一、〇六〇	八一	三、六六、三六六	三、六六、三六六	一、〇六〇	八一	三、六六、三六六	三、六六、三六六
墨												

關印	關支	計布	埃及	合衆	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
其他ノ礦物及同製品												
計	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
其他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

支	計其他	滋賀	東京	愛媛	加賀	西宮	伊勢	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
窓															
得	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
子	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三、九四〇、六六六	三、九四〇、六六六	二、九六六	二、〇三〇	一、九四〇	一、〇七〇	一、〇七〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇	七、六四〇

關印	關支	計布	滋賀	東京	愛媛	加賀	瑞西	白國	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
魔法瓶																
喜加合和	九〇、三六六(打)	三六〇、三六六	一、四一、三三三	三、一三四、六六〇	三、一三四、六六〇	一、〇〇〇、六六六	一、〇〇〇、六六六	一、八一一	三、七一一	三、〇〇	一、〇六、一六〇	三、六六、三六六	三、六六、三六六	一、〇〇〇、六六六	三、六六、三六六	三、六六、三六六
其他ノ魔法瓶																
計	七〇、六六六(打)	七〇、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六

關支	計新	滋賀	東京	愛媛	加賀	西宮	伊勢	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
ヨーロッパ															
計	一一、一六六	一一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六
ソーダ															
計	一、一六六(打)	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六	一、一六六

關支	計新	滋賀	東京	愛媛	加賀	西宮	伊勢	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
食器															
計	一、〇六〇、六六六(打)	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六

關支	計滋	東京	愛媛	加賀	西宮	伊勢	佛英	細工	比ロ	佛蘭印	蘭印	海印	香港	關支
珠玉及球														
香	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六	一、六六六
ウッチグラス														
關支	六六、六六六(斤)	六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六	六六、六六六
計	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六	一、〇六〇、六六六

印	六四八、一七二	三九七、七七三
海	九、四三六	六、〇九九
蘭印	八〇〇	三三三
比	二八〇	二四
佛	一、二六〇	九〇三
獨	四、三三一	二、一九一
合	一五、〇二九	一四、一〇七
加	三三五	一三五
墨	一、〇六五	八五一
亞	三八	一五五
埃	八二五	一五五
東	一、二七八	六六八
濠	四、八五八	三、三六八
計	七五一、五〇八	四八五、六二五

眼鏡

支	四三、九三八（個）	一、九二三
關	二三、二九二	二、八四六
香	三、〇四八	三九八
印	三七七、九三〇	二五、二八九
海	二、二八〇	三五二
蘭印	八一、五〇四	一三、一三四
比	一七、一〇〇	三、三六九
暹	二、一〇〇	二五一
細	一	二
墨	四、九六八	六六一
弗	一、八〇〇	五二〇
濠	四八	二五
計	五五八、〇〇九	四八、七八九

鏡

支	五、三九二（千個）	七二七、〇一〇
關	一、二二九	二九四、八八九
香	四一	二、三〇七
印	三、四八六	三六六、六六一
海	三一	三、九四四
蘭印	二六二	二六、一一一
佛印	六	六九一
比	三二	二、九一〇
暹	七	三六一
細	二	五一五
合	一五	一、三七二
加	四	九一七
墨	六	一、〇八六
秘	二	四九四
埃	二九	三、六二四
東	二七	四、四七四
弗	一〇	一、六九八
濠	四四	一三、八八七
計	一〇、四八七	一、四五三、九四一

其他ノ硝子及同製品

支	—	一〇一、六〇七
關	—	五二、七三四
香	—	三、〇三三
印	—	一〇一、七九五
海	—	四、〇三三
蘭印	—	七、七三六
佛印	—	六六
比	—	八、九五七
暹	—	三、一六九
細	—	一四
英	—	六〇一
合	—	三、〇九五
加	—	七三八
北米	—	五八八
秘	—	五七三
埃	—	四一
東	—	一七八
濠	—	四、四二五
計	—	二九三、三八三

マンガン鑛

支	八、一二〇（擔）	四二、五〇五
關	一、〇一一	九、八一八
香	三七四	二、二九四
印	二〇	一一〇
蘭印	三	三六
計	九、五三八	五四、七六三

其他ノ鑛

關	八四七（擔）	八一三

鐵（塊及錠）

支	二、六四四（擔）	九、〇四六
關	三、八八七	三三、四二七
アロ	二五〇	一、三三三
計	六、七八一	四三、八〇六

同（條及竿）

支	九、二八五（擔）	七七、一三五
關	七四、六四四	六二三、五〇二
海	二	一三
アロ	八、八八二	六九、六九五
細	一九	一三五
其他	二	二〇
計	九二、八三四	七五九、四九〇

同（板）

支	一六、二三六（擔）	一八三、〇〇三
關	四九、四一〇	三九一、一〇三
香	三、三五六	四三、〇七〇
海	六七三	一〇、〇八三
蘭印	二九	三九七
アロ	一四、四〇七	一五八、二〇一
比	一八	一九四
暹	五、七八二	七六、三八三
細	三	一三
其他	一	一〇
計	八九、九二五	八六二、四五五

同（線）

支	九、七二三（擔）	九八、一五六
關	八、一〇六	一一〇、九六〇
香	一三	一、二九二
海	七	一一〇
アロ	三八八	三、四四〇
比	六三	八五九
暹	八	一四〇
細	三四	二九一
其他	一五二	二、一九五
計	一八、五九三	二一七、四四三

同（線索）

支	九二八（擔）	二五、六一〇
關	一、一二七	三四、五一〇
香	三	一〇八
海	一七	二六〇
細	五	一一〇
計	二、〇八〇	六〇、五九八

同（筒及管）

支	五、〇六三（擔）	七九、〇四〇
關	二三、二八九	三三五、六九〇
香	一六五	一、九三八
蘭印	二	三三
アロ	六五八	二、二〇六
細	三	四五
其他	二	二五
計	二九、一八二	四三七、九七七

同（屑及故）

支	三九、三六二（擔）	四三一、七六八
關	四八、〇五三	一五七、六二二
香	一、〇二八	三、一五三
計	一七八、四四二	五九二、五四二

其他ノ鐵

支	二、三二五（擔）	三三、九二三
關	一、五〇八	一九、九八一
海	一九	二六二
アロ	一、五二〇	二一、八三六
計	五、三六二	五五、〇〇一

アルミニウム板

支	一、〇九六（擔）	七九、八八四
關	四三	三、三三〇
香	四四	三、二四一
蘭印	一	八〇
計	一、一八三	八六、五三五

銅（塊及錠）

支	一、八〇六（擔）	八七、五七八
關	一三六	五、五七六
アロ	三	一三〇
計	一、九五三	九三、二七四

同（板）

支	六、二四三（擔）	三三五、四三六
關	九六八	五五、三六六
香	三八一	二二、三四二
印	九	四七八
海	二六	一、四〇一
蘭印	三	一八三
アロ	六	三五一
暹	八	四〇五
細	三	一七一
計	七、四九七	四一五、一三三

同（線）

支	三、四八〇（擔）	一七四、四五〇
關	八、九六四	四一九、五九六
海	一六	八〇四
蘭印	二七二	三、七四〇
計	一二、七三二	六〇七、五九〇

其他ノ銅

支	一、一二九（擔）	六二、〇三五
關	八四三	四五、二二三
香	一八	一、一五三
蘭印	四五	二、三七一
英	一	五〇
計	二、〇三六	一一〇、八三〇

鉛管

支	一、三二八（擔）	二三、五八六
關	五、四九二	八九、二二四
アロ	三	四五五
比	二九	四九五
計	六、八五二	一一三、七五〇

錫箔

支	四九七（擔）	二六、五七五
關	一、五七七	八四、三三二
計	二、〇七四	一一〇、九〇六

安知母尼

支	二九二（擔）	六、〇一八
關	一三〇	三、〇三八
香	二九	八三八
印	三七七	八、三六八
暹	六八	一、八六一
計	八六五	二〇、一三八

眞鍮及黄銅（條及竿）

支	七、六六二（擔）	二七〇、六六九
關	一、九八二	七七、一三五
香	一四〇	六、四〇一
印	一、七七〇	六五、四九一
蘭印	三	四四一
アロ	四一	一、六六〇
比	一七	六〇一
計	一一、六二三	四三二、四〇八

同（板）

支	一三、七六八（擔）	六〇九、四九七
關	一、六八七	八四、四四一
香	六、二四八	二八〇、〇五三
印	五七、九八三	二、五〇六、九八〇
海	五七	二、七八九
蘭印	八	三九八
アロ	三	四九九
暹	二一	九、八七六
獨	二	五〇四
計	七六、九八五	三、四九五、三〇七

同（線）

支	五、六一〇	二六七、八四三
關	三五七	一九、三〇二
香	一、二七八	五四、九九七
印	三一三	一三、七一二

暹	二四	九五六
計	七、六八三	三五六、八二〇

其他ノ眞鍮及黄銅

支	六二四(擔)	五四、四五四
關	五三二	三五、六四一
計	一、一四五	八一、〇九五

其他ノ金屬

支	—	一六〇、四七八
關	—	一三五、二三五
香	—	九九八
印	—	二、二七八
海	—	六、〇五九
蘭印	—	四〇三
アロ	—	一一、九二八
計	—	三〇七、三六七

絶縁電線

支	六、二二五(擔)	三七六、四九四
關	七、一〇八	四七四、〇四九
香	一九二	八、八七七
印	四	五〇二
海	五〇	六、〇四六
蘭印	二〇	九一四
比	三五一	一三、四五一
暹	〇	八
其他	〇	四五
計	一三、三四〇	八八〇、三八六

農具

支	—	六三七
關	—	五、〇三〇
蘭印	—	一七四
佛印	—	八五
細	—	三七〇
計	—	六、二九六

工匠具

支	—	五四、八四九
關	—	一四三、二二九
香	—	六二六
印	—	一、五八〇
海	—	一、五三九
蘭印	—	四七三
アロ	—	三、三三九
細	—	一五五
其他	—	六八
計	—	二〇八、八四八

鐵釘類

支	九七八、五九九(斤)	一四七、九七八
關	一、八四九、一八七	二八九、一〇三
香	一一、八四三	二、三三七
印	三〇、五八〇	五、三三六
海	六、九九三	一、一〇三
蘭印	二、九六五	七〇八
アロ	八九、九〇一	一〇、四四〇
暹	四七〇	一〇〇
細	二、六四二	三三六
濠	一〇五	一五
其他	四八	一四
計	二、九七一、三三三	四五七、四六八

刄物

支	三九、六五〇(打)	一二〇、三五〇
關	二一、四一四	五五、九二六
香	六七三	三、五七二
印	五、〇六一	九、八九二
海	五八八	一、六五五
蘭印	二、七〇四	五、九六六
佛印	四七四	四、八〇三
比	一〇〇	三二一
暹	三三五	二一三
細	一	五
獨	二〇	四八
秘	二	二七
其他	一〇	一五八
計	七〇、九三三	二〇二、九二六

縫針

支	五七八、一〇四(千本)	二二八、六四二
關	八二、二三四	二六、〇一九
香	一、〇〇〇	三一五
印	一八、五八〇	五、五七四
蘭印	一、〇〇〇	二八一
細	五、〇〇〇	一、五〇二
計	六八五、九一八	二五二、三三三

琺瑯鐵器

支	二、〇〇五、〇一三(斤)	六八四、七三〇
關	一、八〇三、四八二	六四六、一〇七
香	一〇九、五〇三	三〇、二七九
印	三、七七七、六五六	一、二〇六、〇三六
海	二九四、〇〇三	一一二、二九一
蘭印	一、五三〇、二三〇	五〇四、六一一
佛印	三、七四八	一、三一三
アロ	六、五八三	一、九五七
比	五九〇、二五五	二一〇、七八五
暹	四〇六、九一九	一三一、五四四
細	二、四七九	七九五
合	三〇〇	八五
埃	三、八七〇	一、八九七
東	三〇九、四三六	九九、三四二
弗	三〇、五四四	六、八七九
濠	一五三、八四六	五二、三四五
計	一一、〇二七、八五七	三、六八二、〇〇四

鍋及釜

支	—	一、七四三
關	—	八、一一九
香	—	三
蘭印	—	七五〇
暹	—	一〇
合	—	六九
計	—	一〇、六九四

ブリキ製品

支	—	二四九、〇二九
關	—	九一、七三八
香	—	七、三〇三
印	—	一六〇、八八八
海	—	五、二九〇
蘭印	—	二、〇四三
比	—	一七一
暹	—	三七〇
細	—	四三七
合	—	三四〇
墨	—	一九〇
亜	—	二
東	—	一、三六一
計	—	五一九、一六二

傘骨

支	七三、二〇三(打)	一一〇、三三四
關	一七、九二四	四三、二〇三
香	一四、三八九	二〇、五〇六
印	六四八、八二五	三三八、九五四
比	三、七五〇	三、三三九
計	七五八、〇八一	五〇六、三三六

其他ノ鐵製品

支	—	四二〇、五四七
關	—	八三八、三一五
香	—	一四、四八一
印	—	五六、三六二
海	—	六、四六三
蘭印	—	一三、七九五
佛印	—	二三八
アロ	—	五、一三九
比	—	二、五九四
暹	—	三四〇
細	—	一、六三四
合	—	六七一
智	—	三七五
伯	—	二〇
東	—	一七七
濠	—	四八二
布	—	二〇
其他	—	一、一四〇
計	—	一、三五二、七九三

銅製品

支	—	一九、三二五
關	—	三三、二〇三
香	—	一、〇〇〇
印	—	九四
海	—	九八三
蘭印	—	七四六
アロ	—	三、六六二
比	—	三三
合	—	三四二
濠	—	二三
計	—	五八、三二一

眞鍮製品

支	—	一五九、三三一
關	—	二九四、九五三
香	—	三、二四九
印	—	二三、七三八
海	—	一三、三三八
蘭印	—	七、一六〇
佛印	—	三三
アロ	—	三七二
比	—	二六〇
暹	—	六三三
細	—	一八八
英	—	七四
濠	—	三七二
其他	—	三
計	—	四七一、七〇一

青銅製品

支	—	三、八八一
關	—	一七、九〇三
海	—	一六九
蘭印	—	一、七二九
英	—	三四五
伊	—	一、五八一
合	—	三八一
計	—	二五、九八九

安知母尼製品

支	—	八、五一九
關	—	二、一〇一
香	—	一〇三
印	—	一、六一九
海	—	二九一
蘭印	—	八〇
比	—	三五
和	—	一六
合	—	一、八六八
北米	—	一四〇
埃	—	六九
東	—	一三
計	—	三、九五二

アルミニューム製品

支	—	二七〇、九九四
關	—	二七六、八二八
香	—	六六、四八〇
印	—	一、三九三
海	—	一、五七三
蘭印	—	八、七八二
佛印	—	一〇三
比	—	一、六七九
暹	—	一七三
加	—	一五三
計	—	六二八、一五八

ニッケル鍍製品

支	—	一七三、九七六
關	—	一〇五、一四七
香	—	五、一〇一
印	—	一五〇、〇五三

	海印	香關	支	ゴム	タイヤ	計	其他	滚東	埃伯	秘	細	遲比	蘭印	海印	香關	支	自轉車(同)	計	佛印	蘭印	海印
	英	二四	二	一、四六六(瓩)		一、四六六(瓩)															
	英	二四	二	七〇		八一、九五六															
	英	二四	二	一、七八		一、七八															
掛時計	英	二四	二	一、六五一		一、六五一															
其他ノ金屬製品	英	二四	二	四五		四五															
其他ノ車輛(部分品ヲ含ム)	英	二四	二	一、四五一		一、四五一															
其他ノ船舶	英	二四	二	一、〇〇四、〇〇四		一、〇〇四、〇〇四															
合計	英	二四	二	一、〇〇四、〇〇四		一、〇〇四、〇〇四															

	海印	香關	支	計	其他	滚東	埃伯	秘	細	遲比	蘭印	海印	香關	支	計	佛印	蘭印	海印
印刷機(同)	英	二四	二	一、四四〇(斤)														
	英	二四	二	一、一四〇														
	英	二四	二	四〇														
紡績機及織布機(同)	英	二四	二	一、一一九、三七〇(斤)														
	英	二四	二	一、九六〇														
	英	二四	二	一、四二六														
	英	二四	二	一、四二六														
	英	二四	二	一〇														
	英	二四	二	一〇														
	英	二四	二	一〇一

關	支	竹	計	關	支	絲	計	其滚	合	獨	英	細	迎	比	ア	關印	海印	印	香	關	支	其他ノ	計	伯	關印
四、六六、三四四		材	一、三六三	一、三六七	10五(斤)	瓜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	機械(同)	九六、七二三	一、〇六六	一、五五三
四、七六〇	六五		一、二六七	一、二九九	九二		九六、九四四	五	四四五	二五	〇〇五	二、三〇一	二、三三二	四三三	五五	二、七〇〇	一〇、五六六	二、七九三	一、四四五	一、七七四	五五、三四四	三五、七五三	五五、七五三	五六三	一、六五

關	支	鐵	計	滚	伯	疊	合	英	細	關印	海印	印	香	關	支	除ク其他ノ竹製品（特掲品ヲ	計	新	關印	海印	關	支	竹製煙草吸口	計	合
支		道枕木																							
三五五、五五(石)			三、六七、八七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		九六、三三五	一〇〇	三六、四四四	三六〇〇	一一、〇〇〇(千個)		四五五	五六、三五〇	五、四六一
六六、九五五																三四、三三七	一、三三五	二三三	三三五	四三五	四、四四四	三四、四四〇	一四、五六四	三二、三六六	一、六〇

香	關	支	丸太及割材類	計	海	香	關	支	其他ノ挽材	計	關	支	同函用經木	計	加	關印	海印	印	關	支	箱板及榨板	計	海	關	支	ペニヤ板(斤)
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三五四、九六〇(斤)	四三、三〇四	一、三六〇	一、〇〇〇	一四〇、五〇四	五五	四、六〇三	九五、七三三	三四四、九六〇(斤)	九六、八四一	一三〇	一、三四五(斤)
三五、四四三	四六、六七九	二	八四、〇四六	三四、五四五	八四	一四五	三四、〇四六	一四、七七〇	三四、七七〇	二四、三五六	一四、七七〇	三〇、四四六	二五、八四〇(箱)	四五、三一〇六	四四、三五〇	二、〇〇〇	一四〇、〇四四	三五〇	三五、七五一	四、四四五	一四、四四五	五五、四四五	三三	一、四四五	八四三

關	支	鑢	計	海	印	關	支	花	計	滚	關印	海印	印	關	支	花	細	關	支	其	計	香	關	支	繩素及蓆	計	海	印	關	支	木	計	其他
一九五五		表	六六、七〇五(斤)	六六、六六	三五、三五五			蓆(單製)	三六八(枚)	一〇〇	六三〇	六六、三五五	二五、五二二			蓆(連製)	一〇〇(卷)								及蓆							
九三、三五四	四五、三四四																																

關印	香	關	支	柄洋傘(綿布張)	計	合	和	伊	自	獨	佛	英	細	比	印	香	關	支	其他ノ蝙傘及傘手	計	比	海	關	支	其他ノ蝙
一〇六、四				三、七六六(打)	三五三	一一〇	一〇〇、三三〇	三三、〇〇〇	五五、〇〇〇	一、三〇〇	五五、二〇〇	一、八八五	五五、八〇〇	三五、六六〇	三五、六六〇	三五、三四四	四四、七七〇	四五五	一〇、三三五	一一、四四四	一一、五五五	一一、五五五	一一、五五五	九五(斤)	九、七六六
海	印	關	支	和傘(絹布張)	計	佛	和	佛	關印	海印	印	關	支	同	計	滚	弗	東	遇						
—	—	—	—	製品	五五九	三五	四六	三五	九	五五	三五〇	四五	七五(打)		一〇五	一、三四三	一、五五五	四〇三	一〇一	九五、六六〇					
					三五、七七一	四五、三三〇	一、六六〇	三一、三三五	八三、九五四	三五、七七〇	一一、〇五六	三五、三四四	八五、三四〇	三五、八三	三五、七七〇	一〇一	四五	三五、三五五	八、〇六六	一一、〇六六	一一、五五五	一一、五五五	一一、五五五	一一、五五五	一一、五五五

關印	海印	佛	英	細	迎	比	佛印	關印	海印	印	香	關	支	漆器	計	其他	布	滚	弗	秘	疊	合	自	佛	英	細	迎	比	ア	關印	海印	印	香	關	支	ゴムセルロイド製品	計	滚	埃	亞	疊	合	和	自
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四五、三四四	八四、六六六	四五、三四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四	四五、七四四

	蘭印	海印	香港	關支	英比	蘭印	海印	香港	關支	英和	比蘭印	海印	香港	關支	英加	合	自	英北	米	加	合	自	英セルロイド製品
プラシュ（髪用）																							
計	一、五六二	一、七四〇	三、五六一	一、七四〇	二、八五九	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	三、四八九
計	六〇四	六〇四	三、五六〇	六〇四	二、八五九	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	一、〇三二	三、四八九

	土	丁	西	伊	自	英	廻	比	ア蘭印	海印	香港	關支	同	計	滚	弗	喜	埃	智	加	合	伊	自	英	比
（齒用）																									
計	四〇四、三四一（打）													二六〇、九四四											
計	四、三六一、六六六													四三、六〇〇											
計	一〇一、五三一													七四、四三三											
計	四〇、九六〇													三四、八五〇											
計	一、〇五〇、九六八													三五、三五一											
計	四、三六一、六六六													一二、九六六											
計	四、三六一、六六六													一、五六、八四三											

	弗	喜	埃	智	加	合	自	英	比	蘭印	海印	香港	關支	同	計	布	滚	弗	喜	埃	亞	智	秘	北	米
（爪用）																									
計	一、九六六（打）													二、三四〇											
計	五四八、六四〇													九〇〇											
計	九五〇													一三五											
計	一〇一													一〇一、六六											
計	五六、九四〇													三、九六〇											
計	一、〇〇〇、九四五													一、九六、九六〇											
計	一、四三、三五三													三三四											

	伊	英	廻	蘭印	海印	香港	關支	同	計	布	滚	弗	喜	埃	智	秘	合	自	英	比	蘭印	海印	香港	關支
（衣服用）																								
計	一、四四九								一、一一四（打）															
計	三、六六六								一〇、三四一															
計	一四三								六六															
計	一一七								三〇															
計	一、〇七六								三、三四一															
計	五六、三二								一〇、三四一															
計	一、五六、三四一								一、一一四（打）															

	伊	英	廻	蘭印	海印	香港	關支	其他ノプラシュ	計	布	滚	弗	喜	埃	智	合	英	比	蘭印	海印	香港	關支	同	計	英
	一、四四九								一、一一四（打）																
	三、六六六								一〇、三四一																
	一四三								六六																
	一一七								三〇																
	一、〇七六								三、三四一																
	五六、三二								一〇、三四一																
	一、五六、三四一								一、一一四（打）																

	蘭印	海印	香港	關支	電球	計	布	滚	埃	智	秘	亞	加	合	計	遲	比	蘭印	海印	香港	關支	提燈	計	布	滚	弗	喜	埃	智	加	合
					（個）																										
	一四四、三三三					一一一、五四九																			
	七六、三三四					一一一、五四四																			
	三五、六六六					五四、三三三																			
	一一七、〇六六					五四、九二八																			
	四、七六六					七〇、四三一																			
	二、六六〇					四、二六三																			
	三、五四九					四四四																			
	三五、九九					四四六、六六六																			

	計	布	滚	埃	智	秘	亞	加	合	計	遲	比	蘭印	海印	香港	關支	附屬品	計	其他	弗	喜	埃	智	加	佛	和	遲	比	ア蘭印	海印	香港	關支	其他ノプラシュ同部分品及	計	埃	合	自	佛	英
	一〇一、三六〇									一一一、五四四																													
	一四四、一六六									一四四、三四〇																													
	一、一六、三六									一、一六、三六																													
	一、一六、三六									一、一六、三六																													
	一、一六、三六									一、一六、三六																													
	一、一六、三六									一、一六、三六																													
	一、一六、三六									一、一六、三六																													

	海印香關支	造 計滚埃合英遲比	隣海印香關支	扇子及團扇 計滚秘合遲比	隣印
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—
	—	花	—	花	—
	三五四	五三一	四	一六六三	三六
	四四六〇	〇八三一	一六六三	九四二九四八	三六八
	九四四六三	四四六六	四六六	一四六六	三六
	五四六三	八六〇	六六三	九七九六六	七〇〇
	四五六〇	四五六〇	五四六三	一七七四三	一〇九
	三五六〇	一六六三	五四六三	一七七四三	七六三
	一六六五六	一四五六八	六六四	六六四四	三六八
	三〇七一〇	一七七六六	六六四	六六四四	七〇〇
	三四六〇	三六六〇	六六四	六六四四	一〇九
	五四六六五	三四六六	六六四	六六四四	三六八
	一六六五六	三四六六	六六四	六六四四	七〇〇
	三〇七一〇	三四六六	六六四	六六四四	一〇九
	三五六〇	三四六六	六六四	六六四四	三六八
喜埃亞北米	歐合歐西和伊自獨佛英細比	隣海印香關支	瓶具（セルロイド製）	計合自遲	隣印
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—